

第147図1には出土した土製品を示す。皿を模したものと考えられる。内面に葉脈状の文様を型押し施文で表し、鉛軸系の軸葉を施す。

#### 第7号溝跡 (第143・147図)

E7-I6グリッド、第4区画(区画X)の東側で検出された比較的小さい溝跡である。長さは4.3m、幅40cmで、走行方向は南北方向(N-20°-W)である。

重複する第289・293号土壇(いずれも栗橋7期以降)より新しい。

出土した遺物は少ない。第147図2は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗で、外面に草文が染付される。このほか、瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗は4片認められる。他に瀬戸美濃系磁器の端反碗・型押し壽文皿が含まれている。以上の様相から、本跡は栗橋8期、降っても9期ははじめ頃までに機能したものと考えられる。

#### 第8号溝跡 (第143・147図)

E7-F3・4グリッド、第9区画(区画S)の西側で検出された溝跡である。西側は調査区外へ延び、東側は複数の土壇と重複して延長部を追えなくなる。長さは4.45m、幅55cmで、走行方向はN-70°-Eである。重複する第230号土壇(栗橋9期)・第334号土壇(栗橋9期)・第339号土壇(栗橋7期)より新しい。

出土した遺物は極めて少ない。第147図3は肥前系磁器の粗製碗で、雪輪草花文が染付される。高台壘付きには砂が多く付着する。

図示した以外の陶磁器は、肥前系磁器碗細片2点、瓦質土器焙烙細片1点のみであった。従って、遺物から時期を絞りこめないが、遺構の重複関係から栗橋9期の遺構と考えられる。

#### 第15号溝跡 (第148～151図)

第15～24号溝跡は、敷地の地境として機能したものと考えられる。これらの多くは、側板を有する溝跡と考えられるが、同一箇所でも何度も改修された形跡があり、必ずしも一条の溝とは言い難

い場合も多い。

第15号溝跡は、F7-A5～7、B5グリッドに位置し、第1・2区画(区画Z・AA)間の地境溝である。調査区を東西に横断し、検出長23mである。複数の杭列が遺存しており、特に東側では側壁に沿ってしがみ状の横棒や、幅の短い板状の木材が遺存していた。第148図C-C'セクションにみるように、掘り直し(改修)の痕跡も認められる。

なお、本跡の西側の一部に、下部に捨杭を伴う根太状の遺構が検出されている(第149図)。建物の土台ではないかとも思われるが、対応する基礎が特定できない。また、溝跡を掘り込んで構築されているのか否かも定かではない。本来は基礎状遺構として独立して報告すべきかもしれないが、溝跡に伴う施設の可能性も否定できず、ここでは便宜的に第15号溝跡として報告する。根太状の木材は、東西に2本直列して検出されている。幅は25～30cmほどである。西側のものは調査区外に続いており全体が把握できないが、現存長3.25mである。東側のものは長さ3.95mである。

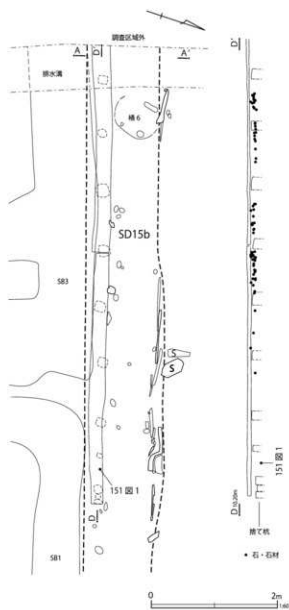
第150図に出土した陶磁器を示す。

1は瀬戸美濃系磁器の碗で、外面の染付は丸文内に富士山等を描き、周囲に梅花文などを散らす。内面口縁部は著しく崩れた四方禪文、内底面は壽文を染付するものらしい。2は肥前系磁器の薄手半球形碗で、外面に草花文、内面口縁部に角渦文を染付する。3は肥前系磁器の端反碗で、外面に草花文、内底面に唐花らしい花文を染付する。高台内に焼き継ぎ印「八」が確認できる。

4は、肥前系磁器の猪口で、広東碗形を呈するものである。5は瀬戸美濃系磁器の皿で、酸化コバルト染付で雲芝文を描く。

6・7は瀬戸美濃系磁器の欄徳利で、6の外面に酸化コバルト染付の圏線を確認できる。いずれも底部に墨書があり、6は判然としませんが、残面





第149図 第15号溝跡(2)

から「紀州屋」と思われる。7は「紀印」である。8は肥前系磁器と思われる紅皿で、外面の蛸唐草文は陽刻状、遺存部は外面まで全面施軸される。

9は京都信楽系陶器の坏で、外面を亀甲状に面取りして、腰部に刻みを入れるものである。胎土は磁質に焼き締まる。10は萩焼の坏で、外面にピラ掛けを施す。11は京都信楽系陶器のカンテラである。高台内・腰部は回転ケズリ痕が残る。

軸葉は黄色味が強く細かい貫入がある。注口状の端部に煤が付着する。12は土瓶蓋で、外面には、トビガンナ状施文の後に光沢の強い黄土色の鉄軸が施される。つまみのほうから、うのふ軸状の青白い軸が流れ込む。

13は瀬戸美濃系磁器の土瓶の底部で、酸化コバルト染付が施される。底部に墨書「く□」がある。

遺構の性格上、遺物の一括性は無いものと考えられるが、磁器では瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗が多い。酸化コバルト染付のものは少量で、型紙摺絵染付の爛徳利が1点含まれている。全体的には栗橋8期頃の遺物が多い。

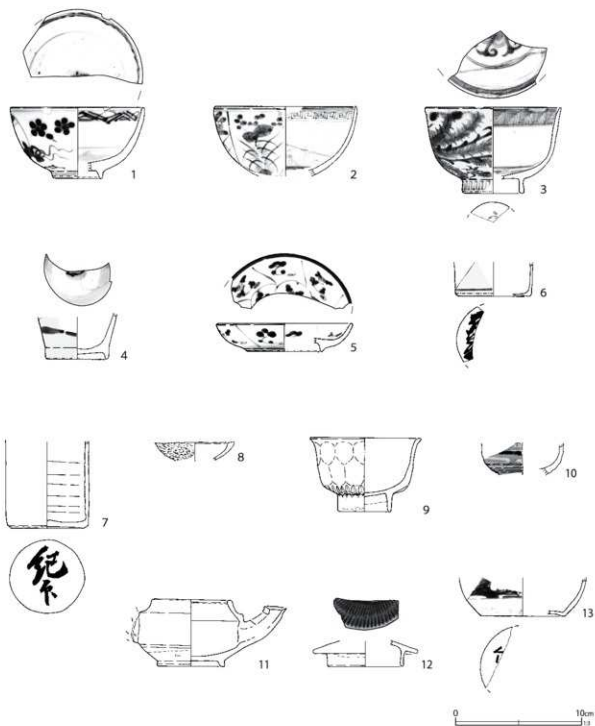
第151図1は施軸土器の釜で、ミニチュアと思われる。内面と外面上位のみ、薄く透明軸が施軸される。江戸在地系土器である。2は土製品の猫の人形で、前後合せ型成形である。3は鉄製品の火格子で、格子は方形である。

#### 第16号溝跡(第152・153図)

E7-J6、F7-A5・6グリッド、第2・3区画(区画Y・Z)の地境である。調査区を東西に横断し、検出長19.0mである。複数の杭列が遺存しており、東側では側壁に沿ってしがらみ状の横棒が遺存していた状況は、第15号溝跡と共通項が多い。ただし、全体的に杭や構築材の遺存は第15号溝跡ほど良好では無い。なお、第4号溝跡の項で記載したとおり、本跡の北側に並行して第3号竹樋が埋設されているが、両者の関連性について不詳である。

検出遺物も他の地境溝と比較して少ない状況である。第152図に出土した陶磁器を示した。

1は肥前系磁器の坏で、半球形のものとして外面に赤で色絵が施される。2は瓦質土器の蓋であるが、ほぼ酸化炭焼成である。断面中心は黒く黄灰色～褐色を呈する。胎土には微細な雲母を含んでいる。上面は砂目を一部ナゲ消しているようだが、剥落が激しく詳細を観察し難い。外面上位は



第150図 第15号溝跡出土遺物(1)

ケズリ、他は回転ナデだが、内面頂部の中心に近い部分は平滑にナデられる。

陶磁器に関しては、全体的に18世紀後半～19世紀前半までのものが主である。磁器に、型紙摺絵染付の鉢類、銅版転写染付の急須蓋が各1片み

られるが、総体的には栗橋7・8期の遺物が主体のように思われる。

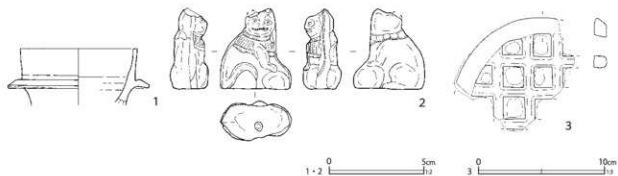
#### 第17号溝跡(第154～156図)

E7-17、J5～7グリッド、第3・4区画(区画X・Y)の地境溝である。調査区を東西に



第80表 第15号溝跡出土遺物観察表(1)(第150図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	(10.4)	5.6	(3.7)	-	40	良好	白	SD15	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付	
2	磁器	碗	(11.0)	[5.5]	-	-	10	普通	白	SD15	肥前系 内外面施軸・染付 口縁部のみ被熱	
3	磁器	碗	(10.6)	6.8	(4.6)	-	25	良好	白	SD15	肥前系 内外面施軸・染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印「へ」(白)(端反碗)	
4	磁器	猪口	-	[3.4]	(4.6)	-	15	普通	白	SD15	肥前系 内外面施軸・染付	
5	磁器	皿	(10.5)	2.2	(5.8)	-	10	良好	白	SD15	瀬戸美濃系 内外面施軸・酸化コバルト染付	
6	磁器	燗徳利	-	[2.6]	(5.6)	-	5	普通	白	SD15	瀬戸美濃系 外面施軸・酸化コバルト染付 底部墨書「[記州屋カ]」第242表3	79-2
7	磁器	燗徳利	-	[6.9]	5.7	-	35	良好	白	SD15	瀬戸美濃系 外面施軸 底部墨書「[記印]」	79-3
8	磁器	紅皿	(6.3)	[1.4]	-	-	40	良好	白	SD15	肥前系か、型成形 内外面施軸 外面型押施文	79-4
9	陶器	坏	(8.4)	5.8	3.9	-	75	普通	灰白	SD15	京都信楽系 内外面透明軸 外面施文 胎土磁質	79-5
10	陶器	坏	-	[2.5]	-	1	10	普通	灰白	SD15	萩 外面ビラ掛け	
11	陶器	カンテラ	5.7	5.3	5.2	DK	95	普通	灰白	SD15	京都信楽系 内外面施軸	79-6
12	陶器	蓋	-	[2.0]	(5.8)	1	10	普通	灰白	SD15	大塚相馬系か 上面トビガンナ状施文・鉄箱。上部一部うのふ軸状に発色 最大径(8.2) 第242表4	79-7
13	磁器	土瓶	-	[3.0]	(6.6)	-	10	良好	白	SD15	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト染付 底部墨書「く口」	



第151図 第15号溝跡出土遺物(2)

第81表 第15号溝跡出土遺物観察表(2)(第151図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	施軸土器	ミニチュア	(6.0)	[3.0]	-	A1	30	普通	橙	SD15	江戸在地系 外面施軸 釜	
2	土製品	人形	3.8/4.3	-	1.5	22.5	A H K	良好	橙	SD15	備 左右二枚型成形 中実	242-6
番号	種別	器種	法量					遺構	備考	図版		
3	鉄製品	火格子	縦[8.8]	横[9.9]	厚さ1.0	重さ192.4				SD15		278-3

横断し、検出長23.7mである。複数の杭列が遺存している。西側では、南壁に沿って、棒状の木材が数本並行して残っている状態で、その北側には杭が並んでいる。東側も、棒状の木材が壁に沿って遺存しており、やはり外側(北側)には杭が打ち込まれているが、西半部と異なって本数は一本である(第154図A-A'セクション参照)。

このような側壁に沿って、しがらみ状の横棒が遺存している状況は、栗橋宿跡の地境では度々みられる構造である。しかし、しがらみと異なって、棒状木材は上部のみで垂直方向に連続する様子はない。溝の上端に棒状の木材を、浅く埋め込むように設置してあるものらしいが、詳細な機能は不明である。本跡や第15号溝跡では建物跡の



横にこの構造がよく残っているので、建造物との関連で溝の側壁を補強するものかもしれない。

第155図は出土した陶磁器類である。

1は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗で、小型で坏に近い形態のものである。外面に龍文・内面口縁部に変形の四方禪文が染付される。具須は鮮やかな青だが、酸化コバルト染付ではないようである。2は肥前系磁器の端反碗で、外面と内底面に蜻唐草文、内面口縁部に四方禪文を染付する。3は瀬戸美濃系磁器の端反碗で、色絵が施される。外面は赤で区画し、濃淡のある緑色絵具で松竹梅文を描くものらしい。4は肥前系磁器の猪口で広東碗形のものである。外面に鶴や若杉文を染付しているらしい。5は瀬戸美濃系磁器の坏で、体部が丸い卵殻手酒杯と思われる。外面高台部に櫛歯波状文を染付、内面に上絵付けで美人画を描く。高台内は製作時に、陽刻状に象って女性器を模す。赤・黒で彩色が加えられる。6・7は肥前系磁器の合子で、6は体部が丸いもの、外面の染付は圍線のように濃み塗りして同心円状の横帯とする。7は低い円筒形のもので、小型である。いずれも露胎部を中心に煤の付着が認められる。8は瀬戸美濃系磁器の土瓶で、型成形である。外面に貼付

文のように唐子を施文し、その上から染付を施す。

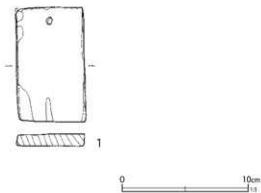
9は陶器の乗獨で、茶色味を帯びる鉄釉が施釉されるが、大部分が白濁している。底部は糸切痕を残し墨書がみられるが、窯内での付着物も多い。胎土は極めて硬質で緻密である。10は瀬戸美濃系陶器の水注で、薄手である。黄色味の強い灰釉は細かい貫入が多い。口縁部から把手の付け根付近にかけて、一部緑釉を流し掛け状に施釉する。11は陶器の土瓶のようだが、内面も均等に施釉されており、他の器種の可能性もある。器壁は薄手、灰釉は深緑色に発色するが、下部の釉留りなどは青白く海鼠脚状である。外面露胎部はケズリ、底部はケズリ痕をナデ消している。12は陶器土瓶の蓋で、練り込み手である。

13は、土師質土器の瓦燈の上部破片である。細かい雲母を多く含むが、僅かに角閃石も含む。江戸在地系土器である。14は陶器の涼炉で白色土器質である。京都系のものである。15は瓦質土器の焙烙である。口縁部はやや丸みを帯びた角頭形、体部外面下位は全面にシワ状痕が残り無調整である。体部下端は尖る。内耳の底部との接地面も、一部が体部に及び、古手の様相を示す。胎土に角閃石を多く含む。

本跡からの陶磁器の出土量が多いが、遺構の性格上、一括性は乏しい物と思われる。それでも、全体的に目立つのは瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗などで、酸化コバルト染付の磁器などは少量に留まる。概ね栗橋7・8期の陶磁器類が主体となる様相は、他の地壇溝跡と共通する点である。

第156図には、土製品・瓦・金属製品・石製品を図示する。

1・2は、土製品で、泥面子の面打である。2は赤化しており、被熱したものとみられる。文様

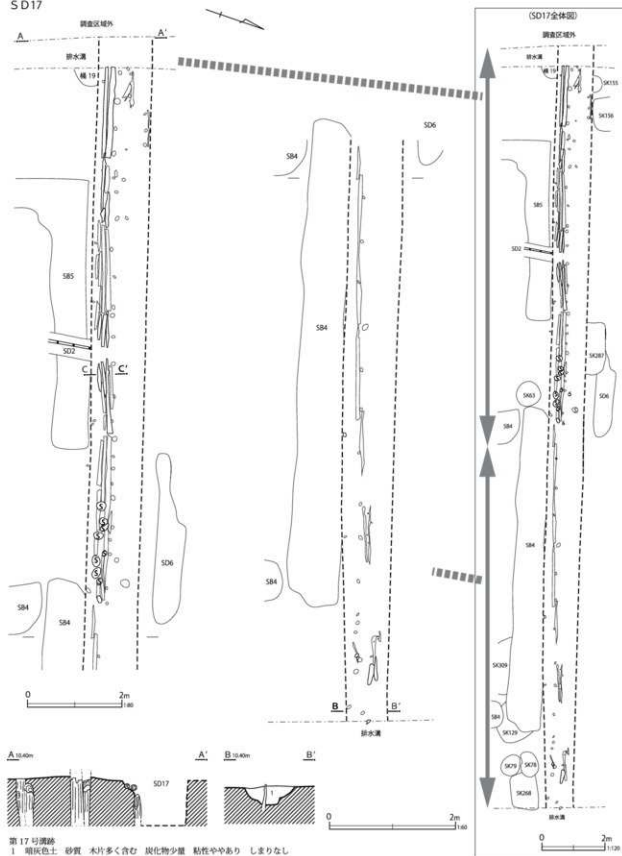


第153図 第16号溝跡出土遺物(2)

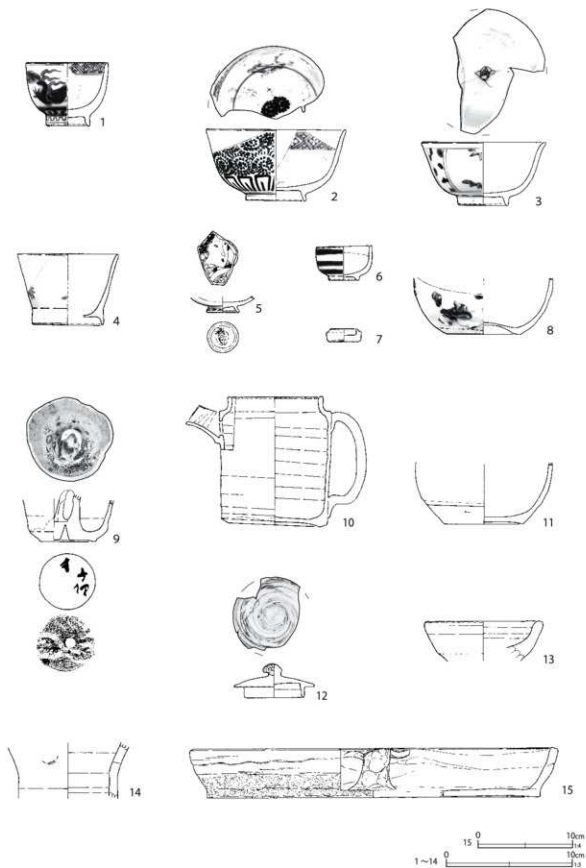
第83表 第16号溝跡出土遺物観察表(2)(第153図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	木札	9.0	5.4	0.9	-	-	-	板目	SD16	表裏面墨書 第241表6	296-1

SD17



第154図 第17号溝跡



第155图 第17号沟跡出土遺物(1)

第84表 第17号溝跡出土遺物観察表(1)(第155図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	6.3	5.0	3.3	-	80	良好	白	SD17	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付(湯呑形碗)	
2	磁器	碗	(10.8)	5.6	(4.4)	-	30	普通	白	SD17	肥前系 内外面施軸・染付(陶反碗)	
3	磁器	碗	(9.6)	5.0	3.8	-	50	良好	白	SD17	瀬戸美濃系 内外面施軸・色絵(赤・緑・黄・黒)(陶反碗)	80-1
4	磁器	猪口	(7.8)	5.6	(5.4)	-	20	普通	白	SD17	肥前系 内外面施軸 外面染付	
5	磁器	坪	-	[1.3]	2.4	-	50	普通	白	SD17	瀬戸美濃系 内外面施軸・色絵(黒・赤・金・緑・黄) 外面染付(脚盤手酒杯)	80-2
6	磁器	合子	4.2	2.7	2.2	-	95	良好	白	SD17	肥前系 内外面施軸 外面染付 煤付着	80-3
7	磁器	合子	2.1	1.0	2.2	-	95	良好	白	SD17	肥前系 内外面施軸 少量煤付着	
8	磁器	土瓶	-	[4.4]	5.9	-	20	良好	白	SD17	瀬戸美濃系 型成形 外面施軸・施文・染付	80-4
9	陶器	乗備	-	[4.0]	4.4	K	55	良好	灰白	SD17	底部糸切痕(右)・墨書 内外面鉄軸	80-5
10	陶器	水注	(7.4)	10.2	(7.3)	K	80	良好	灰白	SD17	瀬戸美濃系 内外面鉄軸 外面一部緑軸流し掛付	80-6
11	陶器	土瓶か	-	[4.8]	6.2	DK	25	良好	灰白	SD17	内外面鉄軸(一部海鼠袖状に発色)	80-7
12	陶器	蓋	-	2.7	(4.6)	K	45	普通	灰白	SD17	上面施軸 胎土練り込み手 最大径(6.2)cm	80-8
13	土師質土器	瓦椀	(9.0)	[3.1]	-	AHK	5	普通	にぶい椀	SD17	江戸在地系 胎土粉質	
14	陶器	涼炉	-	[4.4]	-	AH	5	普通	浅黄椀	SD17	京都系 白色土器質 中間部分	
15	瓦質土器	焙烙	(37.9)	5.2	(35.0)	CHI	15	普通	灰白	SD17	底部シワ状痕 燻す	

は不鮮明である。1もやや赤味が強く、被熱の可能性がある。

3は軒棧瓦である。唐草文はかなり簡略化されている。4は薄い銅製品である。孔が四箇所認められる。5は寛永通寶である。

6～8は石製品である。6はホルンフェルス製で、破損した置き砥石である。表面に深い傷状の刃ならし痕を有すが、あるいは切斯・再加工を意図した痕跡の可能性もある。同質の砥石は、鍛冶行為に関連する第141・145号土壌に再加工されたものが認められ、本資料も同様の製品であろう。

7・8は硯である。7は黄褐色で不規則な模様の入る流紋岩製のものである。8は粘板岩製である。表側の周囲を全て欠失しており、意図的な破損・再加工の可能性もある。

#### 第18号溝跡(第157・158図)

E7-15・6、J4・5グリッドに位置する。第4・5区画(区画W・X)の地境溝である。調査区を東西に横断し、検出長23.5mである。南壁側を中心に杭列が遺存しているが、やや散漫であり、その様子は第16号溝跡に似てい

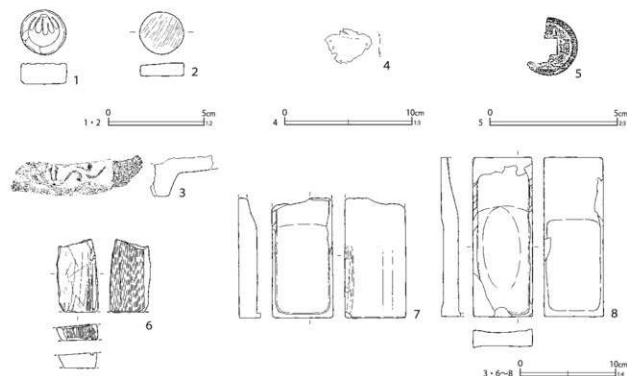
る。

調査区中央付近の南壁沿いに棒状の木材が壁に沿って遺存している。

第158図に出土した陶磁器を示した。

1は肥前系磁器の小丸碗で、外面に宝文、内底面に火焰宝珠文を染付する。2は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗で、外面はしのご状に面取りされ、線描きで山水文を染付する。内面口縁部には角渦文を染付する。3は瀬戸美濃系陶器の柿軸灯明皿で、やや小型のものである。柿軸は光沢が少しにぶいが、全体に均等にかげられる。受けは上端の径5.3cmで、半円形の切り込みを有す。外面の体部下位には径5.5cmの重ね焼き痕を有す。底部は離し糸切痕と思われる痕跡が残る。

4は施軸土器質の土瓶である。厚手で内面のクロ目が強い。軸葉は鉄軸だが、施軸が薄い部分はやや赤紫色味を帯びる。外面上位は横方向の指ナデ、下位はケズリで処理する。胎土は橙色で微細な雲母を一定量含む。5は常滑焼の甕で、中世の所産である。6は極小の紅環で、肥前系磁器と思われる。陶磁器類の出土量は多くは無かった。図示した以外に銅版転写染付の磁器皿片が1片が



第156図 第17号溝跡出土遺物(2)

第85表 第17号溝跡出土遺物観察表(2)(第156図)

番号	種別	器種	長さ	幅	高さ	重さ	胎土	焼成/色調	遺構	備考	図版
1	土製品	泥面子	径2.4	-	0.75	4.2	AHK	良好/橙	SD17	江戸在地系 一枚型成形 雲母付着	242-8
2	土製品	泥面子	径2.3	-	0.6	6.7	AK	良好/橙	SD17	一枚型成形 文様摩滅(両面) 被熱・赤化・微細な付着物	242-7
3	瓦	軒棧瓦	[9.8]	[14.5]	-	AEHK	良好	灰	SD17		
番号	種別	器種	法量						遺構	備考	図版
4	銅製品	不明	縦[2.8]	横[3.8]	厚さ0.05	重さ0.9			SD17	小孔4あり	
5	銅製品	銭貨	径23.1	厚さ1.0	重さ1.5				SD17	寛永通寶(新) 1/3欠損	
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材		遺構	備考	図版
6	石製品	砥石	7.6	4.3	1.7	99.0	ホルンフェルス		SD17	側面ノコギリ痕 刃物痕 砥面1	280-4
7	石製品	硯	[12.5]	6.4	-	305.0	流紋岩		SD17	器高2.2cm 裏面に線状痕あり	280-5
8	石製品	硯	16.6	6.2	-	410.0	粘板岩		SD17	器高2.0cm	280-6

含まれていた。

全体的には磁器の湯呑形碗や端反碗がやや多く、栗橋7・8期の様相を示している。

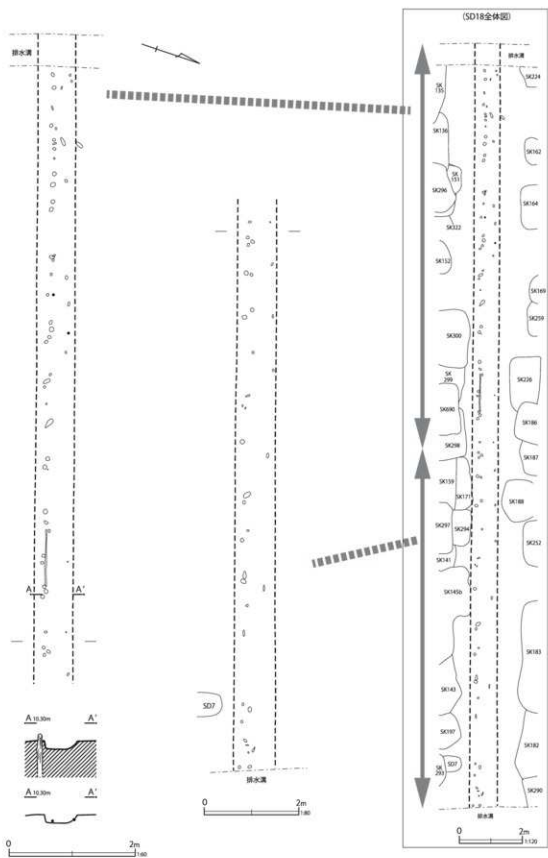
#### 第19号溝跡(第159~166図)

E7-H6、I4・5グリッドに位置する。第5・6区画(区画V・W)の地境溝である。調査区を東西に横断し、検出長23.0mである。

全体に杭が遺存する。また、西側を中心に側壁に沿ったしがらみ状の横棒や、幅の短い板状の木

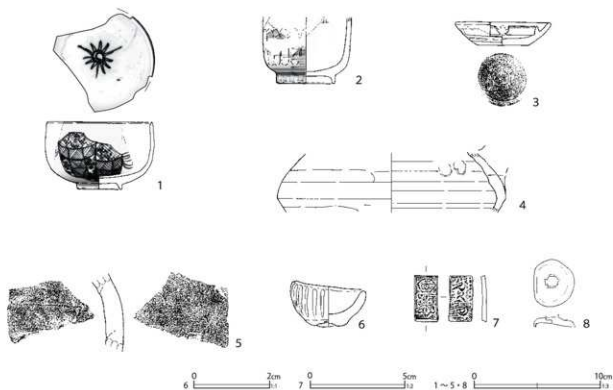
材が遺存していた。杭や横棒・板材の遺存状況がもっとも良い地境溝である。

本跡では、多くの埋設桶が溝と重複して検出されている点に注意される。個々の埋設桶の概要は、埋設桶の項に記載したとおりであり、西から第21・11・23・22・12・47・20号埋設桶が溝の中に所在する。調査に際して、溝跡との有機的な関係を捉えるには至らなかったが、状況から溝跡に伴う蓋然性は高く、沈殿槽のような機能を有し



第157图 第18号沟迹





第158図 第18号溝跡出土遺物

第86表 第18号溝跡出土遺物観察表(第158図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	(8.2)	5.3	3.3	-	40	普通	白	SD18	肥前系 内外面施軸・染付(小丸碗)	
2	磁器	碗	-	[5.2]	4.3	-	40	普通	白	SD18	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付(湯呑形碗)	
3	陶器	灯明皿	7.4	1.8	3.8	I	95	普通	灰	SD18	瀬戸美濃系 底部離糸切痕か 内外面施軸・外面下位抜き取り 直重ね焼き痕	
4	陶器	土瓶	-	[4.7]	-	AI	5	普通	橙	SD18	施軸土器質 内外面施軸	
5	陶器	甕	-	[6.1]	-	DEI	5	良好	にぶい黄橙	SD18	常滑 内外面ヨコナゲ 中世	
6	磁器	坏	1.9	1.2	0.7	-	95	良好	白	SD18	紅坏 肥前系 内外面施軸 外面しのぎ状施文	
7	土製品	銭貨模造品	縦2.4	横1.3	-	A	-	普通	橙	SD18	江戸在地系 型成形 両面陽刻 雲母光沢あり 厚さ0.2 重さ1.2	242-9
番号	種別	器種	法量					遺構	備考	図版		
8	銅製品	釘隠し	径3.8×3.3	厚さ0.05	重さ3.8			SD18	釘頭部分欠損			

た可能性が考えられる。その場合、第19号溝跡は排水の機能を有していた可能性が考慮される。

なお、東部では第2号井戸跡(栗橋9期)に大きく掘り込まれている。

第160~162図に出土した陶磁器を示した。

1は肥前系磁器の粗製丸碗で、サイズはやや大きい。外面に丸文等を染付する。2は肥前系磁器の筒形碗で、外面に青磁釉を施すものである。内

面口縁部に四方禪文、底部に五弁花文を染付するが、いずれも著しく崩れていて発色が悪い。厚手で粗製である。3も肥前系磁器の筒形碗だが、外面を柿釉に近い色調の鉄釉で単彩とする。内面口縁部に二重圏線、底部部間に圏線を染付する。4は肥前系磁器の筒形碗で、小型のものである。外面に草花文・蝶文等を染付する。外面に煤の付着が多く、被熱しているらしい。5は肥前系磁器の

広東碗で、外面に蝙蝠文等を、内面は底部の圏線内に壽文を染付する。焼き継ぎ痕がみられ、焼き継ぎ印は赤で「八四」とみられる。6は瀬戸美濃系磁器の端反碗で、外面に花文などを色絵で描く。7も瀬戸美濃系磁器の端反碗で、やや厚手のものである。外面口縁部に沿って濃みで塗りつぶし、以下、二重線による鋸歯文内によるけ縞状の文を染付する。内面にも染付が見られる。8は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗で、木型打込による施文上から、草花文を染付する。9は瀬戸美濃系磁器の酒杯で、口縁部は薄手につくられる。外面に酸化コバルト染付で鋸歯文を染付する。内面は白盛絵付けで富士山を描き、その中に橋と思われる文様などを描く。金字などの上絵付けで「[ ] 清酒品評会一等賞」「名酒」「日本橋」㊦などと書かれている。行田市の横田酒造（創業文化2年＝1805）の銘酒「日本橋」に関わる酒杯と考えられる。『埼玉県酒造組合史』によれば「創業当時の日本橋は橋の間が欄干に行燈の函柄だったが、明治・大正時代になると石橋となって欄干からガス灯に代わった」という。㊦は横田家の家名「横田庄右衛門」による。県酒造組合で開かれた清酒品評会の明治24年（第2回）から大正8年（第27回）までの記録を見ると、横田庄右衛門酒造が一等賞を受賞するのは、明治33年（1900）の第9回、明治38年（1905）の第13回、明治41年（1908）の第16回、明治42年（1909）の第17回の4回である。また、日本醸造協会の品評会の方では、明治40年（1907）の全国聯合清酒品評会で県内唯一の一等賞を受賞している。なお、本資料は後述するように、溝跡に直接伴う遺物では無く、後世の混在である可能性が高い。

10は肥前系磁器の坏で、外面に笹文を染付する。11は肥前系磁器の蓋で、広東碗の蓋である。外面に笹文、内面口縁部に二重圏線、つまみ内と内面中心に岩波文の染付である。

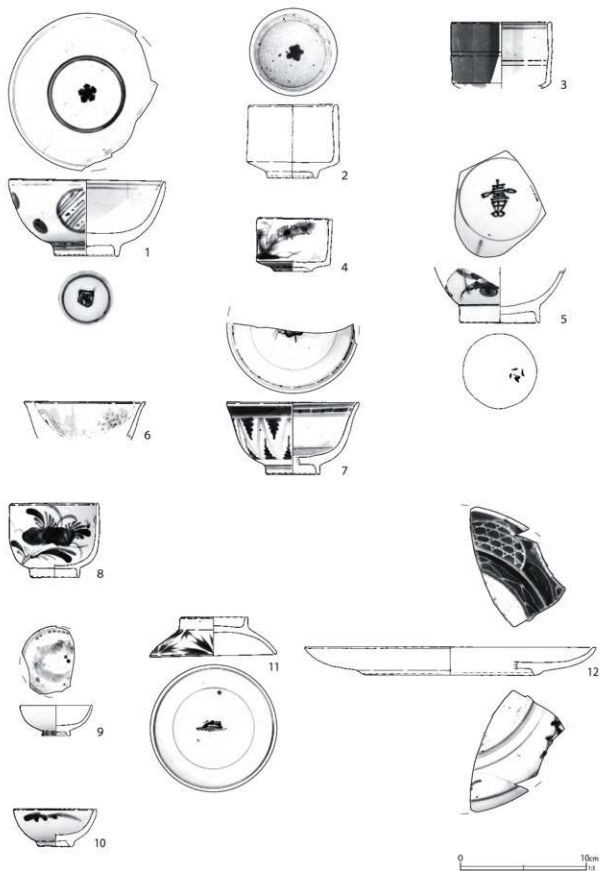
12は肥前系磁器の皿で、大きく腰が張るもの

である。内外面ともに染付が施され、内面は墨筆で文様が染付られる。13は、やや平たい形状の瀬戸美濃系磁器蓮華である。内面は花文の周囲に唐草文を染付する。底部は窪み、その部分のみ露胎である。14は肥前系磁器の香炉で、青磁釉が施される。底部には墨書がある。二次穿孔されて植木鉢に転用されている。高台縁部にも二次的に打ち叩いた痕跡がある。

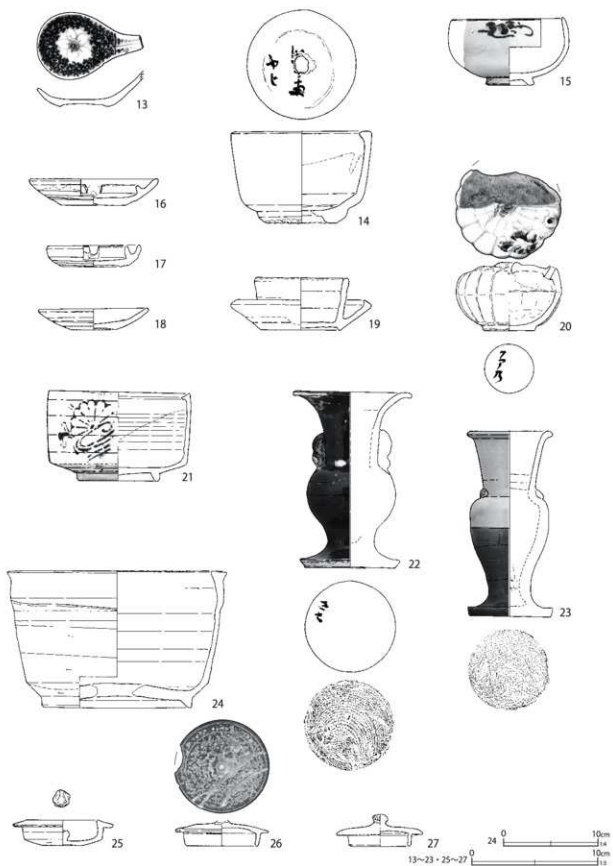
15は瀬戸美濃系陶器の丸碗で、口縁部は強く内湾する。高台はやや幅広く削り出しされる。16～19は灯火具類である。16は瀬戸美濃系陶器の灯明皿で、光沢のある淡い柿釉が施される。受部は低く、幅の広いU字の切り込みを有す。上端径は6.9cmを測る。内底面は、幅広く弱い回転ナデで調整する。外面は釉が拭き取られ、径7.0cmの重ね焼き痕がある。体部下位から底部は回転ケズリ痕だが、底部中心に強く短いナデが施される。17も瀬戸美濃系陶器の灯明皿だが、小型である。やや光沢のある柿釉が、薄く施される。底部の釉を拭き取らず、また、受上端の釉剥ぎも見られない。受部径は径4.3cm、切り込みは逆台形である。18は京都信楽系陶器の灯明皿で、内面に3つのピン痕がある。外面は下位がケズリ、上位が回転ナデ（ロクロナデ）で、両者の境で器面の色調が若干変化する。19は瀬戸美濃系陶器で、高い受けが付く灯火具である。口縁部は釉剥ぎされる。挟り状の高台内に重ね焼き痕（径4.1cm）がみられる。

20は瀬戸美濃系陶器の水滴で、上下の合わせ型成形である。全体に灰釉が掛かるが、上端孔部分に呉須、型押施文部分には鉄釉が施される。21は瀬戸美濃系陶器の香炉で外面に摺絵で崩れの少ない菊文が描かれる。体部下位・腰部はケズリ、高台はナデ調整する。22・23は瀬戸美濃系陶器の花生で、22は光沢の強い茶色味を帯びた鉄釉を全面施釉し、頸部に所々、長石釉を散らす。底部に墨書がある。23は通常の掛け分

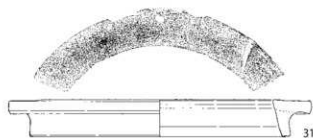
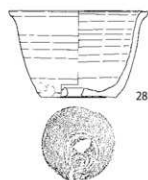




第 160 图 第 19 号沟跡出土遺物 (1)



第161图 第19号沟跡出土遺物(2)

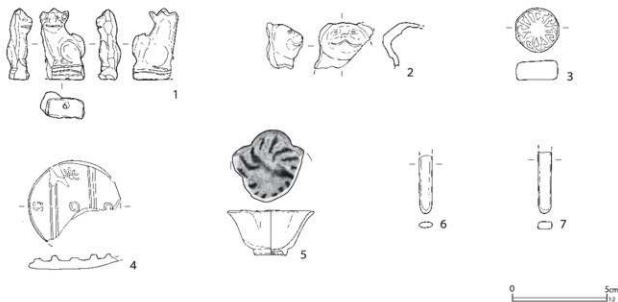


第162図 第19号溝跡出土遺物(3)

第87表 第19号溝跡出土遺物観察表(1)(第160~162図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	(12.2)	6.1	4.8	-	70	普通	白	SD19	肥前系 内外面施釉・染付	
2	磁器	碗	6.7	5.8	2.8	-	100	普通	白	SD19	肥前系 内外面施釉(外面青磁釉) 内面染付(筒形碗)	
3	磁器	碗	(7.6)	[5.3]	-	-	30	普通	白	SD19	肥前系 内外面施釉(外面鉄輪単彩) 内面染付(筒形碗)	
4	磁器	碗	5.6	4.2	2.8	-	70	普通	白	SD19	肥前系 内外面施釉 外面染付 少量煤付着(筒形碗)	
5	磁器	碗	-	[4.3]	6.2	-	25	普通	白	SD19	肥前系 内外面施釉・染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤)(広東碗)	
6	磁器	碗	(9.4)	[2.9]	-	-	5	普通	白	SD19	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面色絵(赤・茶・緑・桃)(端反碗)	80-9
7	磁器	碗	(10.2)	5.7	(4.0)	-	45	普通	白	SD19	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付(端反碗)	
8	磁器	碗	6.7	5.9	(3.7)	-	95	普通	白	SD19	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面木型打込施文・染付(湯呑形碗)	
9	磁器	坏	(5.6)	2.4	2.2	-	60	良好	白	SD19	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上絵付(赤・金・白盛) 外面酸化コバルト染付	
10	磁器	坏	6.4	3.0	2.6	-	100	普通	白	SD19	肥前系 内外面施釉 外面染付	
11	磁器	蓋	5.1	3.1	9.9	-	100	良好	白	SD19	肥前系 内外面施釉・染付(広東碗の蓋)	
12	磁器	皿	(22.6)	2.2	(13.4)	-	5	良好	白	SD19	肥前系 内外面施釉 外面染付	
13	磁器	蓮華	-	[2.9]	-	-	85	良好	白	SD19	瀬戸美濃系 型成形 内外面施釉 内面染付 長さ[8.4]cm 幅[2.9]cm	81-1
14	磁器	香炉	(10.0)	7.3	5.5	-	85	普通	灰白	SD19	肥前系 内外面青磁釉 内底面重ね焼き痕・墨書・二次穿孔(植木鉢転用) 高台 底部二次線打痕	81-2
15	陶器	碗	8.5	5.2	3.1	IK	95	普通	灰白	SD19	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面鉄絵	
16	陶器	灯明皿	9.8	2.1	5.0	III	100	良好	灰	SD19	瀬戸美濃系 内外面稀釉・外面下位拭き取り 直重ね焼き痕	
17	陶器	灯明皿	7.2	1.7	4.6	IK	95	良好	灰白	SD19	瀬戸美濃系 内外面稀釉	

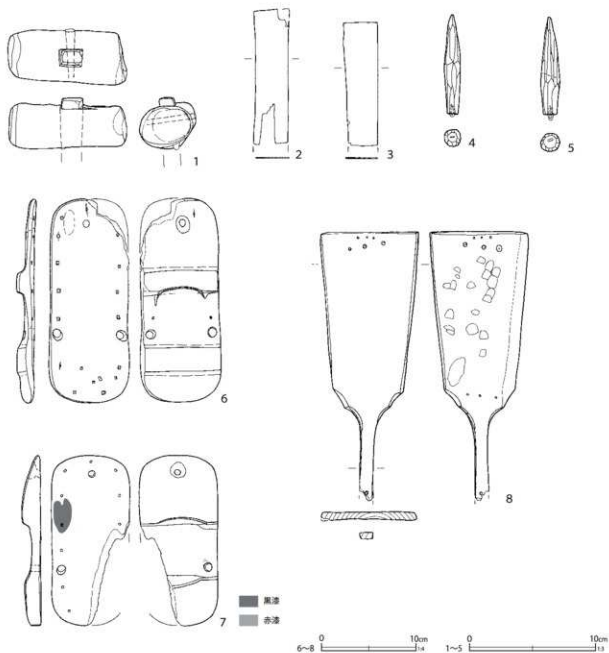
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
18	陶器	灯明皿	8.5	1.7	3.5	EI	100	普通	灰白	SD19	京都信楽系 内外面透明釉 内面ベン板3 外部上位少量の煤付着	
19	陶器	灯火具	7.1	4.1	6.2	EK	70	普通	灰白	SD19	瀬戸美濃系 内外面灰釉 口縁部釉剥ぎ 高台内直重ね焼き痕	
20	陶器	水漬	(1.0)	5.4	3.9	HK	70	普通	灰白	SD19	瀬戸美濃系 型成形(上下合わせ) 外面 灰釉・型押論文。一部兵須・鉄軸加える 底部墨書か	81-3
21	陶器	香炉	11.1	7.1	6.2	I	90	普通	灰白	SD19	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面楕輪	
22	陶器	花生	8.5	14.0	7.1	EI	95	普通	灰白	SD19	瀬戸美濃系 底部糸切痕(右) 内外面鉄 軸・長石軸を敷らす 底部墨書	81-4
23	陶器	花生	(6.2)	14.7	6.5	EI	90	普通	灰白	SD19	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面下位鉄軸掛 け分け	
24	陶器	半胴甕	(15.5)	10.9	11.5	DGK	60	普通	淡黄	SD19	瀬戸美濃系 内外面柿釉 口縁部上端に目 野 底部二次穿孔(積木鉢転用)	
25	陶器	蓋	8.0	2.0	3.2	IK	95	良好	灰白	SD19	上面灰釉	
26	陶器	蓋	-	[2.0]	5.6	I	90	良好	灰	SD19	上面錆輪 イッチン絵付か 最大径7.3 cm	81-5
27	陶器	蓋	-	2.5	(4.6)	K	90	普通	白	SD19	大塚相馬系か 上面糠白釉(貫入多い) 最大径6.8 cm	81-6
28	土師質土器	積木鉢	(10.9)	6.8	5.9	AH	30	普通	にぶい橙	SD19	江戸在地系 底部糸切痕(左)・穿孔 胎 土粉質	
29	土師質土器	瓦椀	-	[3.6]	(21.2)	AH	5	普通	浅黄橙	SD19	江戸在地系 底部シワ状痕 胎土粉質	
30	土師質土器	瓦椀	-	[4.7]	(22.2)	AI	10	普通	にぶい橙	SD19	江戸在地系 胎土粉質	
31	瓦質土器	甕罍	(24.0)	3.9	27.4	CI	35	普通	灰白	SD19	煤付着 最大径(32.1)	



第163図 第19号溝跡出土遺物(4)

第88表 第19号溝跡出土遺物観察表(2)(第163図)

番号	種別	器種	幅	長さ	厚さ	重さ	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土製品	人形	2.4/-	3.8	1.4	7.3	A K	良好	にぶい橙	SD19	江戸在地系 狛犬 左右合二枚型成形 中実 雲母付着	242-10
2	土製品	人形	3.2/2.5	-	2.0	4.9	A H K	良好	橙	SD19	簗 二枚型成形 中空	242-11
3	土製品	泥面子	2.3/2.2	-	1.0	6.5	A H K	良好	橙	SD19	江戸在地系 一枚型成形	242-12
番号	種別	器種	口径	器高	底径	重さ	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
4	土師質土器	ミニチュア 旋軸土器	径4.9 (4.5)	0.7	-	8.1	A H K	良好	橙	SD19	江戸在地系 蓋 型成形 胎土粉質	242-13
5	土師質土器	ミニチュア 旋軸土器	径4.9 (4.5)	0.7	1.5	9.8	I K	良好	灰白	SD19	京都系 鉢 型成形 外面緑釉 内面 藍釉・緑釉流し掛け	242-14
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	遺構	備考	図版			
6	硝子製品	筭	[3.1]	-	0.7	0.4	2.2	SD19	透明 中実	284-6		
7	硝子製品	筭	[3.3]	-	0.7	0.4	3.3	SD19	透明 中実 被熱	284-6		

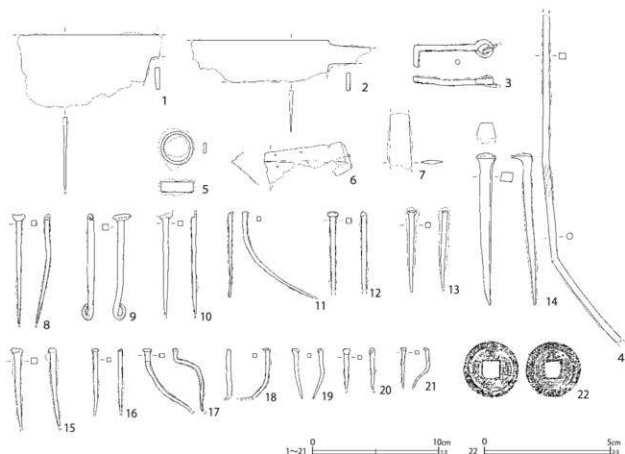


第164図 第19号溝跡出土遺物(5)

第89表 第19号溝跡出土遺物観察表(3)(第164図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	木榼	箆打部 3.6 × 9.3 × 4.1 柄部 [4.1] × 1.7 × 1.2						分割材	SD19	柄は鉄釘で固定	
2	木製品	経木	[10.7]	2.8	0.05	-	-	-	板目	SD19	黒漆 第241表7	296-2
3	木製品	経木	[9.75]	2.7	0.05	-	-	-	板目	SD19	黒漆 第241表8	296-3
4	木製品	浮子	8.0	1.3	1.3	-	-	-	削出し	SD19	赤色塗料 金属付 加工痕明確	
5	木製品	浮子	8.1	1.5	1.4	-	-	-	削出し	SD19	赤色塗料 金属付 加工痕明確	
6	木製品	下駄	21.5	8.6	-	-	1.8	-	板目	SD19	斜り下駄 外周鉄釘 14 木釘4	
7	木製品	下駄	17.9	8.3	-	-	1.9	-	板目	SD19	斜り下駄 外周鉄釘(残4) 黒漆 赤漆	
8	木製品	羽子板	[28.5]	10.4	0.8	-	-	-	板目	SD19	身上下木釘孔 木釘残 柄孔1 裏面打板か	

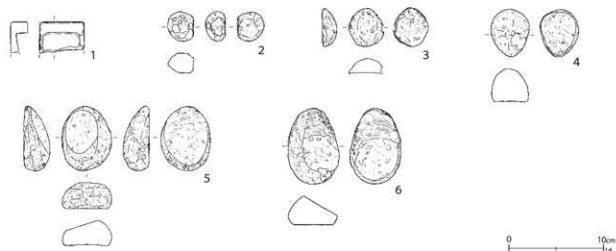




第165図 第19号溝跡出土遺物(6)

第90表 第19号溝跡出土遺物観察表(4)(第165図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	鉄製品	包丁か	長さ[11.4] 幅[5.8] 厚さ0.4 重さ43.0	SD19		
2	鉄製品	包丁	長さ[14.3] 刃長[10.8] 刃幅3.3 背幅0.3 重さ34.0	SD19		
3	鉄製品	拱金	長さ[6.3] 厚さ0.4 重さ7.5	SD19		
4	鉄製品	火箸	長さ[25.7] 厚さ0.5 重さ39.9	SD19	箸頭欠失 持ち代丸棒 振り以下角棒	
5	鉄製品	環金具	径2.6 幅0.8 厚さ0.2 重さ6.4	SD19		
6	銅製品	飾金具	縦[3.4] 横[7.0] 厚さ0.06 重さ3.9	SD19	小孔(釘孔)あり 釘1残 存	
7	鉄製品	不明	長さ[4.4] 幅1.8 厚さ0.3 重さ7.6	SD19	跡か	
8	鉄製品	釘	長さ[8.8] 幅0.4 厚さ0.4 重さ4.8	SD19		
9	鉄製品	釘	長さ[8.4] 幅0.5 厚さ0.5 重さ10.7	SD19		
10	鉄製品	釘	長さ[8.0] 幅0.4 厚さ0.4 重さ4.5	SD19		
11	鉄製品	釘	長さ[6.8] 幅0.3 厚さ0.3 重さ4.3	SD19		
12	鉄製品	釘	長さ[6.3] 幅0.4 厚さ0.4 重さ6.2	SD19		
13	鉄製品	釘	長さ[6.2] 幅0.4 厚さ0.4 重さ5.8	SD19		
14	鉄製品	釘	長さ12.0 幅0.9 厚さ0.7 重さ27.2	SD19	E7-14Gr	
15	鉄製品	釘	長さ[6.3] 幅0.5 厚さ0.4 重さ4.0	SD19		
16	鉄製品	釘	長さ[5.0] 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.2	SD19		
17	鉄製品	釘	長さ[5.0] 幅0.4 厚さ0.3 重さ4.0	SD19		
18	鉄製品	釘	長さ[4.1] 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.2	SD19		
19	鉄製品	釘	長さ4.0 幅0.3 厚さ0.3 重さ1.4	SD19		
20	鉄製品	釘	長さ[3.3] 幅0.3 厚さ0.3 重さ1.0	SD19		
21	鉄製品	釘	長さ[3.1] 幅0.3 厚さ0.3 重さ0.8	SD19		
22	銅製品	銭貨	径22.7 厚さ1.3 重さ2.0	SD19	寛永通寶(新) 背元	



第166図 第19号溝跡出土遺物(7)

第91表 第19号溝跡出土遺物観察表(5)(第166図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	礎	[3.3]	4.7	-	31.0	凝灰岩	SD19	器高1.8cm 表裏面全体黒化	
2	石製品	磨石	3.1	2.8	2.1	9.5	角閃石安山岩	SD19	多孔質 自然面遺存 使用面3	284-1
3	石製品	磨石	4.0	3.7	1.6	10.6	角閃石安山岩	SD19	多孔質 自然面遺存 使用面2 線状痕あり	284-1
4	石製品	磨石	5.0	4.1	3.5	36.5	角閃石安山岩	SD19	多孔質 自然面遺存 使用面1	284-1
5	石製品	磨石	6.8	5.2	2.8	49.0	角閃石安山岩	SD19	多孔質 自然面遺存 使用面5	284-1
6	石製品	磨石	8.0	5.4	3.0	64.2	角閃石安山岩	SD19	多孔質 自然面遺存 使用面4 線状痕を磨り消し・僅付着	284-1

けの花生だが、鉄軸の色調が淡く黄色味を帯びる。24は瀬戸美濃系陶器の半胴甕で、やや背が低い。口縁部には目跡がある。底部を二次穿孔して植木鉢に転用する。25・26・27は陶器の土瓶蓋で、25は光沢の強い灰釉、つまみは歪ませて花の蕾状に加飾する。26は錆釉が施され、伊羅保釉のようにも見える。変色しているがイッチン絵付けであろうか。胎土は硬質・緻密で拓器質に近い。27は、上面に青みの強い糠白釉が施される。胎土は白味が強く緻密。大堀相馬系陶器ではないかと思われる。28は土師質土器の植木鉢、29・30は土師質土器の瓦登で、いずれも微細な雲母を含む江戸在地系土器である。なお、29は下部・30は上部だが、胎土・色調の特徴から別個体と思われる。31は瓦質土器の竈鏝で、全体はヨコナデで仕上げられる。上面は工具の痕跡がありヘラナデと思われる。胎土に角閃石を多く含

む。

出土した陶磁器類はかなり多く、しかも、時期的にまとまっている。磁器では瀬戸美濃系磁器の湯谷形碗が多いが、第160図8に示したような木型打込施文がみられるものは他になかった。また、第160図9に示したような酸化コバルト染付の磁器もほとんど含まれず、後世の混在と判断される。陶器では青緑釉土瓶が多い傾向である。青緑釉土瓶と比較して、三彩土瓶や白土染付の土瓶、松岡系海鼠釉土瓶などの数が少ないのも特徴である。

以上のような様相から第19号溝跡は、栗橋8期のある段階で、溝としては廃絶している可能性が高い。もっとも、敷地境の位置はその後も変化していない。上層に厚く盛土がされたものか、溝という形態ではなくなった可能性はあるだろう。本跡の遺存状況が比較的良好なものも、こういった

廃絶時の条件によるものと推定される。

第163図1～5は土製品のミニチュア・人形類である。

第163図6・7は硝子製品の筭・簪類である。

第164図は木製品である。

第165図は金属製品である。3は掛金で、引き戸の掛金と思われる。環に差し込んで扉を固定する金具である。

第166図は石製品である。1は凝灰岩製硯の破片で、石材はやや緑色味を帯びた灰色を呈する。2～6までは角閃石安山岩製の磨石である。大小の差があるが、丸石の1～2側面を磨って使用している。

#### 第20号溝跡・第4号竹樋 (第167～169図)

E7-H4・5グリッドに位置する。第6・7区画(区画U・V)の地境溝である。調査区を東西に走るが、検出されたのは西側の長さ14.0mまでで、調査区東側では検出できなかった。

検出範囲の全体に杭列が遺存する。また本跡では竹樋(第4号竹樋)が検出されたのが特徴的である。

竹樋は、溝跡の西側調査区際から東へ4.5mほど確認されているが、遺存状態は不良である。調査区際壁面での断面観察では、少なくとも2回の改修痕跡を残す溝跡の上層から、竹樋掘方が掘り込まれている事が確認される(第167図A-A'セクション)。つまり第20号溝跡を壊して竹樋が設置されており、両者は重複関係にある別遺構と言える。しかし調査の進展上、竹樋の掘方を平面的に検出するに至らなかった。そのため両遺構を一括して図示、記述することにした。

第20号溝跡自体は、検出位置や構造から地境溝とみられるが、前述のように東側は第338号土壌と重複したあたりで延長を追えなくなる。第338号土壌は、軸方向・幅ともに第20号溝と類似しており、溝跡と無関係に存在したものでないだろう。なお、この土壌上には建物基礎石を据え

たような径40～60cm台、深さ20～30cm程の円形土壌・ピットが、120cm程の間隔で並んで検出されている(第304・325・326号土壌、E7-H5グリッドピット1)。さらに東側には、敷地境を一部跨ぐようにして第9号建物跡が検出されている。第6区画の敷地東側は、建物配置等がやや不自然であると言えるだろう。第20号溝跡の東側が検出されていない理由には、敷地裏手の空間利用の在り方が影響している可能性もあろう。

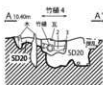
第168図には出土した陶磁器類を示す。

1は肥前系磁器の皿で、腰が大きく張るものである。軸葉は白味が強く不透明な印象で、質が悪い。内外面ともに山水文を染付する。2は松岡系陶器の土瓶蓋で、上面に海鼠軸が掛けられる。胎土の大部分は軸葉によって還元して灰色を呈するが、露胎部の断面や裏面にはぶい橙色を呈する。3は陶器の土瓶で、体部は薄い。外面にはぶいウグイス色の灰釉に、やや太めのイッチン掛けで施文される。底部から体部露胎部は回転ケズリ、底部に墨書がある。

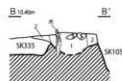
本跡から出土した陶磁器は多くは無かった。遺構の性格上、複数時期の遺物が混在しているものと考えられるが、図示した2・3の土瓶や、掲載に至らなかった青緑釉土瓶が最新期の遺物である。また、重複して本跡より古い第335号土壌からの遺物は少ないが、18世紀代までの遺物しか出土していない。第20号溝跡が二回以上の改修後に第4号竹樋に掘り込まれていることを考えると、地境溝の機能時期は19世紀前葉(栗橋7期頃)と推定される。

第169図1は土製品のミニチュアで、灯籠を模す。2は石製品の磨石で、角閃石安山岩製である。角閃石安山岩製の磨石は、利根川周辺の中近世遺跡に多くみられるもので、栗橋宿跡からも多く出土している。本例はそのなかでも大きなサイズのもので、一般的に出土する小型の物とは用途が異なる可能性もあろう。対向する二面を磨って

SD20・竹樋4



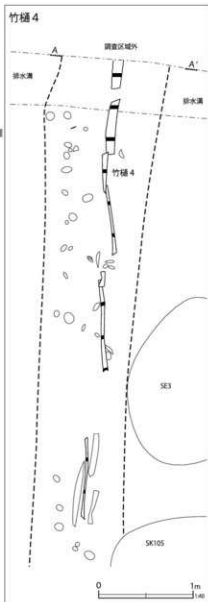
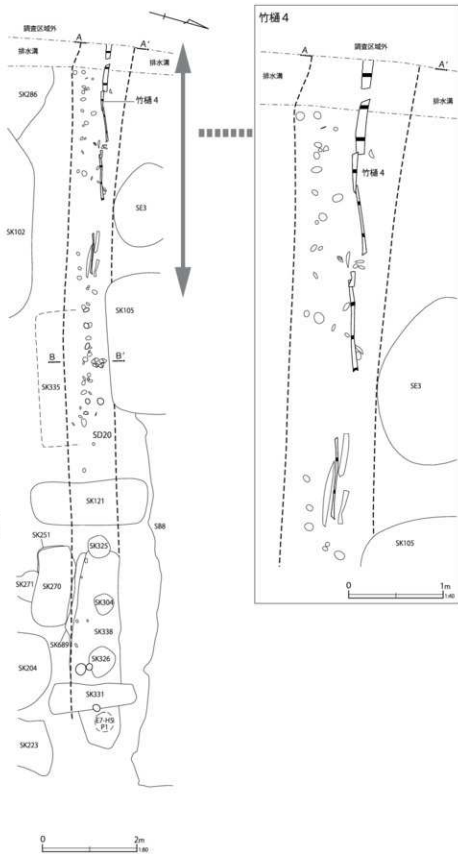
- 第4号竹樋  
A-A'  
1 暗褐色土  
2 褐色土  
3 暗褐色土



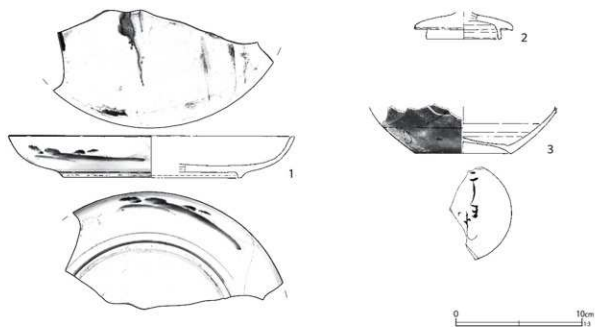
第20号溝跡

B-B'

- 1 明灰褐色土 粘質 粘土ブロック多量  
しまりに中や欠く  
2 灰褐色土 粘質 粘土と砂粒の混土  
しまり良好



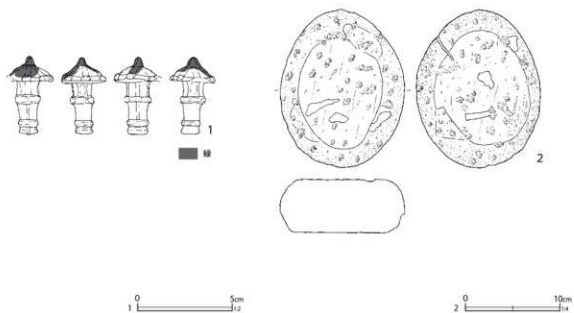
第167図 第20号溝跡・第4号竹樋



第168図 第20号溝跡出土遺物(1)

第92表 第20号溝跡出土遺物観察表(1)(第168図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	皿	(22.4)	3.3	(13.8)	-	25	普通	白	SD20	肥前系 内外面施軸・染付	
2	陶器	蓋	-	[2.1]	(5.8)	DK	40	普通	灰	SD20	松岡系 上面海鼠軸 最大径(7.8)	
3	陶器	土板	-	[3.7]	(7.6)	EI	20	普通	灰黄	SD20	外面灰軸・イッチン施文 底部墨書	81-7



第169図 第20号溝跡出土遺物(2)

第93表 第20号溝跡出土遺物観察表(2)(第169図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土製品	竈庭道具	2.3	4.1	2.3	8.0	-	普通	にぶい橙	SD20	江戸在地系 灯籠 二枚型成形 中実 施軸(一部緑軸) 被熱	242-15
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材		遺構	備考	図版	
2	石製品	磨石	16.7	13.2	5.6	822.0	角閃石安山岩		SD20	多孔質 自然面遺存 両面研磨 裏面線状 被熱(一部赤色化) 白色物質付着	280-7	

平滑にしている。

### 第21号溝跡(第170・177・178図)

E8-G4・5グリッドに位置する。第7区画(区画U)と往来道の地境溝で、往来道の南側側溝でもある。調査区を東西に横断し、検出長は17.0mである。遺構図は、道路跡とともに第177・178図に示す。

調査区西壁面で確認すると、かなり太い杭が打ち込まれており、底板状の板材が遺存する部分もある。さらに上位には現代の塩ビ管が同じ位置に敷設されており、往来道との関係から長期にわたって改修されていたことが窺われる(写真図版12の2~4参照)。

第170図に溝跡から出土した陶磁器を示す。1は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗であるが、小型で坏とするべきかもしれない。外面によるけ縞状、内面口縁部に角渦文を細い線で染付する。

図示した以外には、京都信楽系陶器の脚(油溜め)を有す灯火具等が出土している。溝としての機能時期は、概ね栗橋7~8期頃だったようである。

なお、調査区西壁際で、溝跡の南側に隣接して木枠状の木組み施設が検出されている。調査区埋め戻し間際に存在が明らかになったもので、十分に記録が作成できなかったが、溝と関連する施設と思われる(模式図第177図・写真図版12参照)。木組みの施設は、東西33cm、南北38cmのほぼ正方形の木組みに、東西35cm、南北32cmの

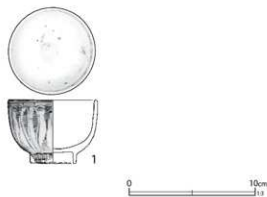
蓋を有す木種状の木組みが取り付け。両者の内部空間は通じている。覆土は砂質土が主体で、少量の寛永通寶が出土している。

この遺構は、19世紀前葉(栗橋7期)の火災処理土壌(第107号土壌)に上面を壊されているようなので、栗橋7期以前に遡る可能性もある。おそらくは、第21号溝と関連する暗渠施設の導水あるいは排水部と想定されるが、詳細な検証は困難である。

### 第22号溝跡(第177・178図)

E8-G4・5グリッドに位置する。往来道と第8区画(区画T)の地境溝で、往来道の北側側溝でもある。調査区を東西に横断し、検出長は18.0mである。遺構図は、道路跡とともに第177・178図に示す。

溝跡の中には、かなり太い杭が幅40~50cm程の間隔で東西に並んで検出されている。道路側(南側)の方が遺存状態が良く、杭の間隔は概ね

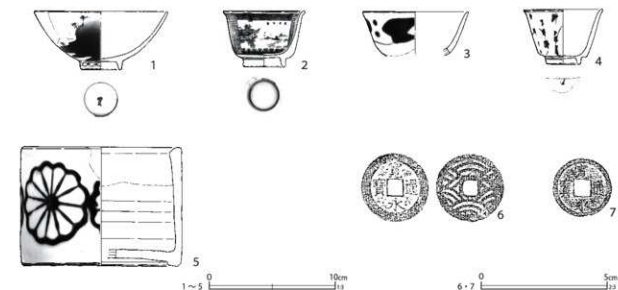


第170図 第21号溝跡出土遺物

第94表 第21号溝跡出土遺物観察表(第170図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	6.9	5.0	(3.4)	-	90	良好	白	SD21	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付(湯呑形碗)	





第172図 第23号溝跡出土遺物

第95表 第23号溝跡出土遺物観察表(第172図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	(10.5)	4.6	3.1	-	55	良好	白	SD23	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付・吹き墨(黒)	
2	磁器	坏	6.4	4.4	3.0	-	95	普通	白	SD23	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面銅版転写染付	
3	磁器	碗	(8.3)	[3.5]	-	-	10	良好	白	SD23	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面木型打込施文・染付(端反碗)	
4	磁器	坏	6.2	4.4	2.5	-	45	良好	白	SD23	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	
5	磁器	香炉	(12.2)	9.4	(12.2)	-	40	良好	白	SD23	瀬戸美濃系 内面上位~外面施文 外面染付	
番号	種別	器種	法量						遺構	備考	図版	
6	銅製品	銭貨	径27.3	厚さ1.5	重さ5.0					SD23	寛永通寶(新) 21 叡	
7	銅製品	銭貨	径23.7	厚さ1.0	重さ2.2					SD23	寛永通寶(新)	

60cmである(写真図版55~65)。調査区西壁際では、この杭の直上に土管の埋設が確認されるので、杭そのものは近代の構築物の可能性もある。

いずれにしても道路跡との関係で長期にわたって位置が踏襲されてきたものと考えられる。

#### 第23号溝跡(第171・172図)

E7-F3~5グリッドに位置する。第8・9区画(区画T・S)の地境溝である。調査区を東西に横断し、検出長19.1mである。

全体に杭列が顕著に遺存する。また、側壁に沿ったしがらみ状の横棒(角材)が溝上部に敷設

されている状態や、側壁材とみられる薄い板状の木材の遺存が確認された。杭や横棒・板材の遺存状況がもっとも良い地境溝である。

第172図には出土した陶磁器を示した。

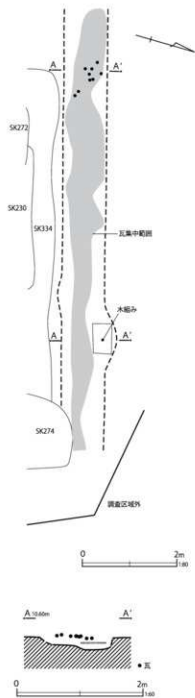
1は瀬戸美濃系磁器の平碗で薄手である。外面に酸化コバルト染付と吹き墨で文様を描く。2は瀬戸美濃系磁器の坏で、銅版転写染付が施される。3は瀬戸美濃系磁器の小型の端反碗で、木型打込と染付が施されている。4は瀬戸美濃系磁器の坏で、酸化コバルト染付で漢詩が施される。5は瀬戸美濃系磁器の香炉で、外面に菊文が染付ら



れる。

陶磁器の様相から、栗橋9期に廃絶した遺構と考えられる。

SD24



第173図 第24号溝跡

#### 第24号溝跡 (第173～176図)

E7-E3・4グリッドに位置する。第9区画と第3地点の区画(区画R・S)との地境溝と考えられる。調査区を東西に横断し、検出長10.5mである。

本跡は掘り込みがはっきりせず、瓦溜りのような状態で検出されたものである。ただし、瓦の分布が東西に連なることから、溝状の掘り込みがあった可能性が高い。また、隣接して薄板による小型の木組み遺構が検出されているが、同様の遺構は、第6地点の溝跡(杭列)の中に敷設されている例がある。本例も溝跡の中に作られた、泥などの沈殿施設の可能性が考えられる。

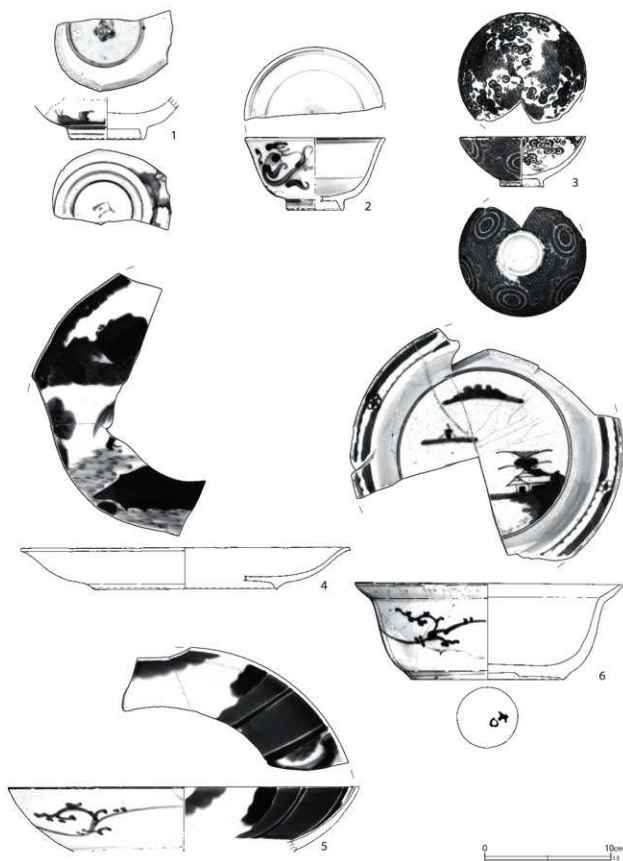
遺物は瓦が集中する部分から検出されたものである。第174～176図に示した。

第174図1は肥前系磁器の大碗で、外面に雪輪草花文、内面に五弁花文を染付する。2は瀬戸美濃系磁器の端反碗で、厚手やや大振りである。外面に雲竜文、内面口縁部に二重圓線、底部際にも圓線を染付する。3は瀬戸美濃系磁器の平碗で、型紙摺絵染付である。4は肥前系磁器の皿で、口縁部は端反りになる。内面に山水文を染付する。焼き継ぎがみられる。5も肥前系磁器の皿で、大皿と思われる。外面に一重の唐草文、内面に山水文を染付するものらしい。6は肥前系磁器の鉢で、蛇の目凹形高台のものである。外面に一重の唐草文、内面に山水楼閣文を染付する。焼き継ぎがあり、底部には赤の焼き継ぎ印がみられる。

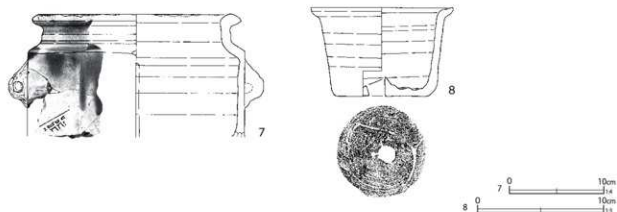
第175図7は瀬戸美濃系陶器の瓶拵で、体部が多角形に成形されるものである。灰軸を地に緑釉・瑠璃釉を流し掛ける。8は土師質土器の植木鉢で江戸在地土器である。

本跡から出土した陶磁器には、木型打込施文の瀬戸美濃系磁器端反碗や、酸化コバルト染付の磁器杯や平碗が認められる。従って、栗橋9期前半の構築と考えられる。

第176図は出土した瓦である。本跡から出土し



第 174 图 第 24 号溝跡出土遺物 (1)



第175図 第24号溝跡出土遺物(2)

第96表 第24号溝跡出土遺物観察表(1)(第174・175図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	-	[3.3]	5.5	-	15	普通	白	SD24	肥前系 内外面施軸・染付	
2	磁器	碗	(10.9)	5.7	(4.2)	-	50	普通	白	SD24	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付(端反碗)	
3	磁器	碗	(9.8)	4.0	(3.2)	-	80	普通	白	SD24	瀬戸美濃系 内外面施軸・型紙借給染付	
4	磁器	皿	(25.8)	3.3	(14.4)	-	25	普通	白	SD24	肥前系 内外面施軸 内面染付 焼き継ぎ痕	
5	磁器	皿	(27.7)	[5.1]	-	-	15	普通	白	SD24	肥前系 内外面施軸・染付	
6	磁器	鉢	21.0	7.7	12.0	-	70	普通	白	SD24	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目凹形高台 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤)	
7	陶器	瓶掛	(20.0)	[12.9]	-	EI	15	普通	灰白	SD24	瀬戸美濃系 内外面施軸・緑軸・埋璃輪流し掛け 外面施文 口縁部二次敲打	81-8
8	土師質土器	横木鉢	(11.2)	7.0	7.0	AHK	50	普通	灰白	SD24	江戸在地系 底部糸切痕(左)・穿孔 胎土粉質	



第176図 第24号溝跡出土遺物(3)

第97表 第24号溝跡出土遺物観察表(2)(第176図)

番号	種別	器種	長さ	幅	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒棧瓦	[3.0]	[14.0]	-	AEH	良好	灰	SD24	被熱・赤変	
2	瓦	軒棧瓦	[3.2]	[6.9]	-	AEK	普通	灰白	SD24	右巻き	

た瓦は761点(総重量約57kg)であった。そのうち軒棧瓦の軒部は、図示したのも含めて8点(うち軒棧瓦の軒丸部のみの破片4点、軒平部の

中心飾りが残るもの3点)であった。このほか、軒丸瓦の縁部のみの破片が出土している。

## 5 道路跡

道路跡は、調査区を東西に縦断するものが1本検出された。調査前まで機能していた道路と同じ位置・方向で検出されたものであり、近世の『絵図』に「往來道」とみえる部分である。

### 第1号道路跡（第177～196図）

調査区中央部のやや北側、E 7-G 4・5グリッドから検出された。調査区を東西に横断し、検出長は18.25mである。主軸方位はN-71°-Eを示す。第21・22号溝跡を側溝として備えており、側溝部を含めた幅は約3.20mである。一方、調査区壁断面や、側溝の杭の位置を勘案して本来の道路幅を測ると、概ね180cmであり、一間幅の道路であったものと考えられる。なお、調査前の道路幅は2.0m、側溝を含めると2.9mであった。

現存していた道路下を掘り下げると、標高10.30m付近で硬化面が検出された。ほぼ同じ高さで平石が東西に並んで列状に検出されているが、敷石の直下には現代のケーブルが敷設されていた。従って、石列はケーブルの保護のために敷かれたものであり、より上層から掘り込まれた掘削坑に伴うものである。

一方、検出された硬化面は、19世紀後半以降の路面と考えられた。以下、路面と洪水層・火山灰層の有無に注意しながら、さらに下層の掘削を行った。なお、道路の中軸から南側の大部分に、水道管敷設に伴う攪乱が入っている。そのため、古い道路面の遺存は北側半分に留まった。道路の長軸方向に掘り込まれていた攪乱土を除去して、断面確認用のトレンチとし、セクションを図化した（第179・180図）。

その後、断面の観察結果を元に、各期の整地面を検出することを繰り返した。その結果、路面と考えられる整地面を5枚（整地面①～⑤）検出し、その下に路面とは考え難いが、生活面と思われる整地面を2枚（整地面⑥・⑦）確認した。次

に、上層から各整地面（写真図版55～59）の様相を記述する。

整地面①は、ケーブルに伴う敷石が検出された面から10cm以下で検出された面である。上層は灰色砂（第179図4層）や、しまりの強い灰黒色土（5層）で、前述した19世紀後半以降の路面（敷石検出面と同じ高さの面）の構築土である。下層の6・7層は整地面①の構築土で、6層は固くしまる黒褐色シルト土層である。下層の7層は灰色砂である。

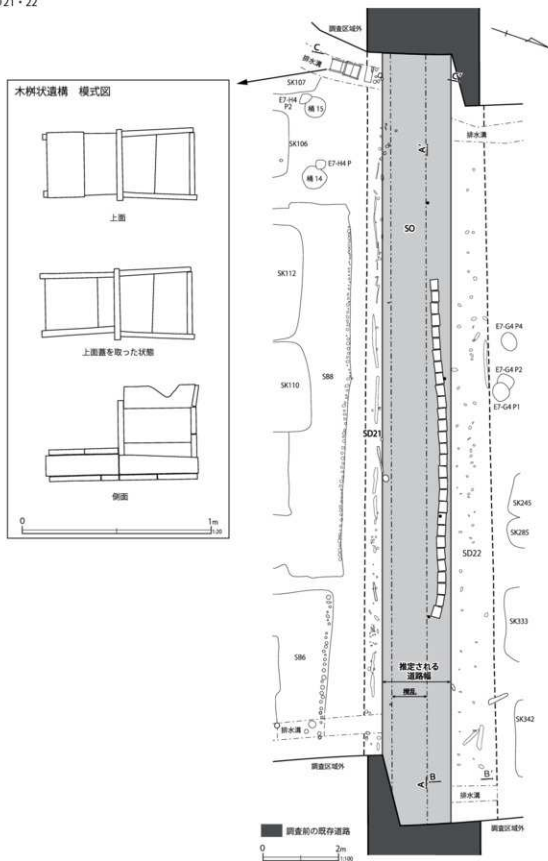
整地面②は、7層直下で検出されている。主に固くしまる黒褐色シルト土（8層）で整地する。構築土は上層の8・9層が黒褐色シルト、下層の10層が砂層である。砂層は現地観察で洪水層の可能性が指摘されている。

整地面③は、10層直下で検出されている。主に固くしまる黒褐色シルト土（11層）で整地する。直下の12層は浅間A火山灰の二次堆積層である。二次堆積とは言い、比較的厚い層であり、天明三年（1783）の浅間山噴火からさほど時を経ずに形成された層と見て良い。

整地面④は、浅間A火山灰層である12層直下で検出した面である。部分的に固くしまるシルト層（13層）を路面とする。それに加えて砂層（14・15層）で路面を構成する部分があるなど、やや安定しない路面と言えらる。

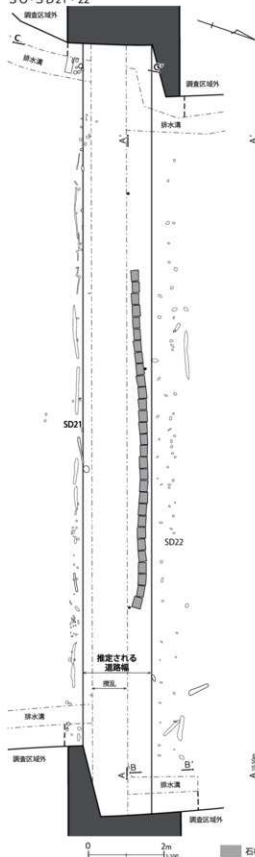
整地面⑤は、主として砂層（14～16層）の直下から検出されたものである。路面構築土の19層はシルト質の黒褐色土であり、整地面⑤の直下にも層状堆積が認められるので、近接した時期幅で何枚かの路面が形成されていたものと思われる。明確な道路面と思われるのは、この整地面⑤及び、その直下（19層中）の部分的な硬化面までである。以下は路面とは考え難い。

整地面⑥は、洪水砂層と考えられる24層下である。現地調査の時点では、この面も路面の可能



第177図 道路状遺構(1)

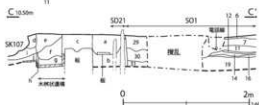
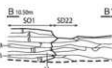
SO・SD21・22



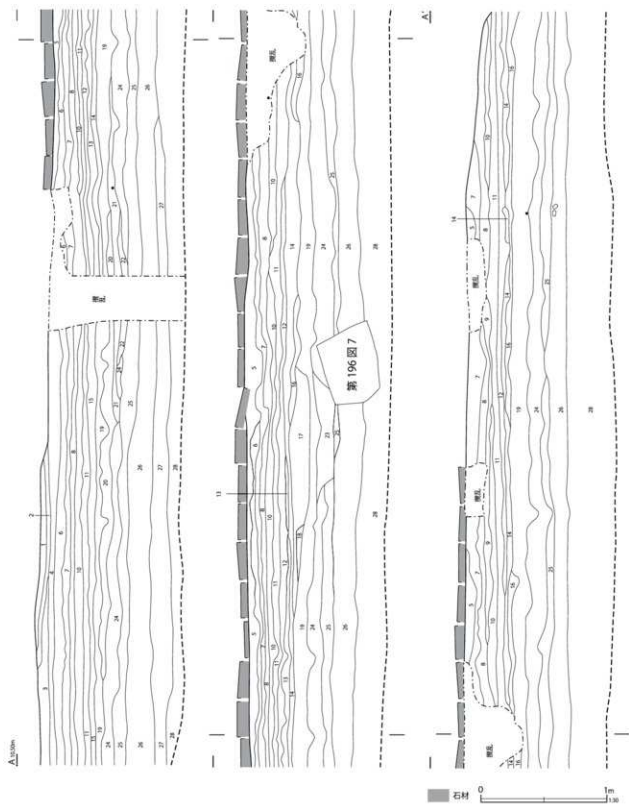
道路跡

- 1 黒褐色土
- 2 灰色砂
- 3 黒褐色土
- 4 灰色砂
- 5 灰褐色土 やや不均一 5～30mmの部角礫を多く含む 19Cより新しい 固くしまる
- 6 黒褐色土 シルト層 均一 5～50mmの円礫多少含む 道路のユニット 固くしまる～高直
- 7 灰色砂 均一 細砂 10mm前後のシルトブロック多少含む 道路のユニット 固くしまる
- 8 黒褐色土 シルト層 均一 固くしまる 5～20mmの部角礫～部角礫ごく少量 部分的に入る 道路のユニット～路面
- 9 黒褐色土
- 10 灰色砂 均一 細砂 5～20mmの部角礫～部角礫・シルトブロック多少含む 道路のユニット(洪水層か)
- 11 黒褐色土 シルト層 均一 固くしまる 5～20mmの部角礫～部角礫ごく少量 部分的に入る～路面
- 12 白色軽石 AaA 軽石層 二次噴積
- 13 黒褐色土 シルト層 礫含まず 固くしまる
- 14 灰色砂 細砂
- 15 灰色砂
- 16 褐色砂
- 17 灰色土 15層に比してやや暗色
- 18 灰色土 15層と同じ
- 19 黒褐色土 シルト層 均一 層状に剥離する(部分的・明確な硬化面の某種類) 部分的に角礫(φ10～30mm)・貝(シジミ)を含む 斜面か断面(斜面あるか不明)
- 20 褐色土 均一 礫不含有
- 21 黒褐色土 シルト層 均一 19層と同じ
- 22 黒褐色土 シルト層 均一 19層と同じ
- 23
- 24 褐色土 砂層 均一 ラミナが発達する 洪水砂層 部分的に粘土や、やや粗い砂を含む 遺物は少ない
- 25 洪水層か
- 26 洪水層か
- 27 洪水層か
- 28 洪水層か
- 29 灰色土 木材等有機物多く含む
- 30 暗褐色土 少しボソボソした印象の土質
- 31 暗褐色土 上の層より均質
- a 灰色土 ブロック状
- b 灰色土 混人物
- c 灰色土 灰白シルトブロック多い
- d 灰黄色土 シルト層 しまり強
- e 灰黄色土 シルト層 砂少し含む
- f 灰色土 シルト層
- g 灰黄色土 シルト層
- h 板の道路か
- i 灰色土 シルト層 灰黄色ブロック含む
- j 灰色土 シルト層 iより均質

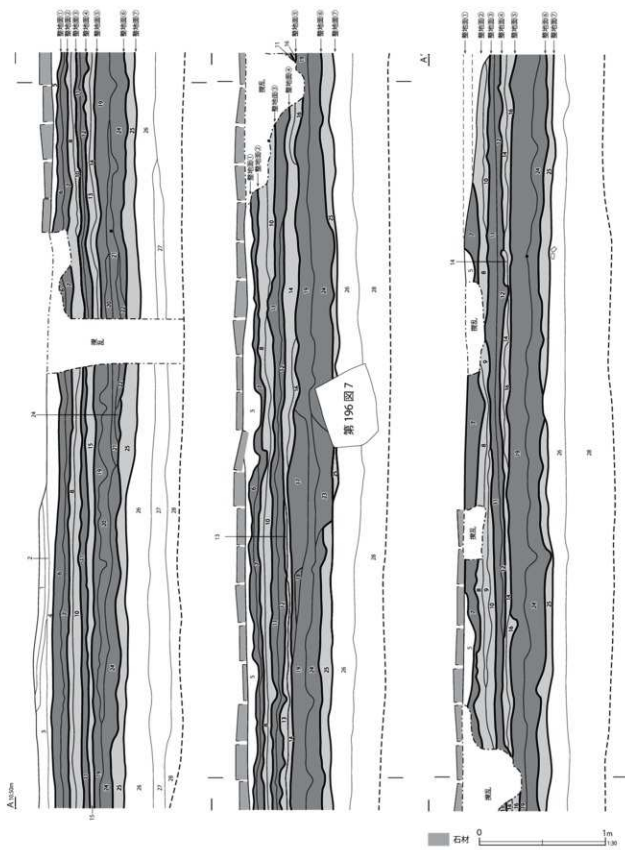
第196図7



第178図 道路状遺構(2)



第196図 道路状遺構(3)



第180圖 道路状遺構(4)



性があると考えていた。しかし、この面を路面だとすると、後述するように木臼との位置関係が不自然である。

整地面⑦は、やはり洪水砂層と思われる25層下である。樹木の枝などが広がった状態で検出されており、洪水による堆積状況が土砂で覆われて遺存したものと考えられる。粗朶を敷いた路面形成痕跡の可能性も考慮されたが、その広がりが不規則なので可能性は低い。

このように、整地面⑥・⑦は「整地面」と呼称したが、平面は凹凸があり、面として安定していない。ある一時期の地表面としては機能していたものだろうが、積極的な整地痕跡とは認めがたいものである。セクションの中央付近には、より下層で埋没した大型の木製臼が、頭を出した状態で除去されており、路面として機能したとは考え難い。

各路面の調査に際しては、可能な限り層位ごとに遺物を取りあげた。第181～189図には、層位ごとの遺物を示す。

5層では、1に示した瀬戸美濃系磁器の端反碗が出土している。厚手のものである。

6・7層（整地面①の構築土）では、瀬戸美濃系磁器の端反碗蓋（2）、陶器土瓶片（5）が認められる。

8・10層（整地面②の構築土）では、肥前系磁器の広東碗と蓋（10・11）が複数確認される。瀬戸美濃系磁器端反碗の細片（8）のみである。

11・12層（整地面③の構築土）では、肥前系磁器の筒形碗で、外面青磁釉のもの（16・17）が出土している。12層が浅間A火山灰を含む層である。

13・14層（整地面④の構築土）では、肥前系磁器の粗製丸碗（24・26）や粗製皿（27）が主体で、僅かに肥前系磁器の筒形碗（25）、外面青磁釉の丸碗、瀬戸美濃系陶器の柿釉灯明皿

（30）がみられる。

19層（整地面⑤の構築土）も、13・14層に類似の様相で、磁器碗では粗製丸碗（39～42）が主体で、わずかに肥前系磁器の筒形碗（43）、瀬戸美濃系陶器の柿釉灯明皿（51）が混じる。

24・25層（整地面⑥の前後）では、肥前系磁器の碗は粗製丸碗がほとんどである。

26層（整地面⑦より下層）でも、肥前系磁器の碗は粗製丸碗が主体である。筒形碗（79）は後世の混在と思われる。瀬戸美濃系陶器の摺絵皿や腰鉦碗が複数含まれるが、多くは無い。瀬戸美濃系陶器と丹波系陶器の播鉢が多い。80は中国景德鎮窯系の磁器であるが、15～16世紀の所産で、近世中期まで伝世したものととは考え難い。88も大窯末期の瀬戸美濃系陶器天目茶碗で、17世紀初頭に遡る。104・105は中世の常滑焼の甕と片口鉢である。

27層では、磁器類がやや少なくなるが、肥前系磁器の雪輪草花文碗が僅かにみられ、18世紀には降ろと思われる。ただし、陶器の腰鉦碗や摺絵皿はみられない。瀬戸美濃系陶器と丹波系陶器の播鉢が多いのは26層と共通する。

以上の遺物様相と火山灰層から、各路面の年代を想定すると、次のように整理される。

整地面①は、19世紀第Ⅱ四半期以降（栗橋7期）以降に機能した路面である。

整地面②は、19世紀第Ⅰ四半期以降（栗橋6期）以降に機能した路面である。

整地面③は、18世紀末（栗橋5期）、具体的には天明3年（1783）浅間A火山灰降下の後に機能した路面である。

整地面④は、18世紀第Ⅲ四半期以降、天明3年頃まで（栗橋4～5期）に機能した路面である。

整地面⑤は、18世紀中葉（栗橋4期前半）以降に機能した路面である。

整地面⑥は、18世紀第Ⅰ～Ⅱ四半期（栗橋3

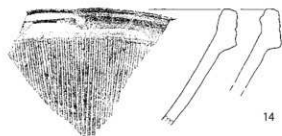
第5層



第6・7層



第8・10層



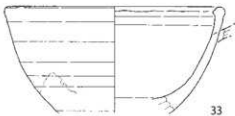
第11・12層



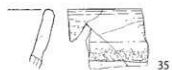
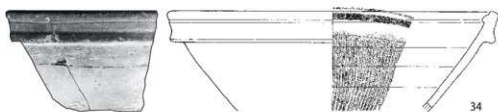
第181図 道路跡出土遺物(1)



第13・14層



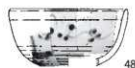
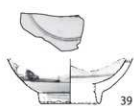
第182図 道路跡出土遺物(2)



第14・19層

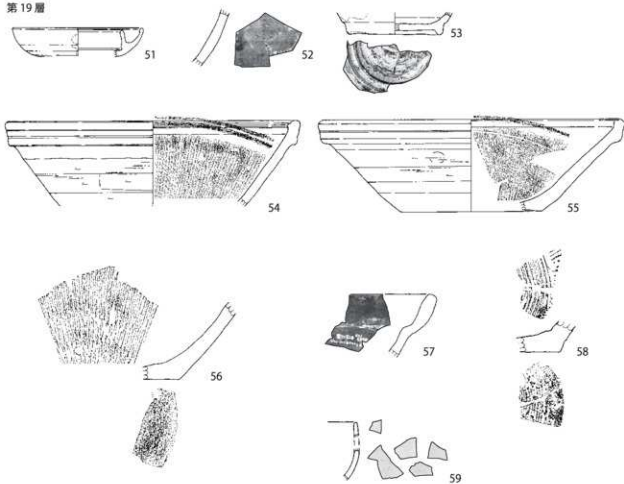


第19層

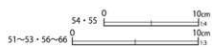
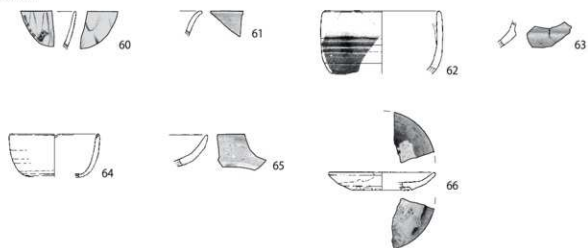


第183図 道路跡出土遺物(3)

第19層

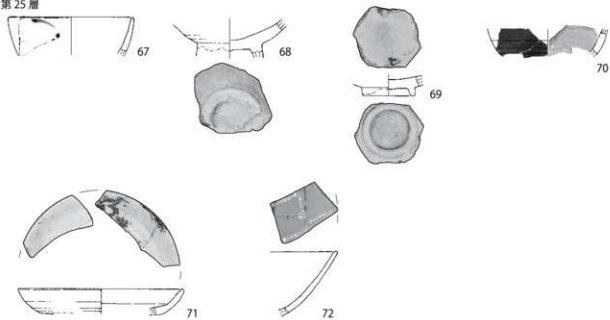


第24層

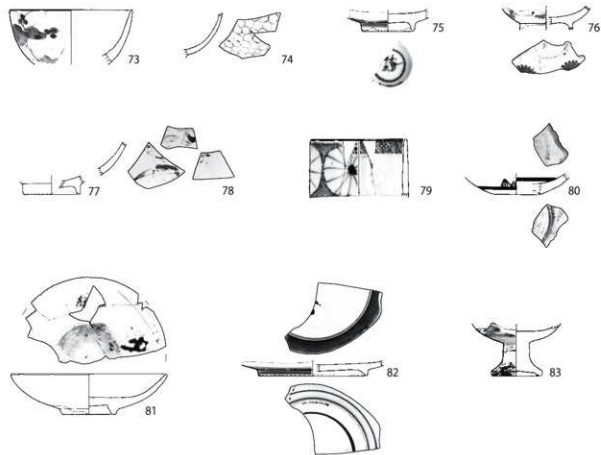


第184図 道路跡出土遺物(4)

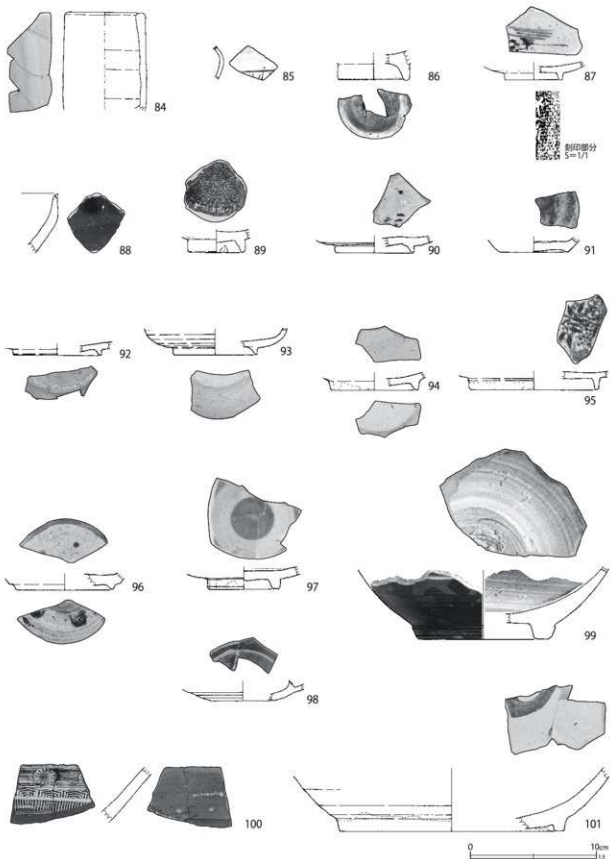
第25層



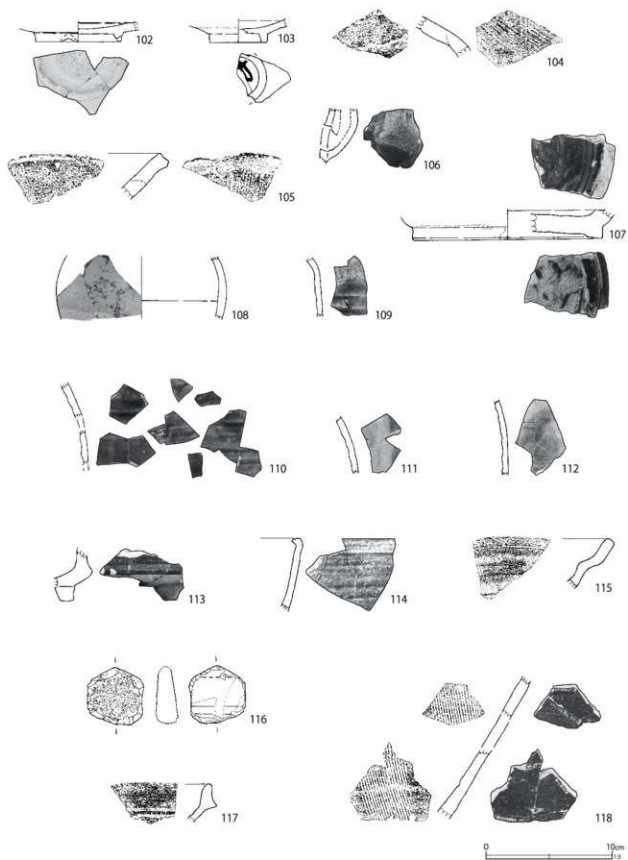
第26層



第185図 道路跡出土遺物(5)

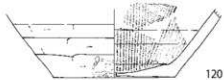
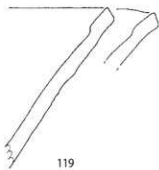


第186图 道路跡出土遺物(6)



第 187 图 道路跡出土遺物 (7)





119

120



121



第 27 層



122



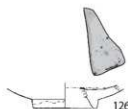
123



124



125



126



127



128



129



131



132



133



130



134



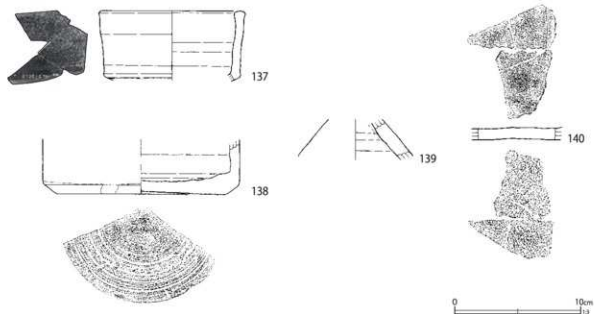
135



136



第 188 図 道路跡出土遺物 (8)



第189図 道路跡出土遺物(9)

第98表 道路跡出土遺物観察表(1)(第181～189図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	-	[1.9]	-	-	5	良好	白	SO	5層 瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付(端反碗)	84-1
2	磁器	蓋	-	[0.7]	-	-	5	良好	白	SO	6.7層 瀬戸美濃系 内外面施軸・染付(端反碗の蓋)	84-1
3	磁器	蓋	(1.4)	1.9	(4.7)	-	25	普通	白	SO	6.7層 肥前系 内外面施軸 外面染付最大径(5.6)	84-1
4	陶器	瓶掛	-	[3.8]	-	EI	5	普通	灰白	SO	6.7層 瀬戸美濃系 外面施文・緑軸	84-1
5	陶器	土瓶	-	-	-	I	5	普通	にぶい黄橙	SO	6.7層 白土染付 縦[2.0]cm 横[2.8]cm	84-1
6	磁器	碗	(7.2)	[2.7]	-	-	20	普通	白	SO	8層 肥前系 内外面施軸・染付(小広取)	84-1
7	磁器	碗	9.8	5.0	(4.3)	-	60	普通	白	SO	8層 肥前系 内外面施軸 外面染付	83-1
8	磁器	碗	-	[1.7]	-	-	5	普通	白	SO	8,10層 瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付(端反碗)	84-1
9	磁器	碗	-	[2.5]	-	-	5	普通	白	SO	8,10層 肥前系 内外面施軸 外面鉄軸を横帯状に施す・条線文(筒形碗)	84-1
10	磁器	蓋	5.7	2.7	(10.1)	-	45	普通	白	SO	8,10層 肥前系 内外面施軸・染付(広東碗の蓋)	83-2
11	磁器	蓋	5.4	2.8	(10.0)	-	60	普通	白	SO	8,10層 肥前系 内外面施軸・染付(広東碗の蓋)	83-3
12	磁器	御神酒德利	-	[4.7]	-	-	5	普通	白	SO	8,10層 肥前系 外面施軸・染付	84-1
13	陶器	德利	-	[6.5]	-	I	5	普通	褐灰	SO	8,10層 瀬戸美濃系 外面灰軸	84-1
14	陶器	播鉢	-	[9.1]	-	DEG	10	良好	赤	SO	8,10層 堺明石系 内面播目	84-1
15	瓦質土器	火鉢	-	[3.0]	-	ACK	5	普通	にぶい黄橙	SO	8,10層 江戸在地系 胎土粉質 燻す	84-1
16	磁器	碗	-	[2.5]	-	-	5	普通	白	SO	11,12層 肥前系 内外面施軸・染付(小丸碗)	84-1
17	磁器	碗	-	[3.4]	-	-	5	普通	白	SO	11,12層 肥前系 内外面施軸(外面青磁軸) 内面染付(筒形碗)	84-1
18	磁器	御神酒德利	-	[3.1]	2.9	-	30	良好	白	SO	11,12層 肥前系 外面施軸・染付	83-4
19	陶器	碗	-	[2.0]	3.3	IK	35	普通	灰白	SO	11,12層 瀬戸美濃系 内外面灰軸(せじり碗)	84-1
20	陶器	鉢	-	[2.5]	(7.2)	IK	10	普通	灰白	SO	11,12層 瀬戸美濃系 内外面灰軸 高台部にトチン付着	84-1

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
21	陶器	播鉢	-	[5.4]	(17.0)	DEGI	15	普通	橙	S0	11,12層 堺明石系 内面播目・使用による摩耗	84-1
22	陶器	香炉 <sup>1</sup>	(9.6)	[5.2]	-	I	20	普通	灰白	S0	6,7層・11,12層接合 瀬戸美濃系 口縁部～外面灰軸	84-1
23	陶器	德利	-	[2.5]	(7.8)	BHI	5	普通	灰白	S0	11,12層 瀬戸美濃系 外面灰軸・底部ふきとり	84-1
24	磁器	碗	(8.8)	3.7	3.4	-	50	普通	灰白	S0	13,14層 肥前系 内外面施軸 外面染付	83-5
25	磁器	碗	-	[2.4]	-	-	5	普通	白	S0	13,14層 肥前系 内外面施軸 外面染付(筒形碗)	84-2
26	磁器	碗	-	[2.6]	(4.0)	-	10	普通	白	S0	13,14層 肥前系 内外面施軸 外面染付(コニヤク印判)	84-2
27	磁器	皿	(13.6)	3.3	(7.6)	-	15	普通	白	S0	13,14層 肥前系 内外面施軸・染付	84-2
28	陶器	碗	-	[2.8]	(5.0)	DEIK	10	普通	灰白	S0	13,14層 瀬戸美濃系 内外面施軸	84-2
29	陶器	皿	6.8	1.3	4.6	EI	95	普通	灰白	S0	13,14層 瀬戸美濃系 内外面灰軸 口縁部歪みあり	84-2
30	陶器	灯明皿	(10.4)	[1.3]	-	IK	10	普通	黄灰	S0	13,14層 瀬戸美濃系 内外面柿軸	84-2
31	陶器	鉢	-	[3.3]	-	I	5	良好	灰白	S0	13,14層 瀬戸美濃系 内外面灰軸 内面柳書波状文	84-2
32	陶器	播鉢	-	[5.5]	-	DE	5	普通	明赤褐	S0	13,14層 堺明石系 内面播目	84-2
33	陶器	片口鉢	(16.9)	[8.4]	-	IK	60	普通	灰白	S0	13,14層 内外面灰軸	83-6
34	陶器	播鉢	(34.0)	[10.6]	-	DEI	10	普通	赤褐	S0	13,14層・19層接合 堺明石系 内面播目	84-2
35	瓦質土器	焙烙	-	[4.6]	-	CHI	5	普通	灰白	S0	13,14層	84-2
36	陶器	碗	-	[2.0]	-	I	5	良好	灰白	S0	14,19層 瀬戸美濃系 内外面灰軸 被熱(せんじ碗)	84-2
37	陶器	皿	-	[1.8]	-	I	5	普通	灰白	S0	14,19層・10層接合 瀬戸美濃系 内外面灰軸(塔絵皿)	84-2
38	陶器	碗	-	[1.7]	(3.2)	I	20	普通	灰白	S0	14,19層 瀬戸美濃系 内外面灰軸(せんじ碗)	84-2
39	磁器	碗	-	[3.6]	(4.6)	-	10	普通	白	S0	19層 肥前系 内外面施軸・染付	84-3
40	磁器	碗	-	[2.4]	3.8	-	15	普通	白	S0	19層 肥前系 内外面施軸 外面染付	84-3
41	磁器	碗	-	[1.9]	(4.2)	-	10	普通	白	S0	19層 肥前系 内外面施軸 外面染付	84-3
42	磁器	碗	-	[2.7]	-	-	5	普通	白	S0	19層 肥前系 内外面施軸 外面染付(少量煤付着)	84-3
43	磁器	碗	-	[2.7]	-	-	5	普通	白	S0	19層 肥前系 内外面施軸 外面染付(コニヤク印判)	84-3
44	磁器	碗	-	[2.0]	-	-	5	普通	白	S0	19層 肥前系 内外面施軸 外面色絵(筒形碗)	84-3
45	磁器	皿	-	[2.0]	-	-	5	普通	白	S0	19層 肥前系 内外面施軸(体部青磁軸)内面染付	84-3
46	陶器	碗	-	[1.1]	4.4	IK	10	普通	灰白	S0	19層 瀬戸美濃系 内面灰軸 外面鉄軸(櫻精碗)	84-3
47	陶器	碗	-	[1.7]	(5.0)	EK	5	普通	灰白	S0	19層 瀬戸美濃系 内面灰軸 外面鉄軸(櫻精碗)	84-3
48	陶器	碗	(9.1)	[4.5]	-	K	15	普通	灰白	S0	19層 瀬戸美濃系 内外面施軸 外面呉須絵(太白手丸碗)	84-3
49	陶器	皿	-	[1.5]	(4.0)	IK	10	普通	にぶい黄橙	S0	19層 肥前系 内面銅緑軸・蛇の目状軸 外面透明釉 煤付着	84-3
50	陶器	皿	-	[1.2]	(5.4)	I	5	良好	灰白	S0	19層 瀬戸美濃系 内外面灰軸 内面呉須絵	84-3
51	陶器	灯明皿	(10.1)	[2.3]	-	IK	10	普通	黄灰	S0	19層 瀬戸美濃系 内外面柿軸・直直ね焼き痕	84-3
52	陶器	片口鉢	-	[4.5]	-	D	10	普通	灰白	S0	14,19層 瀬戸美濃系 内外面灰軸	84-3
53	陶器	德利	-	[1.8]	(7.2)	D	5	普通	灰白	S0	19層 瀬戸美濃系 外面灰軸・底部拭き取り 内面黒化(煤小)	84-3
54	陶器	播鉢	(30.6)	[9.0]	-	DEI	15	良好	赤	S0	19層 堺明石系 内面播目	84-3
55	陶器	播鉢	(31.6)	9.7	(15.0)	DEI	15	良好	赤	S0	19層 堺明石系 内面播目	84-3
56	陶器	播鉢	-	[6.1]	-	DG	5	普通	赤褐	S0	19層 堺明石系 底部ナゾ 内面播目	84-3
57	陶器	播鉢	-	[5.0]	-	EI	5	普通	灰白	S0	13,14層・19層接合 瀬戸美濃系 内外面柿軸	84-3
58	陶器	播鉢	-	[2.4]	-	DEH	5	普通	にぶい黄橙	S0	19層 瀬戸美濃系 内外面柿軸 内面播目	84-3
59	陶器	碗	-	[4.6]	-	E	10	普通	灰白	S0	19層 京都信楽系 内外面透明軸	84-3

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
60	磁器	碗	-	[3.0]	-	-	5	普通	白	S0	24層 肥前系 内外面施軸・染付	84-4
61	磁器	坏	-	[2.0]	-	-	5	良好	白	S0	24層 肥前系 内外面施軸	84-4
62	陶器	碗	(9.0)	[4.9]	-	I	10	普通	灰白	S0	24層 瀬戸美濃系 内外面灰軸 外面鉄軸 軸掛分け(摺輪)	84-4
63	陶器	碗	-	[2.1]	-	EK	5	普通	灰白	S0	24層 瀬戸美濃系 内外面灰軸 (せんじ碗)	84-4
64	陶器	坏	(7.1)	[3.4]	-	DK	15	普通	灰白	S0	24層 瀬戸美濃系 内外面灰軸 口縁部 の一部にえぐりあり	84-4
65	陶器	皿	-	[2.5]	-	HK	5	普通	灰白	S0	24層・25層接合 瀬戸美濃系 内外面灰 軸(摺輪)	84-4
66	陶器	灯明皿	(8.4)	1.4	(4.8)	DI	10	普通	淡黄	S0	24層 瀬戸美濃系 内外面灰軸	84-4
67	磁器	碗	(9.8)	[3.0]	-	-	5	良好	白	S0	25層 肥前系 内外面施軸 外面染付	84-4
68	陶器	碗	-	[3.1]	-	EIK	20	普通	灰白	S0	25層 肥前系 内外面灰軸 (兵器手碗)	84-4
69	陶器	碗	-	[1.7]	3.9	DI	20	普通	灰白	S0	25層 瀬戸美濃系 内外面灰軸	84-4
70	陶器	碗	-	[2.2]	-	I	5	普通	灰白	S0	25層 瀬戸美濃系 内面灰軸 外面鉄軸 (摺輪)	84-4
71	陶器	皿	(13.0)	[2.0]	-	I	15	普通	灰白	S0	25層 瀬戸美濃系 内外面灰軸(摺輪 皿) 65と同一の可能性あり	84-4
72	陶器	鉢	-	[5.2]	-	-	5	良好	灰黄	S0	25層 肥前系 内外面灰軸 内面鉄軸	84-4
73	磁器	碗	(9.5)	[4.3]	-	-	15	普通	白	S0	26層 肥前系 内外面施軸 外面染付	84-5
74	磁器	碗	-	[3.6]	-	-	10	良好	白	S0	26層 肥前系 内外面施軸 外面染付	84-5
75	磁器	碗	-	[1.7]	(3.9)	-	10	良好	白	S0	26層 肥前系 内外面施軸 外面染付	84-5
76	磁器	碗	-	[1.9]	-	-	10	良好	白	S0	26層 肥前系 内外面施軸 外面染付	84-5
77	磁器	碗	-	[1.4]	(4.4)	-	5	良好	白	S0	27層 肥前系 内外面施軸	84-5
78	磁器	碗	-	[2.7]	-	-	10	良好	白	S0	26層 肥前系 内外面施軸 外面色絵	84-5
79	磁器	碗	(7.4)	[4.6]	-	-	30	普通	白	S0	8,10層・11,12層・26層で接合 肥前系内 外面施軸・染付(筒形碗)	84-5
80	磁器	皿	-	[1.8]	(3.6)	-	5	不良	白	S0	26層 中国景德鎮窯系 内外面施軸・染付 15c後~16c前	83-7
81	磁器	皿	(12.2)	3.2	4.2	-	45	普通	白	S0	19層・26層接合 肥前系 内外面施軸 内面染付・蛇の日状軸刺ぎ	84-5
82	磁器	皿	-	[1.2]	(8.4)	-	10	良好	白	S0	26層 肥前系 内外面施軸・染付	84-5
83	磁器	仏飯器	-	[4.1]	3.8	-	80	良好	白	S0	26層 肥前系 内外面施軸 外面染付	84-5
84	磁器	灰落し	(5.6)	[7.7]	-	-	10	普通	白	S0	26層 肥前系 口縁部~外面青磁軸	84-5
85	磁器	油壺	-	[2.7]	-	-	5	普通	白	S0	26層 肥前系 外面施軸・色絵(赤) 少量 煤付着	84-5
86	陶器	碗	-	[2.3]	(5.5)	I	5	普通	灰白	S0	26層 肥前系 内外面灰軸 (兵器手碗)	84-5
87	陶器	碗	-	[1.5]	(4.5)	I	5	良好	灰白	S0	26層 肥前系 内外面施軸 内面鉄軸 高台内印(京焼風陶器平碗)	84-5
88	陶器	天目茶碗	-	[4.7]	-	IK	5	普通	灰白	S0	26層 瀬戸美濃系 内外面鉄軸 大室第4 段階末	84-5
89	陶器	碗	-	[1.8]	4.1	IK	10	普通	灰白	S0	26層 内外面鉄軸 (尾呂茶碗)	84-5
90	陶器	皿	-	[1.4]	(6.0)	DI	10	普通	黄灰	S0	26層 瀬戸美濃系 内外面灰軸・鉄軸	84-5
91	陶器	内差皿	-	[1.2]	(5.3)	I	5	普通	灰白	S0	26層 瀬戸美濃系 内外面灰軸 内面底 部拭き取り 大室第4段階 16c後~17c 初	84-5
92	陶器	皿	-	[1.1]	(6.8)	I	5	良好	灰白	S0	19層・26層接合 瀬戸美濃系 内外面灰 軸	84-5
93	陶器	皿	-	[2.1]	(6.5)	IK	5	良好	灰白	S0	26層 瀬戸美濃系 内外面灰軸	84-5
94	陶器	皿	-	[1.4]	(6.8)	DHI	5	普通	灰白	S0	26層 瀬戸美濃系 内外面灰軸	84-5
95	陶器	皿	-	[1.5]	(10.0)	IK	5	普通	灰白	S0	26層 瀬戸美濃系 内外面灰軸 内面摺 輪(摺輪皿)	84-5
96	陶器	皿	-	[1.3]	(7.6)	EI	5	良好	灰白	S0	26層 瀬戸美濃系 内外面灰軸・日跡 煤付着	84-5
97	陶器	皿	-	[1.8]	5.3	HI	20	良好	灰白	S0	26層 肥前系 内面銅線軸・蛇の日状軸 軸刺ぎ 外面透明軸	84-5
98	陶器	灯明皿	-	[1.6]	(5.0)	EI	10	普通	にぶい橙	S0	26層 志戸呂系 内外面鉄軸	84-5
99	陶器	片口鉢	-	[5.6]	(10.1)	EH	10	良好	にぶい橙	S0	26層 肥前系 内外面刷毛目軸	84-5
100	陶器	鉢	-	[4.3]	-	DI	5	良好	赤褐	S0	26層 肥前系 内外面施軸 内面三島手 文	84-5

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	採取
101	陶器	鉢	-	[5.0]	(17.6)	EI	10	普通	灰白	S0	26層 肥前系 内外面灰軸 内面鉄絵 (笠原鉢)	84-5
102	陶器	香炉	-	[1.5]	(6.7)	EI	10	普通	灰白	S0	26層 瀬戸美濃系	84-6
103	陶器	香炉	-	[1.9]	(4.5)	EK	5	普通	灰白	S0	26層 瀬戸美濃系 外面鉄軸 墨書	84-6
104	陶器	甕	-	[3.2]	-	EK	5	普通	褐灰	S0	26層 常滑 内面ヨコナデ 外面降灰 12c 後～13c	84-6
105	陶器	片口鉢	-	[3.6]	-	DE	5	良好	灰	S0	26層 常滑 内面ヨコナデ 外面縦位ヘラナゲ 中世 14c 前	84-6
106	陶器	水注	-	[4.5]	-	DE	5	普通	灰白	S0	26層 瀬戸美濃系 内外面鉄軸	84-6
107	陶器	徳利か	-	[2.2]	(14.8)	D	5	普通	灰白	S0	26層 瀬戸美濃系 内外面鉄軸・外面下位抜き取り	83-8
108	陶器	瓶類	-	[5.0]	-	I	5	良好	灰白	S0	25層・26層接合 肥前系 外面鉄軸	84-6
109	陶器	徳利	-	[4.7]	-	DEI	5	普通	灰白	S0	25層・26層接合 瀬戸美濃系 外面鉄軸 上位うのふ軸 (尾呂徳利) 110と同一個体か	84-6
110	陶器	徳利	-	[7.1]	-	EIK	5	普通	灰白	S0	19層・24層・25層・26層 (19層と25層接合・25層と26層接合) 瀬戸美濃系 外面鉄軸 (尾呂徳利)	84-6
111	陶器	徳利	-	[4.6]	-	EI	5	普通	灰白	S0	26層 瀬戸美濃系 外面鉄軸・うのふ軸 (尾呂徳利) 110と同一個体か	84-6
112	陶器	徳利	-	[6.0]	-	EHK	5	普通	灰白	S0	26層 瀬戸美濃系 外面鉄軸・うのふ軸 (尾呂徳利) 110と同一個体か	84-6
113	陶器	香炉	-	[4.2]	-	EHK	5	普通	灰白	S0	26層 瀬戸美濃系 内外面鉄軸 外面の一部煤付着	84-6
114	陶器	片口鉢	-	[5.7]	-	IK	5	普通	灰白	S0	26層 瀬戸美濃系 内外面鉄軸	84-6
115	陶器	播鉢	-	[3.9]	-	EI	5	普通	灰白	S0	26層 瀬戸美濃系 内外面鉄軸	84-6
116	陶器	播鉢	-	-	-	EHK	5	普通	灰白	S0	26層 縦4.6cm 横4.5cm 最大厚1.7cm 瀬戸美濃系 内外面鉄軸 内面播目 被熱・煤付着 二次敲打 (円盤状製品転用)	84-6
117	陶器	播鉢	-	[3.0]	-	DEK	5	普通	にぶい黄橙	S0	26層 丹波系 内面播目	84-6
118	陶器	播鉢	-	[11.3]	-	D	5	普通	灰白	S0	26層 瀬戸美濃系 内外面鉄軸 内面播目	84-6
119	陶器	播鉢	-	[12.6]	-	DEG	10	普通	にぶい橙	S0	26層 丹波系 内面播目	84-6
120	陶器	播鉢	-	[7.2]	(13.0)	EHK	15	普通	灰白	S0	26層 瀬戸美濃系 底部糸切痕 内外面鉄軸・目跡 内面播目	84-6
121	土製品	埴埴	-	[2.6]	-	I	5	普通	灰	S0	26層 外面浮化	
122	磁器	碗	-	[1.7]	-	-	5	普通	白	S0	27層 中国景德鎮系か 内外面施軸 外面染付	84-7
123	磁器	碗	-	[1.9]	-	-	5	普通	白	S0	27層 肥前系 内外面施軸 外面染付	84-7
124	磁器	碗	-	[2.5]	-	-	5	普通	白	S0	26層・27層接合 肥前系 内外面施軸 外面染付	84-7
125	磁器	皿	-	[1.7]	(4.9)	-	10	普通	白	S0	27層 肥前系 内外面施軸 内面染付 (初期伊万里様式)	84-7
126	磁器	皿	-	[1.8]	(5.0)	-	10	良好	白	S0	27層 肥前系 内外面施軸 内面蛇の目状輪刺	84-7
127	磁器	仏飯器	-	[3.2]	(4.2)	-	30	普通	白	S0	27層 肥前系 外面施軸・染付	84-7
128	陶器	皿	-	[1.5]	(7.6)	EHK	10	普通	灰白	S0	27層 瀬戸美濃系 内外面長石軸 内面鉄絵 (鉄絵志野皿)	84-7
129	陶器	皿	-	[3.2]	-	IK	5	普通	白	S0	26層・27層接合 肥前系 内面銅鉢軸 外面透明軸 被熱	84-7
130	陶器	鉢	-	[2.8]	(9.1)	DEH	5	普通	にぶい橙	S0	27層 肥前系 内外面灰軸 外面鉄化粧被熱・煤多く付着 (三島手鉢)	84-7
131	陶器	鉢	-	[3.7]	-	EI	5	良好	赤	S0	26層・27層接合 肥前系 内面刷毛目軸	84-7
132	陶器	播鉢	-	[2.8]	-	DEK	5	良好	灰	S0	27層 丹波系 内面播目	84-7
133	陶器	播鉢	-	[3.3]	-	DEK	5	良好	灰白	S0	27層 丹波系 内面播目	84-7
134	陶器	播鉢	-	[4.1]	-	DEK	5	普通	明褐灰	S0	27層 丹波系 内面播目	84-7
135	陶器	播鉢	-	[4.0]	-	EKG	5	良好	灰白	S0	27層 瀬戸美濃系 内外面柿軸	84-7
136	陶器	播鉢	-	[4.1]	-	EHI	5	普通	灰白	S0	27層 瀬戸美濃系 内外面柿軸	84-7
137	陶器	香炉	(11.0)	[5.5]	-	I	10	良好	灰白	S0	27層 瀬戸美濃系 内外面鉄軸 外面下位煤付着 (使用による)	84-7
138	陶器	徳利	-	[4.3]	(13.4)	HI	10	普通	灰白	S0	27層 瀬戸美濃系 外面柿軸・底部ふきとり・窯道具痕	84-7

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版	
139	陶器	瓶類	-	[3.2]	-	I	5	良好	灰白	SO	26層・27層接合 肥前系か	外面灰軸	84-7
140	瓦質土器	火鉢	-	[1.0]	-	OH	5	普通	にぶい橙	SO	27層 砂目底	やや酸化焼成	84-7

期)の整地面と思われる。

整地面⑦は、18世紀第I四半期(栗橋2期後半)の整地面と思われる。

なお、現地調査の段階では整地面⑦以下の層(26層)を寛保の洪水(1748)のものとして推定したが、陶磁器の年代観からみれば、整地面⑥上層の24層が寛保の洪水層に比定されよう。26層以下はそれ以前の18世紀前葉の洪水に関わる層と推定される。

第190～192図には、道路路掘削中に一括で取り上げられた遺物を示した。

1は肥前系磁器の粗製丸碗である。外面に染付が施される。2は肥前系磁器の小丸碗で、外面に紅葉、内面底部に五弁花文を染付している。3は瀬戸美濃系磁器の端反碗である。口縁部の反りは大きくやや薄手である。内外面ともに染付が施される。4は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗である。外面に鶴文を染付する。5は肥前系磁器の紅皿で、外面に貝殻状の筋を有すものである。6は肥前系磁器の小型の皿で、内面に草花文を染付する。

7～9は肥前系磁器の皿で、7は口縁部が端反になる輪花状のものである。見込み一枚絵で松の葉の文様などを染付するものらしい。8・9は同文の皿で、腰が張り高台は断面三角形で小さい。外面には一重の唐草文、内面には底部に文字を染付ける。最初の一文字は崩されるが、素直に読めば「行田屋」であろう。屋号文を染付する皿は、栗橋宿跡では「とら屋」「板屋」「吉田屋」が認められているが、「行田屋」は初見である。栗橋宿以外の屋号かもしれない。

10は肥前系磁器の鉢で、大振りの碗形を呈する。粗製の波佐見系のものである。外面に崩れた梅樹文、内面は蕪文を染付する。高台内は「満福」文である。11は肥前系磁器の筒形を呈する

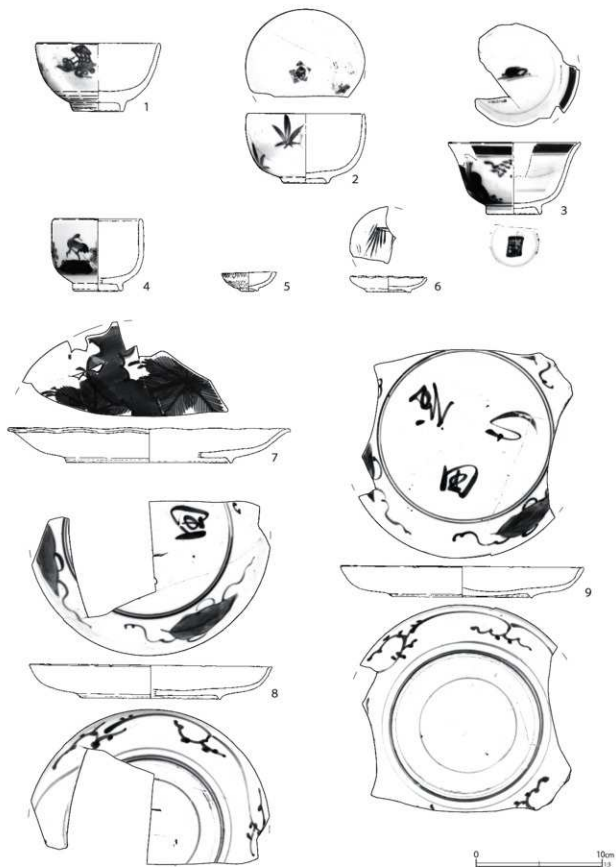
香炉ないし火入れの類である。内外面ともに雲文が染付られる。12は肥前系磁器の段重である。13は色絵が施された油壺の破片である。14は肥前系磁器の皿の口縁部破片である。15は肥前系磁器の蓋物の蓋である。外面を染付で上下に区画してその中に、斜格子・亀甲文を充填するように染付ける。16も肥前系磁器の蓋で、外面に色絵が施されている。

17は肥前系陶器の京焼風碗で、高台内に「森」かと思われる刻印の一部が残る。18・19は瀬戸美濃系磁器のせんじ碗である。20は京都信楽系陶器のせんじ碗で、鉄絵が施されている。21は大塚相馬系陶器と考えられる灰釉端反碗である。22は瀬戸美濃系陶器の坏で、灰釉が施されている。23は京都信楽系陶器の坏で、「浅紅」銘を有すものと思われる。浅草紅粉屋謙蔵に関わる紅猪口とみられる資料(岩浪2021・村山2021・2022)である。

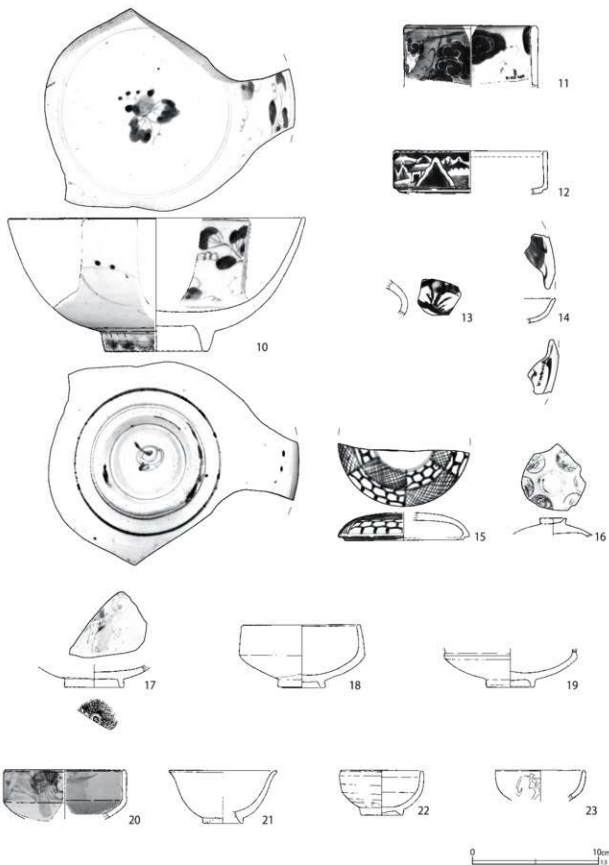
24は陶器の乗燭である。底部は右回転の糸切痕、中心に貫通しない孔を有す。25は柿軸を施す鉢で、胎土は灰色・拓器質である。瀬戸美濃系陶器と考えられる。26は陶器の転用品(円盤状製品)である。27は瀬戸美濃系陶器の片口鉢、28・29は瀬戸美濃系陶器の徳利である。30は陶器の合子蓋である。31は陶器の蓋で、水注の蓋と思われる。32は土師質土器で、焼塩壺の蓋である。33は瓦質土器の火鉢で、平面形が正方形になるものである。

第193図は瓦類で、軒棧瓦を中心に図示したが、6は円盤状の転用品である。

第194図は金属製品、第195図は石製品である。第196図は木製品で、7が道路下層で検出された白である。層位的な所見から、18世紀前葉以前のものと思われる。

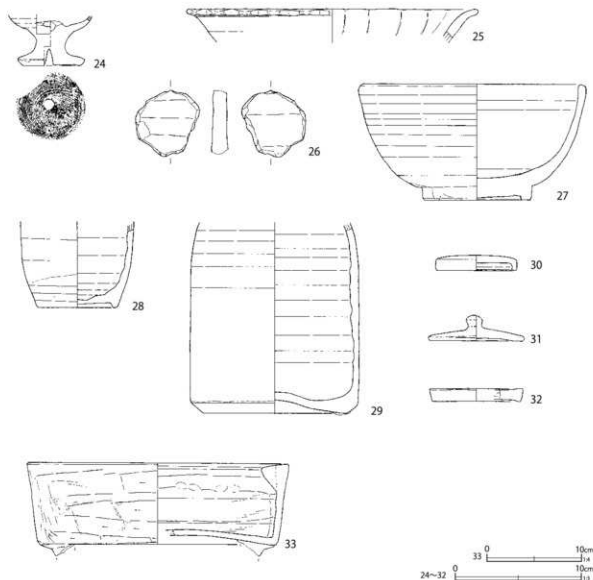


第190图 道路跡出土遺物(10)



第191图 道路跡出土遺物(11)



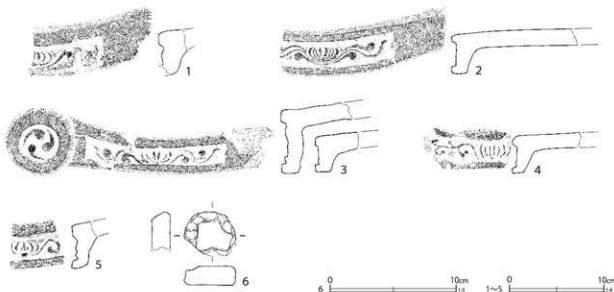


第192図 道路跡出土遺物(12)

第99表 道路跡出土遺物観察表(2)(第190~192図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	9.6	5.4	3.7	-	70	普通	白	S0	肥前系 内外面施軸 外面染付	
2	磁器	碗	(9.1)	5.5	3.5	-	50	普通	白	S0	肥前系 内外面施軸・染付(小丸碗)	
3	磁器	碗	(10.3)	5.7	4.1	-	45	良好	白	S0	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付(湯反碗)	
4	磁器	碗	(6.8)	5.7	(3.7)	-	45	普通	白	S0	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付(湯呑形碗)	
5	磁器	紅皿	4.4	1.5	1.2	-	100	普通	白	S0	肥前系 型成形 内外面施軸 外面型押施文	
6	磁器	皿	(5.8)	1.2	(3.4)	-	20	普通	白	S0	肥前系 内外面施軸 内面染付 小型	
7	磁器	皿	(22.0)	2.7	(13.0)	-	20	普通	白	S0	肥前系 内外面施軸 内面染付 焼き継ぎ皿	
8	磁器	皿	(19.0)	2.6	(11.0)	-	35	普通	白	S0	肥前系 内外面施軸・染付「[行]田屋」	82-1
9	磁器	皿	(19.0)	2.4	11.0	-	60	普通	白	S0	肥前系 内外面施軸・染付「行田屋」	82-1
10	磁器	鉢	(23.2)	10.5	7.9	-	40	普通	白	S0	肥前系 内外面施軸・染付	
11	磁器	香炉	(10.0)	[4.9]	-	-	10	良好	白	S0	肥前系 内外面施軸・染付	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
12	磁器	段重	(12.0)	[3.4]	-	-	20	良好	白	SO	肥前系 内外面施釉 外面染付	
13	磁器	油壺	-	[2.8]	-	-	5	良好	白	SO	肥前系 外面施釉・染付・色絵 被熱	82-2
14	磁器	皿	-	[2.0]	-	-	5	普通	白	SO	肥前系 内外面施釉・染付	
15	磁器	蓋	-	[2.2]	(9.2)	-	45	普通	白	SO	肥前系 内外面施釉 外面染付 漆継痕	
16	磁器	蓋	2.0	[1.4]	-	-	50	良好	白	SO	肥前系 内外面施釉 外面色絵(赤・緑)	82-3
17	陶器	碗	-	[1.9]	(4.6)	H	10	普通	灰白	SO	肥前系 内外面灰釉 高台内刻印「森」	
18	陶器	碗	9.2	5.0	3.0	I	85	普通	灰白	SO	瀬戸美濃系 内外面灰釉 (せんじ碗)	
19	陶器	碗	-	[3.1]	3.6	-	40	良好	灰白	SO	瀬戸美濃系 内外面灰釉 (せんじ碗)	
20	陶器	碗	(9.4)	[3.9]	-	I	10	普通	灰白	SO	京都信楽系 内外面透明釉 外面鉄絵・土 絵付(緑)(せんじ碗)	82-4
21	陶器	碗	(8.3)	4.2	(3.2)	III	25	良好	灰白	SO	大塚相馬系 内外面難白釉(貫入多い)	
22	陶器	坏	6.4	3.6	3.1	I	95	普通	灰白	SO	瀬戸美濃系 内外面灰釉 高台部煤付着	
23	陶器	坏	(7.0)	[2.4]	-	-	15	良好	灰白	SO	京都信楽系 内外面透明釉 外面土絵付 (文字)「茂」	82-5
24	陶器	乗櫛	-	[4.0]	4.4	IK	70	普通	灰白	SO	瀬戸美濃系 底部糸切痕(右) 内外面鉄 繪	
25	陶器	鉢	(22.8)	[2.6]	-	I	5	良好	明紫灰	SO	瀬戸美濃系 内外面施釉(一部灰釉状に紫 色) 内面施文 胎土拓器質	82-6
26	陶器	鉢	-	-	-	EG1	5	普通	灰白	SO	瀬戸美濃系 内外面灰釉 二次利用 (円盤状製品) 縦5.2cm 横5.1cm	
27	陶器	片口鉢	(17.2)	(9.2)	8.4	I	60	普通	灰白	SO	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面目跡3	
28	陶器	德利	-	[6.8]	5.7	I	30	普通	灰白	SO	瀬戸美濃系 内外面灰釉・下位抜き取り	
29	陶器	德利	-	[15.1]	11.4	DI	15	普通	灰白	SO	瀬戸美濃系 外面施釉・底部抜き取り・目 跡3 上下接点ない2破片から図上復元	
30	陶器	蓋	6.5	1.2	6.4	EK	100	良好	灰白	SO	瀬戸美濃系 上面灰釉 被熱・黒化	
31	陶器	蓋	-	2.0	(7.4)	I	80	普通	灰白	SO	瀬戸美濃系 上面灰釉 被熱・下面煤付着	82-7
32	土師質土器	蓋	(7.3)	[1.0]	(7.0)	AHJ	20	普通	にぶい橙	SO	上面掌状圧痕 弱く被熱・赤変	
33	瓦質土器	火鉢	(27.4)	[9.8]	(25.0)	CHI	30	普通	灰白	SO		

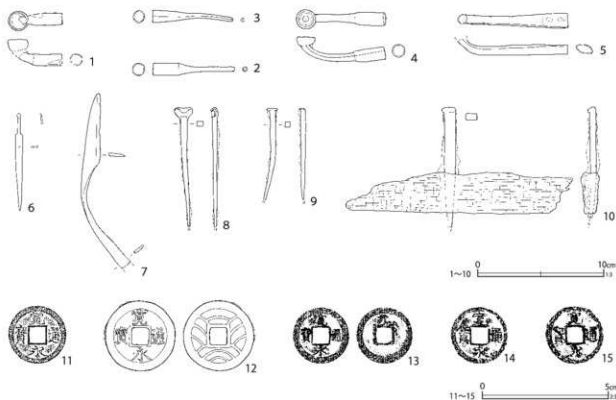


第193図 道路跡出土遺物(13)

第100表 道路跡出土遺物観察表(3)(第193図)

番号	種別	器種	長さ	幅	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒椀瓦	[3.5]	[13.6]	-	CEK	普通	灰白	SO	8・5層	
2	瓦	軒椀瓦	[13.3]	[18.0]	-	ACE1	良好	灰白	SO		249-5

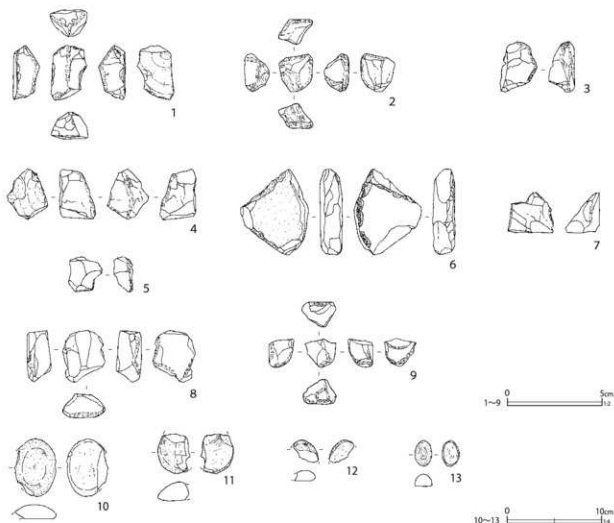
番号	種別	器種	長さ	幅	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
3	瓦	軒棧瓦	[7.5]	28.1	6.3	AEIK	良好	灰白	S0	右巻き	
4	瓦	軒棧瓦	[7.8]	[10.1]	-	EIJ	不良	灰白	S0	胎土やや粉失	
5	瓦	軒棧瓦	[2.7]	[5.9]	-	EIJ	普通	灰白	S0		
6	瓦	転用品	-	-	-	AETK	良好	灰白	S0	19層 円盤状に加工 直径5.4cm	



第194図 道路跡出土遺物 (14)

第101表 道路跡出土遺物観察表 (4) (第194図)

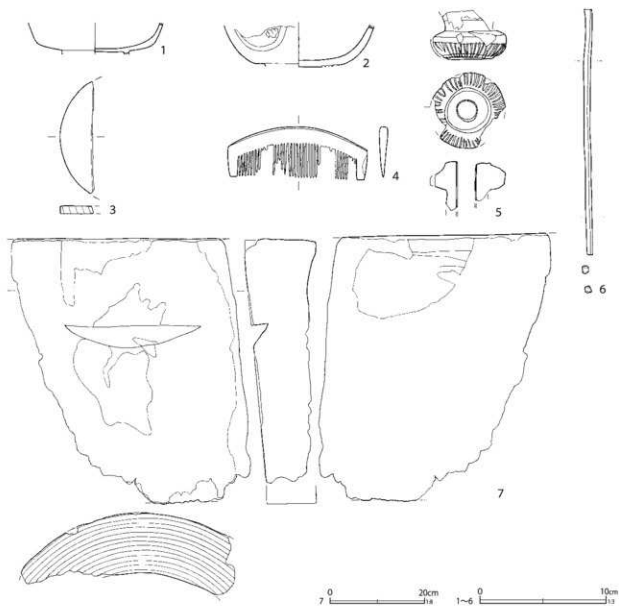
番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	燵管	長さ(4.3) 火皿径1.6×1.5 小口径1.0 重さ4.0	S0	25層 燵首 一部欠損	
2	銅製品	燵管	長さ6.5 小口径1.0 口付径0.4 重さ4.3	S0	25層 吸口	273-1
3	銅製品	燵管	長さ6.4 小口径0.9 口付径0.3 重さ4.6	S0	14・19層 吸口	273-1
4	銅製品	燵管	長さ7.1 火皿径1.5 小口径1.0 重さ9.1	S0	27層 燵首	273-1
5	銅製品	燵管	長さ[8.8] 小口径1.3×0.7 重さ10.7	S0	26層 燵首 火皿欠失し潰れる	
6	銅製品	鑿	長さ7.7 幅0.5 厚さ0.1 重さ2.7	S0	19層 耳かき部分(別造)	274-1
7	鉄製品	短剣	長さ[13.9] 刀幅1.3 背幅0.3 重さ13.8	S0	片刃のみ 大きく菱形	
8	鉄製品	釘	長さ[9.5] 幅0.5 厚さ0.4 重さ6.7	S0		
9	鉄製品	釘	長さ[7.3] 幅0.4 厚さ0.4 重さ4.1	S0		
10	鉄製品	釘	長さ[9.6] 幅0.9 厚さ0.5 重さ29.0	S0	木に打ち込まれる	
11	銅製品	銭貨	径23.2 厚さ1.1 重さ3.1	S0	26層 寛永通寶(古)	
12	銅製品	銭貨	径28.4 厚さ1.2 重さ4.9	S0	寛永通寶(新) 11段	
13	銅製品	銭貨	径22.6 厚さ1.0 重さ1.8	S0	19層 寛永通寶(新) 背元	
14	銅製品	銭貨	径22.8 厚さ1.0 重さ2.1	S0	6層 寛永通寶(新)	
15	銅製品	銭貨	径23.1 厚さ1.1 重さ2.7	S0	14・19層 寛永通寶(新)	



第195図 道路跡出土遺物 (15)

第102表 道路跡出土遺物観察表 (5) (第195図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	火打石	2.9	1.9	1.4	7.7	玉髓	S0	6.7層 稜の潰れ著しい 打削痕遺存	284-3
2	石製品	火打石	2.0	1.8	1.3	5.1	石英	S0	11.12層 稜の潰れ著しい	284-3
3	石製品	火打石	2.6	1.9	1.4	6.5	玉髓	S0	24層 稜の潰れ著しい	284-3
4	石製品	火打石	2.7	2.2	1.9	9.3	チャート	S0	26層 稜の潰れあり 打削痕1あり	284-3
5	石製品	火打石	1.9	1.8	1.0	2.9	チャート	S0	26層 使用痕あり	284-3
6	石製品	火打石	4.5	3.6	1.2	24.6	チャート	S0	27層 稜の潰れあり	284-3
7	石製品	火打石	2.1	2.4	1.8	8.6	チャート	S0	27層 使用痕あり	284-3
8	石製品	火打石	2.7	2.3	1.3	9.4	石英	S0	27層 稜の潰れあり	284-3
9	石製品	火打石	1.5	1.6	1.3	3.3	玉髓	S0	27層 稜の潰れ著しい	284-3
10	石製品	磨石	6.1	[4.4]	1.5	17.4	角閃石安山岩	S0	多孔質 自然面遺存 使用面1	284-1
11	石製品	磨石	[4.2]	[3.4]	2.0	15.5	角閃石安山岩	S0	19層 多孔質 自然面遺存 使用面2 線状痕あり	284-1
12	石製品	磨石	[2.4]	[2.6]	[1.1]	2.6	角閃石安山岩	S0	24層 多孔質 自然面遺存 使用面1	284-1
13	石製品	磨石	2.7	1.8	1.3	3.3	角閃石安山岩	S0	27層 多孔質 自然面遺存 使用面1	284-1



第196図 道路跡出土遺物(16)

第103表 道路跡出土遺物観察表(6)(第196図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	漆桶	-	-	-	-	[2.5]	-	横木取り	S0	26層 内外面赤漆	
2	木製品	漆桶	-	-	-	-	[3.2]	-	横木取り	S0	25層 外面黒漆に朱で紋3箇所 内面赤漆	
3	木製品	曲物	8.9	[2.6]	0.6	-	-	-	榫目	S0	26層	
4	木製品	櫛	11.0	4.0	0.6	-	-	-	榫目	S0	8・10層	
5	木製品	傘	-	-	-	6.0	[3.9]	-	削出	S0	26層 ろくろ	
6	木製品	箸	19.3	0.5	0.6	-	-	-	削出	S0	8・10層	
7	木製品	白	56.4	[46.3]	15.0	-	-	-	芯持材	S0	24～28層 炭化	

## 6 土壌

第一面では、土壌311基が検出された。位置、規模等の基本的な情報は第104表に示す。

以下、検出された区画ごとに土壌の様子をみていきたい。区画名称は、現地調査時に設定した南からの仮の区画名「第1～9区画」を冠するが、栗橋宿跡全体での区画の通し番号「区画S～

AA)も( )内に付した。各区画の土壌のうち、特徴的な土壌について、最初に個別に記載する。その他の土壌については区画ごとに遺構図・遺物図をまとめて提示した。なお、本書では第1～7区画の土壌を報告し、第8・9区画の土壌については、次年度以降に報告予定である。

第104表 第一面土壌一覧表 単位：m

番号	区画	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	種別
1	2	F7-A6/7	長方形	3.30	1.20	0.50	N-72°-E	SK40/56/57 重複	227
2	2	F7-A6	不整形	1.10	0.75	0.15	N-50°-E	SK3より新	227
3	2	F7-A6	隅丸長方形	1.60	0.80	0.15	N-78°-E	SK2より古 SK19/56 重複	227
4	2	F7-A6	隅丸長方形	1.75	1.00	0.35	N-73°-E	SK37・F7-A6 P2 重複	213
5	2	F7-A6	隅丸長方形	1.30	0.85	0.25	N-68°-E		227
6	2	F7-A6	隅丸長方形	0.90	(0.30)	0.10	N-78°-E	SK23より古	227
7	2	F7-A6	不整形	(1.00)	0.45	0.05	N-60°-E	SK23 重複	227
8	2	F7-A6	隅丸長方形	1.00	0.60	0.15	N-70°-E		227
9	2	F7-A6	不整形	0.75	0.20	0.05	N-77°-E	SD15a 重複	227
10	2	F7-A5	隅丸長方形	1.25	0.55	0.15	N-70°-E		227
11	2	F7-A5	隅丸長方形	0.90	0.60	0.10	N-70°-E	SD15a 重複	228
12	2	F7-A5	隅丸長方形	1.80	1.35	0.30	N-80°-E	桶有り	228
14	2	F7-A5	不整形	1.00	0.55	0.20	N-15°-W		228
16	2	F7-A6	円形	0.45	0.40	0.10	N-12°-W	F7-A6 P3 重複	228
17	2	F7-A6	不整形	1.60	1.15	0.15	N-13°-W	SD1・SK18より古	228
18	2	F7-A6	隅丸長方形	1.25	0.85	0.15	N-13°-W	SD1より古 SK17より新	228
19	2	F7-A6	隅丸方形	0.50	0.50	0.30	N-62°-E	SK3 重複	228
20	2	F7-A5	隅丸方形	0.57	0.52	0.20	N-70°-E		228
21	2	F7-A6	隅丸長方形	5.35	1.60	0.50	N-72°-E	桶4・SK45より古 SK44/49/192より新	229
22	2	F7-A5	隅丸長方形	1.00	0.60	0.20	N-70°-E		228
23	2	F7-A6	楕円形	0.90	0.40	0.15	N-78°-E	SK6より新 SK7 重複	227
24	2	F7-A5	隅丸長方形	0.75	0.60	0.10	N-22°-W	SD15a 重複	228
25	2	F7-A6	隅丸長方形	0.96	0.62	0.15	N-65°-E		228
26	2	F7-A6	隅丸長方形	1.80	0.75	0.13	N-67°-E	SK27/64より新	228
27	2	F7-A6	楕円形か	0.45	0.10	0.10	N-67°-E	SK26より古	228
28	3	E7-J6	楕円形	0.90	0.50	0.10	N-85°-E	SB4より新	37-39
31	2	F7-A6	不整楕円形	1.00	0.70	0.50	N-72°-E	SD15a 重複	228
32	3	E7-J6	楕円形	0.60	0.50	0.10	N-10°-W	SB4・SK35より新	282
33	3	E7-J6	円形	0.33	0.31	0.10	-		282
34	3	E7-J6	不整形	0.40	0.30	0.05	N-53°-E		282
35	3	E7-J6	隅丸長方形	2.95	1.32	0.15	N-72°-E	SK32/54より古 SB4より新	282
36	2	F7-A6	不整形	0.45	0.45	0.10	N-82°-E	SK99 重複	229
37	2	F7-A6	楕円形	0.75	0.40	0.10	N-72°-E	SK4 重複	229
38	3	E7-J6 F7-A6	隅丸長方形	1.05	0.60	0.20	N-71°-E		282
39	3	F7-A6	楕円形	0.90	0.75	0.20	N-72°-E		282
40	2	F7-A7	楕円形	2.40	1.55	0.42	N-70°-E	SK1 重複	229
41	2	F7-A5/6	隅丸長方形	3.10	0.60	0.10	N-70°-E	SK52より新 SK295 重複	229
42	3	F7-A5	楕円形	0.75	0.60	0.30	N-85°-E	SK50 重複	282
43	3	F7-A5	不整形	0.50	0.45	0.10	N-18°-W		282
44	2	F7-A6	隅丸長方形	2.20	1.95	0.50	N-15°-W	SD1・SK21/45より古	229
45	2	F7-A6	隅丸長方形	1.10	0.90	0.40	N-20°-W	SD1より古 SK21/44より新	229
46	3	E7-J5	円形	0.90	0.90	0.10	-	SK48/305より新	282
47	3	E7-J5	隅丸方形	0.75	0.65	0.20	N-50°-W	SK48 重複	282
48	3	E7-J5	隅丸方形	1.70	1.70	0.10	N-15°-W	SK46より古 SK305より新 SK47 重複	282

番号	区画	グリッド	形能	長軸	短軸	深さ	方位	備考	坪数
49	2	F7-A6	隅丸長方形	0.85	(0.65)	0.23	N-20°-W	SD1・SK21より古 SK192より新	229
50	3	E7-J5 F7-A5	隅丸長方形	3.45	1.70	0.35	N-70°-E	SK42/75・F7-A5 P1重複	270
51	2	F7-A5	隅丸方形	0.55	0.50	0.10	N-75°-E	SD1より新	230
52	2	F7-A5/6	不整形	1.60	1.20	0.45	N-70°-E	SK41より古	229
53	2	F7-A6	隅丸方形	0.80	0.80	0.20	N-70°-E	SK64より新	230
54	3	E7-J6	不整形	0.93	0.80	0.15	N-72°-E	SB4・SK35より新 SE1重複	282
55	2	F7-A5	隅丸方形	0.85	0.85	0.35	N-25°-W	SD1より古	230
56	2	F7-A6	隅丸長方形	(0.85)	0.70	0.40	N-55°-E	SK1/3重複	230
57	2	F7-A6	楕円形	(0.40)	0.35	0.20	N-74°-E	SK1重複	230
58	2	F7-A6	隅丸長方形か	1.05	(0.30)	0.20	N-72°-E	SD1より古	230
62	3	E7-J5/6	不整形	1.40	0.57	0.20	N-70°-E	SB4より新	37-39
63	3	E7-J5	円形	0.80	0.75	0.40	-	-	283
64	2	F7-A6	隅丸長方形	1.95	0.45	0.13	N-72°-E	SK26/53より古	230
65	1	F7-A7	隅丸長方形	2.45	0.65	0.15	N-18°-W	-	207
66	1	F7-A7	楕円形	1.75	1.00	0.30	N-17°-W	SK134重複	197
68	3	E7-J6	長楕円形	1.75	0.55	0.20	N-70°-E	-	283
69	2	F7-A6	不整形	0.80	0.70	0.20	N-77°-E	-	230
70	3	E7-J6	円形	[0.30]	0.28	0.20	-	SB4より新 SB4の基礎石の抜き取り穴か	37-39
71	3	E7-J5	不整形	1.30	0.60	0.05	N-26°-W	SD2より古	283
72	3	F7-A5	不整形	1.00	0.75	0.30	N-25°-W	SK125重複	283
73	3	F7-A5	隅丸長方形	0.60	0.45	0.10	N-72°-E	SD4重複	283
74	2	F7-A5	隅丸長方形	0.95	0.60	0.15	N-12°-W	SD16重複	230
75	3	F7-A5	楕円形	(0.40)	0.40	0.15	N-10°-W	SD4・SK50重複	283
77	3	E7-J6	隅丸長方形	1.50	0.85	0.05	N-72°-E	SK80/81より新 E7-J6 P1重複 SD16重複	283
78	3	E7-J6/7	不整形	0.80	0.55	0.05	N-60°-E	SK268重複	274
79	3	E7-J7	楕円形	0.70	0.60	0.20	N-80°-W	-	274
80	3	E7-J6	楕円形	0.57	0.35	0.07	N-72°-E	SK77より古	283
81	3	E7-J6	楕円形	0.55	0.35	0.07	N-72°-E	SK77より古	283
82	3	E7-J6	隅丸長方形	1.50	0.85	0.40	N-32°-W	SK119重複	283
83	2	F7-A6	楕円形	0.73	0.46	0.05	N-78°-E	-	230
84	2	F7-A7	隅丸長方形	0.75	0.50	0.03	N-18°-W	-	230
85	3	F7-A5	楕円形	0.95	0.35	0.10	N-25°-W	-	276
86	3	F7-A5	楕円形	1.00	0.70	0.20	N-75°-E	SK87より新 SD4重複	283
87	3	F7-A5	隅丸方形	1.15	(1.05)	0.25	N-70°-E	SK86より古 SD4重複	283
88	2	F7-A7	隅丸方形	0.70	0.70	0.15	N-5°-W	-	230
90	2	F7-A7	隅丸長方形	0.45	0.35	0.25	N-28°-W	-	230
91	2	F7-A7	隅丸方形	0.60	0.60	0.15	N-45°-E	-	230
92	2	F7-A7	円形	0.40	0.40	0.20	N-65°-E	-	230
93	3	E7-J5	楕円形	0.60	0.30	0.10	N-40°-E	-	283
94	3	E7-J7	円形	1.25	1.22	0.20	-	-	283
95	2	F7-A5	楕円形	0.90	(0.65)	0.10	N-80°-W	SD1・SK117より新	231
96	3	E7-J7	楕円形	0.75	0.68	0.10	N-32°-E	-	283
97	3	E7-J7	隅丸長方形	1.35	1.20	0.65	N-70°-E	SK98より古	284
98	3	E7-J7	不整形	(0.70)	(0.70)	0.20	N-70°-E	SK97より新 SD4重複	284
99	2	E7-J6 F7-A6	隅丸長方形	(1.60)	1.45	0.60	N-76°-E	SK122より古 SK36重複	217
100	3	E7-J6	不整形	(0.55)	0.33	0.10	N-20°-W	SD4重複	284
101	6	E7-14	隅丸長方形	6.05	1.45	0.65	N-76°-E	-	477
102	6	E7-H4,14	長楕円形	4.65	2.20	0.60	N-55°-E	SK286より新	483
105	7	E7-H4	隅丸長方形	2.99	1.77	0.75	N-73°-E	SB8より新	509
106	7	E7-H4	隅丸長方形	2.42	1.92	0.60	N-15°-W	SK264より新	559
107	7	E7-H4	隅丸方形	3.10	(2.00)	0.58	N-6°-W	-	559
108	8	E7-G4/5	不整形長方形	3.96	1.45	0.87	N-66°-E	-	589
109	6	E7-H4/5	隅丸長方形	0.85	0.70	0.10	N-20°-W	SK281重複	490
110	7	E7-G5,H4	隅丸長方形	2.38	1.49	0.80	N-71°-E	SB8より新	559
111	7	E7-H4/5	隅丸方形	1.84	1.70	0.30	N-19°-W	SB8・SK112より新	559
112	7	E7-H4/5	不整形	3.09	2.62	0.52	N-71°-E	SK111より古 SB8より新	559

番号	区画	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	挿図
114	3	E7-J6 F7-A6	隅丸長方形	0.70	0.45	0.10	N-70°-E	SD4より新	284
116	3	E7-J6	楕円形	0.50	0.47	0.10	N-72°-E	SB4より新 SB4の基礎石の抜き取り穴か	37-39
117	2	F7-A5	隅丸長方形	1.60	1.10	0.30	N-20°-W	SD1・SK95より古	231
118	2	F7-A6	隅丸方形	0.70	0.65	0.15	N-80°-W	SK280 重複	231
119	3	E7-J6	隅丸方形	1.10	1.00	0.13	N-10°-W	SK82 重複	284
120	4	E7-J5	隅丸長方形	1.76	(1.00)	0.27	N-73°-E	SD2・SK194/306 重複	299
121	7	E7-H5	隅丸長方形	2.45	0.98	1.10	N-15°-W		556
122	2	E7-J6/7 F7-A6/7	不整形	4.00	4.00	(1.00)	-	SK99より新 SD1/4/16 重複	222
124	3	F7-A5	楕円形	(0.50)	0.50	0.25	N-10°-W	SD4 重複	283
125	3	F7-A5	楕円形	0.50	0.43	0.30	N-52°-E	SK72 重複	284
126	3	F7-A5	隅丸長方形	1.20	0.62	0.05	N-80°-E		284
127	3	E7-J5	隅丸長方形	1.00	0.80	0.05	N-42°-E		284
128	3	F7-A5	楕円形	0.60	0.45	0.25	N-46°-W		284
129	3	E7-J6	不整形	1.20	(1.00)	0.30	N-42°-E	SB4より古	284
130	3	F7-A5	隅丸長方形	0.40	0.30	0.15	N-73°-E		284
131	1	F7-A6/7	隅丸長方形	(2.96)	1.10	0.40	N-73°-E	SB2より新 SB1 重複	202
132	1	F7-A7	隅丸長方形	1.65	1.00	0.30	N-20°-W	SB2 重複	207
134	1	F7-A7	不整形	(1.65)	1.00	0.20	N-17°-W	SK66 重複	207
135	4	E7-J4	隅丸方形	2.65	(1.95)	0.55	N-18°-W	SK136/137/149 重複	343
136	4	E7-J4/5	不整形	2.01	1.40	0.38	N-50°-E	SK160/296/322より新 SK135/151 重複	343
137	4	E7-J4/5	隅丸方形	0.94	1.28	0.38	N-20°-W	SK135/149 重複	343
138	4	E7- I5/6, J5/6	隅丸方形	1.17	1.02	0.25	N-73°-E	SB7 整地層重複	343
139	4	E7-J5	長方形	2.73	1.59	0.73	N-71°-E	SB7・SK146/194/299/302 重複	343
140	4	E7-J5	隅丸長方形	2.05	1.28	0.36	N-80°-E		343
141	4	E7-16	不整形	1.60	(0.80)	0.18	N-23°-W	SK142/145a/145b/294/297・SB7 整地層重複	303
142	4	E7-16	隅丸長方形	2.30	0.69	0.65	N-17°-W	SK141/145a/145b/297・SB7 整地層重複	343
143	4	E7-16	不整形	(1.85)	1.57	0.25	N-64°-E	SK144/145Bb/197/199 重複	343
144	4	E7-16	不整形楕円形	2.48	(0.89)	0.25	N-23°-W	SK145a/145bより新 SK143/200 重複	343
145a	4	E7-16, 36	不整形	3.51	3.35	0.61	N-15°-W	SK144より古 SK145bより新 桶8・SB7・SK141/142 重複	311
145b	4	E7-16	不整形	3.22	(1.10)	0.19	N-88°-E	SK144/145aより古 SB7・SK141/142/143 重複	311
146	4	E7-J5	隅丸長方形	1.55	(1.11)	0.22	N-68°-E	SK139/302・E7-J5 P5・SB7 重複	344
147	4	E7-J6	隅丸長方形	0.92	0.64	0.10	N-15°-W	SB7 重複	344
148	4	E7-J5	不整形楕円形	0.87	0.48	0.20	N-82°-E		344
149	4	E7-J4	隅丸長方形	1.16	0.89	0.65	N-71°-E	SK135/137・桶48より新	344
150	4	E7-J5	隅丸長方形	1.68	0.44	0.08	N-73°-E	SB7・SK301 重複	324
151	4	E7-J5	楕円形	0.94	0.70	0.24	N-72°-E	SK136/296/322 重複	343
152	4	E7-J5	隅丸方形	1.06	1.00	0.10	N-68°-E	SK153より新 SK154 重複	328
153	4	E7-J5	隅丸長方形	(1.33)	1.03	0.48	N-15°-W	SK302より新 SK152/154より古	328
154	4	E7-J5	楕円形	0.85	0.70	0.13	N-6°-E	SK153より新 SK152/320 重複	344
155	4	E7-J4	円形	0.55	0.52	0.17	N-70°-W		344
156	4	E7-J4/5	隅丸長方形	1.07	0.82	0.25	N-66°-E	桶48より古	344
157	4	E7-J5	楕円形	1.10	0.62	0.15	N-89°-E	SK313 重複	344
158	4	E7-J5	隅丸長方形	1.36	0.51	0.25	N-73°-E		344
159	4	E7-15/6	隅丸長方形	3.88	0.76	0.20	N-76°-E	SK171/294/297/298/690より新 SB7 重複	331
160	4	E7-J5	不整形	0.92	(0.39)	0.32	N-4°-W	SK136より古 SK296/322より新	343
161	5	E7-15	円形	0.70	0.65	0.15	N-88°-E		415
162	5	E7-14	楕円形	0.90	0.70	0.10	N-50°-E		415
163	5	E7-14	長楕円形	2.20	0.65	0.10	N-71°-E	SK177 重複	415
164	5	E7-14/5	隅丸長方形	1.40	1.20	0.30	N-68°-E		415
165	5	E7-15	楕円形	1.25	1.10	0.20	N-21°-W	SK166 重複	415
166	5	E7-15	楕円形	(0.65)	0.60	0.15	N-34°-W	SK165 重複	415
167	5	E7-14	隅丸長方形	1.20	0.75	0.30	N-17°-W	SK168 重複	415
168	5	E7-14	円形	0.70	0.60	0.10	N-0°	SK167 重複	415
169	5	E7-15	隅丸長方形	4.10	0.95	0.20	N-18°-W	SK259より新 SK193 重複	415



番号	区画	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	押円
170	4	E7-15/6	隅丸長方形	1.57	0.82	0.32	N-77°-E	SK297より新 SB7重複	345
171	4	E7-15/6	隅丸長方形	1.70	(0.50)	0.21	N-73°-E	SK159より古 SK294/298・SB7整地層重複	345
172	4	E7-15	隅丸長方形	1.01	0.58	0.14	N-82°-E	SK298/690・SB7整地層重複	344
173	5	E7-15	長槽円形	1.15	0.70	0.15	N-49°-W	SK196より新 SK181重複	415
174	5	E7-15	槽円形	0.85	0.70	0.05	N-90°	SK314重複	415
175	5	E7-15	不整隅丸方形	2.70	0.60	0.15	N-17°-W	桶23・SD19・SK176/201/314重複	415
176	5	E7-15	槽円形	0.95	(0.50)	0.10	N-49°-W	SK175/314重複	415
177	5	E7-14	隅丸長方形	1.80	1.30	0.15	N-77°-E	SK163重複	415
178	5	E7-14	槽円形	0.75	0.55	0.15	N-16°-W		415
179	5	E7-14	槽円形	1.00	0.65	0.10	N-68°-E		415
181	5	E7-15	長槽円形	2.15	1.30	0.25	N-20°-W	SK196より古 SK201より新 SK173/259/314重複	415
182	5	E7-16	不明	(2.20)	1.90	0.20	N-72°-E	SK184/337より新 SK183/290重複	416
183	5	E7-H6,16	不整形	4.00	3.80	0.45	N-74°-E	SK182/184/208/212重複	416
184	5	E7-H6,16	不明	(2.75)	1.25	0.40	N-15°-W	SK182/212/218より古 SK337重複	379
185	4	E7-J5	隅丸方形	0.35	0.35	0.20	N-30°-W	SK306より新	345
186	5	E7-15	不整形	1.35	(1.25)	0.25	N-1°-W	SK187/226/227重複	416
187	5	E7-15	槽円形	(1.00)	0.70	0.25	N-62°-E	SK186重複	416
188	5	E7-15/6	槽円形	1.30	(0.95)	0.20	N-70°-E	SK189重複	416
189	5	E7-15	不整槽円形	1.45	1.40	0.30	N-30°-E	SK188/190/221/260重複	416
190	5	E7-15	不整長方形	(1.60)	1.10	0.30	N-21°-W	SK189/209/221/260重複	416
192	2	F7-A6	隅丸長方形	1.43	(1.00)	(0.30)	N-20°-W	SD1・SK21/49より古	229
193	5	E7-15	槽円形	(0.60)	0.60	0.20	N-48°-W	SK169重複	416
194	4	E7-J5	長方形	2.31	1.37	0.31	N-73°-E	SK302より新 SK120/139/306・SB7整地層重複	345
195	5	E7-14/5	槽円形	1.10	0.80	0.45	N-35°-W		416
196	5	E7-15	隅丸長方形	2.30	1.10	0.25	N-10°-W	SK173より古 SK181/201より新 SK314重複	415
197	4	E7-16	槽円形	1.40	1.12	0.30	N-34°-E	SK143重複	345
198	4	E7-16	隅丸方形	1.84	1.32	0.33	N-12°-W	SD7・SK199/200重複	345
199	4	E7-16	隅丸長方形	(1.57)	(1.50)	0.19	N-11°-W	SK143/198/200/293重複	345
200	4	E7-16	隅丸長方形	2.51	1.09	0.31	N-12°-W	SK144/198/199重複	345
201	5	E7-15	不明	1.10	(0.75)	-	-	SK181/196より古 SK175/314重複	415
202	5	E7-15	不整形	1.55	1.35	0.35	N-21°-E	SK209/308重複	416
203	6	E7-15	隅丸長方形	1.10	0.90	0.15	N-70°-E		490
204	6	E7-H5	不整形	1.70	1.55	0.20	N-90°	SB9重複	490
205	6	E7-H5	不整形	1.30	1.20	0.20	N-90°		490
206	6	E7-15	槽円形	1.30	1.00	0.25	N-90°	SD19重複	490
207	6	E7-H5	槽円形	0.90	0.80	0.05	N-90°		490
208	5	E7-H6,16	隅丸方形	1.60	(1.15)	0.35	N-87°-E	SK183重複	416
209	5	E7-15	槽円形	(0.80)	0.70	0.10	N-56°-E	SK190/202/260重複	417
210	5	E7-15	槽円形	1.20	0.95	0.20	N-4°-E	SK217重複	417
211	6	E7-14/5	隅丸長方形	2.20	0.55	0.25	N-71°-E		490
212	5	E7-H6,16	不明	1.35	(0.40)	0.55	N-72°-E	SK184より新 SK183重複	417
213	6	E7-H5,15	槽円形	0.65	0.45	0.03	N-79°-E		490
214	6	E7-H5,15	隅丸長方形	1.30	0.80	0.25	N-78°-E	SD19重複	490
216	6	E7-H6	隅丸長方形か	3.00	(2.20)	0.15	N-20°-W		491
217	5	E7-15	隅丸長方形	2.30	1.35	0.45	N-63°-E	SK210重複	417
218	5	E7-H6,16	隅丸長方形	0.70	0.70	0.45	N-71°-E	SK184より新	417
219	5	E7-15	槽円形	0.70	0.40	0.25	N-10°-W	SD19重複	491
220	5	E7-15	不整形	0.60	0.50	0.15	N-9°-W	SD19重複	491
221	5	E7-15	隅丸長方形	1.10	(0.75)	0.25	N-75°-E	SK308より新 SK189/190/260重複	417
222	6	E7-H5	隅丸方形	0.60	0.55	0.10	N-68°-E	SB9重複	491
223	6	E7-H5	不整形	1.40	1.15	0.20	N-12°-W	SB9・SK267重複	491
224	5	E7-14, J4	不整形	3.25	(0.60)	0.40	N-19°-W		417
226	5	E7-15	隅丸長方形	1.70	1.00	0.70	N-72°-E	SK186/227重複	388
227	5	E7-15	不明	1.05	(0.80)	0.10	N-53°-E	SK186/226重複	417
229a	9	E7-F3/4	隅丸長方形か	[4.00]	(3.35)	0.45	N-70°-E	SK316より新 SK263重複	次回報告
229b	9	E7-E3/4	隅丸長方形か	(2.50)	(1.10)	0.45	N-70°-E	SK316より古	次回報告

番号	区画	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	挿入
230	9	E7-E4, F4	隅丸長方形	7.50	3.20	0.45	N-15°-W	SK235/247/272/273/316/334/339より新 SD8より古	次回報告
231	9	E7-E3/4	隅丸長方形	1.50	1.10	0.30	N-20°-W	SK232/341重複	次回報告
232	9	E7-E3	不整形	0.90	(0.80)	0.30	N-71°-E	SK231/341重複	次回報告
233	9	E7-E3/4	隅丸長方形	3.45	1.37	0.16	N-17°-W	SK341より新 SK231/232/334・SX3重複	次回報告
235	9	E7-F4	隅丸方形	4.25	3.50	-	N-68°-E	SK230より古 SK257/265/316/319/324/340より新	次回報告
238	9	E7-F4/5	不整形	4.55	2.55	0.90	N-75°-E	SE4より古 SK324より新	次回報告
239	9	E7-E3	隅丸長方形	1.00	0.70	0.25	N-18°-W	SX3重複	次回報告
240	8	E7-F4	長方形	1.47	0.58	0.17	N-73°-E		次回報告
243	8	E7-G4	円形	0.55	0.52	0.21	N-59°-E		次回報告
244	8	E7-G5	隅丸長方形	2.04	1.15	0.65	N-70°-E	SK245より新 SK284/285重複	次回報告
245	8	E7-G5	隅丸長方形	1.24	0.95	0.55	N-85°-E	SK244より古 SK285重複	次回報告
246	8	E7-G4	不整形	1.60	0.88	0.30	N-72°-E		次回報告
247	9	E7-E4	隅丸長方形	2.85	1.08	0.70	N-72°-E	SK230/248より古 SK334より新	次回報告
248	9	E7-E4	隅丸長方形	2.95	1.50	0.75	N-75°-E	SK247/274/334より新	次回報告
249	9	E7-E5	不明	3.35	(1.80)	0.25	N-70°-E		次回報告
250	9	E7-F4	不明	[0.37]	[0.25]	0.10	-	SK255より新	次回報告
251	6	E7-H5	隅丸方形	0.75	0.75	0.25	N-72°-E	SK270より新	491
252	5	E7-15/6	隅丸長方形	2.25	1.70	0.50	N-20°-W		417
253	5	E7-15/6	不整形	1.35	1.20	0.40	N-60°-E		417
255	9	E7-F4	楕円形	1.35	1.20	0.35	N-64°-E	SK250より古	次回報告
257	9	E7-F4	円形か	0.95	(0.60)	0.15	N-21°-W	SK235より古 SK324/340より新	次回報告
259	5	E7-15	不整形	2.00	1.10	0.10	N-30°-W	SK169より古 SK181重複	417
260	5	E7-15	不整形	3.50	1.55	0.40	N-24°-W	SK189/190/209/221重複	400
261	8	E7-F4, G4	長方形	4.00	2.00	0.68	N-73°-E	桶9より古	次回報告
262	8	E7- F4/5, G4/5	方形	2.04	1.97	0.95	N-71°-E		次回報告
263	9	E7-F4	不整形	1.00	0.75	0.20	N-57°-W	SK324より新 SK229a重複	次回報告
264	7	E7-H4	隅丸長方形	1.15	(0.55)	0.40	N-22°-W	SK106より古	559
265	9	E7-F4	隅丸方形か	1.50	1.25	0.18	N-14°-W	SK235より古 SK324より新	次回報告
267	6	E7-H5	長楕円形か	(0.90)	0.50	0.20	N-73°-E	SK223重複	491
268	3	E7-J7	隅丸長方形	1.15	0.85	0.40	N-65°-E	SK78重複	284
269	3	E7-J7	隅丸方形	0.60	0.55	0.35	N-7°-W		284
270	6	E7-H5	隅丸長方形	1.70	0.80	0.30	N-80°-E	SK251より古 SK271より新	491
271	6	E7-H5	不整形	0.65	(0.55)	0.07	N-90°	SK270より古	491
272	9	E7-E4	隅丸方形	2.20	1.90	0.70	N-18°-W	SK230より古 SK334より新	次回報告
273	9	E7-E4	不整形	2.05	1.55	0.65	N-65°-W	SK230より古 SK334より新	次回報告
274	9	E7-E4	隅丸長方形か	(2.65)	1.65	0.30	N-20°-W	SK248より古 SK334より新 SD24重複	次回報告
275	4	E7-16/7	楕円形か	1.11	(0.30)	0.25	N-19°-W		345
276	3	E7-J4	不整形	0.57	(0.45)	0.35	N-40°-W	SK277より古	285
277	3	E7-J4/5 F7-A4/5	不整形	1.25	(0.70)	0.40	N-47°-W	SK278/312より古 SK276より新	285
278	3	E7-J4/5 F7-A4/5	楕円形	(0.60)	0.50	0.15	N-70°-E	SK277より新	285
279	3	F7-A5	不整形	(0.80)	0.65	0.35	N-63°-E		284
280	2	F7-M6	隅丸長方形	1.00	0.75	0.20	N-77°-E	SK118重複	231
281	6	E7-H4	隅丸長方形	0.80	0.65	0.10	N-72°-E	SK109重複	491
282	1	F7-A7	不整形	1.10	(0.25)	0.20	N-72°-E	SB2重複	207
284	8	E7-G5	不明	(2.20)	1.02	0.29	N-68°-E	SK244/285/333/336重複	次回報告
285	8	E7-G5	不明	0.84	(0.60)	0.20	N-57°-E	SK244/245/284重複	次回報告
286	6	E7-H4, 14	不整形	(1.80)	2.00	0.60	N-90°	SK102より古	491
287	4	E7-J5	隅丸長方形	1.65	0.92	0.40	N-72°-E	SD6より古	345
289	4	E7-16/7	円形か	1.93	(1.30)	0.23	N-16°-W	SD7より古	346
290	5	E7-H6, 16	不明	2.60	(1.00)	0.35	N-21°-W	SK182/337重複	413
291	3	F7-A5	楕円形	0.50	0.40	0.15	N-72°-E		284
292	2	F7-A5	不整形	0.40	0.35	0.25	N-80°-E		231
293	4	E7-16	円形	1.70	1.50	0.37	N-65°-E	SD7より古 SK199重複	345

番号	区画	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	坪円
294	4	E7-16	隅丸長方形	1.16	(0.55)	0.42	N-74°-E	SK159より古 SK141/171/297・SB7 整地層重複	346
295	2	F7-A5	槽円形	1.10	0.70	0.10	N-78°-E	SK41 重複	231
296	4	E7-J5	不整形	1.56	1.15	0.45	N-69°-E	SK136/160より古 SK322より新 SK151 重複	346
297	4	E7-16	方形	1.70	1.57	1.00	N-71°-E	SK159/170より古 SB7・SK141/142/294 重複	338
298	4	E7-15	隅丸長方形	1.53	0.95	0.57	N-69°-E	SK159より古 SK690より新 SB7・SK171/172 重複	346
299	4	E7-15, J5	隅丸長方形	1.66	1.64	0.35	N-18°-W	SK690より新 SB7・SK139/300/303 重複	346
300	4	E7-15, J5	隅丸長方形	1.72	1.14	0.58	N-75°-E	SB7・SK299 重複	346
301	4	E7-J5/6	隅丸長方形	2.65	1.51	0.36	N-72°-E	SB7より古 SK150 重複	347
302	4	E7-J5	隅丸長方形	2.85	(0.89)	0.30	N-77°-E	SK153/194より古 SK139/146・SB7 整地層重複	347
303	4	E7-J5	方形	[0.75]	0.72	0.35	N-72°-E	SK299・SB7 整地層重複	346
304	6	E7-H5	円形	0.45	-	0.35	-	SK338より新	492
305	3	E7-J5	不整形	0.75	0.75	0.30	N-60°-W	SK46/48より古	278
306	4	E7-J5	方形	0.96	(0.45)	0.35	N-70°-E	SK185より古 SK120/194・SB7 整地層重複	347
308	5	E7-15	不明	(0.50)	0.50	0.20	N-33°-W	SK221より古 SK202 重複	418
309	3	E7-J6	隅丸長方形	1.85	(0.55)	0.45	N-74°-E	SB4より古	285
312	3	E7-J5 F7-A5	不整形	1.55	1.00	0.30	N-20°-W	SK277より新	285
313	4	E7-J5	不整形	1.20	1.04	0.25	N-70°-E	SB5・SD17・SK157 重複	347
314	5	E7-15	不整形	2.25	2.05	0.30	N-28°-W	SK174/175/176/181/196/201 重複	418
316	9	E7-F3/4	隅丸長方形	(7.70)	1.35	0.55	N-65°-E	SK228a/230/235より古 SK229b/339/340より新	次回報告
317	8	E7-F5	長方形	2.05	1.76	0.62	N-70°-E		次回報告
318	6	E7-14	不整形	(0.55)	0.50	0.40	N-55°-E	SK323より古	492
319	9	E7-E4, F4	隅丸長方形	3.85	1.55	0.75	N-73°-E	SK235/324より古	次回報告
320	4	E7-J5	隅丸長方形	1.40	0.80	1.00	N-15°-W	SK321より新 SK154/322 重複	347
321	4	E7-J5	隅丸長方形	0.91	0.66	0.17	N-5°-W	SK320より古	347
322	4	E7-J5	隅丸長方形	1.72	1.31	0.75	N-77°-E	SK136/160/296より古 SK151/320 重複	346
323	6	E7-14	不整形	0.65	(0.65)	0.27	N-60°-E	SK318より新	492
324	9	E7- E4/5, F4/5	不整形	13.00	4.75	0.60	N-72°-E	SE4・SK235/238/257/263/265より古 SK319/340より新	次回報告
325	6	E7-H5	円形	0.50	-	0.35	-	SK338より新	492
326	6	E7-H5	不整形	0.65	0.55	0.20	N-86°-E	SK338より新 SB9 重複	492
331	6	E7-H5	隅丸長方形	1.85	0.65	0.45	N-22°-W	SK338より新 SB9 重複	492
332	4	E7-J6	槽円形	2.00	0.94	0.30	N-71°-E		347
333	8	E7-G5	隅丸長方形	0.96	1.98	0.40	N-71°-E	SK284 重複	次回報告
334	9	E7- E3/4, F4	隅丸長方形	(8.50)	5.55	0.70	N-74°-E	SD8・SK230/247/248/272/273/274より古 SX3・SK341より新	次回報告
335	6	E7-H4/5	長方形か	2.85	(0.55)	0.25	N-72°-E	SD20より古	492
336	8	E7-G5	不整形	2.12	1.13	0.29	N-68°-E	SK342 重複	次回報告
337	5	E7-H6, 16	不整形	3.70	1.70	0.35	N-11°-W	SK182より古 SK184/290・E7-16 P2 重複	418
338	6	E7-H5	隅丸長方形	4.20	1.00	0.15	N-72°-E	SK304/325/326/331・E7-H5 P1より古 SB9・SD20・SK689 重複	492
339	9	E7-F4	不整形	1.90	1.20	0.30	N-68°-E	SD8・SK230/316より古	次回報告
340	9	E7-F4	隅丸長方形	4.50	1.15	0.20	N-60°-E	SK235/257/316/319/324より古	次回報告
341	9	E7-E3/4	隅丸長方形か	4.00	(1.15)	0.25	N-18°-W	SX3・SK334より古 SK231/232 重複	次回報告
342	8	E7-F5, G5	方形	2.03	1.82	0.60	N-74°-E	SK336 重複	次回報告
343	8	E7-F5	不整形	1.70	1.10	0.23	N-79°-E		次回報告
344	9	E7-E4/5	不明	(5.50)	-	-	N-73°-E	SK346 重複	次回報告
345	9	E7-E5	不明	1.20	1.05	-	N-70°-W	桶 16より古	次回報告
346	9	E7-E4/5	不整形	2.80	1.00	-	N-68°-E	桶 16より古 SK344 重複	次回報告
688	2	F7-A5	隅丸長方形	1.45	(1.00)	0.42	N-20°-W	SD2より古 (旧SK97)	230
689	6	E7-H5	不明	2.00	(0.15)	0.10	N-83°-E	SK338 重複	492
690	4	E7-15	隅丸長方形	1.65	0.75	0.45	N-73°-E	SB7・SK159/298/299より古 SK172 重複	346

### (1) 第1区画 (区画AA)

第9地点の調査区で最も南側に位置し、さらに南側は第8地点として調査したエリアである(埼玉県埋蔵文化財調査事業団2022『栗橋宿跡VI』)。

『絵図』では「荒物屋 忠助」、明治35年(1902)の『埼玉県営業便覧』では「米穀・肥料商 吉岡善六」の区画にあたる可能性が高い。

遺構としては第1～3号建物跡が検出された区画である。区画内の全体に3棟の建物跡が広がっていて、土壌は全体的に少ない。19世紀前半以降にあっては、長期にわたって建造物が建っていたためか、計6基の土壌が確認されたのみである(第105表)。

以下には、第2号建物跡の範囲と重複する第66号土壌と、第131号土壌について取り上げる。

#### 第66号土壌 (第197～201図)

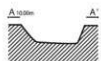
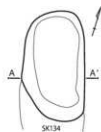
F7-A7グリッドから検出された。長軸1.75m、短軸1.0mの楕円形を呈する土壌である。第134号土壌と重複するが、新旧関係は明らかではない。

第198・199図は出土した陶磁器類である。

1～8は瀬戸美濃系磁器の碗である。1は酸化コバルト染付で、緑の呉須を併用する。楓の葉を描く。2は平碗で型紙摺絵染付である。3～8は小型の丸碗で、赤絵を主体に緑・青で上絵付けされる。ほぼ同形・同文であり、組み物の可能性が高い。9は瀬戸美濃系磁器蓋で、薄手である。型紙摺絵染付を施し、つまみ内に「中平製」銘を有す。

10は内面に木型打込の陰刻状施文を行った後

SK66

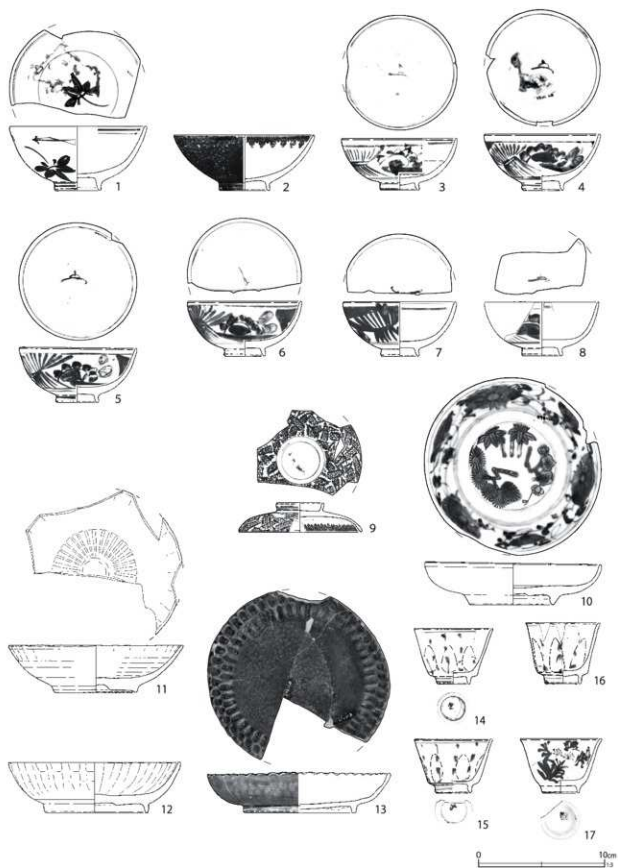


第197図 第66号土壌

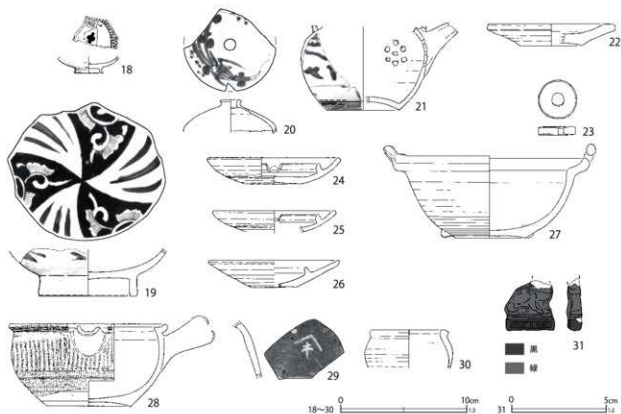
に施軸・染付する皿である。高台畳付部のみ露胎で、蛇の目状の高台内は施軸する。11は内底面を木型打込で菊花状に成形する皿である。染付はみられないが、口紅が施される。高台は蛇の目状に露胎とする。12も同様の皿だが、肥前系磁器である。釉薬が僅かに青みを帯びる。11よりも深く陰刻状に成形される。高台部は蛇の目状で、内側は中心部を除き露胎とする。13は瀬戸美濃系磁器の皿で、内面は型押し施文、内外面に深緑色の釉薬が施される。高台内も施軸される。畳付部のみ露胎とする。14～17までは瀬戸美濃系磁器の端反形の坏である。14・15・16は外面に酸化コバルト染付で漢詩文を書くもので、同じ模様のものである。17は外面に酸化クロム青磁軸とし緑・黒・白盛で絵付けを加える坏である。

第105表 第1区画土壌一覧表

番号	区画	グリッド	形態	単位:m			方位	備考	採図
				長軸	短軸	深さ			
65	1	F7-A7	隅丸長方形	2.45	0.65	0.15	N-18°-W		207
66	1	F7-A7	楕円形	1.75	1.00	0.30	N-17°-W	SK134重複	197
131	1	F7-A6/7	隅丸長方形	(2.96)	1.10	0.40	N-73°-E	SB2より新 SB1重複	202
132	1	F7-A7	隅丸長方形	1.65	1.00	0.30	N-20°-W	SB2重複	207
134	1	F7-A7	不整形	(1.65)	1.00	0.20	N-17°-W	SK66重複	207
282	1	F7-A7	不整形	1.10	(0.25)	0.20	N-72°-E	SB2重複	207



第198图 第66号土坑出土遗物(1)

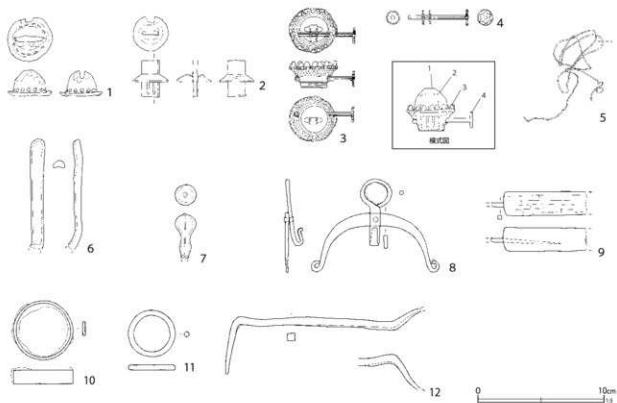


第199図 第66号土壌出土遺物(2)

第106表 第66号土壌出土遺物観察表(1)(第198・199図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	(10.7)	5.1	3.5	-	40	良好	白	SK66	瀬戸美濃系 内外面施軸・酸化コバルト染付(青・緑)	102-3
2	磁器	碗	(11.0)	4.4	3.8	-	50	良好	白	SK66	瀬戸美濃系 内外面施軸 型紙摺絵染付	
3	磁器	碗	9.0	4.6	2.9	-	90	良好	白	SK66	瀬戸美濃系 内外面施軸・色絵(赤・緑・青)	102-4
4	磁器	碗	9.1	4.4	3.1	-	95	良好	白	SK66	瀬戸美濃系 内外面施軸・色絵(赤・緑・青)	102-4
5	磁器	碗	9.2	4.3	3.1	-	95	良好	白	SK66	瀬戸美濃系 内外面施軸・色絵(赤・緑・青)	102-4
6	磁器	碗	9.0	4.3	3.0	-	55	良好	白	SK66	瀬戸美濃系 内外面施軸・色絵(赤・緑・青)	102-4
7	磁器	碗	(8.8)	4.3	(2.9)	-	45	良好	白	SK66	瀬戸美濃系 内外面施軸・色絵(赤)	102-4
8	磁器	碗	(9.0)	4.3	3.0	-	25	良好	白	SK66	瀬戸美濃系 内外面施軸・色絵(赤・緑・青)	102-4
9	磁器	蓋	3.6	2.3	(9.6)	-	60	良好	白	SK66	瀬戸美濃系 内外面施軸 型紙摺絵染付	
10	磁器	皿	13.8	3.4	6.7	-	90	良好	白	SK66	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 内面木型打込施文 口紅 蛇の目状高台	
11	磁器	皿	(13.7)	3.7	6.3	-	35	良好	白	SK66	瀬戸美濃系 内外面施軸 口紅	
12	磁器	皿	13.5	4.0	7.9	-	95	良好	白	SK66	肥前系 内外面施軸 口紅	
13	磁器	皿	14.3	3.2	8.4	-	80	良好	白	SK66	瀬戸美濃系 内外面緑色の軸 内面型押絵文 被熱 焼き継ぎ痕	102-5
14	磁器	坏	6.1	4.4	2.5	-	60	良好	白	SK66	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト染付	
15	磁器	坏	(6.0)	4.2	2.7	-	55	良好	白	SK66	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト染付	
16	磁器	坏	(5.8)	4.8	(2.6)	-	40	良好	白	SK66	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト染付	
17	磁器	坏	6.4	4.3	2.8	-	70	良好	白	SK66	瀬戸美濃系 内外面施軸 (外面酸化クロム青磁軸)・絵付(緑・黒・白塗)	
18	磁器	坏	-	[1.3]	(2.2)	-	25	良好	白	SK66	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面上絵付(黒・金) 外面酸化コバルト染付	102-6
19	磁器	鉢	-	[3.7]	7.6	-	20	良好	白	SK66	肥前系 内外面施軸・染付 少量の煤付着	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
20	磁器	油壺	1.3	[2.6]	-	-	30	良好	白	SK66	肥前系 内外面施釉・染付	103-1
21	磁器	土瓶	-	[6.8]	(5.7)	-	20	良好	白	SK66	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 焼き継ぎ痕	
22	磁器	不明	(9.9)	1.7	(5.0)	-	20	良好	白	SK66	瀬戸美濃系 全面露胎	103-2
23	磁器	戸車	2.9	0.7	3.0	-	100	良好	白	SK66	肥前系 外面施釉	
24	陶器	灯明皿	(10.2)	2.1	(4.4)	IK	50	良好	灰白	SK66	瀬戸美濃系 内外面柿釉 外面底部拭き取り・直重ね焼き痕	
25	陶器	灯明皿	(9.5)	[1.7]	-	IK	20	良好	灰黄	SK66	産地不明 内外面施釉 外面下位拭き取り・直重ね焼き痕	
26	陶器	灯明皿	(10.1)	2.1	(3.6)	IK	20	良好	灰黄	SK66	京都信楽系 内面透明釉	
27	陶器	鍋	14.6	7.3	5.6	IK	95	良好	淡黄	SK66	内外面柿釉 内面ピン痕3 外面下位煤付着	103-3
28	陶器	行平	12.1	7.2	6.6	I	75	良好	淡黄	SK66	内外面柿釉 外面トビガンナ状施文 底部煤付着	103-4
29	陶器	徳利	-	[4.5]	-	IK	5	良好	灰白	SK66	瀬戸美濃系 内外面柿釉 釘書き「金」	103-5
30	陶器	豆壺	(5.9)	[3.0]	-	K	25	良好	褐灰	SK66	内外面柿釉	
番号	種別	器種	幅・長さ	高さ	厚さ	重さ	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
31	土製品	人形	2.6/ [2.6]	-	0.8	5.6	A D	良好	にぶい緑	SK66	京都系 狛犬 一枚型成形 中実 施釉(緑・黒)	242-18



第200図 第66号土壌出土遺物(3)

第107表 第66号土壌出土遺物観察表(2)(第200図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	オイルランプ	縦3.5 横3.6 高さ2.0 重さ2.3	SK66	口金(上部)	277-2
2	銅製品	オイルランプ	縦2.7 横2.8 高さ2.9 重さ4.0	SK66	口金(内部)	277-2
3	銅製品	オイルランプ	縦3.6 横5.3 高さ2.2 重さ9.0	SK66	口金(外側)	277-2

番号	種別	器種	法量				遺構	備考	図版
			長さ	幅	厚さ	重さ			
4	銅製品	オイルランプ	縦1.3	横4.8	径1.2	重さ5.0	SK66	口金(芯調整用歯車)	277-2
5	銅製品	針金	縦7.3	横6.5	厚さ0.08	重さ2.2	SK66		
6	鉛製品	不明	長さ[8.8]	幅1.0	厚さ0.6	重さ44.3	SK66		
7	鉛製品	不明	縦[3.5]	横1.7		重さ36.4	SK66		
8	鉄製品	把手	長さ10.2	高さ7.4	厚さ0.3	重さ19.3	SK66		274-2
9	鉄製品	鎌	長さ[7.6]	鎌先[1.0]	厚さ0.3	重さ7.7	SK66	木柄付き	
10	鉄製品	燗金具	径4.7	幅1.1	厚さ0.2	重さ21.5	SK66		
11	鉄製品	燗金具	径3.7	幅0.4	厚さ0.4	重さ9.9	SK66		
12	鉄製品	錠	長さ[15.5]	幅0.6	厚さ0.6	重さ38.2	SK66		

18は瀬戸美濃系磁器の煎茶手酒杯である。内面は上絵付け、高台外面に酸化コバルト染付で葡萄波状文を描く。「上撰」・「ジガミサ(扇の「地紙」に「サ」)」と上絵付けで書かれている。ジガミサは鏡子の広屋庄右衛門(古田家)の使用した商標である。創業年代は宝暦三年(1753)以前だが詳細は不明である。明治二十七年(1894)に廃業しているが、明治三十九年(1906)~大正三年(1914)までは濱口家が一時的にその商標を使用し、その後はヒゲタ醤油に合流している。本例と同じように、内面に扇形と十字・網目を描く坏は、調査区一括遺物にもあり、それには、内面に「鏡子 廣庄改」、外面体部に「[ ]中嘉肴第一功」の銘がある。

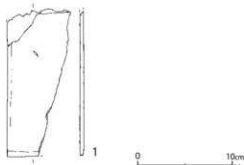
19は肥前系磁器の鉢で、僅かに煤けているが、被熱したものではないであろう。20は肥前系磁器の油壺で、外面に草花文を描く。内面中位

に上下接合痕がみられ、型成形と思われる。21は瀬戸美濃系磁器の土瓶で、全体的に華奢な作りである。22は器種不詳の瀬戸美濃系磁器で、全体が露胎である。23は肥前系磁器の戸車である。

24は瀬戸美濃系陶器の灯明皿で、光沢のある柿釉が施される。体部下位は回転ケズリで整形される。体部下位の重ね焼き痕は径7.0cm、受部上端も径7.0cmである。受部の切り込みはU字形である。25は産地不詳の陶器灯明皿で、灰釉が施される。体部外面下位がケズリ整形され、重ね焼き痕があるなど、製作技法は瀬戸美濃系陶器の灯明皿に準ずる。26は京都信楽系陶器の灯明皿である。器壁は厚手で、受部径が小さい。透明釉は光沢が強い。体部外面には口縁部を除き回転ケズリ痕がみられる。27は柿釉の両手鍋で、体部外面下位の露体部には幅の狭い回転ケズリ痕が明瞭である。28は陶器行平で、外面上位はトビガンナ状の施文、柿釉を施釉後に拭き取っている。ただし、把手部と注口部は柿釉が明瞭に掛けられ拭き取られていない。

29は瀬戸美濃系陶器の柿釉徳利で、べこかん徳利と思われる。釘書き「全」がみられる。30は柿釉が施された陶器の豆甕である。

第198図2・9などの磁器が最新期で、栗橋9期の帰属である。本跡は第2号建物跡の基礎に囲

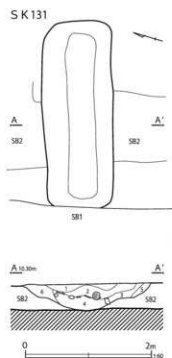


第201図 第66号土壌出土遺物(4)

第108表 第66号土壌出土遺物観察表(3)(第201図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	石板	[15.7]	[6.8]	0.4	81.1	粘板岩	SK66	側面工具痕	113-1





第202図 第131号土壌

まれた中に所在しており、建物跡との併存は考え難い。出土した遺物の様相から第2号建物跡の廃絶後に構築されたものと考えられ、次に示す第131号土壌とともに、建物跡の時期を把握する上で有効な情報を示す土壌である。

第200図1～12は出土した金属製品である。1～4はオイルランプの口金で、平紐の芯を調整する部分である。2に芯を挿入し、4の歯車を回転させて長さを調整する。5は銅製品の針金である。6・7は用途不明の鉛製品である。8～12はいずれも鉄製品で、8は把手金具、9は鎌で、木質の柄の一部も遺存する。10・11は環金具、12は鎌である。

第201図1は石製品の石板で、粘板岩製である。側面が遺存するもので、側縁端部には細かな並行する筋状の工具痕がみられる。同様の工具痕は粘板岩製石板にはよく観察される工具痕で、鋸切断痕の可能性が高い。表面には整形時の研磨による細かい削痕が観察されるのみで、罫線などはみられない。スレート瓦の可能性もあるが、研

磨の整形が丁寧であり全体の出土量も少なく、別の用途と思われる。

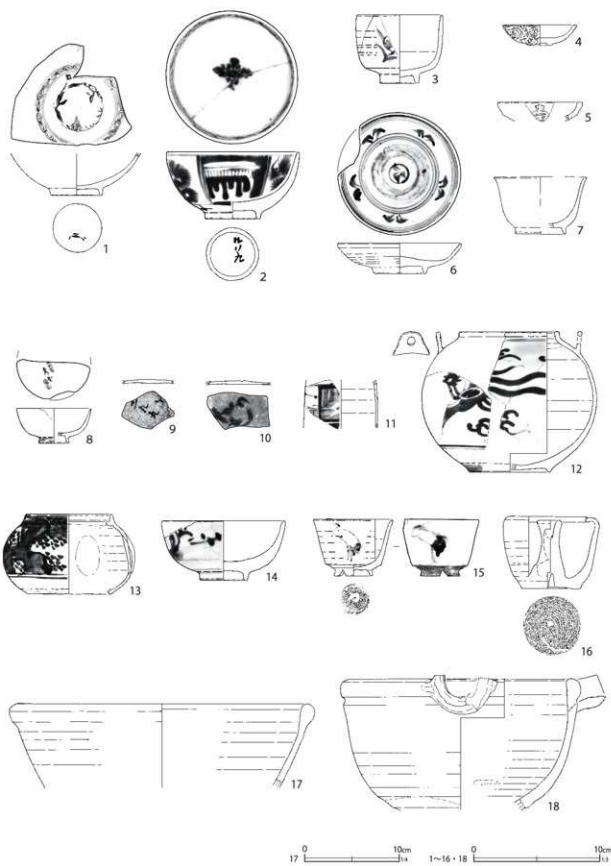
### 第131号土壌（第202～206図）

F7-A6・7グリッドから検出された土壌で、長軸2.96m、短軸1.1mの隅丸長方形を呈する土壌である。第2号建物跡の西側基礎と重複し、断面観察によって本跡のほうが新しいことが把握されている。覆土は一見レンズ状堆積にみえるもので、下層に木材等が多く投棄された状態であるが、最上位では堆積の最終段階に腐食物が溜まった状況もみられる。短期間であろうが、一定の開口期間があったものと思われる。

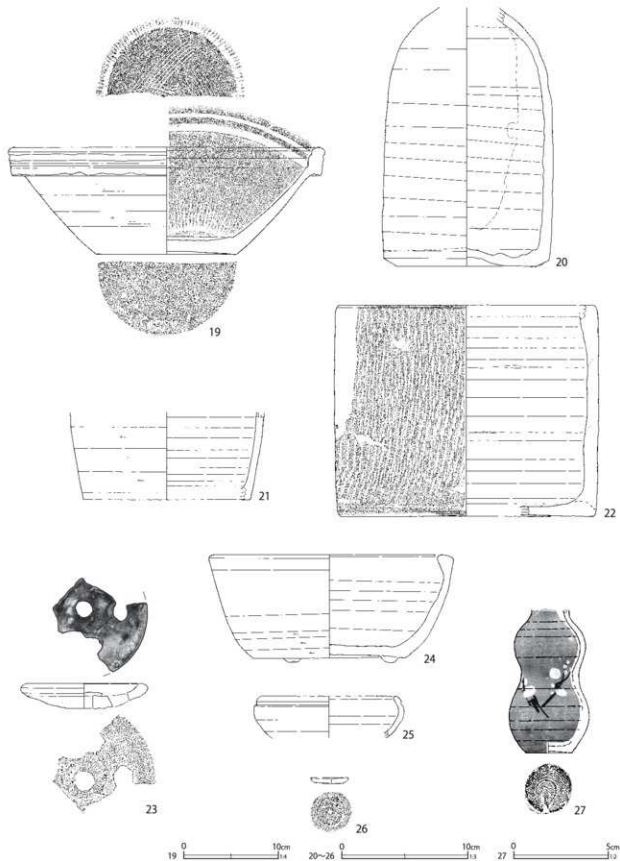
第203・204図には出土した陶磁器類を示す。

1は肥前系磁器の碗で、底部に焼き継ぎ痕がみられる。半球形の碗と思われる。2は瀬戸美濃系磁器の丸碗で、厚手である。非掲載遺物に同文・別個体が1点あり、いずれも焼き継ぎされる。3は肥前系磁器の湯呑形碗である。

4は瀬戸美濃系磁器の紅皿で、外面は陰刻状の蛸唐草文を型押し施文する。5は外面に陽刻状に「壽」文を表す。胎土の特徴から肥前系磁器と考えられる。第112号土壌に同様の紅皿がある。6は肥前系磁器の小型の皿である。内底面は蛇の目状釉剥ぎされる。呉須の発色はやや悪い。7は口縁部が端反になる坏で、染付は施されないが、口紅を施す。8は瀬戸美濃系磁器の坏である。卵殻手酒杯としては厚手だが、口縁部は細く尖る。高台部の外面に酸化コバルト染付で葡萄状文を描く。内面は「東京芝／秀カ屋／健三」の文字が上絵付けされる。9・10は瀬戸美濃系磁器の底部である。9は同心円・沈線状の稜線が巡る露胎部に、焼き継ぎ印がある。10は露胎部に墨書がある。各々、急須ないし土瓶と爛徳利である。11は瀬戸美濃系磁器で、赤絵を施す爛徳利である。12は瀬戸美濃系磁器の土瓶である。焼き継ぎ痕がみられる。底部・口縁部・耳部は各々接点が無いが、図上復元して示した。13は磁器の急



第 203 図 第 131 号土坑出土遺物 (1)



第204图 第131号土坑出土遗物(2)

第109表 第131号土壇出土遺物観察表(1) (第203・204図)

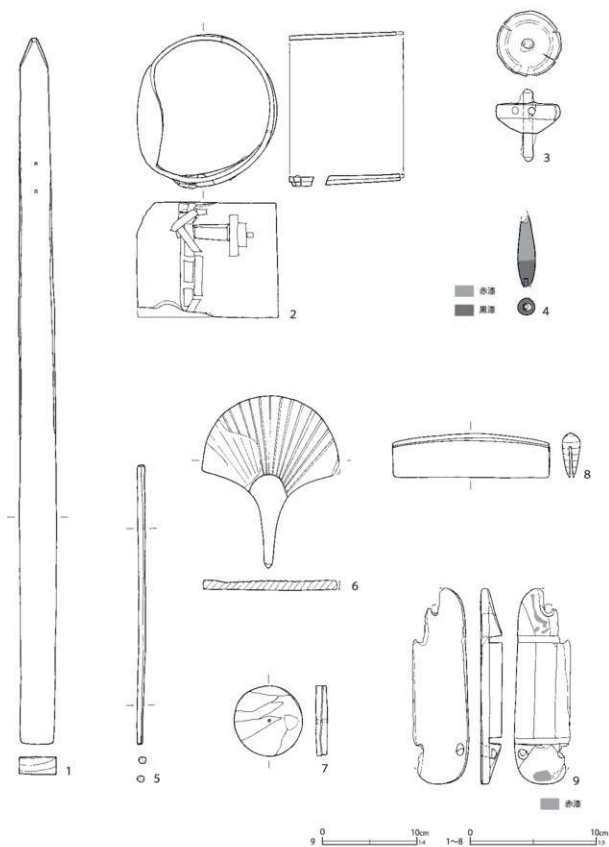
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	-	[3.4]	3.9	-	35	良好	白	SK131	肥前系 内外面施軸・染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤)	126-8
2	磁器	碗	10.4	5.3	4.1	-	100	良好	白	SK131	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤) 同文別個体1あり	126-9
3	磁器	碗	(6.6)	5.4	(3.1)	-	40	良好	白	SK131	肥前系 内外面施軸 外面染付 (湯呑形碗)	
4	磁器	紅皿	5.9	1.6	1.7	-	85	良好	白	SK131	瀬戸美濃系 型成形 内面へ外面上位施軸 外面型押施文	127-1
5	磁器	紅皿	(6.8)	[1.5]	-	-	10	良好	白	SK131	肥前系 型成形 内外面施軸型押施文	127-2
6	磁器	皿	9.6	2.4	4.0	-	95	良好	白	SK131	肥前系 内外面施軸 内面染付・蛇の目状軸割	127-3
7	磁器	坏	(7.2)	4.5	(4.0)	-	45	良好	白	SK131	瀬戸美濃系 内外面施軸 口紅	
8	磁器	坏	(5.8)	2.7	(2.3)	-	40	良好	白	SK131	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面上給付(赤黒) 外面酸化コバルト染付	127-4
9	磁器	急須	-	-	-	-	5	良好	白	SK131	瀬戸美濃系 内面施軸 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤) 高さ[0.3] cm	127-5
10	磁器	燗德利	-	-	-	-	5	良好	白	SK131	瀬戸美濃系 外面施書 高さ[0.3] cm 第242表6	127-6
11	磁器	燗德利	-	[3.8]	-	-	5	良好	白	SK131	瀬戸美濃系 外面施軸・色絵(赤)	127-7
12	磁器	土瓶	(7.8)	11.1	(6.2)	-	30	良好	白	SK131	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 焼き継ぎ痕 接点ない数破片から図上復元	
13	磁器	急須	(6.8)	6.3	(6.6)	-	25	良好	白	SK131	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト染付	
14	陶器	碗	9.6	4.7	3.5	-	70	良好	灰白	SK131	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面須絵	127-8
15	陶器	坏	6.1	4.5	2.7	-	85	良好	灰白	SK131	大塚相馬系か 内外面施軸 外面鉄絵	127-9
16	陶器	乗燗	6.3	5.7	4.6	HK	100	良好	灰白	SK131	瀬戸美濃系 底部糸切痕(右) 内外面柿軸。鉄軸を散らす	
17	陶器	こね鉢	(31.0)	[8.9]	-	IK	15	良好	灰白	SK131	益子系か 内外面施軸	
18	陶器	片口鉢	(17.5)	[10.3]	-	IK	20	良好	灰白	SK131	瀬戸美濃系 内外面灰軸 内面目跡	
19	陶器	播鉢	(32.4)	11.3	(15.0)	DEIK	40	良好	明赤褐	SK131	堺明石系 砂目底 内面罫目	
20	陶器	德利	-	[20.4]	11.0	HK	70	良好	灰白	SK131	瀬戸美濃系 内外面柿軸 底部鉄化粧・目跡4	128-1
21	陶器	涼伊	-	[6.9]	(13.2)	ADM1	10	普通	浅黄橙	SK131	京都系 白色土器質	
22	瓦質土器	燈伊	(20.2)	16.7	(20.0)	CEIK	20	普通	外:灰白 内:黒褐	SK131	砂目底 内面ミガキ後トビガン状施文 燗す 内面下位煤付着	128-2
23	瓦質土器	目皿	(9.0)	2.0	3.4	CIK	30	普通	にぶい橙	SK131	下面糸切痕 被熱・赤化	128-3
24	瓦質土器	火鉢	18.8	8.5	12.0	CHK	50	普通	黄灰	SK131	角閃石を多く含む	
25	土師質土器	把手付鍋	(10.4)	[3.3]	-	CIHK	15	普通	灰黄褐	SK131	内面へ口縁部煤付着	
26	かわらけ	小皿	2.9	0.5	2.2	AHK	100	普通	橙	SK131	江戸在地系 底部糸切痕(左) 焼成前穿孔	128-4
番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	胎土	地成	色調	遺構	備考	図版
27	施軸土器	ミニチュア	-	[7.7]	2.5	40.4	H K	良好	橙	SK131	江戸在地系 底部糸切痕(右) 外面施軸 彩色(黒・白・緑) 胎土粉質 德利	243-9

須で酸化コバルト染付が施される。

14は瀬戸美濃系陶器で、太白手の丸碗である。15は陶器坏で、灰軸の厚い部分は青味を帯び軸白軸に近い。鉄絵で崩れた鶴を二箇所を描いている。高台端部に逆V字状の切れ込みを三箇所入れる。高台内には渦巻き状の窪みがある。大塚相馬系陶器の可能性もある。第99号土壇に同形の坏がある。16は陶器の乗燗で、柿軸に黒色の鉄軸を散らす。胎土の特徴より瀬戸美濃系陶器と考えられる。17は地方窯産の陶器こね鉢で、益

子系陶器の可能性もある。灰軸は光沢が強い。

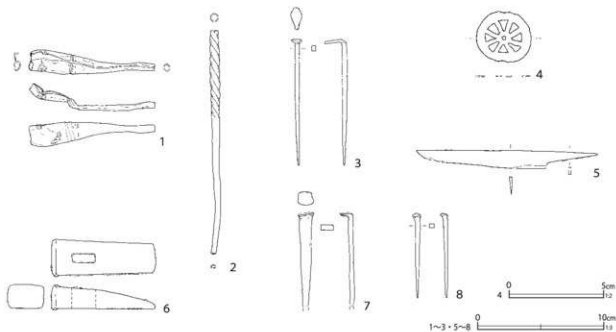
18は瀬戸美濃系陶器の片口鉢で灰軸が掛かる。19は堺明石系陶器の播鉢で、体部外面はケズリ後ヨコナゲ、内面は一単位9本の罫目を有し、内底面は三角形に罫目をつける。20は瀬戸美濃系陶器の德利で、外面に柿軸、内面にも柿軸が流れ込む。底面は回転ケズリで仕上げられており、砂目跡が四箇所ある。露胎部は鉄化粧される。21は京都系の陶器涼伊で白色土器質である。遺存部分が少なく、復元径には若干誤差があるかもしれない



第205图 第131号土坑出土遗物(3)

第110表 第131号土壇出土遺物観察表(2)(第205図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	柄杓の柄	55.5	2.9	1.3	-	-	-	榎目	SK131	孔2	
2	木製品	柄杓	11.9	11.1	0.3~0.4	-	9.0	-	板目	SK131	歪み大 柄孔 樹皮組織 底板をとめた孔 3 内木釘残1	
3	木製品	独索	-	-	-	5.0	5.7	-	分割材	SK131	鉄軸 側面に鉛釘1 釘孔1	263-3
4	木製品	浮子	[5.6]	-	-	1.4	-	-	分割材	SK131	上部赤漆 下部黒漆 下面に孔	263-4
5	木製品	箸	22.1	0.6	0.5	-	-	-	削出し	SK131		263-5
6	木製品	神酒口	13.6	[10.8]	0.7	-	-	-	板目	SK131		
7	木製品	円板	-	-	0.9	5.5	-	-	榎目	SK131	側面に段	
8	木製品	櫛鞘	12.5	3.5	1.4	-	-	-	板目	SK131		
9	木製品	下駄	[20.7]	[6.0]	[2.3]	-	-	-	板目	SK131	陰卵下駄 丸形 裏面赤漆	



第206図 第131号土壇出土遺物(4)

第111表 第131号土壇出土遺物観察表(3)(第206図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	煙管	長さ10.0 小口径1.4×0.5 口付径0.6×0.5 重さ16.2	SK131	潰れる 花文打出し	274-1
2	銅製品	筭か	長さ17.7 径0.6 重さ12.2	SK131	中空 鍍金あり	
3	銅製品	釘	長さ10.0 幅0.3 厚さ0.4 重さ8.0	SK131		279-3
4	鉛製品	玩具か	縦2.7 横2.8 厚さ0.1 重さ2.8	SK131	車輪	
5	鉄製品	刀子	長さ14.4 刃長8.5 刃幅1.4 背幅0.2 重さ13.4	SK131		275-2
6	鉄製品	金鏝	長さ8.3 幅1.9 重さ171.7	SK131		
7	鉄製品	釘	長さ[7.4] 幅1.0 厚さ0.4 重さ12.2	SK131		
8	鉄製品	釘	長さ6.7 幅0.4 厚さ0.3 重さ3.5	SK131		

い。外面は横位のケズリ後にヨコナデされているようである。下端部の狭い範囲は明瞭にヨコナデされる。底面もナデ調整される。

22は瓦質土器の焜炉で、中筒部分が完全に欠

損するものである。外面全面を横位のミガキで処理した後に、体部の大部分にトビガンナ状の施文を行う。底面は外周のみナデ、他は砂目を残す。胎土には少量の角閃石が含まれるが、特に砂目底

部に付着する。23は瓦質土器の目皿である。被熱して上面は黒化、他は赤化している。底面は糸切痕を残す。孔は中心1・周囲5の計六箇所に復元される。胎土に角閃石を含む。24は瓦質土器の丸火鉢である。体部下位は回転ケズリが施される。胎土はやや粉っぽく暗色を呈し、角閃石が多量に含まれている。底面の脚は小型で華奢なものであり、貼り付けた周囲には、幅広く弱い回転ナデが施される。底面の最終調整は、明瞭ではないが、ヘラナデのようである。

25は土師質土器の把手付鍋と考えられるが、通常のものより小型で体部の丸みも強い。外面下端はヨコケズリをナデで消している。胎土には角閃石が含まれる。26はかわらけ小皿としたが、用途は不確実である。底部は左回転の糸切痕、中央に内面側からの焼成前穿孔（径0.3cm）が穿たれる。胎土に微細な雲母を含む。江戸在地系土器と考えられる。

第205図には木製品を示した。

1は柄杓の柄である。曲物を留めた痕跡が残る。2は柄杓の曲物部分である。1と2は別個体である。3は独楽で、鉄軸である。側面に鉛釘が一箇所、釘穴が一箇所みられる。釘により重心がずれるため、釘の意図は不明である。

4は浮子である。下面に金具取付の穴がある。6は神酒口である。上部は扇状の形を呈し、放射状の段が作られる。8は櫛の鞘で、12.5cmと幅広である。9は陰卵下駄で、裏面に赤漆が残る。

第206図は金属製品である。

1の銅製品は煙管の吸い口で、羅字側を中心に潰れている。僅かに花文の打ち出しが確認される。2は一部に振りをもつ中空の銅製品である。鍍金されていることから筭と推定される。3は銅製品の釘である。4は鉛製品と考えられる。車輪を模した玩具の一部の可能性もある。5は全長15cm弱の鉄製品刀子である。6は金鍍で、木製の柄を差し込む孔は長方形である。7・8は鉄釘

である。

## 第1区画のその他の土壌（第207～212図）

第207図に遺構図、第208～212図に出土遺物を示す。これらのほとんどは、区画東部の第2号建物跡の範囲内、あるいは周辺から検出されたものである。その点を踏まえて、以下に第2号建物跡との関係を考慮しながら、各土壌の内容を確認してみたい。

第65号土壌は、長軸2.45mの南北に細長い隅丸長方形の土壌である。第66号土壌の東側に平行して検出された。覆土は木片を含む暗褐色粘質土であった。

第208図1は瀬戸美濃系磁器の坏で、内面に「くりはし」「鯉こく」「稲荷屋」銘を有すものである。船渡町にあった鯉料理屋の稲荷楼（稲荷屋）に関わる遺物であり、これまでも各地点の調査で同文の坏が出土している。本跡から出土した陶磁器には、酸化コバルト染付・銅版転写染付の磁器が含まれている。

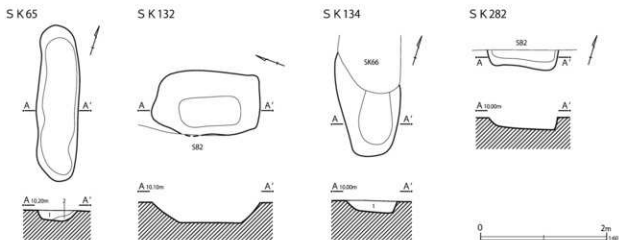
第211図1に示したのは、金属製品の環金具である。銅製でやや楕円形になっている。

このほか、瀬戸美濃系陶器の柿釉甕に強く被熱したものが認められた。

第132号は、第2号建物跡の南側基礎に接して検出されたもので、第2号建物跡を掘り込んでいる。南北に長い隅丸長方形の土壌で、長軸1.65mである。遺物は少ないが、瀬戸美濃系磁器には酸化コバルト染付の端反坏や赤絵を上絵付けした磁器丸碗が認められる。栗橋9期でも比較的早い段階の土壌と考えられる。第134号土壌と接合関係がある陶磁器も認められた。

第210図には、第132号土壌出土の木製品を示した。

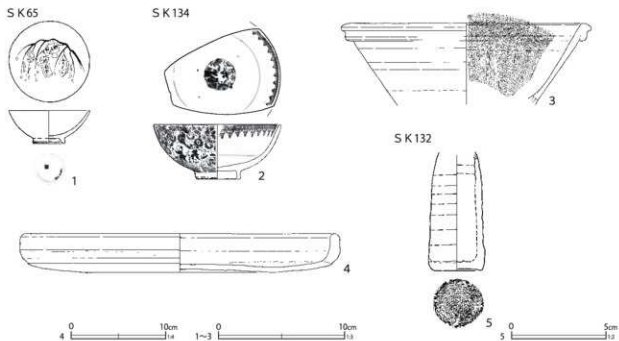
1は漆椀である。内面赤漆塗り、外面黒漆塗りである。2は漆椀蓋で、肩が張る器形である。口縁端部に面が作られる。内外面黒漆塗りである。つまみ内は挿針状にならない。3～7は木札であ



第 65 号土窟  
 1 暗褐色粘土質 白色粒子多量 炭化物粒子少量 小木片含む 粘性弱  
 しまりあり  
 2 暗褐色粘土質 1層より暗い 白色・褐色粒子・炭化物粒子少量 木片  
 含む 粘性・しまりあり

第 134 号土窟  
 1 にふい黄褐色土 オリーブ灰色土中ブロック少量 瓦片を多量に含む

第 207 図 第 1 区画の土壌



第 208 図 第 1 区画の土壌出土遺物 (1)

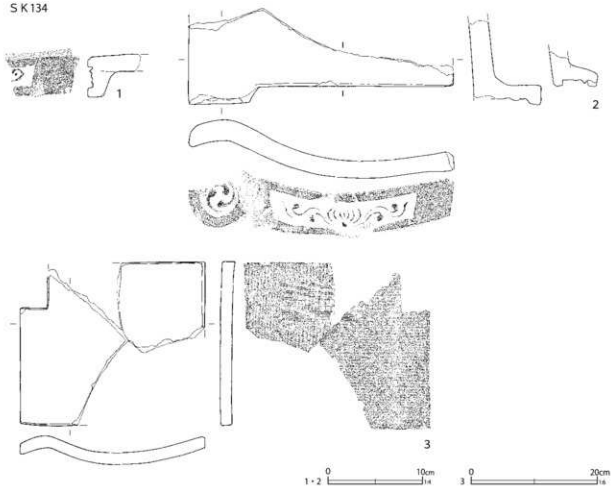
第 112 表 第 1 区画の土壌出土遺物観察表 (1) (第 208 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	坏	6.4	2.6	2.4	-	95	良好	白	SK65	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上給付(金・青) 外面酸化コバルト染付	102-2
2	磁器	碗	(10.0)	4.3	3.3	-	55	良好	白	SK134	瀬戸美濃系 内外面施釉 紙摺給染付	
3	陶器	播鉢	(18.2)	[6.4]	-	IK	10	良好	灰白	SK134	益子系 内外面施釉 内面襷目	
4	土師質土器	焙烙	(32.8)	4.1	(32.2)	CHIK	25	普通	明褐色	SK134	底部シワ状痕 外面煤付着	128-5



番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
5	脇軸土器	ミニ チュア	-	[6.1]	2.7	30.8	A K	良好	黄橙	SK132	江戸在地系 底部系切痕(右) 胎土粉質 外面緑釉 底部白化粧	243-10

SK134



第209図 第1区画の土壌出土遺物(2)

第113表 第1区画の土壌出土遺物観察表(2)(第209図)

番号	種別	器種	長さ	幅	高さ	径	胎土	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒棧瓦	[6.3]	[8.1]	-	AHK	良好	灰白	SK134	胎土硬質	
2	瓦	軒棧瓦	[10.2]	28.1	(7.0)	AIK	普通	灰白	SK134	右巻き	254-1
3	瓦	棧瓦	26.3	[29.7]	-	AIK	良好	灰	SK134	下面に集約的な条線 胎土硬質	

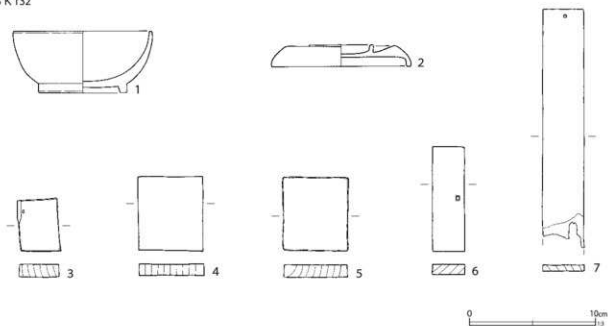
る。3・6・7に目釘痕が認められる。3には「矢野扱/吉岡」、4には「三郎/芳」の墨書が残る。

第211図2には金属製品を示した。銅製の燭台の一部である。第212図1に示したのは石製品で、角閃石安山岩製の磨石である。上下面が使用されている。

第134号土壌は、第66号土壌と重複する土壌である。不整形で長軸1.65m以上の土壌である。覆土は、にぶい黄褐色土の単層で、瓦が多量に含まれている。

第208図2～4には出土した陶磁器を示した。2は、型紙摺絵染付を施す瀬戸美濃系磁器の丸碗である。3は益子系陶器の小型播鉢で、柿釉が施

SK132



第210図 第1区画の土壌出土遺物(3)

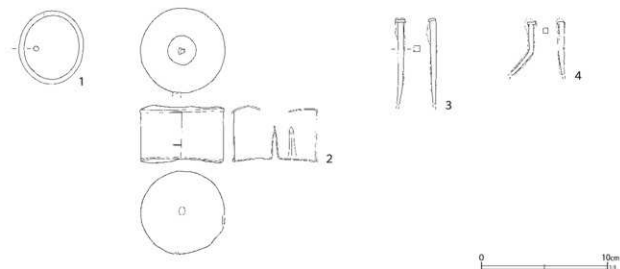
第114表 第1区画の土壌出土遺物観察表(3)(第210図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	漆碗	-	-	-	10.8	4.8	7.0	横木 取り	SK132	内面赤漆 外面・口径縁黒漆	263-6
2	木製品	漆桶蓋	つまみ径 4.4		-	11.0	1.8	-	横木 取り	SK132	内外面黒漆	263-7
3	木製品	木札	4.2	3.3	1.0	-	-	-	板目	SK132	表裏面墨書 第241表20	297-3
4	木製品	木札	5.9	5.2	0.9	-	-	-	板目	SK132	表裏面墨書 第241表18	297-1
5	木製品	木札	5.9	5.2	1.0	-	-	-	板目	SK132	墨書 第241表21	297-4
6	木製品	木札	8.2	2.5	0.8	-	-	-	板目	SK132	表裏面墨書 第241表19	297-2
7	木製品	木札	[18.8]	3.2	0.5	-	-	-	板目	SK132	両側面・裏面炭化 表面墨書 孔1 木釘残 第241表17	296-12

SK65

SK132

SK282



第211図 第1区画の土壌出土遺物(4)

第115表 第1区画の土壌出土遺物観察表(4)(第211図)

番号	種別	器種	法量				遺構	備考	図版
			径	高さ	厚さ	重さ			
1	銅製品	環金具	径5.7×5.1	厚さ0.4	重さ15.3	SK65		278-4	
2	銅製品	燭台	径6.7	高さ2.9	厚さ0.1	重さ42.0	SK132		
3	鉄製品	釘	長さ[6.9]	幅0.5	厚さ0.5	重さ6.8	SK282		
4	鉄製品	釘	長さ[4.3]	幅0.4	厚さ0.4	重さ2.8	SK282		

される。描目は密である。4は土師質土器の丸底の焙烙である。内面は全体的に弱く回転ナデが施され、中央付近のみヨコナデが施される。外面下位のヘラケズリは、ヨコナデによって一部消される。外面に煤が付着する。

第209図1～3には瓦類を示した。1の軒棧瓦は唐草の側縁がいぼ状に波打つもので、子葉は無く、最外の唐草文の内側に珠文状の点が見える。中心飾りの遺存は無いが、唐草の構成から東海式の瓦とみられる。2も軒棧瓦の破片である。中心飾りの蓮華文が片側3枚のもので、そこから左右に延びる唐草は線が細い。3は棧瓦で、下面側に瓦の反りの方向に沿って、集散的な条線が認められるものである。本跡の出土瓦には、図示したものを含めて軒棧瓦片5点(このうち軒丸部分の破片2点、軒平部の中心飾り部分の破片2点)が含まれている。

第282号土壌は第2号建物跡北側基礎と重複し

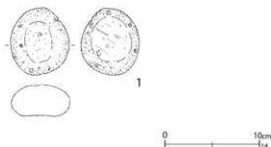
て検出されたものだが、新旧関係は不明である。東西に長い形態で、長軸1.1mが検出された。遺物数が少なく、陶磁器は、磁器8点、陶器・土器各1点に留まった。型紙摺絵染付の磁器蓋が出土している。

以上、第1区画の土壌についてみてきた。

第1区画(区画AA)で最も古い遺物の様相を示すのは第132号土壌である。本跡は第2号建物跡を掘り込むものと視察されているが、建物跡基礎との重複部分はかなり狭い。遺物も建物基礎から出土した陶磁器との時期差があまりなく、重複関係の認定に疑問が生じる。遺物様相からみれば第132号土壌は、第2号建物建築の直前に廃棄された土壌の可能性が高い。

一方で、第132号土壌以外の土壌は、より新しい遺物様相である。以上から、第1区画の土壌は、第132号土壌を除いて、第2号建物跡の解体後に構築されたものではないかと考えられる。

## SK132



第212図 第1区画の土壌出土遺物(5)

第116表 第1区画の土壌出土遺物観察表(5)(第212図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	磨石	7.1	6.2	3.3	77.0	角閃石安山岩	SK132	多孔質 自然面遺存	284-1

## (2) 第2区画 (区画Z)

調査区の南側に位置する。『絵図』では「糸屋伊惣次」、『営業便覧』では「林平治」の区画にあたる可能性が高い。

敷地内を東西に第1号竹樋が縦断し、途中のジョイントから北へ向かう第2号竹樋が派生する。これらは暗渠構造の竹樋と考えられるので、必ずしも敷地の境とは限らない。ただし、敷地東側では第1号竹樋の南北で土壌の様相に若干の差がみられる。竹樋より北側では隅丸方形のやや大

型の土壌(第21・44・45・99号土壌)が集中しており、南側は相対的に楕円形や不整形の小型土壌が多い様相である。竹樋が、敷地内の空間利用が異なる、境界付近に設置された可能性が示唆される。なお、明確な建物跡は検出されていない。

第2区画では、遺物の様相に特徴がある第4号土壌、第1号竹樋北側の大型土壌である第99号土壌、井戸跡の可能性のある第122号土壌を取り上げる。

第117表 第2区画土壌一覧表

単位: m

番号	区画	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	挿図
1	2	F7-A6/7	長方形	3.30	1.20	0.50	N-72°-E	SK40/56/57 重複	227
2	2	F7-A6	不整形	1.10	0.75	0.15	N-50°-E	SK3 より新	227
3	2	F7-A6	隅丸長方形	1.60	0.80	0.15	N-78°-E	SK2 より古 SK19/56 重複	227
4	2	F7-A6	隅丸長方形	1.75	1.00	0.35	N-73°-E	SK37・F7-A6 P2 重複	213
5	2	F7-A6	隅丸方形	1.30	0.85	0.25	N-68°-E		227
6	2	F7-A6	隅丸長方形	0.90	(0.30)	0.10	N-78°-E	SK23 より古	227
7	2	F7-A6	不整形	(1.00)	0.45	0.05	N-60°-E	SK23 重複	227
8	2	F7-A6	隅丸長方形	1.00	0.60	0.15	N-70°-E		227
9	2	F7-A6	不整形	0.75	0.20	0.05	N-77°-E	SD15a 重複	227
10	2	F7-A5	隅丸長方形	1.25	0.55	0.15	N-70°-E		227
11	2	F7-A5	隅丸長方形	0.90	0.60	0.10	N-70°-E	SD15a 重複	228
12	2	F7-A5	隅丸方形	1.80	1.35	0.30	N-80°-E	樋有り	228
14	2	F7-A5	不整形	1.00	0.55	0.20	N-15°-W		228
16	2	F7-A6	円形	0.45	0.40	0.10	N-12°-W	F7-A6 P3 重複	228
17	2	F7-A6	不整形	1.60	1.15	0.15	N-13°-W	SD1・SK18 より古	228
18	2	F7-A6	隅丸長方形	1.25	0.85	0.15	N-13°-W	SD1 より古 SK17 より新	228
19	2	F7-A6	隅丸方形	0.50	0.50	0.30	N-62°-E	SK3 重複	228
20	2	F7-A5	隅丸方形	0.57	0.52	0.20	N-70°-E		228
21	2	F7-A6	隅丸長方形	5.35	1.60	0.50	N-72°-E	桶4・SK45 より古 SK44/49/192 より新	229
22	2	F7-A5	隅丸長方形	1.00	0.60	0.20	N-70°-E		228
23	2	F7-A6	楕円形	0.90	0.40	0.15	N-78°-E	SK6 より新 SK7 重複	227
24	2	F7-A5	隅丸長方形	0.75	0.60	0.10	N-22°-W	SD15a 重複	228
25	2	F7-A6	隅丸長方形	0.96	0.62	0.15	N-65°-E		228
26	2	F7-A6	隅丸長方形	1.80	0.75	0.13	N-67°-E	SK27/64 より新	228
27	2	F7-A6	楕円形か	0.45	0.10	0.10	N-72°-E	SK26 より古	228
31	2	F7-A6	不整形楕円形	1.00	0.70	0.50	N-72°-E	SD15a 重複	228
36	2	F7-A6	不整形	0.45	0.45	0.10	N-82°-W	SK99 重複	229
37	2	F7-A6	楕円形	0.75	0.40	0.10	N-72°-E	SK4 重複	229
40	2	F7-A7	楕円形	2.40	1.55	0.42	N-70°-E	SK1 重複	229
41	2	F7-A5/6	隅丸長方形	3.10	0.60	0.10	N-70°-E	SK52 より新 SK295 重複	229
44	2	F7-A6	隅丸長方形	2.20	1.95	0.50	N-15°-W	SD1・SK21/45 より古	229
45	2	F7-A6	隅丸長方形	1.10	0.90	0.40	N-20°-W	SD1 より古 SK21/44 より新	229
49	2	F7-A6	隅丸長方形	0.85	(0.65)	0.23	N-20°-W	SD1・SK21 より古 SK192 より新	229
51	2	F7-A5	隅丸方形	0.55	0.50	0.10	N-75°-E	SD1 より新	230
52	2	F7-A5/6	不整形	1.60	1.20	0.45	N-70°-E	SK41 より古	229
53	2	F7-A6	隅丸方形	0.80	0.80	0.20	N-70°-E	SK64 より新	230
55	2	F7-A5	隅丸方形	0.85	0.85	0.35	N-25°-W	SD1 より古	230
56	2	F7-A6	隅丸長方形	(0.85)	0.70	0.40	N-55°-E	SK1/3 重複	230
57	2	F7-A6	楕円形	(0.40)	0.35	0.20	N-74°-E	SK1 重複	230

番号	区画	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	押図
58	2	F7-A6	隅丸長方形か	1.05	(0.30)	0.20	N-72°-E	SD1より古	230
64	2	F7-A6	隅丸長方形	1.95	0.45	0.13	N-72°-E	SK26/53より古	230
69	2	F7-A6	不整形	0.80	0.70	0.20	N-77°-E		230
74	2	F7-A5	隅丸長方形	0.95	0.60	0.15	N-12°-W	SD16重複	230
83	2	F7-A6	槽円形	0.73	0.46	0.05	N-78°-E		230
84	2	F7-A7	隅丸長方形	0.75	0.50	0.03	N-18°-W		230
88	2	F7-A7	隅丸長方形	0.70	0.70	0.15	N-5°-W		230
90	2	F7-A7	隅丸長方形	0.45	0.35	0.25	N-28°-W		230
91	2	F7-A7	隅丸長方形	0.60	0.60	0.15	N-45°-E		230
92	2	F7-A7	円形	0.40	0.40	0.20	N-65°-E		230
95	2	F7-A5	槽円形	0.90	(0.65)	0.10	N-80°-W	SD1・SK117より新	231
99	2	E7-J6 F7-A6	隅丸長方形	(1.60)	1.45	0.60	N-76°-E	SK122より古 SK36重複	217
117	2	F7-A5	隅丸長方形	1.60	1.10	0.30	N-20°-W	SD1・SK95より古	231
118	2	F7-A6	隅丸長方形	0.70	0.65	0.15	N-80°-W	SK280重複	231
122	2	E7-J6/7 F7-A6/7	不整形	4.00	4.00	(1.00)	-	SK99より新 SD1/4重複	222
192	2	F7-A6	隅丸長方形	1.43	(1.00)	(0.30)	N-20°-W	SD1・SK21/49より古	229
280	2	F7-A6	隅丸長方形	1.00	0.75	0.20	N-77°-E	SK118重複	231
292	2	F7-A5	不整形	0.40	0.35	0.25	N-80°-E		231
295	2	F7-A5	槽円形	1.10	0.70	0.10	N-78°-E	SK41重複	231
688	2	F7-A5	隅丸長方形	1.45	(1.00)	0.42	N-20°-W	SD2より古	230

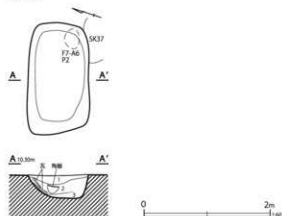
#### 第4号土壌 (第213～216図)

F7-A6グリッドで検出された隅丸長方形の土壌で、長軸1.75m、短軸1.0mである。覆土は3層に分けられるが、いずれも粘性のある暗灰色土で変化に乏しい。以下に示すように底面付近から笠間系陶器の糠白釉青流掛壺が出土し、ほぼ完形に復元された。

第214・215図に出土した陶磁器を示した。

1～4は瀬戸美濃系磁器の碗である。1は厚手の丸碗、2は端反碗である。2の内面には木型打込に染付を施している。3は湯呑形碗で、遺存部分に染付はみられない。4は型紙摺絵染付の平碗である。5は酸化コバルト染付で鹿の子模様を描く湯呑形碗で、第5号土壌のもの(第233図12)と同形同文であるが別個体である。6～8は瀬戸美濃系磁器の坏である。6は端反形坏で、腰が張る。外面は連続的に面取りされ、雁と思われる鳥と漢詩文を酸化コバルトで染付する。7も端反形の坏で、外面は酸化クロム青磁釉の上に絵付けされる。8は背の低い端反形坏で、外面は涙滴形に面取りされる。絵付けはみられない。高台は蛇の

#### SK4



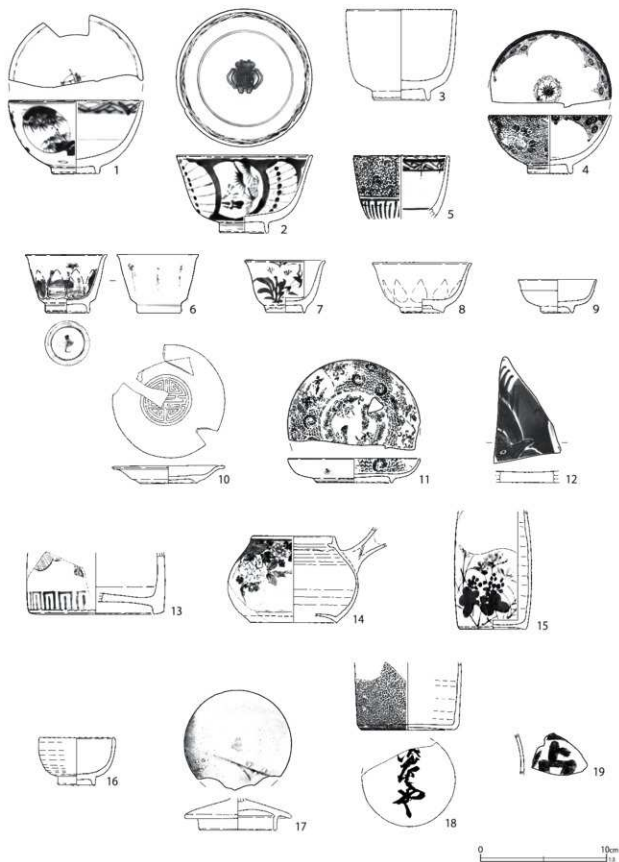
#### 第4号土壌

- 1 暗灰色土 粘質 褐色粒子多量 粘性強 しまり強
- 2 暗灰色土 1層より暗い 褐色粒子多量 炭化物粒子少量 粘性あり
- 3 暗灰色土 1層より暗い 褐色粒子・炭化物粒子少量 粘性・しまりあり

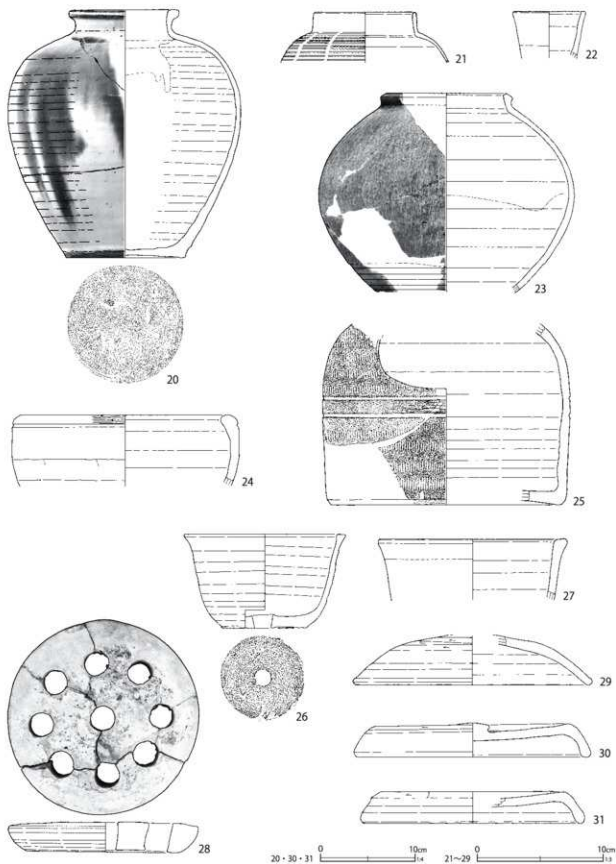
第213図 第4号土壌

目状に成形され露胎とする。9は白磁の坏で、外面中位に弱い突帯を巡らせる。

10・11は瀬戸美濃系磁器の皿で、10は型押壽文皿である。11は型紙摺絵染付の皿だが、外面にも崩れた文字を染付する。12は肥前系磁器の大皿の底部とみられ、酸化コバルト染付で絵付けされる。13は肥前系磁器の香炉で、外面に蓮弁



第214图 第4号土坑出土物(1)



第215图 第4号土坑出土遗物(2)

第118表 第4号土坑出土遺物観察表(1)(第214・215図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	(10.5)	5.7	(3.6)	-	45	良好	白	SK4	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
2	磁器	碗	10.6	6.1	3.7	-	100	良好	白	SK4	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 (湯反碗)	85-4
3	磁器	碗	(8.5)	7.1	4.4	-	50	良好	白	SK4	瀬戸美濃系 内外面施釉 (湯呑形碗)	
4	磁器	碗	(9.6)	4.6	3.5	-	55	良好	白	SK4	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面紙摺染付	
5	磁器	碗	(7.3)	[5.0]	-	-	25	良好	灰白	SK4	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付 (湯呑形碗)	
6	磁器	坏	6.3	4.6	3.3	-	95	良好	白	SK4	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	
7	磁器	坏	6.4	4.1	3.0	-	65	良好	白	SK4	瀬戸美濃系 内外面施釉 (外面酸化クロム青磁釉) 外面染付 (茶・緑・白盛)	
8	磁器	坏	7.7	3.9	3.4	-	95	良好	白	SK4	瀬戸美濃系 内外面酸化クロム青磁釉 高台内露胎 蛇の目状高台	
9	磁器	坏	6.1	2.6	2.3	-	95	良好	白	SK4	瀬戸美濃系 内外面施釉	
10	磁器	皿	8.5	1.3	4.5	-	70	良好	白	SK4	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押文 (型押書文皿)	85-5
11	磁器	皿	10.4	1.9	6.0	-	60	良好	白	SK4	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型紙摺染付 外面染付	
12	磁器	皿	-	[0.9]	-	-	5	良好	白	SK4	肥前系 内外面施釉・酸化コバルト染付	
13	磁器	香炉	-	[4.9]	(9.2)	-	25	良好	白	SK4	肥前系 外面施釉・染付 高台内露胎 内底面砂付着	
14	磁器	急須	6.4	[7.7]	(6.9)	-	35	良好	白	SK4	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	
15	磁器	燗徳利	-	[9.4]	5.2	-	35	良好	白	SK4	瀬戸美濃系 内外面施釉 (外面酸化クロム青磁釉) 外面染付 (緑・茶・白盛)	
16	陶器	坏	(5.8)	3.7	2.6	IK	55	良好	灰白	SK4	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内底面に赤色付着物微量あり	
17	陶器	蓋	-	[2.5]	5.8	HK	90	良好	灰白	SK4	上面鉄釉・鉄絵・白盛 一部焼熟・黒化 最大径8.5cm (土瓶蓋)	85-6
18	陶器	水注か	-	[5.3]	7.4	K	20	良好	にぶい橙	SK4	外面軟肌釉 内面薄鉄釉 底部墨書	85-7
19	陶器	徳利	-	[3.2]	-	IK	5	良好	灰黄	SK4	内面鉄釉 外面灰釉・呉須絵で文字「店」	
20	陶器	壺	10.5	26.2	12.6	EIK	95	良好	楊灰	SK4	笠間系 底部赤切痕(右)・白化斑 外面糠白釉に緑釉流し掛け	86-1
21	陶器	土瓶	(7.8)	[4.0]	-	-	5	良好	赤	SK4	胎土垢質	85-8
22	土師質土器	焼塩壺	(5.6)	[3.7]	-	AIK	10	普通	橙	SK4	胎土粉質 焼熟・赤化	
23	陶器	土瓶	(9.4)	[15.7]	-	IK	25	良好	にぶい黄橙	SK4	松岡系 外面海鼠釉・下位煤付着	86-2
24	瓦質土器	火鉢	(16.4)	[5.6]	-	CIK	10	普通	灰白	SK4	口縁部ミガキ 燻す	
25	瓦質土器	手焙り	-	[14.3]	(18.2)	CEIK	10	普通	黒・灰	SK4	外面トビガンナ状施文 沈殿区画内ミガキ燻す 窓部に二次敲打痕	
26	瓦質土器	槌木鉢	(12.6)	7.4	6.6	CHK	60	普通	外:灰白 内:灰白	SK4	底部赤切痕(右)・穿孔	
27	瓦質土器	槌木鉢	(14.5)	[4.8]	-	AEIK	10	普通	灰白	SK4	胎土粉質	
28	瓦質土器	目皿	14.9	2.3	11.9	CHK	100	普通	にぶい橙	SK4	下部シワ状痕 上面焼熟・白化	86-3
29	瓦質土器	蓋	-	[3.9]	(18.6)	CEPHK	15	普通	にぶい橙	SK4	やや酸化炭焼成 口縁部煤少量付着	86-4
30	瓦質土器	蓋	20.7	3.6	24.5	BCI	85	普通	黒	SK4	上面砂目 内面(下面)に円弧状の圧痕あり(火消蓋蓋)	86-5
31	瓦質土器	蓋	(19.5)	[3.3]	(22.9)	CEPHI	40	普通	灰褐・黒	SK4	上面砂目(火消蓋蓋)	

文や丸文と思われる染付をくすんだ色調で施す。高台曇付部まで施釉し、高台内は露胎とする。14は瀬戸美濃系磁器の急須で、酸化コバルト染付で花文を描く。15は瀬戸美濃系磁器の燗徳利で、酸化クロム青磁釉を施す。外面の絵付けには白盛で花が描かれ、その上に桃色を加えている。

16は瀬戸美濃系陶器の坏である。内面と外面

の一部に、僅かながら赤色の色素が沈着している。17は、上面に灰釉を厚く施釉した土瓶蓋である。鉄絵と白盛で梅樹文を描く。胎土は均質でやや軟質な印象である。18は軟肌釉を施す薄手の陶器で、水注であろうか。19は陶器徳利で、胴部には呉須で「店」の文字を書く。20は笠間系陶器の壺で、糠白釉に緑釉を流し掛ける。底



部は、一見、離し糸切りのような右回転糸切痕を残す。底部の露胎部に白化粧が施される。内面は透明釉が掛けられ、ロクロ目が強い。胎土は緻密で施釉部分は還元しているが、露胎部の一部では黄橙色を呈する。所謂「糠白釉青流掛」の壺で、二彩釉の流し掛けとともに空間焼を特徴づける軸葉である（茨城県陶芸美術館2010）。

21は薄手の陶器土瓶である。胎土は拓器質で、備前系陶器に類似する。22は土師質土器の焼塩壺で、口縁部は平坦になる。胎土に微細な白雲母が含まれるが量は多くはない。被熱によって赤化する。23は松岡系陶器で、大振りの土瓶である。外面に海鼠釉をかける。外面体部下位の露胎部には、幅の狭いケズリが施される。底部下位に使用による煤の付着がみられる。24は丸火鉢で、口縁部にミガキが施される。体部はヨコナデで仕上げられるが、下位には先行してヨコケズリがみられ、これをナデ消している。断面の中心部は黒く、周囲は灰白色、表裏面は黒く燻される。胎土には角閃石を多く含む。

25は瓦質土器の手焙りで、外面にはトビガンナ状施文がある。中位には横沈線による区画を作り、その中をミガキ処理する。断面中心は黒色だが、周囲は灰色を呈する。表裏面は燻されて黒

い。胎土には角閃石と白色微粒子が多く含まれる。窓は一部しか残っていないが、下位に外側からの二次敲打痕がみられる。

26、27は瓦質土器の植木鉢で、胎土は類似するが、26の方がより硬質で角閃石を一定量含む。一方で27は胎土が粉っぽいもので、雲母を多く含む。26は全体に造りが華奢で薄手のものである。底部には右方向の回転糸切痕が残る。断面中心は黒みの強い灰色で周囲と表裏面は灰白色である。27も同様に断面中心は灰色、周囲と表裏面はやや黄色味を帯びた灰白色である。後者は江戸在地系の可能性が高い。

28は瓦質土器の目皿である。色調は被熱により橙色を帯びる。下面には成型時のシワ状痕跡が無調整で残る。外面は下位にケズリを施した後、全体がヨコナデされケズリは消されている。上面を回転ナデ後に穿孔（九箇所）したものとみられる。使用時の被熱により白色化し、若干の付着物がある。

29は瓦質土器の蓋としたが、全体的に酸化炎焼成ぎみのものである。胎土には軽石粒と思われる白色粒子が含まれる。上部は回転ケズリで処理している。内面～口縁部に少量の煤が付着している。30・31は瓦質土器の火消壺の蓋である。30

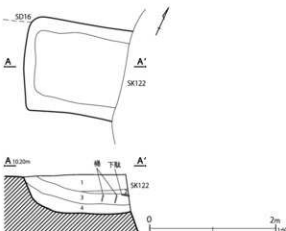


第216図 第4号土壙出土遺物（3）

第119表 第4号土壙出土遺物観察表（2）（第216図）

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	石製品	石筆	長[3.9] 径0.6 重さ2.8	SK4	滑石 茶色味帯びる	284-2
2	石製品	石筆	長[3.7] 径0.6 重さ1.7	SK4	滑石 白色不透明	284-2
3	鉄製品	鍋	口径(23.4) 器高[3.9] 厚さ0.2 重さ99.9	SK4		284-2

SK 99



第99号土壌

- |        |     |              |                |          |
|--------|-----|--------------|----------------|----------|
| 1 暗灰色土 | 粘質  | 炭化物・粘土ブロック少量 | 粘性あり           | しまり強     |
| 2 暗灰色土 | シルト | 炭化物多量        | 粘性・しまりあり       |          |
| 3 暗灰色土 | シルト | 炭化物多量        | 粘土ブロック少量       | 粘性・しまりあり |
| 4 暗灰色土 | シルト | 腐植土多量        | (褐色の腐植土が層状に堆積) |          |
|        |     |              | 粘性あり           | しまり弱     |

第217図 第99号土壌

は中心が大きく窪む蓋で、つまみの上面と周囲に回転ナデ痕が顕著に残る。上面は砂目状痕跡、体部上位はケズリが施される。内面（下面）の中央部に円弧状の圧痕があるが、何の痕跡かは不明である。内面を中心に黒化しているが、使用痕と考えられる。厚手で胎質は悪い。31もほぼ同形態と思われる。断面中心は黒く、周囲及び表裏面はやや黄色味を帯びた灰白～灰褐色である。体部上位は明瞭なケズリが巡る。外面下位～内面にかけて黒化している。

遺物から、本跡は栗橋9期の帰属とみられる。第214図4・11に示したように型紙摺絵染付の磁器が認められ、笠間系陶器の流通時期を考える上でも興味深い一括遺物である。

第216図1・2は石製品の石筆である。1は白色不透明、端部的一方を使用する。反対側は欠損する。2はやや黄褐色味を帯びて僅かに透明感がある石材である。両端とも使用面とするが、下端側を特に良く使用している。

第216図3は鉄製品の鍋である。口縁部が大きく横方向に広がり、水平な口唇部を形成する。

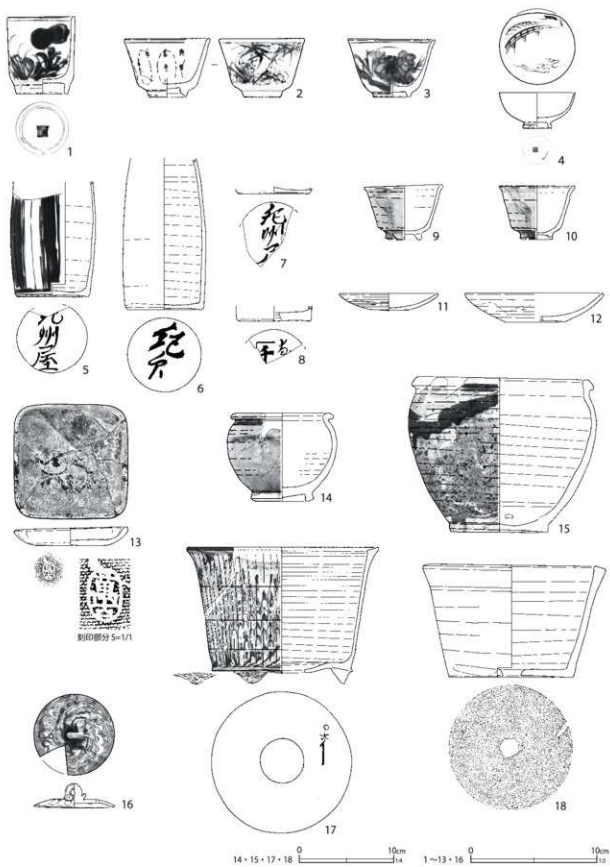
## 第99号土壌（第217～221図）

E7-J6、F7-A6グリッドに位置する隅丸長方形プランの土壌である。東側を第122号土壌に掘り込まれており、本跡のほうが古い。遺存長1.6m、幅1.45mである。覆土は暗灰色系のシルト質土で4層に分層されており、下層に腐食物が層状に堆積する状況が認められた。一定期間、廃棄土壌として開口した後に、上部を埋め戻した可能性が考えられる。

第218図に出土した陶磁器類を示した。

1は瀬戸美濃系磁器の坏で、筒形・湯呑形のものである。酸化コバルト染付が施される。同文の個体が他に2個体ある。2・3は瀬戸美濃系磁器の坏で、端反形である。2は外面に酸化コバルト染付で、草文と漢詩の一節が描かれる。同文が他に1個体ある。3は酸化コバルト染付で草花文を描く。4は瀬戸美濃系磁器の卵殻手酒杯である。5～8は瀬戸美濃系磁器の爛徳利である。5の外面には酸化コバルト染付が施される。底部に「紀州屋」の墨書がある。6の遺存範囲に染付はみられない。底部には「紀印」の墨書がある。7も「紀州屋」の墨書がある底部破片である。僅かに残る体部下端に圏線が染付されている。8は「斤」の墨書がある。底部が厚手である。

9・10は同形の陶器坏で、灰釉の厚い部分は糠白釉に近い。鉄絵で崩れた鶴を二箇所を描いている。高台端部に逆V字状の切れ込みを三箇所入れる。高台内には渦巻き状の窪みがある。11は灰釉を施軸する陶器灯明皿で、底部・体部は回転ケズリが施される。釉薬はやや厚く僅かに緑色味を帯びた灰色、胎土は灰色で硬質・緻密である。地方窯系の製品と考えられる。12は柿釉が施された薄手の陶器灯明皿である。釉薬は瀬戸美濃系の灯明皿に類似するが、胎土はザックリした印象で、細かな白色粒子・黒色粒子を多く含む橙色系の色調である。体部は口縁部を除き回転ケズリ、底部も回転ケズリが施される。重ね焼き痕はみら



第 218 图 第 99 号土坑出土遗物 (1)

第120表 第99号土壌出土遺物観察表(1)(第218図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	坏	5.1	6.1	3.9	-	95	良好	白	SK99	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 同文別銅体2あり	
2	磁器	坏	6.6	4.6	2.8	-	100	良好	白	SK99	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 同文別銅体1あり	
3	磁器	坏	6.8	4.6	2.6	-	100	良好	白	SK99	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	
4	磁器	坏	6.0	2.8	2.2	-	95	良好	白	SK99	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 内面(上給付(青・茶)(御殿手酒杯)	108-3
5	磁器	麴徳利	-	[9.1]	5.6	-	20	良好	白	SK99	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 底部墨書「記州屋」	108-6
6	磁器	麴徳利	-	[12.0]	5.8	-	60	良好	白	SK99	瀬戸美濃系 内外面施釉 底部墨書「記印」	108-7
7	磁器	麴徳利	-	[0.5]	(5.6)	-	5	良好	白	SK99	瀬戸美濃系 外面施釉・染付 底部墨書「記州屋」	108-4
8	磁器	麴徳利	-	[1.2]	(5.6)	-	5	良好	白	SK99	瀬戸美濃系 外面施釉 底部墨書「印」	108-5
9	陶器	坏	6.0	4.3	2.4	IK	100	良好	灰白	SK99	大塚相馬系か 内外面灰釉(鎌白釉に近い) 高台切込3箇所	108-8
10	陶器	坏	5.9	4.2	2.2	IK	70	良好	灰白	SK99	大塚相馬系か 内外面灰釉 高台切込3箇所	108-9
11	陶器	灯明皿	7.7	1.3	3.0	IK	55	良好	灰	SK99	内面～外面上位灰釉	109-1
12	陶器	灯明皿	10.8	2.3	(4.8)	IK	50	良好	にぶい橙	SK99	内面～外面上位柿釉	109-2
13	陶器	皿	8.6	1.4	5.5	C	100	良好	浅黄橙	SK99	萬古系 内外面施釉 内面鉄絵 底部布紋・刻印「萬古」	109-3
14	陶器	甕	(9.6)	9.3	5.6	IK	70	良好	灰白	SK99	内外面柿釉 外面鉄軸流し掛け 小型	
15	陶器	甕	17.7	16.5	10.4	IK	90	良好	灰白	SK99	内外面柿釉 外面鉄軸流し掛け 内底面目録5 蛇の目状高台	
16	陶器	蓋	-	1.9	6.4	K	90	良好	にぶい橙・にぶい赤褐	SK99	胎土二色練込み 上面しのぎ状施文 穿孔1	109-4
17	陶器	植木鉢	(20.2)	(14.4)	14.8	I	50	良好	にぶい黄橙・にぶい赤褐	SK99	胎土二色練込み 体部しのぎ状施文 底部穿孔・墨書「〇大イ」 土下接点ない破片から図上復元	109-5
18	瓦質土器	植木鉢	17.4	12.0	13.2	AIK	85	普通	灰白	SK99	底部糸切痕をナゲ消し・穿孔 胎土粉質濃厚	



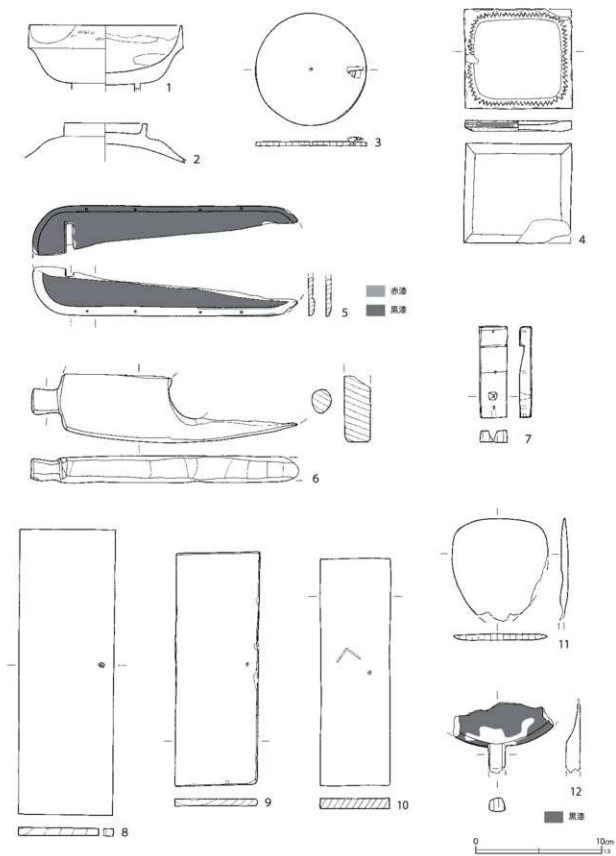
第219図 第99号土壌出土遺物(2)

第121表 第99号土壌出土遺物観察表(2)(第219図)

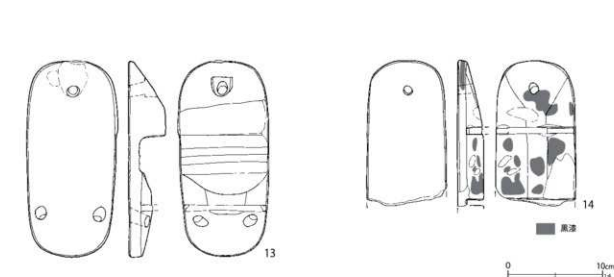
番号	種別	器種	長さ	幅	高さ	径	胎土	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒椀瓦	[11.9]	[21.8]	-	AIK	普通	灰白	SK99		250-9
2	瓦	軒椀瓦	[3.4]	[8.6]	6.7	AIK	普通	灰	SK99	右巻き 胎土軟質	
3	瓦	軒椀瓦	[3.0]	[9.1]	-	AIK	普通	灰白	SK99		

れない。地方窯系の製品である。13は型成形の陶器皿で、平面形は隅丸方形を呈する。軟質施釉土器質である。底面に布疋痕と「萬古」の刻印があり、萬古焼とみられる。内面の軸葉は鉛釉と思われる、黄白色を基調に一部緑釉とするものらしいが、剥落・変色している。鉄絵で文様を描く。

14・15は陶器の柿釉甕である。いずれも胎土は緻密で長石とみられる白色粒子を含む。外面露体部は、にぶい黄橙色を帯びる。同一産地のものであろう。14は小型で高台は輪高台状、15の高台は低い蛇の目状になる。16は練り込み手の土瓶蓋で、つまみはキノコを模す。17は練り込み手



第 220 図 第 99 号土坑出土遺物 (3)



第221図 第99号土壇出土遺物(4)

第122表 第99号土壇出土遺物観察表(3)(第220・221図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	漆桶	-	-	-	12.2	[5.2]	-	横木取り	SK99	内面赤漆 朱で文様 外面黒漆 金で文様 一部赤漆 口縁金	259-5
2	木製品	漆桶蓋	つまみ径(6.5)			-	[3.0]	-	-	SK99	内面赤漆 外面黒漆	
3	木製品	曲物	-	-	0.3	8.8	-	-	柱目	SK99	蓋 樹皮紐 木釘残 孔1	
4	木製品	漆小皿	7.3	8.5	-	-	0.8	-	横木取り	SK99	内外面黒漆 角型 口縁部文様 外面・底部細からし筋	259-6
5	木製品	膳	[4.0]	[28.1]	0.6	-	-	-	板目	SK99	表面黒漆 縁に赤漆残 裏面・側面黒漆 木釘残存 脚の一部残存	
6	木製品	井戸桶部材	5.2	[21.1]	2.2	-	-	-	板目	SK99		
7	木製品	柄杓	7.2	2.2	0.9	-	-	-	柱目	SK99	小楕 柄孔1 木釘4	
8	木製品	木札	22.6	7.6	0.6	-	0.6	-	板目	SK99	表面黒漆 第241表11	296-6
9	木製品	木札	18.7	6.7	0.5	-	0.5	-	板目	SK99	黒書 第241表12	296-7
10	木製品	木札	18.0	5.5	0.8	-	-	-	板目	SK99	表面焼き印(ヤマ) 孔(未貫通)1箇所	
11	木製品	杓子	[8.1]	7.6	0.5	-	-	-	柱目	SK99	裏面赤漆	
12	木製品	杓子	[5.6]	受部幅 [7.9] × 1.0 柄幅 1.3 × 1.1		-	-	-	柱目	SK99	全面黒漆	259-7
13	木製品	下駄	20.6	9.7	-	-	[3.9]	-	板目	SK99	後側下駄	259-8
14	木製品	下駄	[15.4]	8.5	-	-	[2.8]	-	板目	SK99	陰側下駄 側面・裏面黒漆	

の植木鉢で、体部外面にしのご状の施文を行う。脚側面に裝飾を伴う。18は瓦質土器植木鉢である。微細な雲母粒を少量含む軟質な胎土で、江戸在地系と考えられる。胎土はほぼ還元炎焼成である。底面は糸切痕をナデ消している。外面下位にヘラの当たりが見られるが、底部下端の外周を削った際の痕跡と思われる。陶磁器の様相から、本跡の廃絶は9期でも比較的早い段階と思われる。

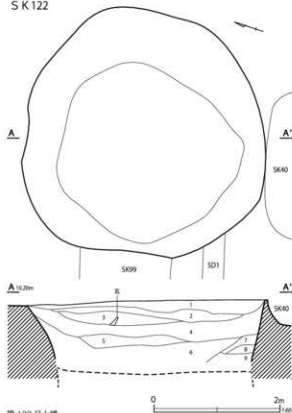
第219図は出土した瓦で、全て軒椀瓦である。1は中心飾りが片側3弁の蓮華文、左右に延びる

唐草の巻きがほとんど認められない。2は軒丸部分で珠文の無い三つ巴文である。本跡からはもう一点、軒椀瓦の破片(軒平部分、中心飾りの遺存無し)が出土している。

第220・221図は木製品である。1は漆桶で、口縁近くに稜をもつ器形である。内面赤漆、外面黒漆、口縁は金である。内面には朱で、外面には金で文様が描かれる。4は全面黒漆塗りの皿である。口縁部に鋸歯状の文様、外面には線状の刻みが施される。5は膳である。全面黒漆塗りで側面の一部に赤漆が残存する。8は木札で、表面に

「武州栗橋□□入甚□/春木屋 [ ]」、裏面に「[ ] 四/荷物安□」の墨書が見られる。9は木札で、「紀州」の墨書が残る。11は杵子で、裏面に赤漆が残存する。受部に窪みがなく平坦である。12は杵子で、全面黒漆塗りである。13は割り下駄で、後歯を差し込む形である。前壺周辺には窪みが作られる。14は陰卵下駄で、側面と裏面に黒漆が残存する。

本跡では、「紀州屋」等の墨書がある磁器の爛徳利がたくさん出土し、木製品の墨書にも認められる。後述の「第2区画の土壌」の中で扱う第40・44・192号土壌からも「紀州屋」「紀印」関連の墨書資料が出土しているが、时期的に栗橋9期の古い段階の遺構に集中しており、本跡の時期SK122



第122号土壌

1 暗灰褐色土	シルト質	炭化物多量	焼土粒子少量	しまり・粘性あり
2 暗灰褐色土	砂質	炭化物少量		
3 暗灰褐色土	シルト質	暗黄砂質土少量	炭化物多量	しまり・粘性あり
4 暗灰褐色土	シルト質	炭化物・暗灰色土含む	しまり・粘性あり	
5 暗灰褐色土	シルト質	炭化物含む	白色粒子少量	しまり・粘性あり
6 暗灰褐色土	シルト質	炭化物・焼土粒子少量	白色粒子含む	しまり・粘性あり
7 暗灰褐色土	シルト質	暗灰色土含む	炭化物少量	しまり・粘性あり
8 暗灰褐色土	粘質	炭化物・白色粒子少量	しまりあり	粘性強
9 暗灰色土	粘質	炭化物少量		

第222図 第122号土壌

と一致する。紀州屋関連の墨書は、第15号溝跡の陶磁器に若干みられるほか、第4区画の第140号土壌の植木鉢に墨書がみられる。木製品では、やはり第4区画の第159号土壌から「紀州屋殿行」と書かれた木札が、第3区画の第309号土壌から「紀州屋喜右衛門様行」と書かれた木札が出土している。

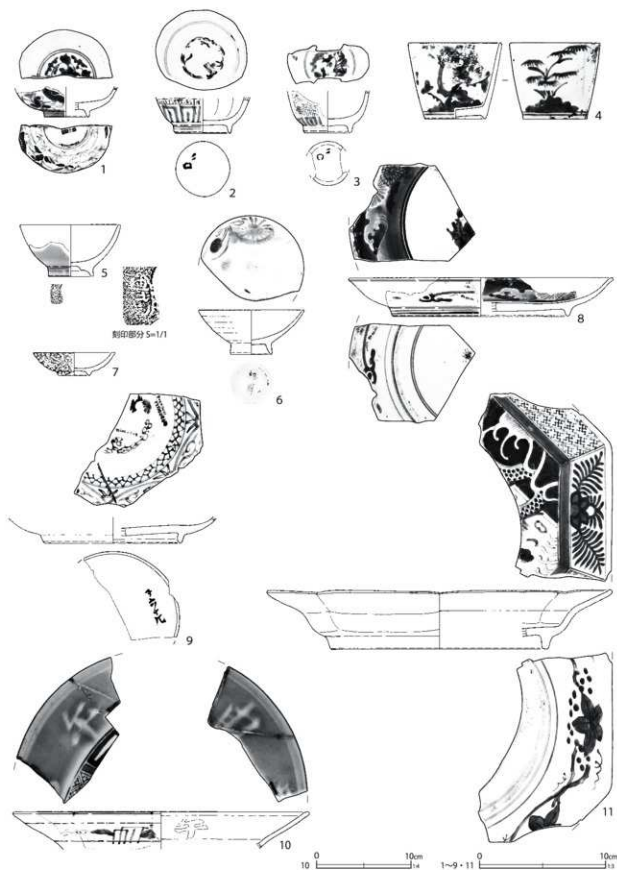
「紀州屋」は『営業便覧』の「荒物商 紀州屋坂庭重蔵」の記載から、第3区画(区画Y)に相当するものと考えられる。しかし、関連文字資料の出土傾向は、前述のとおり、南隣の第2区画から多く出土している。第3区画の土壌数が少ないことが一因であろう。ただし、第3区画を横断する竹樋が、第2区画から導水されていること、明治6年の栗橋宿を記録した『深光寺所蔵絵図』に、2つの区画の所有者が同じ「坂庭」姓であることなど、第2・3区画には、他の敷地以上に強い関連性を窺わせるものがある。

#### 第122号土壌(第222~226図)

E7-J6・7、F7-A6・7グリッドに位置する土壌で、平面形は不整形な円形である。径は4.0mとかなり大規模である。安全上の問題から底面まで掘削し得なかったため、井戸跡であった可能性もある。第99号土壌を掘り込んでおり、より新しい。

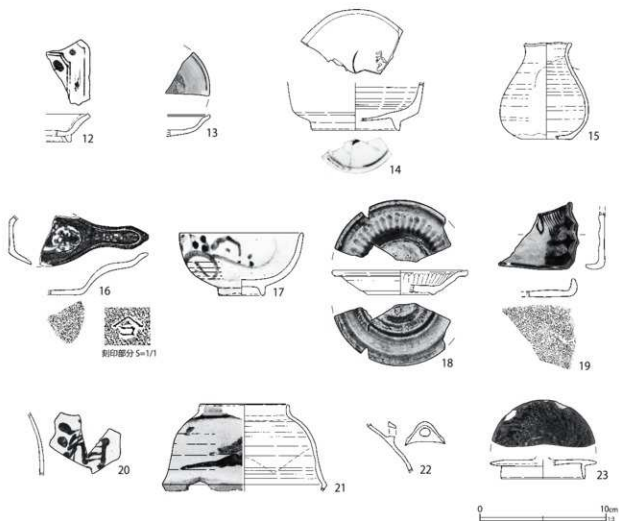
出土した遺物量は多かったが、陶磁器の時代幅は広く、17世紀の古手のものから19世紀末以降のものまで出土している。ここでは、古手の遺物や文字資料など、特徴的なものに限定して図示した。

第223・224図には陶磁器を示した。1は肥前系磁器の小丸碗で、染付後に金彩を主体に赤・緑・紫で色絵が施される。焼き継ぎ痕が顕著である。2・3は肥前系磁器の碗で、口縁部が輪花状に成形されるものと思われる。内底面に環状松竹梅文、外面下位に縦格子文、上位に微塵唐草文が染付されるのは2点とも共通するが、2の様子が



第 223 图 第 122 号土坑出土遗物 (1)



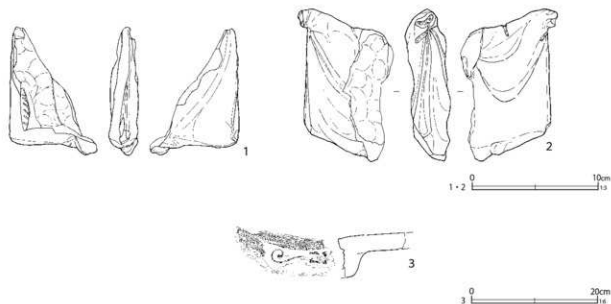


第224図 第122号土坑出土遺物(2)

第123表 第122号土坑出土遺物観察表(1)(第223・224図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	造構	備考	図版
1	磁器	碗	-	[2.4]	3.5	-	30	良好	白	SK122	肥前系 内外面施軸・染付・色絵(金・赤・緑・紫) 焼き継ぎ痕 弱く被熱(小丸碗)	123-6
2	磁器	碗	-	[2.8]	4.3	-	40	良好	白	SK122	肥前系 内外面施軸・染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤)	123-4
3	磁器	碗	-	[3.3]	3.5	-	25	良好	白	SK122	肥前系 内外面施軸・染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤)	123-6
4	磁器	猪口	7.3	6.0	4.7	-	95	良好	白	SK122	肥前系 内外面施軸 外面染付 弱く被熱して全体的に煤付着	
5	磁器	坏	(7.8)	(4.1)	(3.4)	-	30	良好	白	SK122	瀬戸美濃系 内外面酸化クロム青磁軸 外面コバルト染付 口紅 蛇の目状高台部に刻印「豊口(山カ)」上下接点ない2破片から図上復元	123-7
6	磁器	坏	8.3	3.5	3.1	-	65	良好	白	SK122	瀬戸美濃系 内外面施軸・上絵付(赤・金)	
7	磁器	紅皿	(6.2)	1.8	(2.4)	-	45	良好	白	SK122	肥前系 型成形 内外面施軸 外面型押施文(陽刻状)	124-1
8	磁器	皿	(20.8)	3.0	(13.9)	-	30	良好	白	SK122	肥前系 内外面施軸・染付 弱く被熱して煤付着	124-2
9	磁器	皿	-	[2.0]	(10.6)	-	10	良好	白	SK122	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤)	124-3

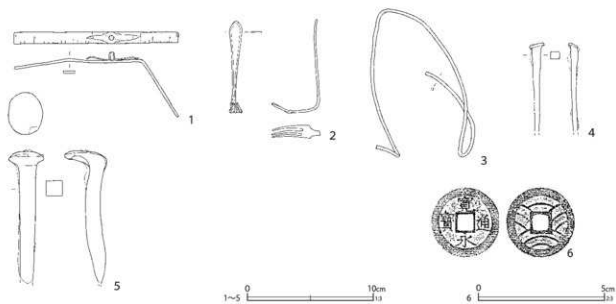
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
10	磁器	皿	(31.2)	[3.9]	-	-	10	良好	灰白	SK122	SK141接合 肥前系 内外面施軸(口縁部青磁軸)・染付 陽刻状施文 漆継痕・焼き継ぎ痕	124-5
11	磁器	皿	(27.1)	4.6	(17.2)	-	25	良好	白	SK122	肥前系 内外面施軸・染付 焼き継ぎ痕	
12	磁器	皿	-	2.2	-	-	10	良好	白	SK122	瀬戸美濃系 型成形 内外面施軸 内面色絵(赤・緑) 弱く被熱	124-4
13	磁器	皿	-	[1.7]	-	-	5	良好	白	SK122	渋路系平 型成形 内面型押施文(陽刻状) 内外面黄色軸	124-6
14	磁器	香炉	-	[3.8]	6.8	-	20	良好	白	SK122	瀬戸美濃系 外面施軸 高台内施軸・染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤)・墨書	125-1
15	磁器	水注か	3.5	7.6	(4.0)	-	45	良好	白	SK122	肥前系 内面上位→外面施軸、上位は青の単色軸掛け分け 把手潤澤痕跡 底部墨書	124-7
16	磁器	蓮華	-	3.3	-	-	60	良好	白	SK122	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面銅版転写染付 底部刻印「合」	125-2
17	陶器	碗	(9.5)	4.9	3.4	IK	50	良好	灰白	SK122	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面呉須絵 被熱(太白手丸碗)	
18	陶器	皿	(10.6)	1.9	5.4	DIK	30	良好	灰白	SK122	瀬戸美濃系 内外面灰軸、内底面・高台内拭き取り 高台内輪下子痕 内面体部菊花状しのぎ 大冢第4段階(内赤皿)	125-4
19	陶器	皿	-	1.4	-	HIK	30	良好	灰白	SK122	型成形 底部布圧痕 内面・外面体部施軸・緑軸渡し掛け 鉄絵 口縁	125-3
20	陶器	徳利	-	[5.0]	-	IK	5	良好	灰白	SK122	外面灰軸 呉須絵(文字「蘭」)	125-5
21	陶器	土瓶	(7.0)	[6.9]	-	EIK	5	良好	灰白	SK122	大塚相馬系 外面種白軸・土絵付(茶・赤・緑) 22と同一個体	125-6
22	陶器	土瓶	-	[4.0]	-	IK	5	良好	灰白	SK122	大塚相馬系 内面上位種白軸 外面鉄軸 被熱 21と同一個体	
23	陶器	蓋	-	[1.5]	(6.5)	K	40	良好	褐灰	SK122	外面鉄軸 最大径(8.4)cm	126-1



第225図 第122号土壇出土遺物(3)

第124表 第122号土壇出土遺物観察表(2)(第225図)

番号	種別	器種	幅/長	高さ	厚さ	重さ	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	陶器	人形	[7.0] / [10.0]	-	2.4	56.7	AI	良好	にぶい橙	SK122	京都系 前後合二枚型成形 中空 雲母付着 2と同一個体	243-7
2	陶器	人形	[7.6] / [12.3]	-	3.2	11.7	AI	良好	浅黄橙	SK122	京都系 前後合二枚型成形 中空 雲母付着 1と同一個体	243-8
番号	種別	器種	長さ	幅	高さ	径	胎土	色調	遺構	備考	図版	
3	瓦	軒棧瓦	[7.1]	[10.5]	-	ACIK	普通	灰白	SK122		253-7	



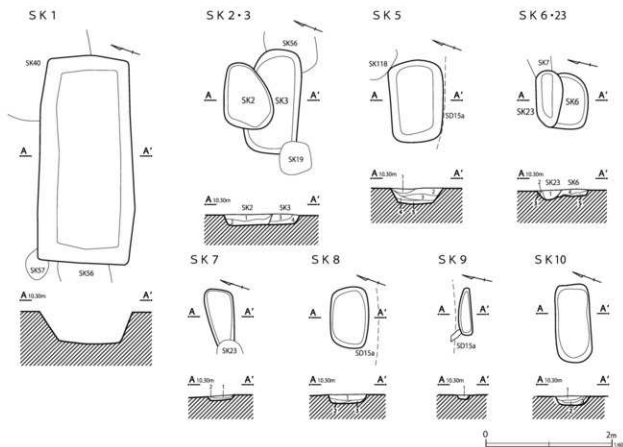
第226図 第122号土坑出土遺物(4)

第125表 第122号土坑出土遺物観察表(3)(第226図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	文銭	長さ13.0 幅0.9 厚さ0.2 重さ27.2	SK122	折れ曲がる 日盛刻み (一日盛1分)	
2	金属製品	突き匙	長さ7.3 幅1.0 厚さ0.1 重さ5.8	SK122	フォーク 材質不明	
3	銅製品	不明	縦11.7 横8.2 厚さ0.2 重さ17.5	SK122		
4	鉄製品	釘	長さ[7.0] 幅0.7 厚さ0.6 重さ6.9	SK122		
5	鉄製品	釘	長さ[10.5] 幅1.3 厚さ1.2 重さ115.8	SK122		
6	銅製品	銭貨	径27.9 厚さ1.1 重さ3.8	SK122	寛永通寶(新) 11波	

崩れているのに対し、3の様様はより丁寧である。焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印がみられ、焼き継ぎ印は2つとも同じ文である。4は肥前系磁器の猪口で、外面に梅樹文などを染付する。弱く被熱しており、全体に煤が多く付着している。5は瀬戸美濃系磁器の坏で、全体を酸化クロム青磁釉で施軸し、圏線と口縁部の半円形の文を酸化コバルトで染付する。底部～体部中位までと口縁部は接点が無いが、同一個体の破片から図上復元して示した。高台内に刻印があり「豊口(山か)」と読める。6は瀬戸美濃系磁器の坏で、金彩を主体とした上絵付けが施される。高台内には金彩で「根岸」と銘がある。内面にも文字が書かれていたようだが、ほとんど消えて判読し難い。わずかに「念」の字が見える。7は肥前系磁器の紅皿である。口唇部は露胎、外面は陽刻状の丁寧な蛸唐草

文を型押施文する。高台内に刻印はみられない。8は肥前系磁器の皿である。高台はU字状、内外面に染付が施されるが、外線を描いて中をダミ塗りする丁寧な絵付けである。内面の外周には墨弾きを用いて波や菊文が染付される。弱く被熱しているようで断面を含めて煤の付着がみられる。9は瀬戸美濃系磁器の皿で、内面には環状松竹梅文を染付する。焼き継ぎ印は「ヲ六十九」であろうか。10は肥前系磁器の大皿で、鐙状に広がる口縁部には「午」「申」などの文字が陽刻状に施文して上から青磁釉を施す。干支を周囲に表す皿と考えられる。漆継ぎと焼き継ぎが両方みられ、長期にわたり使用されていたものと推測される。11は肥前系磁器の皿で、平面形は八角形に復元される。焼き継ぎ痕が顕著に見られる。12は型成形の瀬戸美濃系磁器皿で、平面形は多角形、内



第2・3号土壌

- 1 暗灰色土 粘質 炭化物・焼土ブロック多量 白色粒子少量 陶磁器出土 粘性あり・しまり弱 (SK2)
- 2 暗灰色土 粘質 炭化物・焼土ブロック・白色粒子多量 粘性・しまりあり (SK2)
- 3 暗褐色土 粘質 炭化物・白色粒子多量 粘性・しまりあり (SK3)
- 4 暗褐色土 粘質 炭化物・有機物(木片)多量 白色粒子少量 粘性あり しまり弱 (SK3)

第5号土壌

- 1 暗褐色土 粘質 炭化物粒子・褐色粒子多量 粘性弱 しまりあり
- 2 粘質 炭化物・焼土ブロック多量 粘性弱 しまり強
- 3 黒褐色土 粘質 炭化物多量 褐色粒子少量 粘性弱 しまり強
- 4 黒褐色土 粘質 炭化物多量 褐色粒子少量 粘性・しまり弱 木片混入
- 5 暗褐色土 炭化物粒子・褐色粒子少量 粘性・しまりあり 木灰が出土

第6・23号土壌

- 1 灰色土 粘土質 焼土ブロック・炭化物粒子 粘性弱 しまりあり 木片あり (SK23)
- 2 暗褐色土 粘土質 木片が腐食したものと考えられる 粘性・しまり弱 (SK23)
- 3 灰色粘土質 炭化物少量 粘性弱 しまりあり (SK23)
- 4 灰色土 粘質 炭化物少量 粘性弱 しまりあり (SK6)
- 5 暗灰色土 粘質 炭化物・有機物(木片)多量 白色粒子少量 粘性あり しまり弱 (SK6)

第7号土壌

- 1 黒色土 粘土質 炭化物粒子多量 焼土ブロック少量 粘性弱 しまりあり
- 2 暗灰色土 粘土質 白色粒子少量 粘性あり しまり強 瓦出土

第8号土壌

- 1 暗褐色土 粘土質 焼土ブロック・炭化物粒子多量 多量の木片出土 粘性弱 しまりあり
- 2 暗褐色土 1層より暗い 粘土質 炭化物粒子多量 褐色粒子少量 粘性・しまりあり
- 3 暗褐色土 2層より暗い 炭化物粒子少量 褐色粒子多量 粘性弱 しまりあり

第9号土壌

- 1 暗灰色土 粘土質 炭化物粒子少量 腐食した有機物 粘性あり しまり弱

第10号土壌

- 1 暗灰色土 粘質 炭化物粒子多量 粘性・しまり弱
- 2 暗褐色土 粘質 炭化物粒子少量 褐色粒子多量 粘性あり しまり強 木灰・板出土
- 3 暗褐色土 2層より暗い 粘土質 炭化物粒子・褐色粒子少量 粘性・しまりあり 陶磁器・木灰・板出土

第227図 第2区画の土壌(1)

面に赤・緑の色絵がみられる。付け高台の接合痕が明瞭である。13は淡路環平系磁器の皿で、内面に陽刻状の型押し施文がある。14は瀬戸美濃系磁器の香炉で、体部外面は青磁釉、高台内には圏線と銘款が染付される。内面は露胎で、焼き

継ぎ印と墨書の一部が残る。15は一見、器高の低い瓶類に見えるが、把手の剥落痕跡がみられ、水注の可能性が高い。胎土から肥前系磁器と考えられる。器壁は薄手で爛徳利に近い。口縁部は波状に至まっている。底部に僅かに墨書の痕跡が残

る。16は瀬戸美濃系磁器の蓮華で、内面に銅版転写染付が施される。下面露胎部に細い陽刻状の刻印「合」が見られる。

17は瀬戸美濃系陶器の太白手丸碗で、弱く被熱し断面にも焦げが及ぶ。18は瀬戸美濃系陶器の内壳皿で、大窯第4段階の所産である。内底面は釉を完全に拭き取っている。高台内も釉を拭き取りするが、不完全である。19は産地不詳の陶器皿で、型成形のため底部の内外面に布圧痕が残る。底部内面には、意図的に波打つような凹凸をつけている。灰釉とみられる釉薬を基調に、緑釉を流し掛け、更に鉄絵を施す。織部向付を意識した製品である。20も産地不明の陶器で、細首の徳利の体部破片と考えられる。器壁は薄手である。呉須絵で文字「瀬」を書くので、文字（高瀬屋）を絵付けした徳利であろう。

21・22は陶器の土瓶で、釉調や胎土から大塚相馬系陶器と判断される。21は外面に糠白釉を掛けており、口縁部～頸部付近はうのふ輪状に発色する。外面に茶・緑・赤で山水文と思われる上絵付けが施される。22は鉄釉土瓶の耳部分である。外面に明るい褐色の鉄釉、内面に糠白釉を施す。被熱して変色が見られる。23は陶器の土瓶蓋である。上面に鉄釉を施すが、赤褐色の釉薬がより暗色を呈する鉄釉の上に墨流し状に広がり、文様のようにになっている。

第225図1・2は土製品の人形で、同一個体とみられる。3は出土した瓦で、軒椀瓦の軒平部分と思われる。中心飾りから、瓦当面の端まで一本の唐草が伸びて端部で渦を巻く。本跡から出土した軒椀瓦は、図示したものを含めて7点（うち軒丸部分のみの破片3点、軒平部分の中心飾りが残る破片2点）であった。

第226図は金属製品である。このうち1は文鎮である。復元すると15.6cm（約5寸）になる。およそ一分単位で目盛が刻まれる。不揃いのため、既製品に後で目盛を刻んだものと考えられ

る。

## 第2区画のその他の土壌（第227～269図）

ここまでに取り上げた以外の第2区画の土壌について、遺構の図面を示し、主な出土遺物や年代を記載する。

第1号土壌は、区画東側に位置する。隅部は鋭角に掘りこまれる。長軸3.3m、短軸1.2mの長方形を呈する。第232・233図1～10に特徴的な資料と文字資料を掲載した。8は鉄絵徳利で、「屋」の一部が確認される。非掲載の資料には磁器の平碗類が多く、その中には、高台内に「白玉園製」・「工陶園製」の裏銘を有するものがある。磁器坏の中にはゴム印版の資料がみられる。

第265図1～3は金属製品で、1は用途不明の銅製品、2は銅製品の針金、3は鉛製品の可能性のあるものだが、用途は不明である。第268図1は、緑色味を帯びる凝灰岩で作られた石製人形と思われる。製作中に破損したようで、未完成と思われる。

第5号土壌は、地境溝（第15号溝跡）に隣接する隅丸長方形プランの土壌で、長軸1.3m程である。出土した陶磁器の一部を第233・234図12～20に示した。型紙摺絵染付の磁器皿を含む組成である。17は軟質施釉陶器で、かなり径が大きいことから皿としたが、鉢の可能性もある。外面は緑釉、内面は黄色味の強い釉薬で、緑釉散らし・鉄絵が描かれる。胎土は白色味が強く、京都産の白色土器質のものに類似する。

第265図4は金属製品で鉄製の鉤金具であろうか。第268図3は雲母片岩製と思われる砥石である。雲母片岩の砥石は栗橋宿跡では珍しく、産地は筑波山周辺の可能性がある。主な使用面は3側面と1端面で、加えて裏面側も使用している。裏面側に深さ5mmほどの孔を有すが、用途は判然としない。また端面にはノコギリ状工具痕が残るが、使用時の研磨で消されている。4は石製品の硯で、石材は緑色味を帯びる凝灰岩である。表面

は墨の付着によって黒化している。表面・裏面に深さ5mm内外の孔が数箇所認められ、先端の尖った道具による二次的な加工痕とみられる。あるいは破損を意図した痕跡であろうか。

第6号土壇は、区画中央やや西よりで検出された。平面形が隅丸長方形の土壇で、長軸0.9m程。覆土下層には木質などの有機物が多く含まれる。第23号土壇と重複する。第6号土壇の遺物は極めて少ない。第234図21は炆器質の備前系陶器で、板作成形の瓶類である。外面にヘラ彫りで草花文を描くらしい。内面側に微細な雲母とみられる鉱物が多く認められる。他に陶器土版や地方窯系とみられる陶器甕が含まれる。重複関係の観察から第23号土壇のほうが新しい。遺物の様相から第6号土壇が栗橋8期～9期のはじめ、第23号土壇が栗橋9期に帰属する。

第265図5には第6号土壇から出土した銅製品の把手を図示した。

第10号土壇は、区画西部に位置する長軸1.25mほどの隅丸長方形の土壇である。覆土下層には木片、板材などが含まれる。遺物の出土量は多かった。第234図24～30には出土した陶磁器を示した。遺物の様相から栗橋9期に帰属する。

第268図5は石製品で、角閃石安山岩の磨石である。6は石筆で、やや赤みを帯びる石材である。一方の端面は欠損するが丸まり始めており、使用面の直近で破損しているものらしい。反対側は平坦で僅かに二次的な傷を認めることから成形当初の遺存面と判断したが、面の形成が雑な印象を受ける。

第11号土壇は、第15号溝跡と重複する隅丸長方形の土壇で、長軸0.9mほどである。出土した陶磁器を第234図31～35に示した。33はかわかけの皿で、大皿である。胎土は硬質で粉っぽくはないが、微細な雲母粒を一定量含む。内底面と体部の境に腰折れ状の痕跡があり、江戸在地系と思われる。口縁部には傷状の二次使用痕が見られる

が、口縁部や断面を擦った痕跡はみられない。35は瓦質土器の竈鏝である。上面にはキャタピラ状に弱く波打つ痕跡がみられ、成形時の痕跡とみられる。第268図7は砂岩製の大型の砥石である。遺存する五面全てが使用されている。口縁部に溝状の大きな刻みを有す。

第12号土壇は、区画西部に位置する比較的大型の土壇で、長軸1.8m程の隅丸方形である。覆土に小型の桶が投棄されており、他にも木材が多く混在する腐食土層であった。出土した陶磁器を第235～237図36～54に示した。36・37は瀬戸美濃系磁器の平碗で、36は銅版転写染付で古今和歌集などを典拠とする和歌・人物を描く。44は体部が屈曲する大堀相馬系陶器の碗で、内面には糠白釉、外面には褐色の釉薬が掛けられる。45は産地不詳の陶器で鶴首の徳利である。外面に灰釉が掛けられ、「罎」、「口場」の文字を呉須で書く。52～54は土製品の土管である。52に「命」の刻印がみられる。調整は外面がヘラナデ後にナデ、内面はナデと指頭圧による調整である。53の内面に顕著に煤が付着する。本跡は土管の出土が多かったが、内面に煤が付着するものが多い。

第261図1～3は出土した瓦で、軒棧瓦を示した。1の丸瓦部分は梅鉢文である。

第268図8は石製品の砥石である。石材は淡く緑色味を帯びる凝灰岩と思われるが、径2～3mmの石英・長石と、雲母のような黒色の有色鉱物をまばらに含んでいるのが特徴的である。使用面は遺存する端面を含んで五面、側縁部には使用に先立つ工具痕が認められる。製作時の刃幅の広い工具（手斧状工具）によるものとみられるが、平ノミ状工具の可能性も否定し得ない。なお、裏面側には刃ならし痕らしい微細な傷が多くみられる。

第16号土壇は、区画中央部のやや北寄りから検出された径0.4m内外の円形土壇である。遺物は極めて少ないが、陶磁器には酸化コバルト染付の磁器碗や、笠間系かと思われる地方窯系陶器の

播鉢が認められた。栗橋9期の帰属である。

第17・18号土壌は区画東部にあり、いずれも長軸1mを超える。重複しており、第18号土壌の方が新しい。また上面を第1号竹樋に掛り込まれている。第237図55～62は、第17号土壌出土の陶磁器である。57は瀬戸美濃系磁器の紅皿である。外面の型押し蛸唐草文は陰刻状で、軸葉は上部のみに掛かる。小破片のため、復元口径に若干の誤差も想定される。59は瀬戸美濃系磁器の圓徳利で、外面にややくすんだ酸化コバルト染付で墨流し文が描かれる。同文が1個体以上存在する。また第21号土壌と接合関係が確認された。62は陶器の土瓶で灰軸に白盛・呉須で絵付けさ

れる。第21号土壌から出土しているもの(第241図108)と同文である。第261図4には軒棧瓦を示した。第268図10は王甌の火打石のようだが、使用痕を認めない剥片である。同様の剥片が複数出土しており、図示したもの以外の大きさ・重量を第126表に示した。後述するように第18号土壌でも多く出土したので、そこからの混在とみられる。

第238図63～68は、第18号土壌出土の陶磁器である。63は瀬戸美濃系磁器の平碗で、型紙摺絵染付が施される。64は瀬戸美濃系磁器の皿で、酸化コバルト染付が施される。同文のものがもう1個体ある。65は酸化コバルト染付の皿で、内

第126表 第17・18号土壌出土玉甌剥片一覧表

番号	遺構	縦	横	厚さ	重量	備考	写真図版番号
1	SK17	26.0	12.6	5.0	1.7		284-4-1
2	SK17	32.4	16.0	2.7	2.0		284-4-2
3	SK17	31.5	16.3	9.2	3.5		284-4-3
4	SK17	24.1	16.7	8.0	2.8		284-4-4
5	SK17	2.0	20.2	10.6	2.5		284-4-5
6	SK17	25.8	20.0	10.3	2.5		284-4-6
7	SK17	15.6	13.2	3.4	0.6		284-4-7
8	SK17	25.4	1.2	6.8	1.1		284-4-8
9	SK17	16.4	11.1	3.5	0.4		284-4-9
10	SK17	8.2	6.7	2.4	0.2		284-4
11	SK17	38.0	24.0	9.0	4.7	第268図10	284-3
12	SK18	35.7	29.4	12.3	14.4		284-5-1
13	SK18	36.5	31.4	17.1	12.4		284-5-2
14	SK18	37.2	22.1	5.7	4.9		284-5-3
15	SK18	28.5	25.4	8.2	7.6		284-5-4
16	SK18	26.3	22.0	7.7	4.6		284-5-5
17	SK18	22.0	22.6	15.0	3.8		284-5-6
18	SK18	33.4	17.3	14.1	5.8		284-5-7
19	SK18	27.6	21.2	12.6	5.9		284-5-8
20	SK18	26.5	15.2	7.0	3.1		284-5-9
21	SK18	28.6	14.1	6.4	1.9		284-5-10
22	SK18	26.5	13.1	5.6	2.2		284-5-11
23	SK18	29.3	12.4	7.9	1.8		284-5-12
24	SK18	33.3	20.0	7.8	4.7		284-5-13
25	SK18	21.0	11.2	7.5	3.3		284-5-14
26	SK18	23.9	15.3	10.4	3.0		284-5-15
27	SK18	20.9	12.6	5.4	1.1		284-5-16
28	SK18	22.5	11.3	4.1	0.8		284-5-17
29	SK18	17.9	10.2	6.8	0.9		284-5-18
30	SK18	32.0	35.0	12.0	8.6	第268図11	284-3
31	SK18	31.0	26.0	10.0	4.0	第268図12	284-3
32	SK18	29.0	39.0	11.0	7.2	第268図13	284-3
33	SK18	21.0	41.0	7.0	4.7	第268図14	284-3

面に鶴文を描く。同文のものが第21号土壙にある(第239図84)。66は大堀相馬系陶器で、湯呑碗形の碗とみられる。内面には灰軸が施され、外面には走り馬が鉄絵で描かれる。68は鶴首形の徳利とみられる。胎土に微細な黒粒が含まれて、釉薬の上からも確認されることから、大堀相馬系陶器の可能性はある。外面は光沢のある灰軸が施され、高台畳付部は露胎とする。底部が楕円形に破損しており、二次穿孔の可能性もある。

第268図11~14は、白色で透明感を有す玉髓の剥片である。敲打痕があるもの4点を示したが、図示した以外にも同様の剥片が18点認められた(写真図版284・4・5)。これらは大きさや重量を第126表に示した。石材から火打石である可能性が高いものであるが、いずれも使用痕は認められず、また再生剥片とするにはサイズが大きい。数も多すぎることから、火打石の製作に関わる可能性が考慮される。同様の事例は、栗橋宿跡第2地点第12・24号土壙等に認められた。非掲載資料の詳細なデータが報告書に掲載されていないが、相当数の剥片が出土したようである。第4区画の事例は『絵図』との対比から附木屋に関わる区画で、火打石を生産していた可能性があると指摘される(埼玉県埋蔵文化財調査事業団2019)。

以上、2基の土壙は重複関係があるが、遺物の様相に明確な時期差は読み取り難い。

第21号土壙はこの区画でも大きな土壙の一つで、区画の東北側に寄って位置する。覆土は炭化物を多く含む粘質土で、長軸3.35m、短軸1.6mである。第238~242図70~122には出土した陶磁器を示した。71は肥前系磁器の紅皿である。器高が低く扁平な印象である。72~80までは瀬戸美濃系磁器の坏類である。本跡からは組み物と思われる坏が多く見られた。72は、高台部に櫛歯文を酸化コバルト染付で描く薄手の坏で、口縁部の欠け口や断面の一部に鮮やかな紅色の赤色物質

が残っている。73は体部に突帯を巡らす無文の坏で、同形態のものが他に2個体(計3個体)ある。74は内面に青の江戸絵付けが施された卵殻手酒杯で、同文・同形態のものがもう1点ある。75~77は端反の坏で、酸化コバルト染付が施される。75は外面に草文を描くもので、同文別個体が1個体以上ある。76・77は外面に同じ漢詩文を書いたもので、宋の人・蘇軾による「後赤壁賦」の一文と思われる。高台内には「求八」の銘款が染付される。78~80は瀬戸美濃系磁器の筒形の坏である。78は高台が幅広い。外面に酸化コバルト染付でよろけ縞文を染付し、扇型の窓を描いて中に草花文を表す。同文の個体が他に2個体ある。79は外面に酸化コバルト染付が施され、緑色の絵付けで漢詩「漁父」の一文を書く。高台は幅広いが、畳付部分は細かく面取りされる。80は他のものよりもやや外方への開きが大きく、体部下位の器厚が厚い。酸化コバルト染付で草花文を描く。他に同文が2個体ある。

81~86は磁器の皿である。83は内面に山水文が染付される蛇の目凹形高台のもので、同文の個体が他に1個体みられる。86は肥前系磁器の皿で、内面には環状松竹梅文・微塵唐草文を染付する。焼き継ぎ痕・赤の焼き継ぎ印がある。同文の別個体が1点あり、そちらにも焼き継ぎ痕が確認される。90・91は同一個体の瀬戸美濃系磁器燗徳利で、外面には緑色の釉薬が掛けられ、さらに緑・黄・鮮紅色の色絵が施される。

92・93は瀬戸美濃系磁器の燗徳利で、92は焼き継ぎがみられる。95は瀬戸美濃系磁器の土版で、外面に楼閣山水文を染付する。全体に焼き継ぎ痕がみられる。底部は高台状になり、底面露胎部に赤で焼き継ぎ印と墨書「くり」が認められる。96も瀬戸美濃系磁器の土版で、酸化コバルト染付が施される。底面に焼き継ぎ印が複数あり、一箇所は消えかかっている。複数回焼き継ぎを行ったものであろう。97は口縁部が受け口状



に大きく広がる急須で、酸化コバルト染付が施される。底部に渦巻き状の沈線が入り、「くり」の墨書がある。焼き継ぎ痕が認められる。

99・100は、底部に布圧痕を残す型成形の方形皿である。胎土はやや軟質で、微細な石英粒が少量含まれる。鉄絵・緑軸で絵付けされる。101は地方窯系の灰軸鉢ないし片口鉢で、小型の物である。口縁部上端に僅かに糠白釉を散らすように施す。高台は幅広く、畳付部には径7.1cmの円形に窯道具痕が残る。おそらく、王冠状の窯道具を用いた痕跡であろう。高台内には墨書がある。

102は水鉢あるいは植木鉢と思われる陶器である。内面上位から外面に糠白釉が掛けられ、さらに緑釉が流し掛けされる。内面の施釉範囲外に白化粧痕跡がみられる。胎土は橙色系で緻密、混入鉱物はほとんど見られない。空筒系陶器の可能性がある。

108・109は陶器土瓶である。108は体部に灰軸を掛ける土瓶で、白盛と呉須で絵付けされる。107の蓋とセットの可能性もある。111は小型の陶器急須で、外面は火罨状に施釉がみられる。胎土は炆器質で常滑産の可能性が高い。112は合子状の蓋物である。白色土器質で施釉されていないが、陶器として扱った。胎土には僅かに微細な雲母がみられる。内面は回転ナデによる筋状の痕跡が残る。外面は幅の狭い回転ケズリ、底面も回転ケズリで仕上げる。京都系の可能性がある。

113は江戸在地系土器の鉢である。胎土に微細な雲母を多量に含む。114は還元炎焼成された植木鉢である。底部中心に焼成前穿孔がみられる。胎土中に雲母粒はあまり見られないが、胎土が粉っぽく、左回転の切痕を残すことから江戸在地系土器と考えられる。115は土師質土器の香炉である。外面全体にミガキを入れた後、赤色塗布物を施す。赤色塗布物は、上位半分までが濃く塗られ、下位は薄く塗られている。口縁部に叩き打ちなどはみられない。胎土は硬質で緻密である。

微細な雲母および輝石状の有色鉱物を少量含んでいる。底部は回転ケズリで処理される。116は江戸在地系土器の丸火鉢で、外面は施文される。117は脚台付の火鉢である。瓦質土器としたが、酸化炎焼成で表裏面は橙色を呈する。脚上端は体部との接合面で剥離している。118は瓦質土器の竈、119は瓦質土器の蓋である。火消壺の蓋と考えられる。

120は瓦質土器の竈罫、121・122は瓦質土器の火消壺で、いずれも胎土に角閃石を多く含む。このうち121の底部は細かい砂目底である。遺物の様相から、栗橋9期でも比較的早い段階に帰属する。

第261図5～9は瓦類で、5～8は軒椀瓦である。5は軒丸部分で、珠文のみられない三つ巴文のものである。6は中心飾りの簡略化が著しい。他に軒椀瓦の破片2片が出土したが、中心飾りが遺存するものは図示した2点のみである。9は完形に近い丸瓦である。

第262図1・2は円盤状の木製品で、曲げ物底である。第268図15は王髓製の火打石である。部分的に褐色味を帯びる白色でやや透明感を有す。図の下端側に敲打による打点を有し、右側面は使用による摩耗が認められる。16は石製玉で、簪の飾りであろう。石材は王髓の可能性が高いが、白色で透明感はあまりない。

第265図6～9は金属製品で、6は銅製品の簪、7～9は鉄製品である。7は鉤金具の可能性が高いもの、8は鏝、9は釘である。

第23号土壌は、区画中央のやや西よりに位置し、第6号土壌を掘り込んでいる。不整な楕円形で長軸0.9mである。遺物は極めて少ないが、型紙摺絵染付の磁器皿口縁部破片などが出土している。第242図123はかわらけの皿で、大皿である。胎土に微細な雲母を多く含み、僅かに角閃石ないし輝石が含まれる。江戸在地系土器と判断される。大皿サイズのかわらけは第11号土壌（第

234図33)、第295号土壙(第258図325)でも出土している。本跡は栗橋9期に帰属する。

第24号土壙は、第22号土壙に近接して検出されたもので、長軸0.75mの隅丸長方形である。第15号溝跡と重複する。第243図134は陶器の豆甕である。内外面に柿軸を掛けるものだが、強く被熱して赤変している。内面に銅の付着があり、増埒に転用された可能性が高い。

135は土師質土器の香炉である。外面全体にミガキを入れた後、赤色塗布物を施す。胎土は硬質で、雲母を多く含む。第21号土壙から同様の香炉が出土している。出土した陶磁器の様相から、栗橋9期でも比較的早い段階に帰属する。第265図10は金属製品で用途は不明である。銅板を筒状に丸めたものである。

第26・27・53・64号土壙は、区画中央部付近から検出され、重複している土壙群である。第26・27号土壙は浅く、覆土も特徴に乏しい。第26号土壙は最も西側に位置する。隅丸長方形土壙で、長軸1.8mと大型である。第27・64号土壙より新しい。

第26号土壙の出土遺物は少ないが、第243図139には、藁灰釉を施軸した萩焼開口碗を示した。他に、酸化コバルト染付や酸化クロム青磁釉の磁器爛徳利・坏が出土している。栗橋9期の帰属と考えられる。

第265図11・12は金属製品で、用途不明の銅製品と、鉄製の火打ち金である。

第27号土壙は、第26号土壙の北東隅に重複する小規模な円形の土壙とみられる。出土遺物は極めて少なかったが、第243図140・141に陶磁器を示した。140は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗で、外面は瑠璃釉の単彩である。141は瀬戸美濃系陶器の柿軸甕で、高台内に墨書が認められる。他に瀬戸美濃系磁器の丸碗が出土しており、栗橋7期以降に帰属する。重複関係の観察通り、第26号土壙に先行するものであろう。

第40号土壙は、区画の東部に位置し、第1号土壙と重複する。後述する遺物内容から、本跡の方が古いものとみられる。長軸2.4mと大型の楕円形の土壙である。覆土には多量の木材・木製品が含まれていた。出土遺物が多く、このうち第243～246図145～181に陶磁器を示した。146～148は瀬戸美濃系磁器の平碗で、口唇部上端から外面に酸化コバルト染付が施される。146は富士山と思われる文様を描く。148は内面にもワンポイントで花文を描くもので、同文のものが他に2個体ある。152は瀬戸美濃系磁器で、小型の湯呑形碗である。体部がやや外方に開く形態である。高台皿付きは幅広い。外面は瑠璃釉が単彩で施され、口紅がみられる。

154～157は瀬戸美濃系磁器の坏である。いずれも酸化コバルト染付が施される。157は外面を緑色の釉で単彩に染めるが、その上から酸化コバルト染付が施される。155と同文のものが1個体、156と同文のものが3個体以上みられる。

159・160は瀬戸美濃系磁器の皿である。159は酸化コバルト染付が施され、同文のものが1個体以上ある。

163～166までは瀬戸美濃系磁器の爛徳利で、163～165には酸化コバルト染付が施される。164・165は同文である。165には二重四角枠線内に「善」と染付される。163の底部には「き[志うやカ]」の墨書がみられる。また、164には「紀口[ ]」、165には「紀口屋」の墨書があり、いずれも紀州屋に関わる遺物と思われる。166には染付はみられず、頸部に突帯が巡る。

169は灰釉を施軸した端反形の坏で、高台に三箇所の切り込みが入る。鉄絵で驚ないし鶴と思われる水鳥を描く。高台内に渦巻き状の枒りがある。174は瀬戸美濃系陶器の水鉢とした。内外面とも灰釉が施軸されるが、外面は緑釉・白色釉を流し掛けする。外面露胎部は鉄泥刷毛塗りで化粧する。高台皿付部に剥落が多く、二次的な敲打痕

とみられるが、使用による破損の可能性もある。また、底部に穿孔を意図した可能性がある敲打痕がある。植木鉢への転用を意図したようだが、途中で破損したのらしい。175は陶器の青緑釉土瓶だが、胎土に鉄斑状の黒色微粒子が多く含まれており、大堀相馬系と考えられる。口縁部の形状や体部上位に稜が出る点は、通常の青緑釉土瓶と異なる。177は灰釉土瓶である。外面の灰釉は透明感があり貫入が多い。鉄絵で右から「柿／沼／園」の文字と、屋号文らしい文「舎」を書く。178は陶器の練り込み手の急須である。

180・181は土師質土器の焙烙で、いずれも在地系のものである。180の内底面には炭化物痕があり、3cm強×4cm強の楕円形の炭化物痕もみられる。

本跡は陶磁器の様相から、栗橋9期でも比較的古い段階の様相である。

第261図12は軒棧瓦で、東海式の文様を有すものである。第262図3・4は木製品である。3は曲物の蓋で、側板が一部残存する。4は浮子で、中央が膨らむ形である。下面に金具取付けの穴がつけられている。

第265図13・14、第267図1～3には金属製品を示す。第265図13は鉄製品の火格子で、径19cmである。14は鉄製品だが用途不明である。第267図1～3は寛永通寶で、1のみ古寛永、他は新寛永である。

第44・45号土壌は、区画北東部の第21号土壌と重複する大型の土壌である。いずれも隅丸長方形の土壌で、第44号土壌は長軸2.2m、短軸1.95m、第45号土壌は長軸1.1m、短軸0.9mである。形態は類似するが、3基の重複関係の観察によれば、第44号土壌→第21号土壌→第45号土壌の順に新しい。また、第1号竹樋は、さらに新しい段階に掘り込まれている。ただし、出土した陶磁器類には、ほとんど時期差がみられず、いずれも栗橋9期でも古い段階に帰属するものであつ

た。以下にその様相を示す。

第44号土壌の出土遺物のうち、陶磁器を第247図184～198に示した。なお、重複する第21号土壌と接合関係にある陶磁器は、第44号土壌のものとして扱った。184は瀬戸美濃系磁器の丸碗、185は瀬戸美濃系磁器の卵殻手薄手酒杯である。186は瀬戸美濃系磁器の爛徳利で酸化コバルト染付が施される。底面に「三合カ/紀州屋」の墨書がある。187は瀬戸美濃系磁器の急須、188は瀬戸美濃系磁器の土瓶である。190は松岡系陶器で鯨肌釉の土瓶である。外面上位に灰釉とみられる別の釉薬が流し掛けされる。197・198は土師質土器の焼塩壺である。いずれも橙色が強く被熱しているようであり、198のほうがより表裏面の荒れが激しい。

第261図13・14は出土した軒棧瓦である。13は全体の文様がよく分からないが、唐草の巻きは緩い。14は中心飾りの蓮華が片側3枚で、唐草・子葉の巻きが強いものである。図示した以外に、軒丸瓦の側縁部の破片が1点、軒棧瓦の軒丸部分の破片（三つ巴・珠文無し）が1点認められた。

第263・264図5～18は木製品で、5～7は漆器の桶蓋である。5は口縁近くに稜を持つ器形である。7は器高3.2cmと低い器形である。内面赤漆塗り、外面黒漆塗りである。

9は木栓と呑口である。木栓上部に瓢箪と文字の焼印がある。11は全面黒漆塗りの盆である。裏面中央が一段窪んでおり、多数の工具痕が残る。12は剃り下駄である。歯部が丸鑿のような工具で加工され、稜線は直線的ではない。前壺周辺にくぼみが作られる。15は陰卵下駄で、全面黒漆塗りである。裏面の前壺周辺と中央部に窪みが作られる。17は包丁の柄で、側面に柄穴が穿たれる。18は櫛で、櫛背に膨らみがない。

なお、16の木札に「栗橋…/菊田…/同中町紀州屋」の墨書が認められる。本書報告の第9地点第3区画の「紀州屋」とともに、第6地点

（『栗橋宿跡Ⅲ』報告）の菊田屋に関わる史料と思われる。

第266図15～18は金属製品で、このうち15～17は銅製品のはげ（小鉤）である。足袋などの金具の可能性もある。図示した3点ともほぼ同形同大である。18は鉄製の額受金具である。第267図4は寛永通寶の新寛永である。

268図18・19は石製品である。18は火打石で、白色・透明の玉髓製である。使用による摩耗・潰れは僅かである。あまり使用されていないか、再生後間もなく投棄されたものであろう。19は石筆で、白色不透明の石材に不規則な紺色の斑が入る。一方の端部は使用により尖頭形を呈する。もう一方の端部は平坦に切断しているが、周囲を僅かに使用している。切断面は雑で、工具痕などの無い割れ口なので、使用中の破損面の可能性もある。

第45号土壌の遺物のうち、陶磁器を第247図199に示した。瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗で、外面は瑠璃釉が単彩で施される。

第49号土壌は、後述する第192号土壌を掘り込んで構築された土壌である。長軸0.85mの隅丸長方形を呈する。第247図200は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗だが、端反形になるものである。焼き継ぎ痕が明瞭で、焼き継ぎ印は赤で「モ六九」とある。201は瀬戸美濃系磁器の皿で、内面に木型打込の施文がみられ、その後に染付が施される。高台内を露胎とする。なお、図示し得なかった磁器類には、酸化コバルト染付の筒形杯が認められた。202はかわらけ小皿としたが、底部・体部に3箇所の焼成前穿孔がみられる。孔の径は0.2cm、内面から外面に向かって穿たれる。胎土は硬質・精良で少量の雲母細粒が含まれる。

第52号土壌は、区画中央よりやや西側、第41号土壌と重複して位置する。新旧関係の観察では、第41号土壌より古い。長軸1.6mほどの不整形土壌で、覆土下層に木材杭・木板等を含んでい

る。第248図204～214に出土した陶磁器を示す。204は瀬戸美濃系磁器の丸碗で、外面は木型打込による陰刻状施文後に染付される。205は瀬戸美濃系磁器の蓋、206はその身である。いずれも酸化コバルト染付と思われるが、発色はややくすんでいる。206は各所が焼き継ぎされていて、焼き継ぎ印も四箇所以上ある。207は拓器質の薄手の陶器急須、208は柿釉が施された陶器乗燗である。209は瀬戸美濃系陶器の一升徳利である。肩部に径6.7cm程で付着物痕が巡り、窯道具痕とみられる。

210は瓦質土器の蓋である。内面には煤が付着する。胎土に角閃石を多く含む。上面から体部に至る部分には幅の狭いケズリが3・4段ほど施される。ヘラナデに近いものである。211はやや小型の焙烙で、厚手のものである。胎土には角閃石が多く含まれる。212も焙烙で、内耳が付くものである。胎土には角閃石が多く含まれる。213は焙烙の底部で、内面に墨書が認められる。214は江戸在地系土器の火鉢、ないし香炉を転用した砥具である。本跡は陶磁器の様相より、栗橋9期はじめ頃の帰属と考えられる。第266図23～26は金属製品で、23は用途不明の銅製品、24～26は銅製品の針金である。

第53号土壌は、第26号土壌の東側に接する。一辺80cmほどの隅丸方形の土壌で、覆土には焼土ブロックが一定量含まれている。南側の第64号土壌と重複しており、本跡のほうが新しい。第248～250図215～231に出土した陶磁器を示した。215は磁器の杯で、胎質は粗雑である。釉は貫入が多く灰白色を呈する。体部は八角形に成形される。216は瀬戸美濃系磁器の蓋で、型紙摺絵染付で鹿の子模様を表す。217～219は瀬戸美濃系磁器の皿である。217・218は内面に型紙摺絵染付を施す。220は瀬戸美濃系磁器で、酸化コバルト染付の土瓶である。221は産地不詳の灯明皿で、光沢が強い灰釉が施される。外面には重

ね焼き痕がみられ、径6.8cmである。受部上端径も6.8cmである。受部の切れ込みは逆三角形である。222は瀬戸美濃系陶器の一升徳利である。223は陶器の燗徳利で産地不詳である。外面には僅かに黄色味を帯びる灰釉が施され、呉須で「原勢屋」「固」と絵付けされる。底部と外面下位は、回転ケズリで整形される。224は陶器の植木鉢で、瀬戸美濃系陶器と思われる。ほぼ白色の灰釉が施軸され、呉須・鉄絵で模様を描かれる。

225は施軸土器の両手鍋で、遺存部分は底面を含めて全面が施軸される。把手は全体が口縁部に接着しているが、握りの加飾を加えた凝ったものである。外面体部に粗くトビガンナ状の施文がみられる。胎土は橙色、精良で混入鉱物は見られない。226は陶器行平の蓋、227はその身と考えられる。

228は白色土器質の蓋である。上面は回転ケズリ痕が残る。胎土には極めて細かな雲母が含まれる。229は土師質土器の鉢である。底面の穿孔は無いが植木鉢であろうか。胎土には雲母が多く、少量の角閃石も入る。江戸在地系土器である。230は瓦質土器の方形火鉢。平面形はほぼ正方形である。231は焼塩壺の蓋で被熱して赤化する。

第269図20は石製品で粘板岩製の石板である。内外面に罫線が罫書きされる。一辺1.5cm程を意識しているようだが、線は不安定で一定しない。端面は一箇所が残り、工具痕が認められる。第266図27は金属製品の鉄鍋である。第4号土壌出土のものと同形態が類似する。

第55号土壌は区画北西部に位置する隅円方形の土壌で、径80cm程である。東側に近接して第5号埋設桶が検出されている。覆土上層には草本状の有機物が多く含まれている。

第250・251図232～242に出土遺物のうち陶磁器類を示した。232は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗で鹿の子模様を型紙摺絵で染付する。233は瀬戸美濃系磁器の坏で、酸化クロム青磁釉が施され

る。蛇の目状の高台内は露胎、体部は面取りされる。234・235は肥前系磁器の皿で内面に墨弾きをを用いた染付がみられる。237は瓦質土器の火消壺である。胎土には少量の角閃石が含まれ、石英細粒が目立つ。238・239は焼塩壺の蓋である。240～242は焼塩壺である。ロクロ成形で器高は高い。蓋・身のいずれの胎土にも微細な雲母が含まれる。陶磁器の様相から本跡は栗橋9期の帰属である。第261図15は出土した軒棧瓦である。顎下面を二次的に削っている。

第266図28・29は金属製品で、28は銅製品の針金である。29は鉄製品の吊り金具である。

第56号土壌は、区画の東部、第1号土壌と第3号土壌の間で検出された小型の土壌である。覆土は下層が何枚もの有機物の薄層に分層されるが、上層は暗灰色粘質土であり、廃棄土壌がある段階で埋め戻されたものと考えられる。第251図243・244に出土した陶磁器を示した。243は陶器の火鉢で、内外面に白化粧後、糠白釉を施軸、外面には緑釉が流し掛けされる。胎土は緻密であり、外面側では鈍い褐色を呈するが、中心部は還元して灰色を呈する。混入鉱物はほとんど観察できない。244は土師質土器の焼塩壺で、被熱して赤変する。このほか、型紙摺絵染付の磁器皿が出土している。栗橋9期の帰属である。

第57号土壌は、第56号土壌の北側から検出された小型の土壌で、径40cm内外の円形ないし楕円形を呈するものらしい。第1号土壌と重複している。第251図245は産地不詳の陶器で灯明皿(油皿)である。内外面に柿釉が施される。胎土は硬質で鈍い赤褐色を呈し、微細な黒色粒子が多量に含まれる。地方窯系の製品とみられる。

第58号土壌は、区画中央部のやや東側に検出された隅丸長方形の土壌で、長軸1m強である。第1号溝跡と重複しており、新旧関係の観察では本跡のほうが古い。遺物はほとんど出土しなかった。

第64号土壌は、第26・53号土壌と重複し、いずれも古い。長軸2m弱の東西に長い隅丸長方形の土壌である。出土遺物は少なく、陶磁器は磁器5片、陶器2片のみに留まる。瀬戸美濃系磁器の水滴、肥前系磁器の湯呑形碗が含まれているので、栗橋7期以降である。第266図30は金属製品で、銅製品の簪で飾り部分は欠失する。草花文が施されている。

第69号土壌は区画のほぼ中央に位置するもので、径70～80cmの不整形土壌である。第251図246・247に出土した陶磁器を示す。246は陶器の柿軸甕で、胎土は硬質・緻密である。地方窯産とみられる。247は瀬戸美濃系陶器の一升徳利で、高台は痕跡的で目立たない。また、頸部の沈線も確認できない。このほか、萩焼ピラ掛け碗の細片が出土している。磁器には銅版転写染付の蓋も出土しているが、遺物の量が少なく、詳細な時期は絞り込めない。

第74号土壌は区画の北西部に位置し、第2号竹樋と軸方向を揃えるように検出されている。長軸0.95mほどの隅丸長方形の土壌である。陶磁器の破片数が少なく、詳細な時期を絞りこめないが、外面を瑠璃釉単彩とする瀬戸美濃系磁器湯呑形碗が出土しているので、栗橋7期以降である。第266図31は金属製品で用途不明の銅製品である。径1mm程の銅線を格子状に組んでいるが、全体の形状は円筒形に近い。

第83号土壌は区画の東側、第1号土壌の北西側に接して検出された。小型の楕円形土壌で、長径0.73m程である。規模は小さいが多くの遺物が出土している。第251・252図248～266に陶磁器を示す。250は瀬戸美濃系磁器の小型の碗蓋で、赤を主体に青、緑の上絵付けがみられる。251・252は外面に酸化コバルト染付が施される瀬戸美濃系磁器の杯である。251は端反になる杯、252は小型の筒形杯で、いずれも同形・同文の個体が非掲載遺物に1点ずつある。258～260

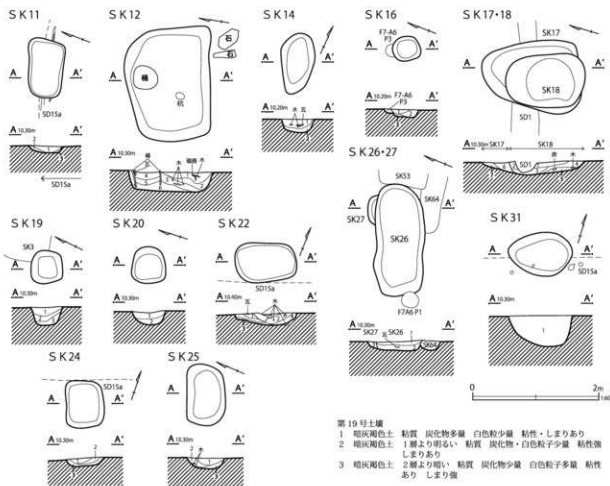
は瀬戸美濃系磁器の型押壽文皿である。非掲載遺物にもう1個体あり計4個体である。262は瀬戸美濃系磁器の徳利で爛徳利のようだが、大型である。全体に焼き継ぎ痕が多くみられる。

第90～92号土壌は区画の東側、調査区際に近い場所から検出された小型の土壌であり、各々の規模も比較的類似する。

第90号土壌は、長軸0.45mの隅丸長方形を呈する。第253図269～276に出土した陶磁器を示す。269は肥前系磁器の御神酒徳利である。270・271は瀬戸美濃系磁器の爛徳利と急須で、いずれも酸化コバルト染付が施される。急須は焼き継ぎ痕が顕著で、被熱している。274は陶器の両手鍋で柿軸が施される。底部外周を細かく打ち欠いているのは、生産地での調整痕であろうか。275は大振りの火鉢で外面に亀甲文状の施文がみられる。角閃石が極めて多く含まれる。276は土師質土器の焙烙で内耳が1つ遺存する。胎土に角閃石が多く含まれる。このほか、在地系土器の大甕とみられる破片が多く含まれており、あまり接合しなかったが、ほぼ一個体分が投棄されていた可能性もある。同一個体と思われる大甕の破片が第92号土壌から出土している。栗橋9期でも比較的古い段階の様相である。

第92号土壌は径0.4m程度の円形の土壌である。出土した陶磁器は少なく、磁器1片、陶器2片、土器2片のみであった。このうち土器は、第90号土壌出土の大甕と同一個体と思われる。白土染付の陶器土瓶・磁器の爛徳利が出土しており、第90号土壌とほぼ同時期と考えられる。

第95号土壌は区画の西側から検出された浅い土壌で、第1号竹樋、第117号土壌と重複する。新旧関係については、両者より新しいと観察されている。第253図277・278は出土した軟質施釉土器質の陶器で、内外面とも施釉されるが、外面の釉が薄く拭き取られている可能性が高い。内面に茶・緑の絵付けがみられる。このほか、銅版転写



第 11 号土壌

- 1 暗灰色土 粘質 炭化物粒子・白色粒子少量 粘性弱 しまりあり
- 2 暗灰色土 1層より明るい 粘質 白色粒子少量 粘性弱 しまり強
- 3 暗灰色土 粘土質 白色・褐色粒子少量 粘性弱 しまり強

第 12 号土壌

- 1 暗褐色土 粘質 炭化物粒子多量 焼土粒子少量 粘性・しまり弱
- 2 暗褐色土 1層より明るい 粘質 炭化物粒子多量 腐植土少量 粘性・しまり あり
- 3 暗褐色土 2層より暗い 粘質 炭化物粒子少量 腐植土 粘性・しまりあり
- 4 暗褐色土 粘質 炭化物粒子少量 粘性・しまりあり
- 5 暗褐色土 粘質 炭化物粒子少量 粘性・しまりあり
- 6 暗褐色土 5層より暗い 粘質 炭化物粒子少量 腐植土多量 粘性あり しまり弱

第 14 号土壌

- 1 暗灰色土 褐色粒子多量 粘性あり しまり強
- 2 暗灰色土 粘質 褐色粒子・炭化物粒子少量 粘性・しまりあり

第 16 号土壌

- 1 暗褐色土 粘質 炭化物少量 褐色粒子多量 粘性弱 しまりあり
- 2 暗褐色土 1層より明るい 炭化物粒子微量 褐色粒子少量 粘性・しまりあり
- 3 暗褐色土 1層より暗い 褐色粒子少量 粘性弱 しまりあり

第 17・18 号土壌

- 1 暗褐色土 粘質 炭化物・褐色粒子多量 粘性あり しまり強 (SK18)
- 2 暗褐色土 粘質 炭化物粒子・白色粒子少量 粘性・しまりあり
- 3 暗褐色土 2層より暗い 粘質 炭化物多量 褐色粒子少量 粘性・しまりあり (SK18)
- 4 暗褐色土 4層より暗い 粘質 炭化物粒子・褐色粒子少量 粘性あり しまり弱 (SK18)
- 5 暗褐色土 4層より暗い 粘質 炭化物粒子多量 褐色粒子少量 粘性・しまりあり (SK18)
- 6 暗褐色土 粘質 炭化物・褐色粒子多量 焼土粒子少量 粘性あり しまり弱 (SK17)
- 7 暗褐色土 粘質 炭化物・褐色粒子多量 焼土粒子少量 粘性弱 しまりあり (SK17)

第 19 号土壌

- 1 暗灰色土 粘質 炭化物多量 白色粒子少量 粘性・しまりあり
- 2 暗灰色土 1層より明るい 粘質 炭化物・白色粒子少量 粘性強 しまりあり
- 3 暗灰色土 2層より暗い 粘質 炭化物少量 白色粒子多量 粘性あり しまり強

第 20 号土壌

- 1 暗灰色土 粘質 炭化物・焼土ブロック多量 粘性あり しまり強
- 2 暗灰色土 粘質 炭化物・焼土ブロック多量 有機物(木片) 粘性・しまりあり

第 22 号土壌

- 1 暗灰色土 粘質 褐色粒子少量 木材や板・陶磁器・瓦出土 粘性弱 しまり強
- 2 暗灰色土 1層より明るい 粘質 褐色粒子少量 木片・木炭出土 (1層より少ない) 粘性・しまりあり
- 3 暗灰色土 粘質 白色粒子少量 粘性あり しまり強
- 4 暗灰色土 粘質 褐色粒子少量 木片出土 粘性・しまりあり

第 24 号土壌

- 1 暗褐色土 粘質 炭化物粒子・褐色粒子少量 粘性・しまりあり
- 2 暗褐色土 1層より暗い 粘質 炭化物粒子・褐色粒子微量 粘性あり しまり強
- 3 暗灰色土 粘質 白色・褐色粒子少量

第 25 号土壌

- 1 暗灰色土 粘質 炭化物・有機物(木片)多量 褐色粒子少量 粘性・しまりあり
- 2 暗灰色土 1層より明るい 粘質 炭化物多量 有機物(木片)・褐色粒子少量 粘性・しまりあり
- 3 暗灰色土 2層より暗い 粘質 炭化物・有機物(木片)・褐色粒子少量 陶磁器出土 粘性・しまりあり

第 26 号土壌

- 1 暗灰色土 粘質 炭化物粒子・白色粒子少量 粘性弱 しまり強
- 2 暗灰色土 1層より暗い 粘土質 炭化物粒子・白色粒子少量 瓦・陶磁器出土 粘性弱 しまり強

第 27 号土壌

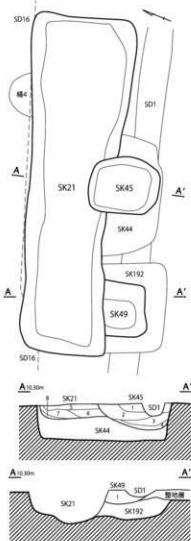
- 1 暗褐色土 1層より明るい 炭化物・白色粒子少量 粘性あり しまり強

第 31 号土壌

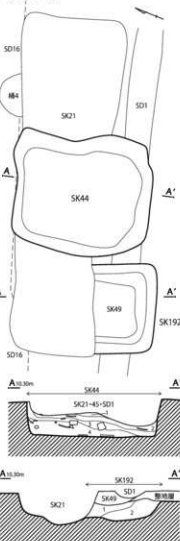
- 1 暗褐色土

第 228 図 第 2 区画の土壌 (2)

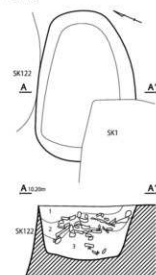
S K 21・45・49



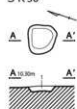
S K 44・192



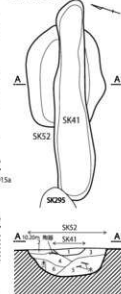
S K 40



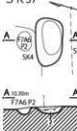
S K 36



S K 41・52



S K 37



## 第 21・45 号土層

- 1 暗灰褐色土 炭化物粒子多量 焼土粒子微量 粘性・しまりあり (SK45)
- 2 暗褐色土 粘質 炭化物・焼土粒子少量 粘性あり しまり強 (SK45)
- 3 暗褐色土 粘性・しまり強い 粘質 炭化物・焼土粒子・褐色粒子少量 (SK45)
- 4 黒色土 炭化物 褐色粒子少量 粘性弱 しまりあり (SK45)
- 5 暗灰色土 粘質 炭化物多量 褐色粒子少量 粘性弱 しまりあり (SK21)
- 6 暗灰色土 粘質 炭化物多量 焼土粒子少量 粘性・しまり強 (SK21)
- 7 暗灰色土 6層より弱い 粘質 炭化物・褐色粒子多量 粘性・しまり強 (SK21)
- 8 暗褐色土 粘質 炭化物粒子少量 粘性・しまりあり (SK21)

## 第 40 号土層

- 1 暗灰色土 粘質 炭化物・白色粒子多量 粘性弱 しまりあり

## 第 44 号土層

- 1 暗灰色土 粘質 炭化物・焼土粒子少量 有機物(樹皮)少量 粘性・しまりあり
- 2 暗褐色土 炭化物粒子 有機物(樹皮)多量 粘性・しまりあり
- 3 暗灰色土 炭化物粒子少量 有機物・瓦多量 粘性・しまりあり
- 4 暗褐色土 炭化物粒子少量 有機物多量(木灰や礫皮) 粘性・しまり強

## 第 192 号土層

- 1 暗灰色土 粘質 炭化物粒子・白色粒子多量 粘性弱・しまりあり
- 2 暗灰色土 1層より弱い 粘質 炭化物多量 粘性・しまり強

## 第 36 号土層

- 1 暗灰色土 粘質 焼土ブロック・炭化物粒子多量 白色粒子少量 粘性・しまりあり 陶磁器片出土

## 第 37 号土層

- 1 黒色土 粘質 炭化物粒子・炭化物多量 褐色粒子少量 粘性・しまり強
- 2 暗褐色土 粘質 炭化物粒子・褐色粒子少量 粘性弱 しまり強

## 第 40 号土層

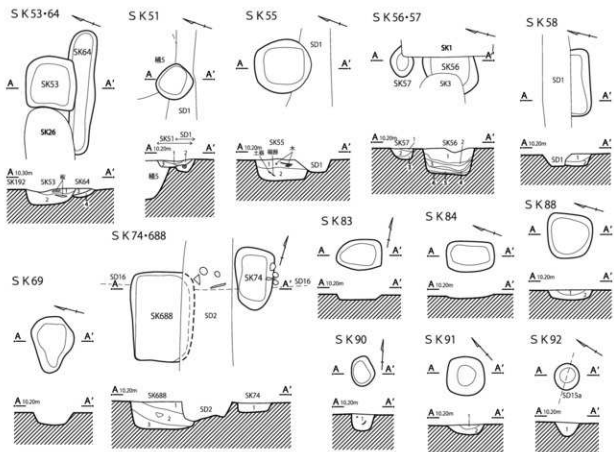
- 1 暗褐色土 粘質 炭化物多量 焼土粒子・褐色粒子少量 粘性弱 しまり強
- 2 暗褐色土 1層より強い 粘質 炭化物粒子・焼土粒子・褐色粒子少量 粘性弱 しまり強
- 3 暗褐色土 2層より弱い 粘質 焼土粒子少量 炭化物粒子多量 粘性・しまりあり

## 第 41・52 号土層

- 1 暗褐色土 粘質 炭化物粒子多量 焼土粒子少量 煉瓦・陶磁器など出土 粘性・しまりあり (SK41)
- 2 暗褐色土 1層より強い 粘質 炭化物粒子・焼土粒子少量 褐色粒子少量 粘性・しまりあり (SK52)
- 3 暗褐色土 1層より明るい 粘質 褐色粒子多量 粘性弱 しまりあり (SK52)
- 4 暗灰色土 1層より明るい 焼土粒子・褐色粒子少量 粘性強 しまりあり 陶器出土 (SK52)
- 5 暗灰色土 4層より強い 粘質 焼土粒子・褐色粒子多量 粘性強 しまりあり 木灰・木灰出土 (SK52)
- 6 暗灰色土 4層より弱い 焼土粒子・褐色粒子 粘性・しまりあり (SK52)

第 229 図 第 2 区画の土層 (3)

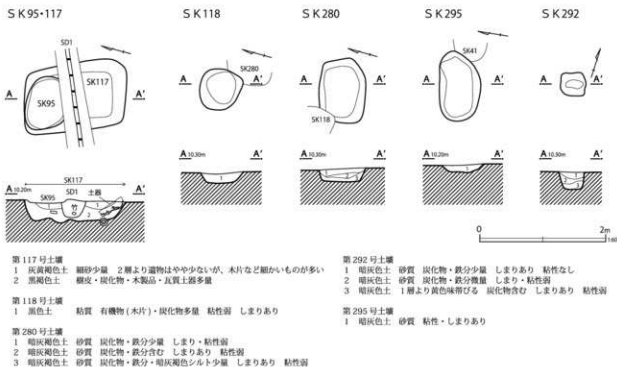




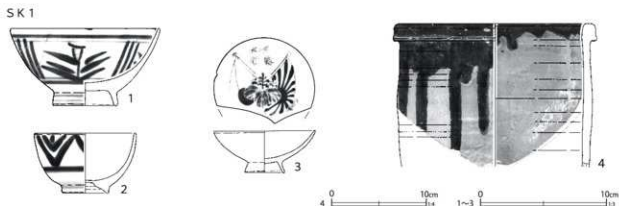
- 第51号土壌  
 1 暗褐色土 粘質 褐色粒子少量 炭化物粒子微量 粘性あり しまり強  
 2 暗褐色土 1層より暗い 粘質 褐色粒子多量 炭化物粒子少量 粘性・しまりあり
- 第53・64号土壌  
 1 暗灰色土 粘質 炭化物・焼土ブロック多量 褐色粒子少量 粘性あり しまり弱 (SK53)  
 2 暗灰色土 1層より明るい 粘質 炭化物粒子・焼土ブロック・褐色粒子多量 粘性・しまりあり 多くの陶磁器出土 (SK53)  
 3 暗灰色土 粘質 やや多量の褐色粒子 炭化物粒子少量 粘性あり しまり強 (SK64)  
 4 暗灰色土 3層より暗い 粘質 炭化物粒子・褐色粒子少量 木片含む 粘性あり しまり強 (SK64)
- 第55号土壌  
 1 暗褐色土 粘質 褐色粒子少量 有機物(草など)多量 粘性極弱 しまり弱  
 2 暗灰色土 粘質 炭化物粒子・白色粒子少量 粘性・しまりあり
- 第56号土壌  
 1 暗灰色土 粘質 炭化物粒子・焼土粒子多量 白色粒子少量 粘性・しまりあり 炭化物(木片や葉のような植物)輪多量 粘性・しまり弱  
 2 黒色土 粘質 焼土粒子少量 腐食した藁などの有機物を多く含む 粘性・しまり弱  
 4 暗赤褐色土 3層より暗い 粘質 炭化物粒子・焼土粒子少量 腐食した有機物を多く含む 粘性・しまり弱  
 5 黒色土 3層より暗い 極多量の炭化物(藁などの有機物) 粘性・しまり弱  
 6 暗灰色土 3層より暗い 炭化物粒子・焼土粒子少量 藁などの有機物含む 粘性・しまりあり
- 第57号土壌  
 1 暗灰色土 粘質 炭化物粒子多量 粘性・しまりあり 木片多く含む  
 2 暗褐色土 粘質 炭化物粒子・白色粒子少量 粘性あり しまり強  
 3 暗褐色土 2層より明るい 粘質 炭化物粒子多量 白色粒子多量 粘性・しまりあり 陶磁器含む

- 第58号土壌  
 1 暗灰色土 粘質 酸化鉄粒子多量 炭化物粒子少量 粘性弱 しまりあり  
 2 暗灰色土 1層より暗い 粘質 炭化物粒子少量 粘性・しまりあり
- 第74号土壌  
 1 暗褐色土 粘質 有機物(木片)・褐色粒子少量 粘性・しまり弱
- 第88号土壌  
 1 暗褐色土 粘質 褐色粒子多量 炭化物粒子少量 粘性・しまりあり  
 2 暗灰色土 粘質 褐色粒子・炭化物粒子少量 粘性あり しまり強
- 第90号土壌  
 1 暗褐色土 褐色粒子多量 炭化物粒子少量 粘性弱 しまり強
- 第91号土壌  
 1 暗褐色土 粘質 褐色粒子・炭化物粒子 粘性・しまりあり  
 2 暗褐色土 1層より暗い 粘質 褐色粒子少量 炭化物粒子多量 粘性弱 しまりあり
- 第92号土壌  
 1 灰質褐色土 炭化物微量 灰白色ブロック少量
- 第688号土壌  
 1 暗灰色土 粘質 炭化物粒子・白色粒子少量 粘性・しまりあり  
 2 暗灰色土 1層より暗い 粘質 炭化物粒子・白色粒子多量 粘性あり しまり弱 燧灰など出土  
 3 暗灰色土 2層より暗い 粘質 炭化物粒子少量 粘性・しまりあり

第230図 第2区画の土壌(4)



第231図 第2区画の土壌(5)



第232図 第2区画の土壌出土遺物(1)

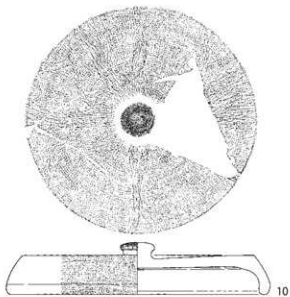
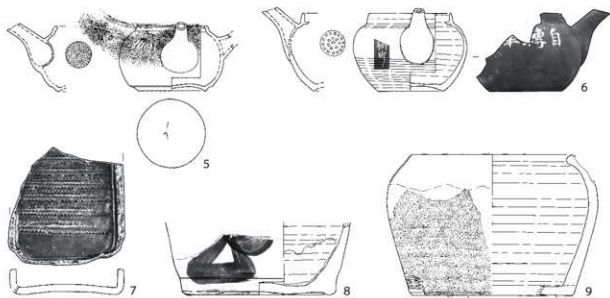
染付の磁器が複数出土しており、高台内に「清陶  
園製」銘を有す端反の坏も認められた。栗橋9期  
に帰属する。

木製品では、漆塗りの箸が1点出土したが、遺  
存状態が悪く、図化しなかった。

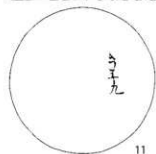
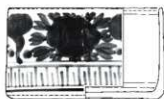
第261図16は熨斗瓦の破片と思われるが、  
紐状の棧部が発達しているものである(金子  
2018)。第269図21と22は石製品の石筆であ

る。いずれも白色不透明の材質で、両端とも欠損  
する。1は外面の面取りがやや粗く断面形が多角  
形に近い。

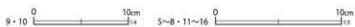
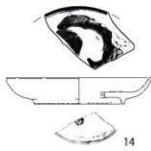
第117号土壌は、第95号土壌と重複する土壌で  
あり、長軸1.6m程の隅丸長方形を呈する。覆土  
下層に樹皮・炭化物・木製品などが多く含まれ  
る。第253～255図279～293は出土した陶磁器類  
である。



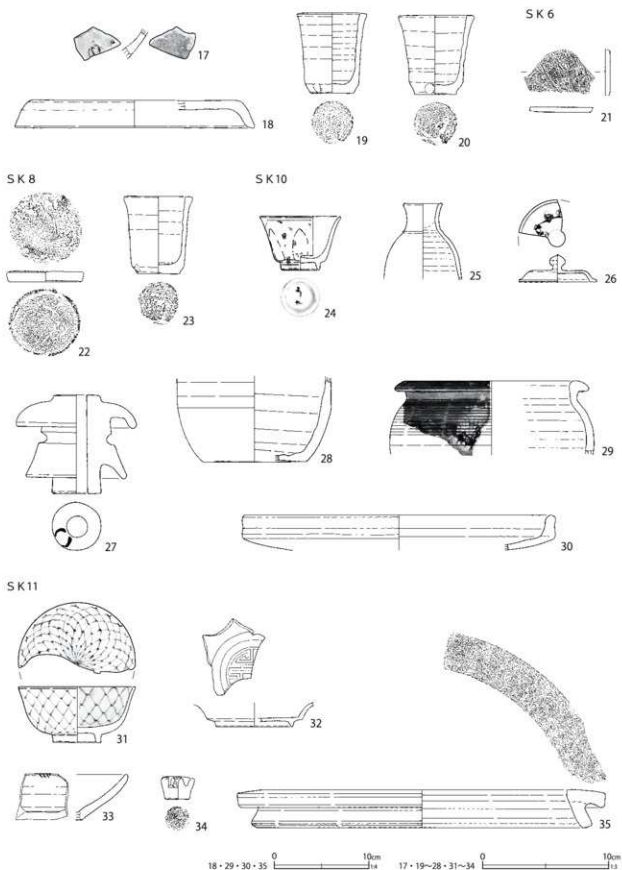
SK 2



SK 5

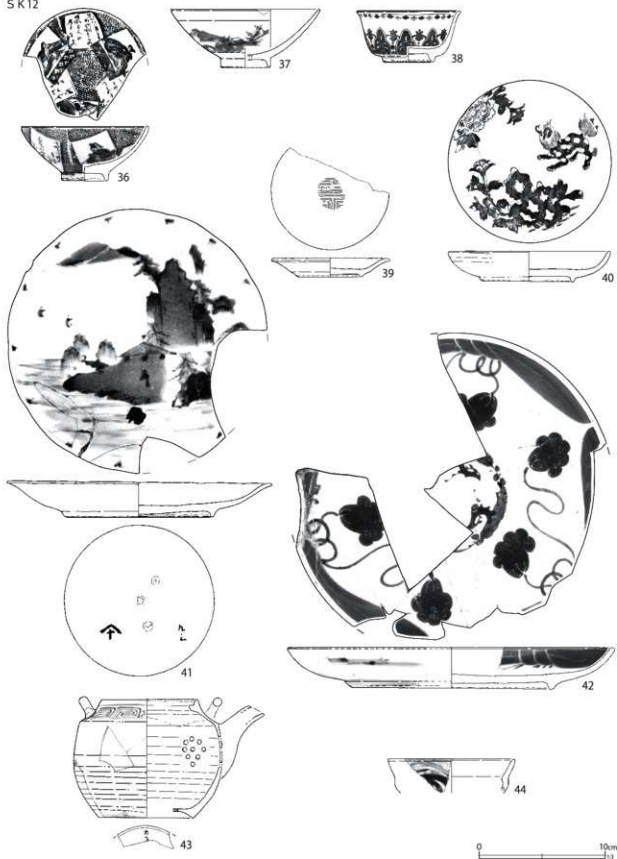


第 233 図 第 2 区画の土壇出土遺物 (2)

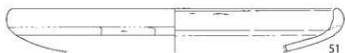
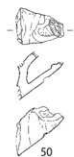
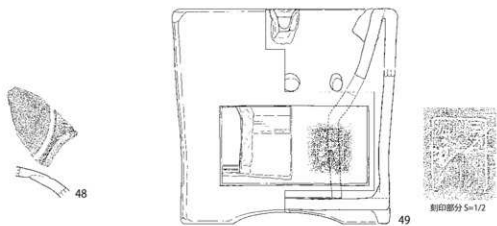
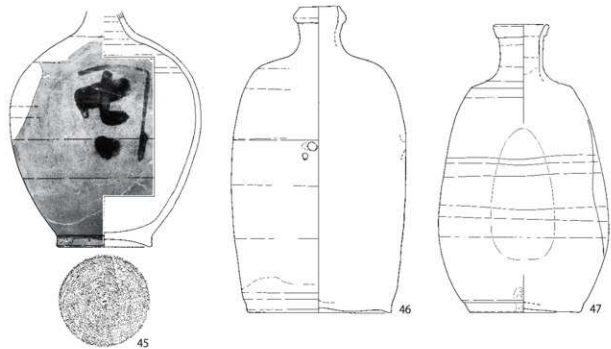


第234図 第2区画の土壇出土遺物(3)

SK12



第 235 図 第 2 区画の土壇出土遺物 (4)

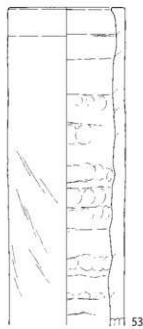


第236図 第2区画の土壌出土遺物(5)

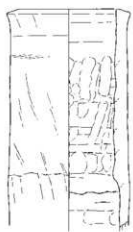
刻印部分 S=1/2



52



53



54

SK17



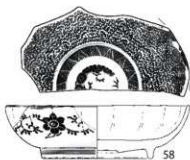
55



56



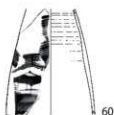
57



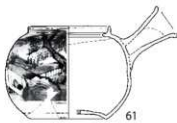
58



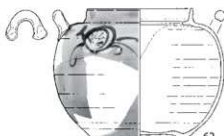
59



60



61

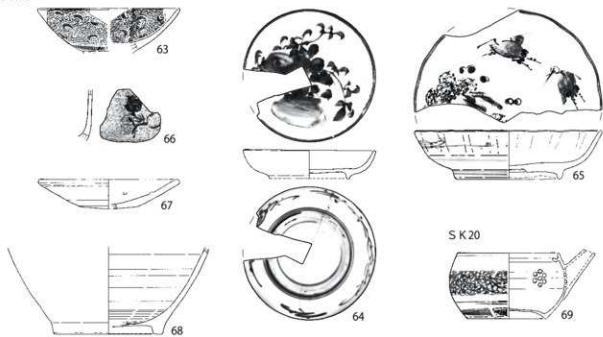


62

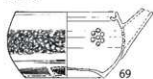
0 10cm 1/4 55~62 0 10cm 1/3

第 237 図 第 2 区画の土壇出土遺物 (6)

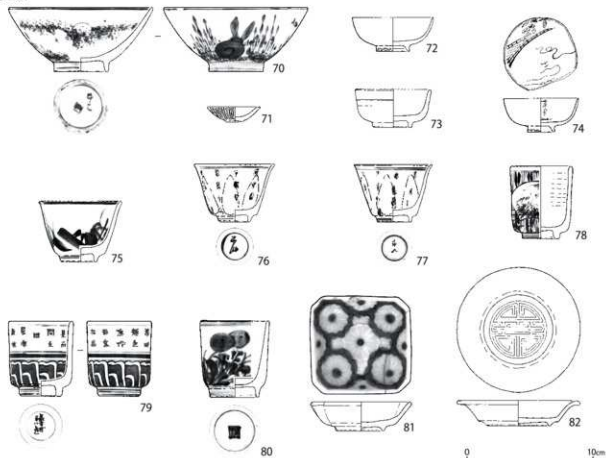
SK18



SK20



SK21

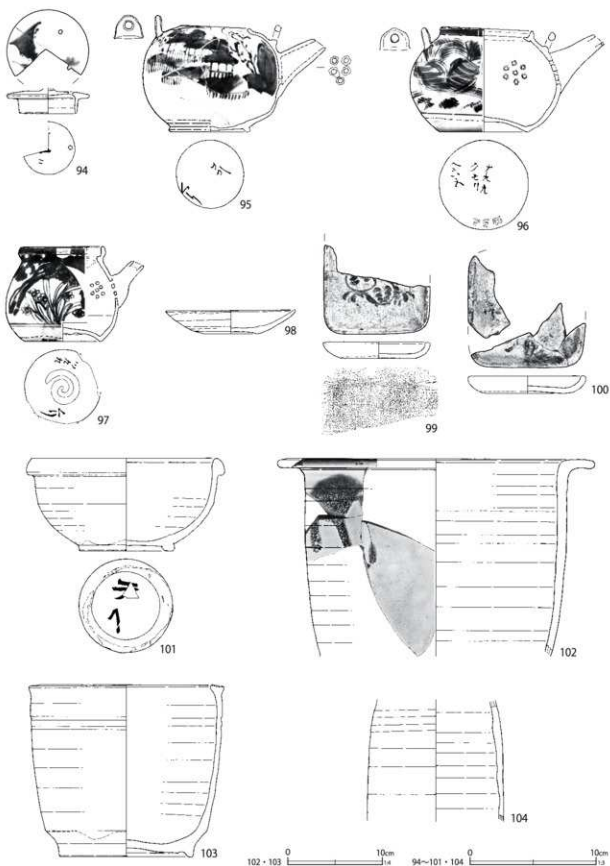


第238図 第2区画の土壇出土遺物(7)

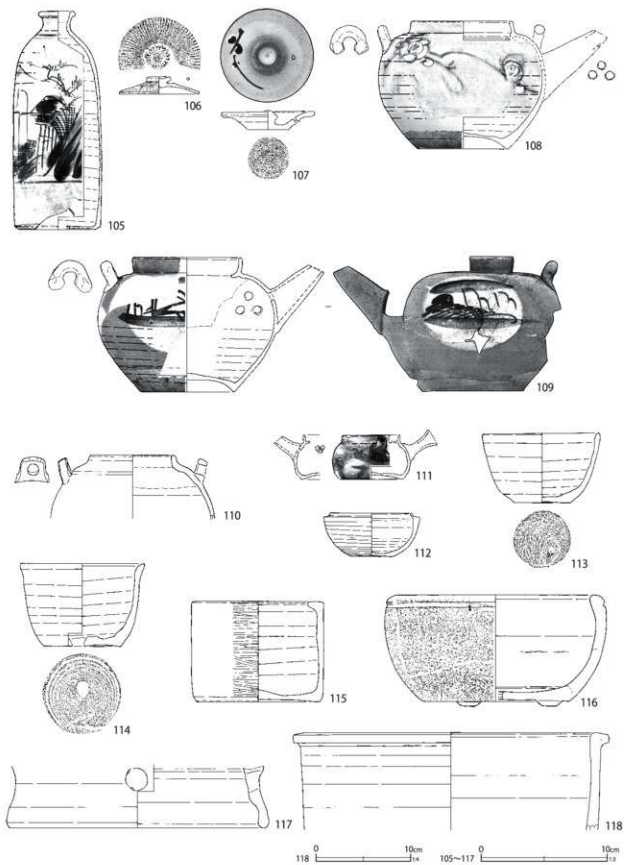




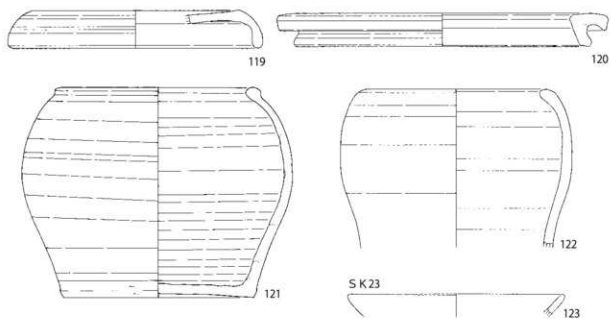
第 239 図 第 2 区画の土壇出土遺物 (8)



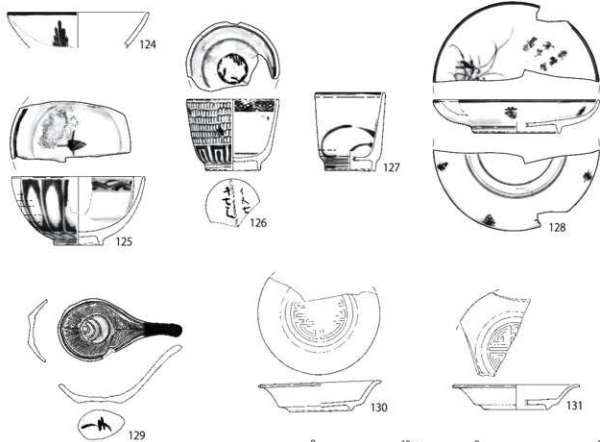
第240図 第2区画の土壇出土遺物(9)



第 241 図 第 2 区画の土壌出土遺物 (10)



SK24



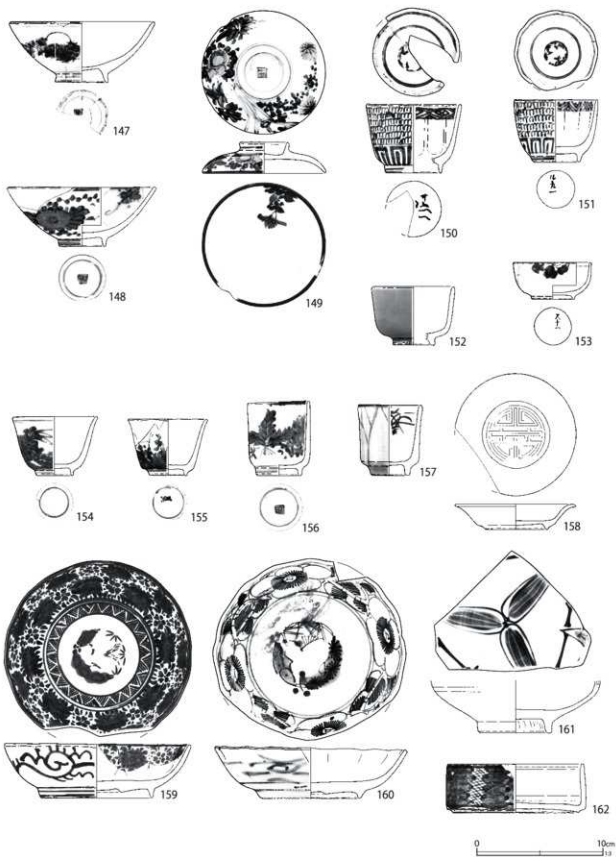
119~122 0 10cm 1/4

123~131 0 10cm 1/3

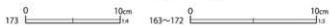
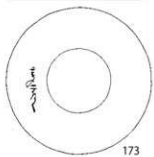
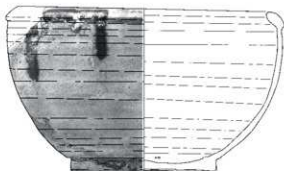
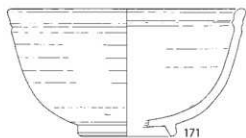
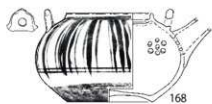
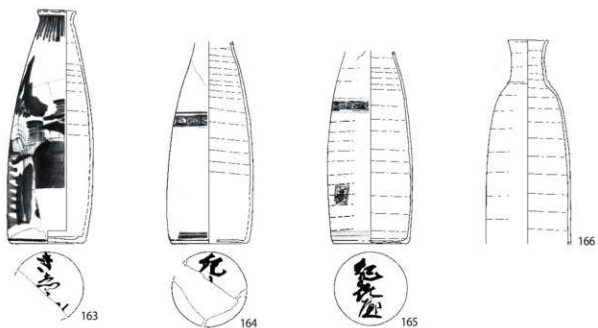
第242図 第2区画の土壌出土遺物(11)



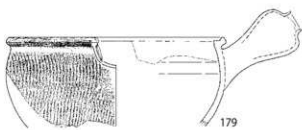
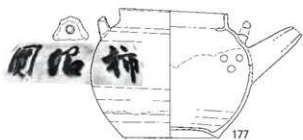
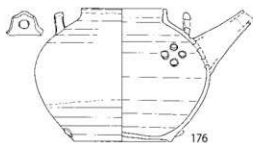
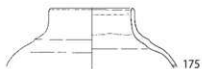
第 243 図 第 2 区画の土壙出土遺物 (12)



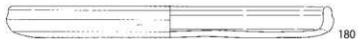
第244図 第2区画の土壌出土遺物 (13)



第245図 第2区画の土壇出土遺物 (14)



S K41



174・180・181 0 10cm 175~179・182・183 0 10cm

第246図 第2区画の土壇出土遺物(15)



SK44



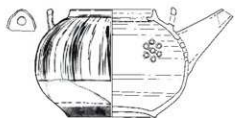
184



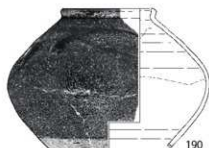
185



187



186



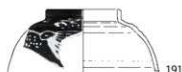
190



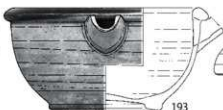
188



189



191



193



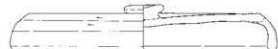
194



192



195



196



198



197

SK49



200



201

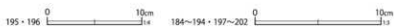


202

SK45

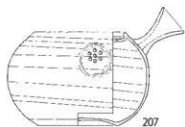


199

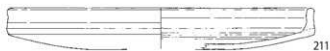
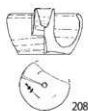
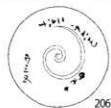


第 247 図 第 2 区画の土壇出土遺物 (16)

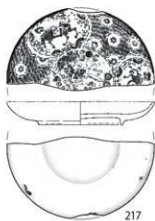
SK51



SK52



SK53

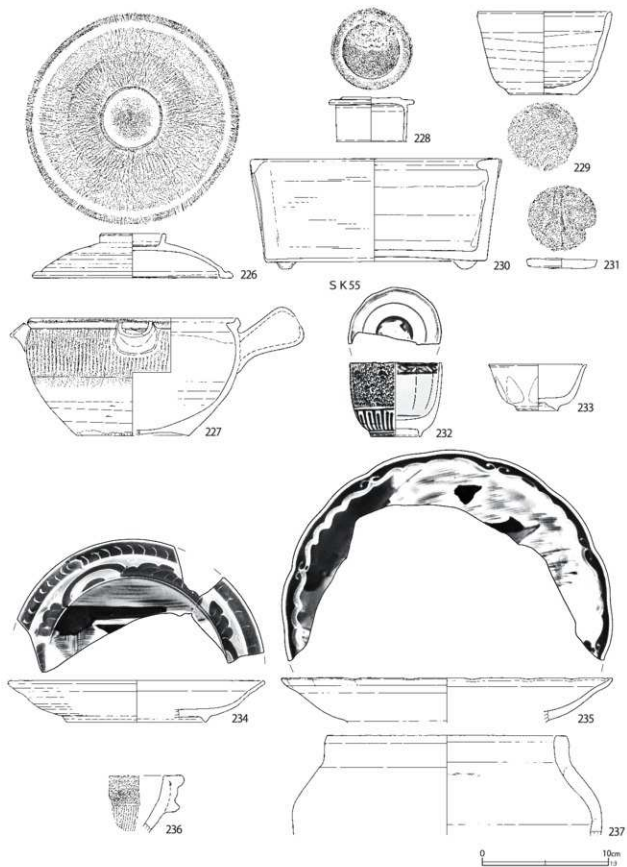


210~212 0 10cm 114 203~209・213~217 0 10cm 113

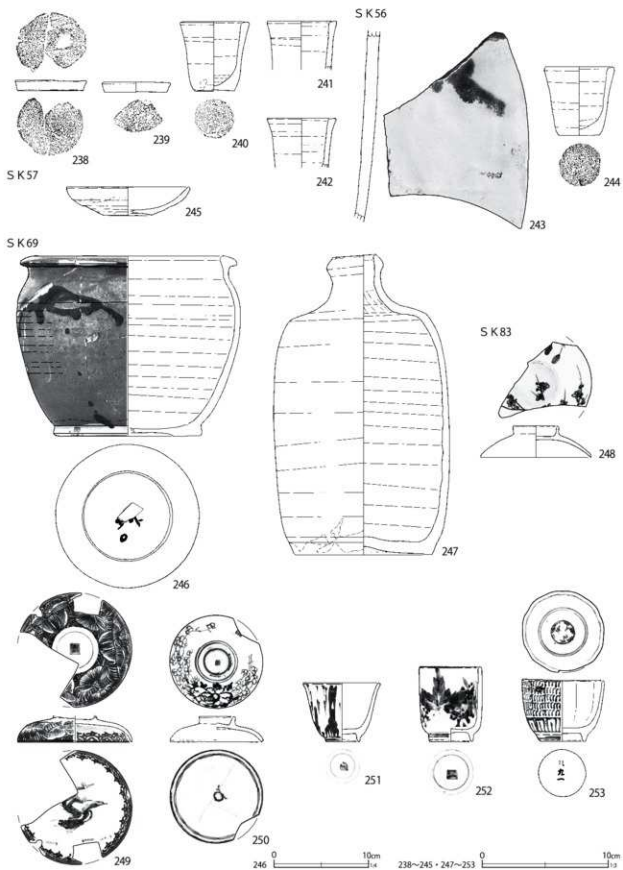
第248図 第2区画の土壇出土遺物(17)



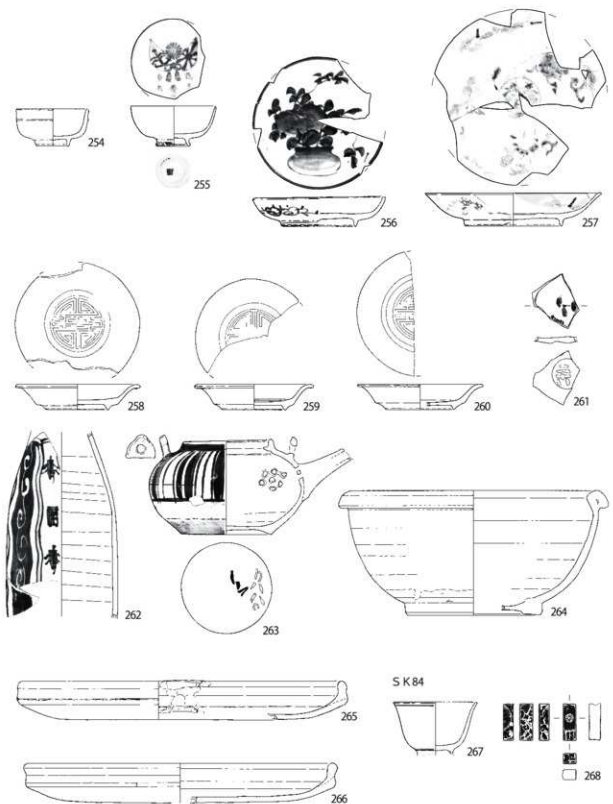
第 249 図 第 2 区画の土壇出土遺物 (18)



第250図 第2区画の土壇出土遺物(19)

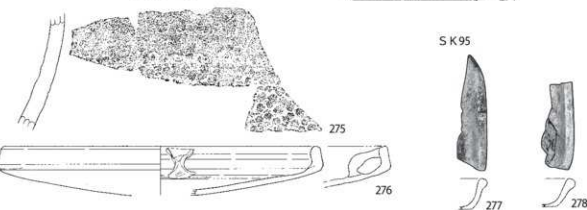
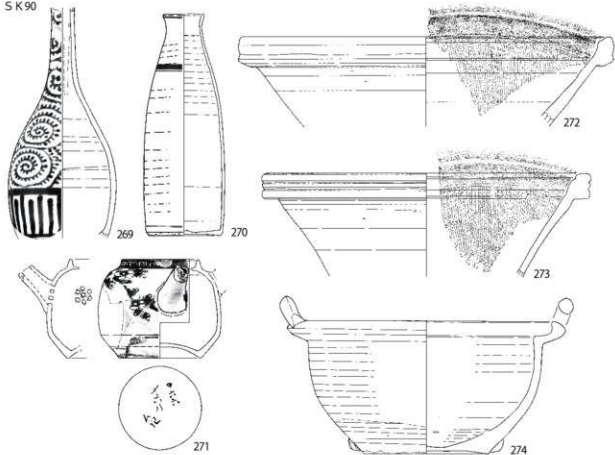


第 251 図 第 2 区画の土壌出土遺物 (20)

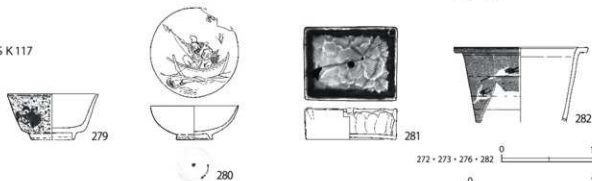


第 252 図 第 2 区画の土壇出土遺物 (21)

SK90



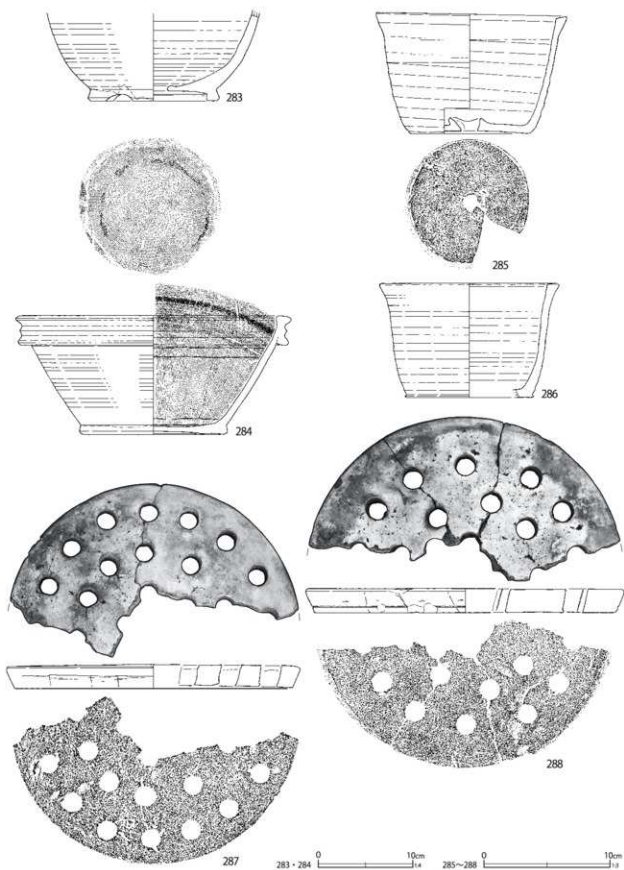
SK117



0 10cm  
1/4

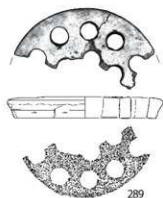
0 10cm  
1/3

第 253 図 第 2 区画の土壇出土遺物 (22)



第254図 第2区画の土壇出土遺物 (23)

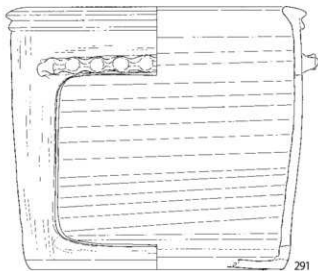




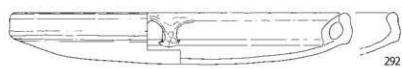
289



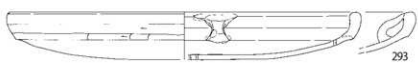
290



291

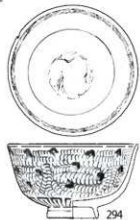


292



293

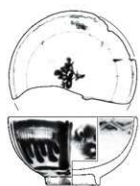
S K 192



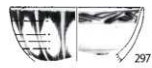
294



295



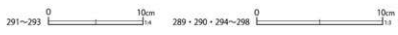
296



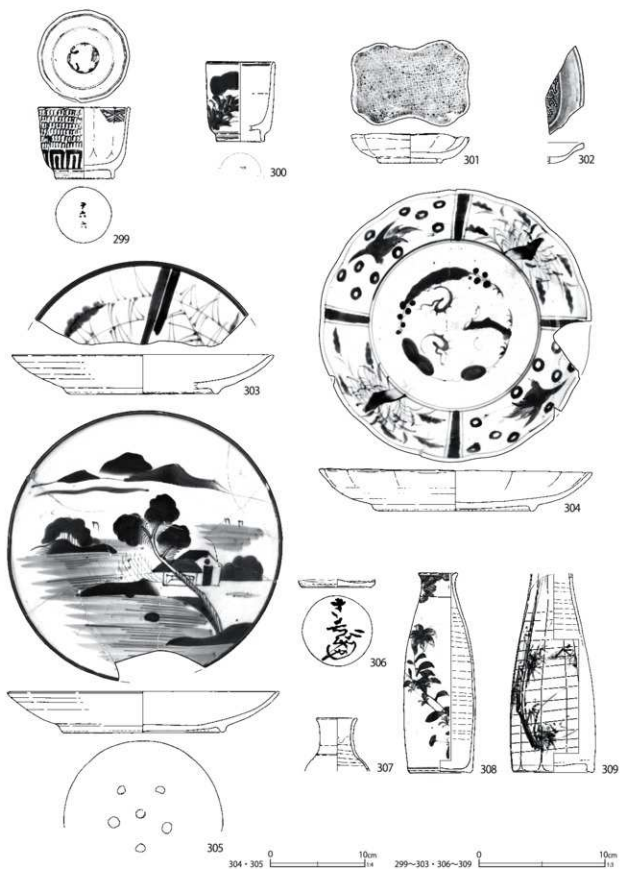
297



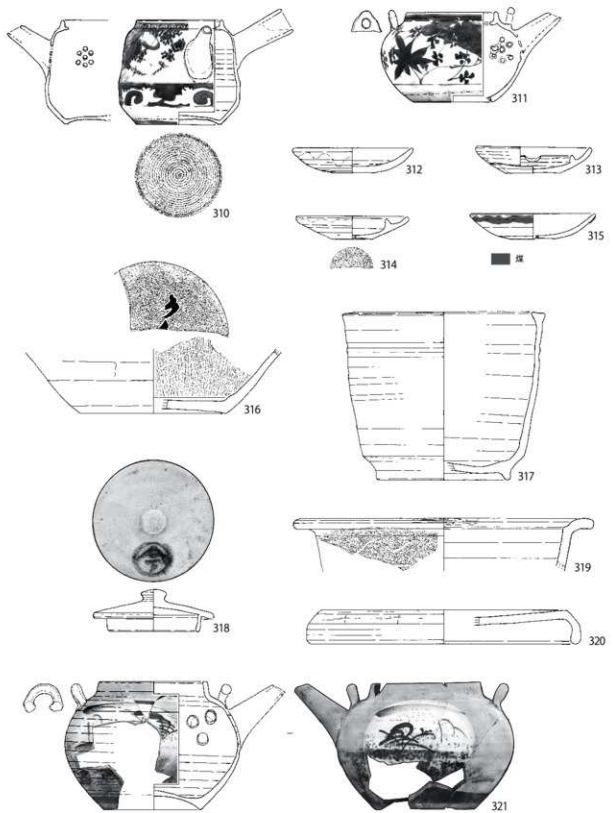
298



第 255 図 第 2 区画の土壇出土遺物 (24)



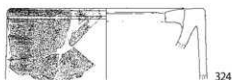
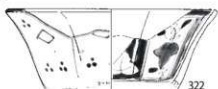
第256図 第2区画の土壇出土遺物 (25)



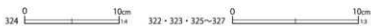
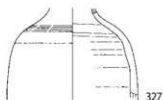
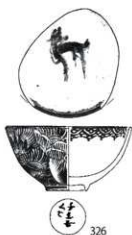
316・319・320 0 10cm 1/4 310~315・317・318・321 0 10cm 1/3

第 257 図 第 2 区画の土壙出土遺物 (26)

S K 295



S K 688



第258図 第2区画の土壌出土遺物(27)

第127表 第2区画の土壌出土遺物観察表(1)(第232~258図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	11.7	6.1	4.9	-	85	良好	白	SK1	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	
2	磁器	坏	7.9	4.7	3.6	-	75	良好	白	SK1	瀬戸美濃系 内外面酸化クロム青磁釉・外面酸化コバルト染付	
3	磁器	坏	7.9	3.3	3.0	-	65	良好	白	SK1	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上絵付(赤・緑・金)・金彩「征露記念」	
4	陶器	甕	(20.6)	[15.1]	-	IK	10	良好	灰白	SK1	埴子系か 内外面柿釉・鉄軸流し掛け	
5	陶器	急須	5.6	5.1	5.3	I	80	良好	赤灰	SK1	萬古系 外面施文 底部墨書	
6	陶器	急須	(6.4)	6.5	5.2	-	45	良好	赤灰	SK1	萬古系 外面白盛絵付「口横町/自轉車」	
7	陶器	卸皿	-	2.0	-	EIK	40	良好	にぶい赤褐	SK1	笠間系か 内外面柿釉 内面即日長 [9.2] 幅 [8.8]	
8	陶器	德利	-	[5.7]	11.5	IK	20	良好	灰白	SK1	瀬戸美濃系小 内外面灰釉 外面鉄絵「[ ] 皿」 内外面煤付着	85-1
9	瓦質土器	火消壺	(17.0)	14.9	(17.0)	CEHK	10	普通	灰白	SK1	底部シワ状痕・スノコ状圧痕 外面施文 内面煤付着	
10	瓦質土器	蓋	24.5	5.6	26.7	CDHK	90	普通	灰褐	SK1	つまみ部ミガキ 外面施文 内面煤付着	85-2
11	磁器	蓋物	12.1	7.2	11.4	-	90	良好	灰白	SK2	肥前系 内外面施釉 口唇部露胎 外面酸化コバルト染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤)	85-3
12	磁器	碗	(7.4)	5.5	(4.0)	-	25	良好	白	SK5	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付	
13	磁器	坏	6.2	4.8	2.6	-	100	良好	白	SK5	瀬戸美濃系 内外面施釉(外面珪瑯釉単彩) 外面酸化コバルト染付	86-6
14	磁器	皿	(11.4)	2.1	(7.0)	-	20	良好	白	SK5	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
15	陶器	坏	4.8	6.1	3.4	IK	90	良好	灰白	SK5	磁器質 内外面施釉 外面染付	
16	陶器	豆壺	6.0	5.1	3.8	K	90	良好	にぶい椀	SK5	底部糸切痕(右) 内面～外面上位輪軸	86-7
17	陶器	皿	-	[2.3]	-	IK	5	良好	灰白	SK5	京都市系切 軟質施釉陶器 内外面施釉 内面鉄軸	
18	瓦質土器	蓋	(21.6)	[2.9]	(25.2)	CHK	5	普通	にぶい椀	SK5	酸化炭焼成済み 上面シワ状痕	
19	土師質土器	焼塩壺	(4.6)	6.4	3.4	AEIK	55	普通	椀	SK5	底部糸切痕(左) 胎土粉質	87-1
20	土師質土器	焼塩壺	(4.9)	6.2	3.3	AHIK	75	普通	椀	SK5	底部糸切痕(左) 胎土粉質	87-2
21	陶器	瓶	-	[3.6]	-	AK	5	良好	にぶい赤褐色	SK6	備前系 板作成形 外面施文 幅 [5.0]	87-3
22	土師質土器	蓋	6.0	0.9	5.7	AHIK	100	普通	にぶい椀	SK8	胎土粉質(焼塩壺の蓋)	
23	土師質土器	焼塩壺	(5.3)	6.1	3.2	AHIK	40	普通	にぶい椀	SK8	底部糸切痕(左) 胎土粉質	87-4
24	磁器	坏	(6.3)	4.2	2.9	-	55	良好	白	SK10	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	
25	磁器	燗德利	(2.9)	[6.0]	-	-	10	良好	白	SK10	瀬戸美濃系 内外面施釉	
26	磁器	蓋	-	2.1	(6.1)	-	25	良好	白	SK10	内外面施釉 上面酸化コバルト染付(急須の蓋)	
27	磁器	罍子	-	7.8	3.8	-	90	良好	白	SK10	瀬戸美濃系 施釉 露胎部墨書 最大径 9.5 cm	
28	陶器	德利	-	[6.8]	(8.2)	BHIK	15	良好	楊灰	SK10	瀬戸美濃系 外面施釉・底部拭き取り(くこかん德利)	
29	陶器	壺	(18.5)	[7.8]	-	DEIK	10	良好	灰白	SK10	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面鉄流し掛け	
30	土師質土器	焙烙	(32.4)	[3.7]	(33.0)	CHK	5	普通	灰白	SK10	底部シワ状痕 外面少量煤付着	
31	磁器	碗	(9.1)	4.3	(3.8)	-	40	良好	白	SK11	肥前系 内外面施釉・染付	
32	磁器	皿	-	[1.9]	(5.9)	-	20	良好	白	SK11	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押文(型押壽文皿)	
33	かわらけ	皿	-	[3.6]	-	AHIK	5	普通	灰褐色	SK11	口縁部に二次的に傷付た痕跡 大型	
34	土師質土器	灯火具	2.2	1.8	1.9	ACHIK	95	普通	にぶい椀	SK11	底部糸切痕(左) 灯芯受煤付着	87-5
35	瓦質土器	甕罍	(31.0)	4.0	(35.0)	CHI	30	普通	明楊灰・楊灰	SK11	上面～内面煤付着 最大径(39.0 cm)	
36	磁器	碗	(10.0)	4.3	3.5	-	70	良好	白	SK12	瀬戸美濃系 内外面施釉・銅版転写染付(青・茶)	87-6
37	磁器	碗	(11.8)	4.6	(3.8)	-	55	良好	白	SK12	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面銅版転写染付	
38	磁器	坏	8.0	4.1	3.8	-	85	良好	白	SK12	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面銅版転写染付 同文別個体1あり	
39	磁器	皿	9.0	1.4	5.0	-	70	良好	灰白	SK12	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押文(型押壽文皿)	88-1
40	磁器	皿	12.6	2.4	7.1	-	100	良好	白	SK12	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面銅版転写染付(緑) 口紅	
41	磁器	皿	20.7	2.8	11.7	-	75	良好	白	SK12	肥前系 内外面施釉 内面染付 高台内ビン痕3 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤) 弱く被熱	87-7
42	磁器	皿	25.7	3.3	15.7	-	60	良好	白	SK12	第2号埋設桶側力接合 肥前系 内外面施釉 内面染付 高台内ハリ支痕 焼き継ぎ痕	88-7
43	磁器	土瓶	7.4	9.4	7.5	-	70	良好	白	SK12	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	88-2
44	陶器	碗	(10.0)	[2.7]	-	K	5	良好	灰白	SK12	大塚相馬系 内面輪軸 外面鉄軸	88-6
45	陶器	德利	-	[18.6]	7.3	IK	65	良好	楊灰	SK12	外面灰軸・貝類絵(文字) 「瓦」「口場」	88-3
46	陶器	德利	3.1	24.2	11.4	IK	95	良好	灰白	SK12	瀬戸美濃系 外面灰軸・底部拭き取り 胴部に二次穿孔か(孔2) 煤付着	88-4
47	陶器	德利	4.1	22.7	8.7	EIK	100	良好	灰白	SK12	瀬戸美濃系 外面施釉・底部拭き取り	88-5
48	瓦質土器	手焙り	-	[2.4]	-	EHI	5	普通	灰白	SK12	上面ミガキ 体部外面トビガンナ状施文 窓の一部遺存 燻す	
49	土師質土器	罍罎	(24.0)	22.8	21.4	AIK	45	普通	にぶい椀	SK12	三河系 外面粗くミガキ・刻印 上面煤付着	
50	土師質土器	把手付鍋	-	[3.8]	-	AHIK	5	普通	椀	SK12	江戸在地系 胎土粉質 外面煤付着 把手部破片	
51	土師質土器	焙烙	(34.4)	[4.6]	(35.4)	CHK	10	普通	灰白	SK12	砂目底 外面煤付着	
52	土製品	土管	12.6	[33.5]	-	CHK	-	普通	にぶい椀	SK12	外面刻印「命」	
53	土製品	土管	(12.0)	[33.6]	-	CHK	-	普通	明楊灰 墨楊	SK12	内面煤付着	
54	土製品	土管	(10.6)	[23.6]	-	CEHIK	-	普通	にぶい椀	SK12		

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	境成	色調	遺構	備考	図版
55	磁器	蓋	3.7	2.5	9.9	-	70	良好	白	SK17	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付	
56	磁器	皿	(9.5)	2.1	(5.8)	-	15	良好	白	SK17	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押文(型押書文皿)	
57	磁器	紅皿	(5.5)	[1.4]	-	-	20	良好	白	SK17	瀬戸美濃系 内面～外面上位置施釉 外面型押文(陰刻状)	
58	磁器	皿	(14.3)	4.2	8.7	-	35	良好	白	SK17	瀬戸美濃系 内外面施釉・型紙摺輪染付	
59	磁器	燗徳利	(2.9)	18.7	5.7	-	80	良好	白	SK17	SK21 接合 瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 同文別個体1あり	88-8
60	磁器	燗徳利	-	[8.4]	-	-	25	良好	灰白	SK17	瀬戸美濃系 外面施釉・酸化コバルト染付 焼き継ぎ痕	
61	磁器	急須	6.3	8.9	(6.0)	-	60	良好	白	SK17	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 焼き継ぎ痕 底部墨書「リ」 弱く被熱・煤付着	88-9
62	陶器	土瓶	8.2	10.5	7.3	IK	60	良好	灰白	SK17	外面施釉・白蓋・須眉で給付	
63	磁器	碗	(11.0)	[3.6]	-	-	20	良好	白	SK18	瀬戸美濃系 内外面施釉・型紙摺輪染付	
64	磁器	皿	10.3	2.3	6.3	-	90	良好	白	SK18	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付 同文別個体1あり	
65	磁器	皿	14.5	3.9	8.1	-	45	良好	白	SK18	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付	
66	陶器	碗	-	[3.9]	-	IK	10	良好	楊灰	SK18	大塚相馬系 内外面施釉 外面鉄絵	89-1
67	陶器	皿	(11.0)	2.3	(4.9)	IK	35	良好	灰白	SK18	内面～口縁部灰釉 内面ピン痕3遺存	
68	陶器	徳利	-	[6.9]	8.5	K	15	良好	灰白	SK18	大塚相馬系か 胎土に微細な黒粒 外面灰釉 底部に二次穿孔か	89-2
69	磁器	急須	(8.0)	5.4	6.2	-	60	良好	白	SK20	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	
70	磁器	碗	11.3	5.1	4.2	-	100	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施釉 口縁部～外面酸化コバルト染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤)	89-3
71	磁器	紅皿	4.2	1.2	1.2	-	100	良好	白	SK21	肥前系 型成形 内面～口縁部施釉 外面しのぎ状施文	93-4
72	磁器	坏	6.4	2.7	2.6	-	80	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 破面に赤色物質付着	
73	磁器	坏	5.9	3.0	2.8	-	100	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施釉 同文別個体2あり	
74	磁器	坏	5.8	2.7	2.0	-	70	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 内面上給付(青) 同文別個体1あり	
75	磁器	坏	6.3	4.8	2.8	-	100	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 同文別個体1以上あり	
76	磁器	坏	6.2	4.6	2.2	-	80	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	
77	磁器	坏	6.1	4.6	2.6	-	70	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	
78	磁器	坏	4.6	5.7	2.8	-	95	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 同文別個体2あり	
79	磁器	坏	4.9	5.9	3.1	-	100	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付・緑色の給付(文字)	89-4
80	磁器	坏	5.3	6.1	3.7	-	100	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 同文別個体2あり	
81	磁器	皿	7.8	2.3	3.9	-	100	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 型成形 内外面施釉 内面型押文・染付	89-5
82	磁器	皿	9.3	2.0	4.9	-	100	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 型成形 内外面施釉 内面型押文(型押書文皿) 同文別個体2あり	89-6
83	磁器	皿	10.4	2.4	5.9	-	100	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤) 同文別個体1あり	
84	磁器	皿	14.6	3.9	8.3	-	50	良好	白	SK21	肥前系 内外面施釉・染付 蛇の目状高台 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤)	89-7
85	磁器	皿	15.1	4.0	8.0	-	95	良好	白	SK21	肥前系 内外面施釉・染付 蛇の目状高台	
86	磁器	皿	14.9	4.8	9.3	-	95	良好	白	SK21	肥前系 内外面施釉・染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤) 同文別個体1あり	90-1
87	磁器	蓋物	6.3	3.4	3.3	-	95	良好	白	SK21	肥前系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤)	90-2
88	磁器	蓋物	9.3	5.2	5.0	-	75	良好	白	SK21	肥前系 内外面施釉 外面染付	90-3
89	磁器	蓮華	-	[3.3]	-	-	90	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面施文・染付 長 8.3 幅 5.2	
90	磁器	燗徳利	-	[1.8]	-	-	5	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面色絵(緑・黄・紫)	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
91	磁器	燗徳利	-	[6.1]	(6.0)	-	10	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面色絵(緑・黄・紫) 上下接合ない2破片から図上復元 SK131・99に同一個体	90-4
92	磁器	燗徳利	-	[7.0]	6.0	-	15	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 外面施軸・染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤)	90-5
93	磁器	燗徳利	3.1	18.1	5.7	-	85	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 外面施軸・酸化コバルト染付 底部墨書	90-6
94	磁器	蓋	-	[2.0]	(4.4)	-	70	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 上面施軸・染付・穿孔1 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤) 内面墨書 最大径6.4cm(土瓶の蓋)	
95	磁器	土瓶	5.5	9.2	6.0	-	90	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤) 底部墨書	91-1
96	磁器	土瓶	7.0	8.3	7.0	-	95	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤)	91-2
97	磁器	急須	6.4	7.5	6.1	-	60	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤) 底部墨書「くり」	91-3
98	陶器	灯明皿	10.3	1.9	4.2	AK	90	良好	灰白	SK21	京都信楽系 内面透明軸 内面ピン痕3 口縁部煤付着	
99	陶器	皿	7.9	1.3	5.7	E	50	良好	にぶい黄橙	SK21	型成形 内外面施軸 内面鉄銹 底部布圧痕	91-4
100	陶器	皿	(8.8)	1.4	(6.1)	BI	30	良好	灰白	SK21	型成形 内外面施軸 内面緑軸掛け分け・鉄銹 底部布圧痕	
101	陶器	鉢	14.6	7.3	7.4	IK	80	良好	灰白	SK21	内外面灰軸 口縁部一部に難白軸痕らず 内面目跡5 底部墨書	91-5
102	陶器	鉢	(31.4)	[20.9]	-	K	5	良好	にぶい橙	SK21	内面上位～外面白化粧後難白軸・緑軸流し掛け	92-1
103	陶器	半胴壺	(18.0)	18.2	(14.0)	EIK	40	良好	灰白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施軸 口縁上端部目跡2遺存 弱く被熱(一部黒化)	
104	陶器	徳利	-	[9.6]	-	IK	15	良好	にぶい黄橙	SK21	瀬戸美濃系 外面灰軸	
105	陶器	燗徳利	2.5	17.3	6.0	K	90	良好	灰白	SK21	外面施軸・三彩	92-2
106	陶器	蓋	2.0	1.3	6.2	-	70	良好	黄灰	SK21	萬古系 外面トビガンナ状施文 穿孔1	92-4
107	陶器	蓋	7.3	1.5	3.3	K	100	良好	にぶい黄橙	SK21	下高糸切痕(右) 上面灰軸・白盛、貞須で絵付 穿孔1(土瓶の蓋)	
108	陶器	土瓶	7.8	10.1	7.3	IK	95	良好	灰黄	SK21	外面灰軸・白盛、貞須で絵付	
109	陶器	土瓶	(8.4)	10.6	7.3	CIK	65	良好	灰白	SK21	外面白土染付	
110	陶器	土瓶	(6.4)	[5.0]	-	DHK	10	良好	灰黄褐	SK21	松尾系 外面と内面の一部に海鼠軸	92-3
111	陶器	急須	4.5	3.5	5.0	K	70	良好	にぶい黄橙	SK21	外面一部火押状に施軸	92-5
112	陶器	蓋物	6.4	3.4	3.1	ABIK	95	普通	にぶい橙	SK21	全面露胎。白色土器質	92-6
113	土師質土器	鉢	(9.1)	5.5	4.5	AIK	65	普通	にぶい橙	SK21	江戸在地系 底部糸切痕(左) 胎土粉質	92-7
114	瓦質土器	楕木鉢	9.8	6.5	6.1	IK	70	普通	灰白	SK21	江戸在地系 底部糸切痕(左)・穿孔1 胎土粉質	92-8
115	土師質土器	香炉	(9.3)	8.0	9.6	AHK	60	普通	橙	SK21	外面ミガキ・赤色塗布物	93-1
116	瓦質土器	火鉢	(15.5)	8.8	(11.6)	AIK	30	普通	灰白	SK21	江戸在地系 襷す 外面施文 胎土粉質	93-2
117	瓦質土器	火鉢	-	[4.9]	(20.2)	BHK	5	普通	橙	SK21	やや酸化灰焼成	
118	瓦質土器	壺	(30.2)	[10.4]	-	CFIK	5	普通	灰白	SK21	襷す 口縁部煤付着	
119	瓦質土器	蓋	(22.0)	4.0	(26.0)	CFIK	25	普通	外:灰白 内:黄灰	SK21	上面砂目痕 襷す	
120	瓦質土器	甕罎	(27.6)	3.5	(31.2)	CHIK	15	普通	褐灰	SK21	上面煤付着 最大径(35.2)cm	
121	瓦質土器	火消壺	20.3	22.2	20.3	CHIK	80	普通	褐灰	SK21	砂目底 襷す	93-3
122	瓦質土器	火消壺	(19.0)	[16.8]	-	CHIK	15	普通	外:にぶい 内:灰	SK21	内面煤付着 襷す	
123	かわらけ	皿	(17.0)	[1.8]	-	ACHK	5	普通	にぶい橙	SK23	胎土粉質	
124	磁器	碗	(11.0)	[2.8]	-	-	5	良好	白	SK24	瀬戸美濃系 内外面施軸 口縁部～外面酸化コバルト染付 焼き継ぎ痕(平碗)	
125	磁器	碗	(10.3)	5.4	3.6	-	30	良好	白	SK24	瀬戸美濃系 内外面施軸・酸化コバルト染付	
126	磁器	碗	7.3	5.6	(4.2)	-	45	良好	白	SK24	瀬戸美濃系 内外面施軸・酸化コバルト染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤)	93-5
127	磁器	坪	(5.4)	6.2	3.9	-	40	良好	白	SK24	瀬戸美濃系 内外面施軸 口縁部～外面酸化コバルト染付	
128	磁器	皿	(13.0)	2.6	(6.8)	-	40	良好	白	SK24	瀬戸美濃系 内外面施軸・酸化コバルト染付	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	境成	色調	遺構	備考	図版
129	磁器	蓮華	-	4.7	-	-	95	良好	白	SK24	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 内面陽刻 状の筋文 長9.8 幅4.9	93-6
130	磁器	皿	9.5	2.2	4.9	-	65	良好	白	SK24	瀬戸美濃系 型成形 内外面施軸 内面型 押文 (型押壽文皿)	93-7
131	磁器	皿	(9.5)	1.9	(5.2)	-	20	良好	白	SK24	瀬戸美濃系 型成形 内外面施軸 内面型 押文 (型押壽文皿)	
132	磁器	皿	10.0	2.7	5.0	-	90	良好	白	SK24	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 内面施文 (木型打込) 高台内墨書 同文別個体1あり	94-1
133	陶器	皿	-	[1.6]	-	-	5	良好	灰白	SK24	淡路原平系 内外面緑軸 内底面型押文 SK31に同一個体	93-8
134	陶器	豆壺	5.8	5.1	2.7	1	70	良好	灰赤	SK24	内外面緑軸 強く被熱して変色 銅付着 増粘転用か	94-2
135	土師質土器	香炉	-	[3.0]	(9.5)	AHK	10	良好	橙	SK24	外面ミガキ・赤色塗布物	94-3
136	瓦質土器	蓋	(25.0)	4.3	(27.4)	CIK	30	普通	外：灰白 内：褐灰	SK24	上面砂目 横す	
137	陶器	播鉢	(36.2)	[6.1]	-	IK	5	良好	灰白 にぶい黄橙	SK25	笠間益子系 内外面緑軸 内面播目	
138	瓦質土器	槌木鉢	11.8	8.0	8.2	ACHI	90	普通	明褐灰・褐 灰	SK25	底部糸切痕 (左) 横す	94-4
139	陶器	碗	-	[3.1]	-	K	5	良好	灰白	SK26	萩焼 内外面藍灰軸	94-5
140	磁器	碗	(7.0)	5.7	(3.5)	-	20	良好	白	SK27	瀬戸美濃系 内外面施軸 (外面環瑠華彩) (湯呑形碗)	
141	陶器	壺	-	[9.5]	13.8	EIK	35	良好	灰白	SK27	瀬戸美濃系 内外面緑軸 外面鉄軸流し掛 け 内面日跡4 高台内墨書 第242表5	94-6
142	陶器	徳利	3.4	21.4	7.2	DIK	100	良好	灰白	SK31	瀬戸美濃系 外面灰軸・底部拭き取り	94-7
143	土師質土器	埴壇壺	-	[2.6]	(3.3)	AHK	35	普通	橙	SK31	底部糸切痕 (左) 胎土粉質	
144	瓦質土器	蓋	(19.0)	3.2	(23.4)	CIK	30	普通	外：灰白 内：黒褐	SK31	上面砂目 横す 内面煤付着 (火酒壺の 蓋)	
145	磁器	碗	10.2	5.3	4.1	-	85	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付	95-1
146	磁器	碗	12.2	5.7	4.3	-	65	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバル ト染付 (平碗)	95-2
147	磁器	碗	(11.4)	4.8	(4.1)	-	40	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバル ト染付 焼き継ぎ痕 (平碗)	
148	磁器	碗	11.5	4.7	3.5	-	50	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施軸・酸化コバルト染 付 同文別個体2あり (平碗)	
149	磁器	蓋	3.7	2.4	9.7	-	95	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施軸・酸化コバルト染 付	
150	磁器	碗	7.4	5.4	4.3	-	35	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施軸・酸化コバルト染 付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印 (赤) (湯呑 形碗)	95-3
151	磁器	碗	6.6	4.9	3.5	-	85	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施軸・酸化コバルト染 付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印 (赤) (湯呑 形碗)	95-4
152	磁器	碗	(6.4)	4.6	(3.2)	-	30	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施軸 (外面環瑠華彩) 口紅 (湯呑形碗)	
153	磁器	蓋物	6.2	2.9	3.2	-	65	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバル ト染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印 (赤)	95-5
154	磁器	坏	6.5	4.7	2.8	-	95	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバル ト染付	95-6
155	磁器	坏	6.2	4.4	3.0	-	60	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバル ト染付 同文別個体1あり	
156	磁器	坏	4.8	5.9	3.4	-	90	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施軸・酸化コバルト染 付 同文別個体3以上あり	
157	磁器	坏	4.9	5.5	2.8	-	55	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施軸 (外面緑軸平彩)・ 酸化コバルト染付	95-7
158	磁器	皿	9.3	2.0	4.8	-	80	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面型押文 (型押壽文皿) 同文別個体2以上あり	95-8
159	磁器	皿	14.6	4.3	8.7	-	90	良好	灰白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施軸・酸化コバルト染 付 同文別個体1以上あり	
160	磁器	皿	14.9	4.1	7.7	-	75	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付	96-1
161	磁器	鉢	-	[4.1]	5.4	-	30	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面染付 (酸化 コバルト+緑色長須)	
162	磁器	段重	10.8	3.8	9.9	-	75	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバル ト染付	
163	磁器	麴徳利	2.9	18.4	5.6	-	60	良好	灰白	SK40	瀬戸美濃系 外面施軸・酸化コバルト染付 底面墨書「き志[うや]」	96-2



番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
164	磁器	燗徳利	-	[15.9]	6.0	-	55	良好	灰白	SK40	瀬戸美濃系 外面施軸・酸化コバルト染付 底面黒書「紀口」	
165	磁器	燗徳利	-	[15.2]	5.8	-	55	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 外面施軸・酸化コバルト染付 底面黒書「紀口屋」	96-3
166	磁器	燗徳利	3.0	[16.1]	-	-	30	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内面上位～外面施軸	
167	磁器	急須	(6.2)	[5.6]	-	-	40	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施軸 (外面酸化クロム 青磁軸)・絵付 (緑・茶・白磁)	
168	磁器	土瓶	6.7	7.3	6.8	-	95	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト 染付	
169	陶器	坏	6.3	4.2	2.4	K	70	良好	灰白	SK40	京都信楽系 内外面灰軸 外面鉄軸 高台 に切り込み	96-4
170	陶器	灯明皿	(9.4)	2.2	4.5	DK	80	良好	灰白	SK40	瀬戸美濃系 内外面鉄軸・底部拭き取り 体部外面下位直重ね焼き痕	
171	陶器	片口鉢	(18.3)	10.0	(7.0)	BHK	45	良好	灰白	SK40	内外面灰軸 (一部鉄軸流し掛け) 内底面 目跡	96-5
172	陶器	植木鉢	(12.3)	[7.8]	-	K	5	良好	灰白	SK40	内面上位～外面白色釉	
173	陶器	こね鉢	26.5	17.4	15.0	EIK	80	良好	明艶灰	SK40	内外面灰軸 口縁部緑軸流し掛け 高台部 黒書	96-6
174	陶器	水鉢小	-	[14.1]	18.7	BHK	35	良好	灰白	SK40	瀬戸美濃系 内外面灰軸 外面緑軸・白色 釉流し掛け 内底面目跡 高台登付部敲 打痕 二次穿孔か	
175	陶器	土瓶	(6.4)	[4.8]	-	IK	5	良好	楊灰	SK40	大塚相馬系 外面青緑軸 胎土に黒粒多く 含む	96-7
176	陶器	土瓶	6.5	10.5	7.8	IK	90	良好	灰白	SK40	外面青緑軸	
177	陶器	土瓶	8.4	10.2	7.6	BHK	95	良好	灰白	SK40	外面灰軸・鉄軸「柿沼園」・「ヤマに」□	97-1
178	陶器	急須	7.1	[6.4]	8.0	-	80	良好	にぶい橙	SK40	胎土マーブル状 (練り込み手) 外面鐵の しぎ状に施文 体部に黒書の一部	96-8
179	陶器	行平	(16.9)	[9.2]	-	BIK	30	良好	浅黄橙	SK40	内外面鉄軸 外面トビガンナ状施文	
180	土師質土器	塔塔	(33.2)	3.3	(33.4)	CJK	25	普通	灰白	SK40	底部シワ状痕 内底面炭化物痕 外面少量 煤付着	
181	土師質土器	塔塔	(36.2)	4.1	(38.2)	CHK	5	普通	灰白	SK40	底部シワ状痕 外面煤付着	
182	磁器	燗徳利	3.0	17.8	5.8	-	95	良好	白	SK41	瀬戸美濃系 外面施軸・型紙摺絵染付	97-2
183	土師質土器	焼塩壺	(5.4)	5.2	3.2	AHK	40	普通	赤橙	SK41	底部糸切痕 胎土粉質 被熱・赤化 上下 接点ない破片から因上復元	
184	磁器	碗	10.4	5.4	3.6	-	95	良好	白	SK44	瀬戸美濃系 内外面施軸	
185	磁器	坏	6.0	2.8	2.2	-	95	良好	白	SK44	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面上絵付(青) 外面染付	
186	磁器	燗徳利	2.8	17.4	5.6	-	80	良好	白	SK44	瀬戸美濃系 外面施軸・酸化コバルト染付 底部黒書「三合カ」/紀州屋	97-3
187	磁器	急須	6.8	6.5	6.0	-	90	良好	白	SK44	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト 染付 底部黒書「い七二」 焼き継ぎ痕 焼き継ぎ印 (赤)	97-4
188	磁器	土瓶	6.6	8.7	7.0	-	100	良好	白	SK44	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト 染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印 (赤)	97-5
189	陶器	灯明皿	9.8	1.8	3.6	IK	80	良好	灰白	SK44	京都信楽系 内面～口縁部透明釉 外面体 部下位直重ね焼き痕 (変色)	
190	陶器	土瓶	(7.2)	[11.0]	-	DIK	20	良好	楊灰	SK44	松岡系 外面鉄軸・灰軸流し掛け	98-1
191	陶器	土瓶	(5.6)	[5.0]	-	K	10	良好	灰白	SK44	外面鉄軸・白磁絵付	97-6
192	陶器	蓋	-	2.6	6.8	IK	90	良好	灰白	SK44	上面灰軸・鉄軸 最大径9.1cm (土瓶の蓋)	98-2
193	陶器	片口鉢	14.6	8.1	8.4	K	100	良好	にぶい楊	SK44	内外面灰軸・口縁部鉄軸	98-3
194	瓦質土器	火鉢	(16.2)	[2.5]	-	CHK	5	普通	灰白	SK44	口縁部ミガキ 体部外面櫛歯波状文 強く 煤す	
195	瓦質土器	蓋	(25.3)	3.5	(28.4)	CFIK	15	普通	灰白・黄灰	SK44	上面砂目 煤す (大酒壺の蓋)	
196	瓦質土器	蓋	(24.5)	4.8	(27.4)	CFHK	35	普通	灰白	SK44	上面砂目をヘラナゲ 煤す	
197	土師質土器	焼塩壺	4.7	5.2	3.0	AIK	100	普通	橙	SK44	底部糸切痕 (左) 胎土粉質 内底面黒色 付着物 被熱か	98-4
198	土師質土器	焼塩壺	(5.3)	[3.1]	-	AHK	20	普通	橙	SK44	胎土粉質 被熱か	
199	磁器	碗	7.0	5.0	3.0	-	90	良好	白	SK45	瀬戸美濃系 内外面施軸 (外面増殖輪車彩) 口紅 (湯呑形碗)	98-5
200	磁器	碗	7.5	5.5	3.4	-	95	良好	白	SK49	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 焼き継ぎ 痕・焼き継ぎ印 (赤)	98-6
201	磁器	皿	10.2	2.7	5.0	-	95	良好	白	SK49	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 内面木型 打込による施文後染付	

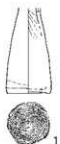
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
202	かわらけ	小皿	4.4	1.0	3.0	AIK	100	良好	橙	SK49	江戸在地系 底部糸切痕(左) 焼成前穿孔3 胎土粉質	98-7
203	磁器	植木鉢	-	[6.1]	6.8	-	30	良好	白	SK51	瀬戸美濃系 外面施軸・酸化コバルト染付 内面重ね焼き痕 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤)・墨書「くり」	99-2
204	磁器	碗	10.0	5.7	3.8	-	50	良好	白	SK52	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付(外面木型打込上より染付)	
205	磁器	蓋	-	2.7	7.0	-	80	良好	白	SK52	SK41 接合 瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト染付 穿孔1	99-3
206	磁器	急須	7.5	6.0	8.0	-	85	良好	白	SK52	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤)	99-3
207	陶器	急須	7.1	9.4	6.2	K	80	良好	にぶい黄橙	SK52	全面露胎 注口欠失	99-4
208	陶器	乗燗	(5.3)	3.6	4.0	EK	50	良好	灰白	SK52	内外面柿輪 底部墨書	99-5
209	陶器	德利	3.5	[15.7]	-	EHIK	30	良好	灰白	SK52	瀬戸美濃系 外面灰軸 胴部常道具痕	100-1
210	瓦質土器	蓋	(23.5)	3.1	(25.6)	CHIK	40	普通	外: にぶい 内: 褐灰	SK52	上面砂目 燻干 内面煤付着	
211	土師質土器	焙烙	(32.0)	[4.4]	(32.4)	CHIK	30	普通	灰白	SK52	砂目底 内外面煤付着	
212	土師質土器	焙烙	(36.8)	[3.4]	(37.8)	CHIK	5	普通	灰白	SK52	底部シワ状痕	
213	土師質土器	焙烙	-	[0.5]	-	HIK	5	普通	褐灰	SK52	底部シワ状痕 内面墨書	100-2
214	土師質土器	火鉢	-	[3.1]	-	AHIK	5	普通	外: 橙 内: 褐灰	SK52	転用磁具	100-3
215	磁器	坏	5.2	5.9	3.4	-	60	良好	灰白	SK53	内外面施軸 外面染付 体部八角形に成形 同文別個体1あり	
216	磁器	蓋	3.8	2.6	(10.1)	-	35	良好	白	SK53	瀬戸美濃系 内外面施軸・型紙摺輪染付	
217	磁器	皿	11.6	1.8	(6.5)	-	45	良好	白	SK53	瀬戸美濃系 内外面施軸・型紙摺輪染付	
218	磁器	皿	14.5	4.3	8.6	-	95	良好	白	SK53	瀬戸美濃系 内外面施軸・型紙摺輪染付	
219	磁器	皿	14.8	3.6	8.3	-	55	良好	白	SK53	瀬戸美濃系 内外面施軸・酸化コバルト染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤)	100-4
220	磁器	土瓶	6.7	7.0	6.6	-	95	良好	白	SK53	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト染付	
221	陶器	灯明皿	10.6	2.2	5.1	K	100	良好	灰白	SK53	内面～外面上位灰軸 外面下直重ね焼き痕	100-5
222	陶器	德利	(3.5)	25.2	10.3	IK	60	良好	灰白	SK53	瀬戸美濃系 底部糸切痕 外面灰軸・底部拭き取り	100-6
223	陶器	燗德利	-	[21.4]	7.3	I	95	良好	灰黄	SK53	外面灰軸・呉須で文字「原勢屋」/「国」	100-7
224	陶器	植木鉢	(22.3)	[12.4]	-	IK	35	良好	灰白	SK53	瀬戸美濃系か、口縁部～外面灰軸・鉄絵・呉須給	
225	施軸土器	鍋	(21.2)	8.8	(10.4)	HIK	10	普通	橙	SK53	内外面透明軸 外面トビガンナ状施文 底部は接点のない破片より図上復元	100-8
226	陶器	蓋	5.1	3.5	15.7	I	100	良好	にぶい黄橙	SK53	内外面柿輪・外面の一部拭き取り・トビガンナ状施文	101-2
227	陶器	行平	16.2	10.1	(8.9)	IK	70	良好	灰白	SK53	内面～外面上位柿輪 外面トビガンナ状施文 底部外周二次敲打痕か	101-2
228	土師質土器	蓋	4.5	3.5	(5.5)	AHIK	80	普通	灰白	SK53	白色土器質	101-1
229	土師質土器	鉢	(10.5)	6.5	5.3	ACHIK	65	普通	にぶい橙	SK53	江戸在地系 底部糸切痕(左) 胎土粉質	101-3
230	瓦質土器	火鉢	19.6	8.7	17.2	CIK	85	普通	明褐色	SK53	底部糸切痕 燻干 平面形正方形	101-4
231	土師質土器	蓋	5.5	0.8	5.3	AHIK	95	普通	明赤褐	SK53	胎土粉質 被熱・赤化(焼塩壺の蓋)	
232	磁器	碗	7.2	5.8	3.8	-	55	良好	白	SK55	瀬戸美濃系 内外面施軸・型紙摺輪染付	
233	磁器	坏	7.6	3.6	3.2	-	85	良好	白	SK55	瀬戸美濃系 内外面酸化クロム青磁軸	
234	磁器	皿	(20.1)	3.3	(11.0)	-	20	良好	白	SK55	肥前系 内外面施軸 内面染付	
235	磁器	皿	26.0	[3.5]	-	-	20	良好	白	SK55	肥前系 内外面施軸 内面染付	
236	陶器	襦鉢	-	[4.5]	-	IK	10	良好	褐灰	SK55	内面上位～外面柿輪 内面目目 弱く被熱	
237	瓦質土器	火消壺	(19.0)	[7.8]	-	CEIK	5	普通	外: 灰白 内: 灰	SK55	燻干	
238	土師質土器	蓋	5.4	0.8	5.1	AIK	80	普通	にぶい橙	SK55	胎土粉質	
239	土師質土器	蓋	(5.1)	0.8	(4.9)	ACK	35	普通	橙	SK55	下面砂目 胎土粉質 被熱・赤化	
240	土師質土器	焼塩壺	(5.4)	5.4	3.2	AHIK	60	普通	橙	SK55	底部糸切痕(左) 胎土粉質	101-5
241	土師質土器	焼塩壺	(5.4)	[3.9]	-	AI	20	普通	にぶい橙	SK55	胎土粉質	
242	土師質土器	焼塩壺	(5.4)	[3.8]	-	AIK	10	普通	にぶい褐	SK55	胎土粉質	
243	陶器	火鉢	-	[15.1]	-	EK	5	良好	灰・にぶい 褐	SK56	笠間系か 内面上位～外面白化粧後輪軸 外面緑釉流し掛け	101-6

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
244	土師質土器	焼塩壺	(5.3)	5.4	3.1	AEHI	65	普通	橙	SK56	底部系切痕(左) 胎土粉質 被熱・赤化	
245	陶器	灯明皿	(9.6)	2.2	(3.8)	IK	20	良好	にぶい赤褐	SK57	内面～外面上位柿輪	101-7
246	陶器	甕	(20.2)	19.1	15.2	IK	60	良好	灰白	SK69	内外面柿輪 外面鉄釉流し掛け 高台内墨書	103-7
247	陶器	德利	3.4	23.7	10.6	IK	70	良好	灰白	SK69	瀬戸美濃系 外面灰輪・底部拭き取り	103-8
248	磁器	蓋	3.5	2.5	(8.7)	-	40	良好	白	SK83	瀬戸美濃系 内外面施輪 外面酸化コバルト染付	
249	磁器	蓋	-	[2.1]	9.0	-	70	良好	白	SK83	肥前系 内外面施輪・酸化コバルト染付	
250	磁器	蓋	2.7	2.0	7.2	-	95	良好	白	SK83	瀬戸美濃系 内外面施輪 外面上絵付(赤・青・緑)	105-5
251	磁器	坏	6.0	4.6	2.6	-	80	良好	白	SK83	瀬戸美濃系 内外面施輪 外面酸化コバルト染付 同文別個体1あり	
252	磁器	坏	4.7	5.9	3.4	-	95	良好	白	SK83	瀬戸美濃系 内外面施輪 外面酸化コバルト染付 同文別個体1あり	105-6
253	磁器	碗	6.4	4.8	3.6	-	90	良好	白	SK83	瀬戸美濃系 内外面施輪・酸化コバルト染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤)「口九一」	105-7
254	磁器	坏	5.6	2.9	2.5	-	85	良好	白	SK83	瀬戸美濃系 内外面施輪	
255	磁器	坏	(6.7)	3.2	2.7	-	70	良好	白	SK83	瀬戸美濃系 内外面施輪 外面酸化コバルト染付 内面上絵付(金・赤・紫)「鎖口/齊藤/歩兵」銘 金線	
256	磁器	皿	10.3	2.3	5.7	-	80	良好	白	SK83	瀬戸美濃系 内外面施輪・酸化コバルト染付	
257	磁器	皿	13.8	2.6	7.5	-	70	良好	白	SK83	瀬戸美濃系 内外面施輪・上絵付(橙・緑・白)	105-8
258	磁器	皿	9.8	2.0	4.9	-	75	良好	白	SK83	瀬戸美濃系 内外面施輪 内面型押文(型押露文皿) 同文別個体1あり	106-1
259	磁器	皿	(8.8)	2.0	(5.0)	-	40	良好	白	SK83	瀬戸美濃系 内外面施輪 内面型押文(型押露文皿)	
260	磁器	皿	9.6	2.0	(5.3)	-	40	良好	白	SK83	瀬戸美濃系 内外面施輪 内面型押文(型押露文皿)	
261	磁器	猪口	-	[0.5]	-	-	5	良好	白	SK83	肥前系 内外面施輪 内面染付 焼き継ぎ印(白)	106-2
262	磁器	德利	-	[14.7]	-	-	40	良好	白	SK83	SK57接合 瀬戸美濃系 外面施輪・染付 焼き継ぎ痕	106-3
263	磁器	土瓶	6.8	7.8	7.1	-	90	良好	白	SK83	瀬戸美濃系 内外面施輪 外面酸化コバルト染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤)墨書	106-4
264	陶器	こね鉢	(19.4)	9.9	(10.6)	IK	30	良好	にぶい黄橙	SK83	内外面灰輪 内面目跡2 残存	
265	土師質土器	焙烙	(33.6)	4.2	(34.4)	CEHK	10	普通	にぶい橙	SK83	底部シワ状痕 内耳欠失	
266	土師質土器	焙烙	(32.4)	[4.2]	(33.0)	CEHK	20	普通	にぶい黄橙	SK83	底部シワ状痕 体部外面・底部内面煤付着	
267	磁器	碗	(6.6)	[4.2]	-	-	60	良好	白	SK84	瀬戸美濃系 内外面施輪 外面酸化コバルト染付	
268	陶器	不明	-	-	-	-	-	良好	灰白	SK84	外面施輪・絵付 長[2.9] 幅1.0 厚0.8	106-5
269	磁器	御神酒德利	-	[18.3]	-	-	50	良好	白	SK90	肥前系 内面上位～外面施輪 外面染付	
270	磁器	燗德利	(3.0)	[17.5]	5.6	-	95	良好	白	SK90	瀬戸美濃系 内面上位～外面施輪 外面酸化コバルト染付	
271	磁器	急須	6.0	7.8	6.6	-	60	良好	白	SK90	瀬戸美濃系 内外面施輪 外面酸化コバルト染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤)被熱	107-3
272	陶器	播鉢	(39.2)	[9.5]	-	DEIK	10	良好	赤	SK90	堺明石系 内面播目	
273	陶器	播鉢	(34.4)	[11.0]	-	DEKL	5	良好	赤	SK90	堺明石系 内面播目	
274	陶器	鍋	20.1	12.4	9.9	IK	60	良好	灰白	SK90	内外面柿輪 底部外周縁か敲打痕	
275	瓦質土器	火鉢	-	[9.3]	-	CHI	10	普通	褐灰・灰褐	SK90	外面施文	
276	土師質土器	焙烙	(33.0)	[5.2]	(34.0)	CHI	15	普通	灰白	SK90	砂目底 内底面煤付着	
277	陶器	皿	-	[2.4]	-	HIK	5	良好	明焼灰	SK95	内外面施輪 軟質施軸土器質 被熱	107-7
278	陶器	皿	-	[2.2]	-	HIK	5	良好	明焼灰	SK95	内外面施輪 内面絵付(茶・緑) 軟質施軸土器質	107-8
279	磁器	坏	7.1	3.6	3.3	-	80	良好	白	SK117	瀬戸美濃系 内外面施輪 外面銅版転写染付	
280	磁器	坏	6.9	2.7	2.8	-	95	良好	白	SK117	瀬戸美濃系 内外面施輪 内面上絵付(金・赤・青・緑等) 外面酸化コバルト染付	122-4

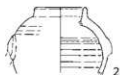
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
281	磁器	水筒	7.3	2.4	7.1	-	95	良好	白	SK117	瀬戸美濃系 内外面施釉 上面型押施文・染付 底部布瓦痕 穿孔2	122-5
282	陶器	槌木鉢 (14.1)	[7.9]	-	-	EK	30	良好	灰白	SK117	外面給付	
283	陶器	槌木鉢 -	[9.6]	(13.6)	-	I	20	良好	灰白	SK117	外面施釉 高台部にえぐり 底部焼成前穿孔	
284	陶器	擂鉢 (27.7)	12.6	15.0	EIK	45	良好	にぶい赤褐	SK117	笠筒系 内面上位～外面施釉 底部白化粧 内面黒目 内底面に環状索道具痕		
285	瓦質土器	槌木鉢 15.0	9.6	9.4	CEHKK	65	普通	にぶい赤褐	SK117	底部ナゲ 胎土は酸化炭焼成済み 糠寸		
286	瓦質土器	槌木鉢 (14.0)	9.0	(9.8)	CHK	35	普通	橙	SK117	胎土は酸化炭焼成済み 糠寸		
287	瓦質土器	目皿 (23.0)	1.9	(22.0)	CDEHK	40	普通	にぶい橙	SK117	下面砂目 被熱・赤変		
288	瓦質土器	目皿 (24.8)	1.9	(23.8)	CEHKK	35	普通	明赤褐	SK117	下面砂目 被熱・赤変		
289	瓦質土器	目皿 (12.2)	1.6	(11.2)	CHK	30	普通	橙	SK117	下面砂目 被熱・赤変、上面白変		
290	瓦質土器	目皿 9.7	1.3	7.8	AIK	45	普通	にぶい赤褐	SK117	三河系か 内外面白化		
291	瓦質土器	甕 27.4	27.8	26.8	ADEIK	70	普通	にぶい赤褐	SK117	真壁系か 砂目底 外面弱く糠寸 口縁部煤付着	122-6	
292	土師質土器	焙烙 34.9	5.4	35.7	ACGGH	90	普通	にぶい橙	SK117	底部シワ状痕	122-7	
293	土師質土器	焙烙 (36.4)	[5.1]	(35.5)	CHK	20	普通	にぶい褐	SK117	底部シワ状痕 内面～外面体部煤付着 補修孔2	122-8	
294	磁器	碗 10.1	5.9	3.8	-	100	良好	白	SK192	肥前系 内外面施釉・染付 少量煤付着 (端反碗)	193-6	
295	磁器	碗 (9.5)	5.1	3.7	-	50	良好	白	SK192	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 (端反碗)		
296	磁器	碗 10.0	5.4	4.0	-	60	良好	白	SK192	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 焼き継ぎ印	193-7	
297	磁器	碗 (10.4)	[4.3]	-	-	20	良好	白	SK192	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付		
298	磁器	碗 (7.0)	6.1	3.5	-	45	良好	白	SK192	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 (湯呑形碗)		
299	磁器	碗 7.1	5.6	4.5	-	95	良好	白	SK192	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印 (赤)	193-8	
300	磁器	坏 (5.3)	6.3	(3.7)	-	45	良好	白	SK192	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付	194-1	
301	磁器	皿 9.3	2.3	5.0	-	95	良好	白	SK192	肥前系 型成形 内外面施釉 内面型紙摺給染付	194-3	
302	磁器	皿 -	[1.6]	-	-	10	良好	白	SK192	淡路坂平系 型成形 内外面緑釉 内面型押施文 同文別個体1あり	194-2	
303	磁器	皿 (20.4)	3.1	(11.5)	-	20	良好	白	SK192	肥前系 内外面施釉 内面染付 口紅		
304	磁器	皿 28.7	4.4	16.1	-	95	良好	白	SK192	肥前系 内外面施釉 内面染付 高台内ハリ支痕6	194-4	
305	磁器	皿 28.4	4.5	16.7	-	95	良好	白	SK192	肥前系 内外面施釉 内面染付 口紅 高台内ハリ支痕6	194-5	
306	磁器	燗德利 -	[0.6]	5.5	-	10	良好	白	SK192	瀬戸美濃系 外面施釉・酸化コバルト染付 底部墨書「きこぎ」	194-6	
307	磁器	燗德利 3.0	[4.2]	-	-	10	良好	白	SK192	瀬戸美濃系 外面施釉 焼き継ぎ痕		
308	磁器	燗德利 2.8	15.9	4.7	-	90	良好	白	SK192	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付		
309	磁器	燗德利 -	[15.7]	6.2	-	80	良好	白	SK192	瀬戸美濃系 外面施釉・酸化コバルト染付 外面取り	194-7	
310	磁器	急須 6.6	9.1	6.8	-	90	良好	白	SK192	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	194-8	
311	磁器	土瓶 7.0	7.4	6.3	-	80	良好	白	SK192	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	195-1	
312	陶器	灯明皿 9.3	2.0	3.5	IK	100	良好	灰黄	SK192	瀬戸美濃系 内外面施釉・下位抜き取り 直重ね焼き痕	195-2	
313	陶器	灯明皿 8.9	2.1	4.4	IK	100	良好	灰白	SK192	瀬戸美濃系 内外面施釉・外面下位抜き取り 直重ね焼き痕	195-3	
314	陶器	灯明皿 (8.6)	1.8	(3.4)	IK	40	良好	にぶい褐	SK192	内面施釉	195-4	
315	陶器	灯明皿 (9.8)	2.0	(3.6)	IK	30	良好	灰白	SK192	京都信楽系 内面透明釉 口縁部煤付着		
316	陶器	擂鉢 -	[6.9]	(15.4)	EIK	10	良好	赤褐	SK192	堺明石系 砂目底 内面黒目・墨書・重ね焼き痕	195-5	
317	陶器	半胴甕 (19.1)	17.8	(13.6)	GIK	40	良好	灰白	SK192	瀬戸美濃系 内外面施釉 口唇部目跡		
318	陶器	蓋 -	3.3	6.9	AIK	100	良好	灰黄	SK192	外面施釉・捺刷・須臾給 (㊦) 最大径 9.6cm	195-6	
319	瓦質土器	火鉢 (30.2)	[5.6]	-	CHK	5	普通	灰白・褐灰	SK192	口縁部ミガキ 外面施釉 糠寸		

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
320	瓦質土器	蓋	(26.0)	3.6	(28.2)	ACHK	50	普通	灰白・黄灰	SK192	上面砂目 燻す	
321	陶器	土瓶	8.4	10.1	7.7	IK	80	良好	灰黄	SK192	外面灰軸・白土・鉄絵 外面下位煤付着	195-7
322	磁器	鉢	(16.4)	[6.3]	-	-	20	良好	白	SK295	肥前系 内外面施軸・染付 焼き継ぎ痕	
323	陶器	土瓶	(8.1)	[2.7]	-	K	5	良好	灰白	SK295	外面青緑軸	
324	土師質土器	甕	20.6	[7.5]	-	AH	10	良好	明靨灰	SK295	江戸在地系 外面ミガキ・施文	
325	かわらけ	皿	(18.0)	4.0	(11.7)	AHHK	20	普通	白	SK295	大皿	
326	磁器	碗	(9.8)	5.1	3.1	-	45	良好	白	SK688	肥前系 内外面施軸・酸化コバルト染付 焼き継ぎ印(赤)「チ五七/ム七」	231-3
327	陶器	徳利	-	[7.3]	-	IK	20	良好	灰白	SK688	瀬戸美濃系 外面灰軸	

S K 41



S K 52



S K 49



S K 117



第 259 図 第 2 区画の土壌出土遺物 (28)

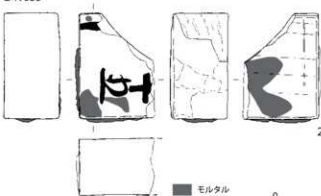
第 128 表 第 2 区画の土壌出土遺物観察表 (2) (第 259 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	施軸土器	ミニチュア	-	[4.5]	2.3	9.6	K	良好	灰白	SK41	京都系 徳利 塚部系切痕(中心・左) 外面黄色軸	242-16
2	陶器	ミニチュア	(3.6)	[3.5]	-	8.5	K	良好	淡黄	SK52	水注 外面白化粧 施軸 鉄絵	
番号	種別	器種	幅/長	高さ	厚さ	重さ	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
3	土製品	泥面子	[2.3] / 2.4	-	0.8	2.9	-	良好	橙	SK49	江戸在地系 一枚型成形 芥子面	242-17
4	土製品	人形	[2.2] / [3.2]	-	0.5	2.9	A D	良好		SK117	京都系 魚 型成形 内面墨書	243-4

S K 64



S K 688



第 260 図 第 2 区画の土壌出土遺物 (29)

第 129 表 第 2 区画の土壌出土遺物観察表 (3) (第 260 図)

番号	種別	器種	法量				胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土製品	埴塼	口径 2.7	器高 4.8	重さ 20.7	-	-	-	-	SK64	焼成: 良好 色調: 灰白 内面緑青付着 淨化	285-2
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
2	土製品	煉瓦	11.2	(8.0)	6.0	-	EI	良好	明赤褐	SK688	赤煉瓦 墨書「十五」 モルタル付着 手抜き成形 焼成後の再加工あり	

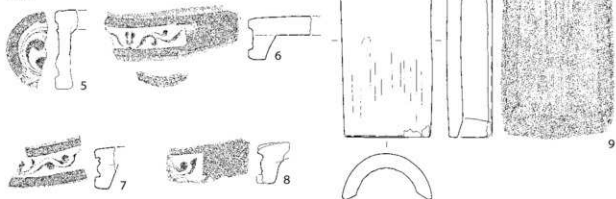
SK12



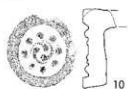
SK17



SK21



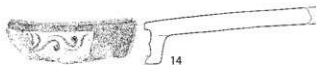
SK24



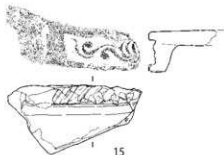
SK40



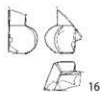
SK44



SK55



SK95

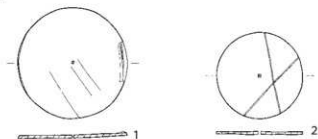


第261図 第2区画の土坑出土遺物(30)

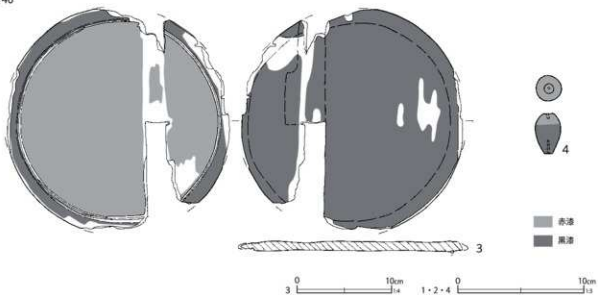
第130表 第2区画の土壇出土遺物観察表(4)(第261図)

番号	種別	器種	長さ	幅	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒棧瓦	[5.4]	[12.0]	6.5	A1K	普通	灰白	SK12	梅鉢状文	
2	瓦	軒棧瓦	[7.6]	[13.2]	6.5	AC1K	良好	灰白	SK12	左巻き 8 珠文	
3	瓦	軒棧瓦	[4.8]	[5.1]	-	A1K	普通	灰白	SK12		
4	瓦	軒棧瓦	[17.6]	[13.4]	-	AC1K	普通	灰白	SK17	胎土軟質	250-1
5	瓦	軒棧瓦	[2.9]	[5.5]	8.0	AH1K	良好	灰白	SK21	胎土硬質	
6	瓦	軒棧瓦	[6.8]	[14.6]	-	AE1K	良好	灰白	SK21	胎土硬質	250-2
7	瓦	軒棧瓦	[2.6]	[8.7]	-	AC1K	良好	灰	SK21	胎土硬質	
8	瓦	軒棧瓦	[3.4]	[8.9]	-	A1K	普通	灰白	SK21	胎土軟質	
9	瓦	丸瓦	30.4	14.7	-	A1K	普通	灰白	SK21	ヘラナゲ痕あり	
10	瓦	軒棧瓦	[4.7]	[9.0]	8.0	A1K	普通	灰白	SK24	右巻き 8 珠文 胎土軟質	
11	瓦	軒棧瓦	[5.7]	[12.8]	-	A1K	良好	灰白	SK24	胎土硬質	250-3
12	瓦	軒棧瓦	[5.5]	[9.5]	-	A1K	良好	灰白	SK40	東海式文様 胎土硬質	250-4
13	瓦	軒棧瓦	-	[6.1]	-	A1K	普通	灰白	SK44		
14	瓦	軒棧瓦	[17.9]	[18.2]	-	AC1K	普通	灰白	SK44		
15	瓦	軒棧瓦	[7.1]	[14.4]	-	A1K	普通	灰白	SK55	瓦当部下面を二次整形(工具痕)	250-5
16	瓦	道具瓦	[5.9]	[7.0]	-	1K	良好	灰	SK95	棧部のある伏間瓦 一部白変 胎土極めて硬質	250-8

SK21

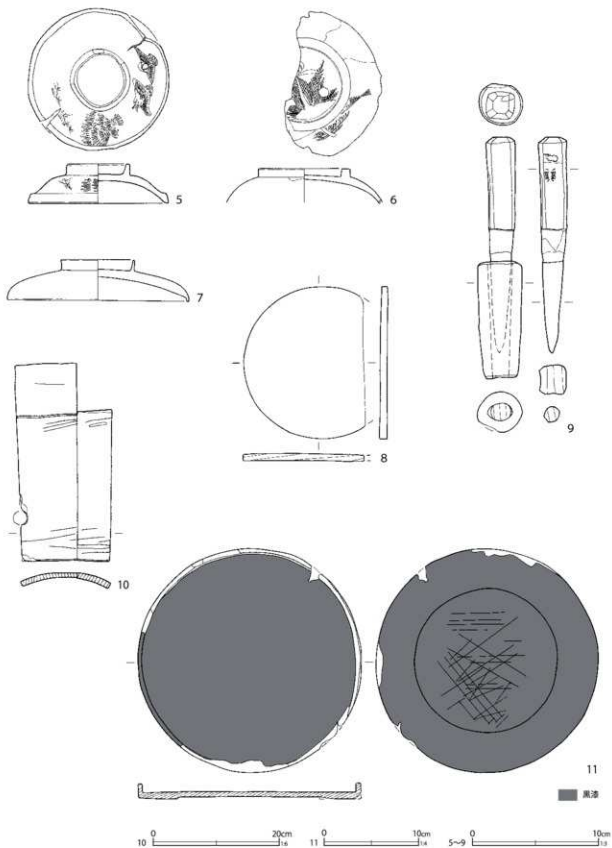


SK40



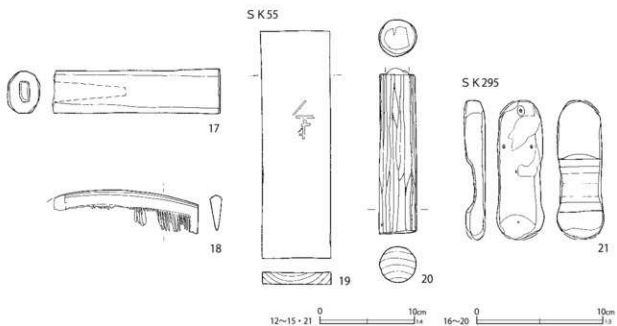
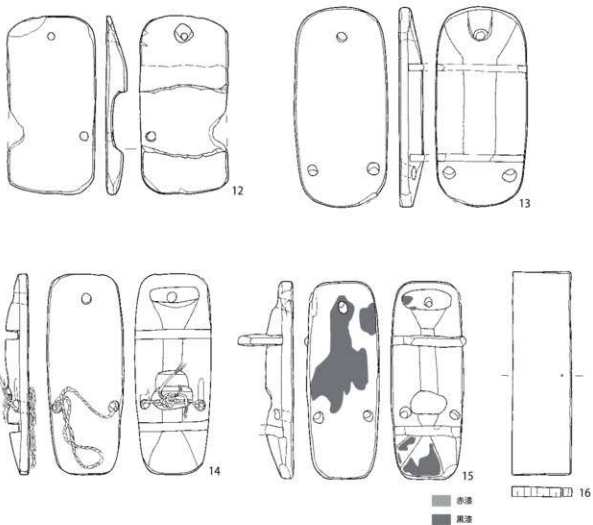
第262図 第2区画の土壇出土遺物(31)

SK44



第 263 図 第 2 区画の土壇出土遺物 (32)

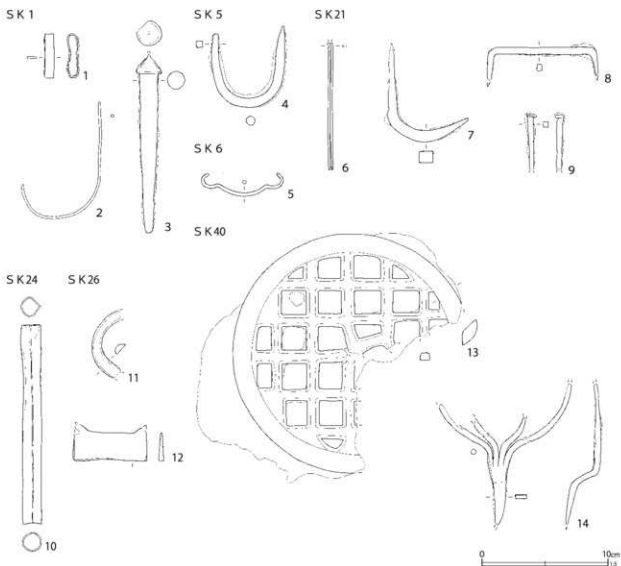




第261図 第2区画の土壇出土遺物(33)

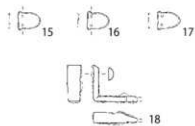
第131表 第2区画の土壌出土遺物観察表(5)(第262~264図)木

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	曲物	-	-	0.3	8.8	-	-	楕目	SK21	側板付着 工具痕 孔1	
2	木製品	曲物	-	-	0.2	6.8	-	-	楕目	SK21	底板 表面切り込み 孔1	
3	木製品	蓋	-	-	1.3	(24.1)	-	-	板目	SK40	表面黒漆 裏面中央赤漆 外周黒漆 側板一部残存	
4	木製品	浮子	3.1	-	-	2.0	-	-	分割材	SK40	上部赤漆 下部黒漆 上下に孔	258-4
5	木製品	漆桶蓋	つまみ径5.0	-	-	11.2	3.1	-	横木取り	SK44	内外面赤漆 黒漆と金でスズメと稲わら、植物の絵	258-1
6	木製品	漆桶蓋	つまみ径7.2	-	-	-	[2.7]	-	横木取り	SK44	つまみ内・外面黒漆に金で文様 内面赤漆	258-6
7	木製品	漆桶蓋	つまみ径5.6	-	-	14.2	3.2	-	横木取り	SK44	内面赤漆 外面黒漆	
8	木製品	曲物	-	-	0.6	12.0	-	-	板目	SK44	蓋 表面墨書	
9	木製品	木栓	17.0	2.2	2.2	-	-	-	板目	SK44	捺印(瓢箪の絵と文字)	258-3
10	木製品	樽	31.7	14.4	0.9	-	-	-	板目	SK44	側板 表面墨書	
11	木製品	漆盆	-	-	-	23.5	1.5	-	板目	SK44	全面黒漆 裏面切痕	258-2
12	木製品	下駄	18.8	9.4	-	-	2.2	-	板目	SK44	割り下駄	258-5
13	木製品	下駄	21.1	9.8	-	-	[2.7]	-	板目	SK44	隠印下駄	258-7



第265図 第2区画の土壌出土遺物(34)

SK44



SK49



SK51



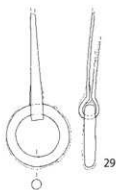
SK52



SK53



SK55



SK64



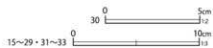
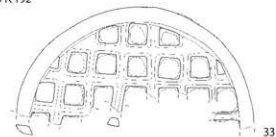
SK74



SK117



SK192



第266図 第2区画の土壌出土遺物 (35)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
14	木製品	下駄	21.2	8.1	-	-	[2.5]	-	板目	SK44	除卯下駄	250-2
15	木製品	下駄	20.9	7.7	-	-	5.9	-	板目	SK44	両面・除卯下駄 全面黒漆 孔3箇所	250-1
16	木製品	木札	16.0	4.7	0.7	-	-	-	椀目	SK44	表裏面黒書	
17	木製品	包丁の柄	3.5	13.1	2.5	-	-	-	板目	SK44	穴長 5.2 cm	250-3
18	木製品	櫛	[11.3]	2.7	0.9	-	-	-	不明	SK44		
19	木製品	木札	17.9	5.5	1.0	-	-	-	板目	SK55	表面に焼印「空」	
20	木製品	不明品	[13.1]	2.9	2.8	-	-	-	削り出し	SK55	黒書 加工痕跡 下部に穿孔	296-5
21	木製品	下駄	14.7	5.0	-	-	2.2	-	板目	SK295	無眼下駄	271-2

第132表 第2区画の土壌出土遺物観察表(6) (第265・266図)

番号	種別	器種	法款	遺構	備考	図版
1	銅製品	不明	長さ3.5 厚さ0.1 重さ5.0	SK1		
2	銅製品	針金	縦9.2 横6.4 厚さ0.2 重さ3.5	SK1		
3	鉛製品か	不明	長さ[14.2] 厚さ1.4 重さ87.9	SK1		
4	鉄製品	鉤金具か	長さ6.5 厚さ0.7 重さ39.2	SK5		
5	銅製品	把手	縦1.8 横6.5 厚さ0.25 重さ2.1	SK6		
6	銅製品	簪	長さ[10.1] 幅0.4 厚さ0.1 重さ4.5	SK21	飾り・耳掻き欠失	
7	鉄製品	鉤金具か	長さ[7.9] 幅1.1 厚さ0.9 重さ34.4	SK21		
8	鉄製品	錠	長さ8.8 幅0.5 厚さ0.4 重さ13.7	SK21		
9	鉄製品	釘	長さ[4.3] 幅0.4 厚さ0.4 重さ2.8	SK21		
10	銅製品	不明	長さ15.8 幅1.6 厚さ0.1 重さ36.9	SK24	中空 筒状金具	
11	銅製品	不明	縦[5.3] 横[2.3] 厚さ0.4 重さ7.3	SK26	断面扇形	
12	鉄製品	火打金	長さ5.8 幅[2.9] 厚さ0.4 重さ20.5	SK26		
13	鉄製品	火格子	径19.0 横[18.1] 厚さ(0.9) 重さ1326.8	SK40		
14	鉄製品	不明	縦[11.2] 横[10.6] 厚さ0.4 重さ21.9	SK40		
15	銅製品	こはぜ	長さ1.5 幅1.8 厚さ0.1 重さ0.6	SK44		
16	銅製品	こはぜ	長さ1.5 幅1.8 厚さ0.1 重さ0.6	SK44	鍍金あり	
17	銅製品	こはぜ	長さ1.5 幅1.8 厚さ0.1 重さ0.6	SK44	鍍金あり	
18	鉄製品	額受金具	縦2.9 横[3.5] 幅1.0 厚さ0.4 重さ10.0	SK44		
19	銅製品	環金具	径4.7×4.5 厚さ0.3 重さ7.8	SK49		
20	銅製品	簪	長さ13.8 幅0.8 厚さ0.1 重さ4.5	SK49	飾り・片脚欠失	274-1
21	鉄製品	火箸	長さ[6.9] 厚さ0.7 重さ11.7	SK49	箸頭燻状	
22	鉄製品	釘	長さ6.2 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.6	SK51		
23	銅製品	不明	縦4.9 横[2.8] 厚さ0.4 重さ6.9	SK52		
24	銅製品	針金	縦6.7 横1.8 厚さ0.08 重さ1.1	SK52		
25	銅製品	針金	縦6.5 横4.3 厚さ0.08 重さ0.5	SK52		
26	銅製品	針金	縦4.4 横1.6 厚さ0.08 重さ0.3	SK52		
27	鉄製品	鍋	口径(26.0) 器高[7.8] 厚さ0.4 重さ177.1	SK53		
28	銅製品	針金	縦7.8 横4.7 厚さ0.1 重さ0.7	SK55		
29	鉄製品	吊金具	径5.0 縦[12.2] 厚さ0.8 重さ59.3	SK55		276-1
30	銅製品	簪	長さ14.3 幅0.6 厚さ0.2 重さ9.3	SK64	飾り欠失 草葉文	274-1
31	銅製品	不明	縦25.2 横16.3 厚さ0.1 重さ58.4	SK74	筒状	
32	鉄製品	田樋受け金具	長さ[19.6] 幅1.0 厚さ0.6 重さ31.4	SK117		
33	鉄製品	火格子	縦[9.6] 横[18.9] 厚さ0.6 重さ227.8	SK192		278-3

SK40



1



2



3

SK44

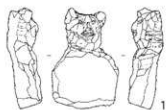


4



第267図 第2区画の土壌出土遺物(36)

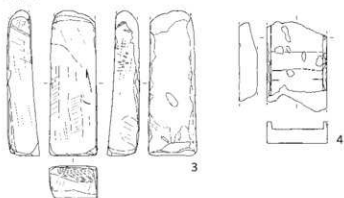
SK 1



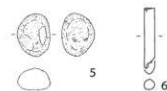
SK 2



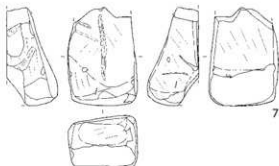
SK 5



SK 10



SK 11



SK 12



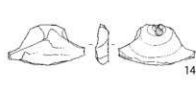
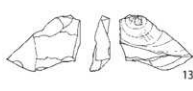
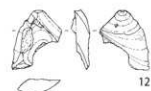
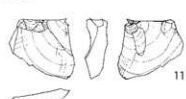
SK 14



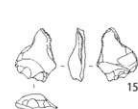
SK 17



SK 18



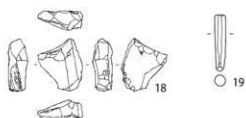
SK 21



SK 31

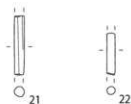
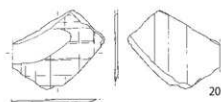


SK 44



1・3~5・7・8 0 10cm 14 2・6・9~19 0 2cm 12

第 268 図 第 2 区画の土壌出土遺物 (37)



第269図 第2区画の土壌出土遺物(38)

第133表 第2区画の土壌出土遺物観察表(7)(第267図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	銭貨	径24.4 厚さ0.9 重さ2.5	SK40	寛永通寶(古)	
2	銅製品	銭貨	径22.6 厚さ1.1 重さ2.0	SK40	寛永通寶(新)	
3	銅製品	銭貨	径22.4 厚さ1.0 重さ1.9	SK40	寛永通寶(新)	279-7
4	銅製品	銭貨	径22.6 厚さ1.0 重さ2.2	SK44	寛永通寶(新)	

第134表 第2区画の土壌出土遺物観察表(8)(第268・269図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	人形	[10.7]	[7.1]	[3.7]	174.9	凝灰岩	SK1	工具痕多数	280-8
2	石製品	石筆	[6.6]	径0.5		4.7	滑石	SK2	白色不透明	284-2
3	石製品	砥石	[15.4]	5.1	3.4	416.4	雲母片岩	SK5	ノコギリ痕 刃物痕 砥面5	
4	石製品	砥	[9.6]	6.4	-	157.8	凝灰岩	SK5	器高2.3cm 全面黒色塗付物 内面刃物傷	280-9
5	石製品	磨石	4.5	3.5	2.3	23.3	角閃石安山岩	SK10	多孔質 自然面遺存 使用面1	284-1
6	石製品	石筆	[3.2]	径0.6		2.3	滑石	SK10	茶色味着びる	284-2
7	石製品	砥石	[10.4]	7.4	5.4	486.9	砂岩	SK11	刃物痕 砥面5	
8	石製品	砥石	[12.2]	4.1	2.1	174.9	凝灰岩	SK12	幅広い工具痕 刃物痕 砥面5	280-10
9	石製品	石筆	[2.6]	径0.6		2.4	滑石	SK14	白色不透明	284-2
10	石製品	火打石	3.8	2.4	0.9	4.7	玉髓	SK17	割片 未使用	284-3
11	石製品	火打石	3.2	3.5	1.2	8.6	玉髓	SK18	割片 未使用	284-3
12	石製品	火打石	3.1	2.6	1.0	4.0	玉髓	SK18	割片 未使用	284-3
13	石製品	火打石	2.9	3.9	1.1	7.2	玉髓	SK18	割片 未使用	284-3
14	石製品	火打石	2.1	4.1	0.7	4.7	玉髓	SK18	割片 未使用	284-3
15	石製品	火打石	2.8	2.2	0.9	4.4	玉髓	SK21	割片素材(打面欠失) 使用痕あり	284-3
16	石製品	髷の玉	径0.8 高さ0.7 孔0.15 高さ0.6				石灰岩か	SK21		280-11
17	石製品	石筆	3.6	径0.6		2.6	滑石	SK31	白色不透明	284-2
18	石製品	火打石	2.8	2.4	1.0	7.1	玉髓	SK44	使用痕あり	284-3
19	石製品	石筆	3.0	径0.6		2.3	滑石	SK44		284-2
20	石製品	石板	[8.4]	[9.8]	0.3	33.6	粘板岩	SK53	表裏算線あり	
21	石製品	石筆	[3.2]	径0.5		1.9	滑石	SK95	白色不透明	284-2
22	石製品	石筆	[2.2]	径0.4		0.7	滑石	SK95	白色不透明	284-2

282・283は陶器の植木鉢である。282は基本的に露胎で、胎土に発泡した長石の湧出が目立つ。外面の露胎部に、白盛・鉄絵で直接絵付けを施す。284は笠間系陶器の挿鉢で、白化粧後に柿釉を施軸する。内面の挿目は一単位28本と密で、内底面には挿目の上に、11.6cmほどの環状の窯道具痕が残る。291は瓦質土器の甕である。内面には稜の強いロクロナデがみられる。外面は縦の、幅の狭いヨコナデで処理され、弱く燻される。胎土に雲母微細粒を多く含み、径3mm程の長石・石英も含まれている。真壁系土器の可能性が考えられる。

第266図32は金属製品で、鉄製の雨樋受け金具である。

陶磁器類の様相は第95号土壌と大差無く、現場で確認された新旧関係を裏付けするには至らなかった。極めて接近した時期に構築・廃絶したものであろうか。

第192号土壌は49・21号土壌と重複する。遺存する南側辺の長さは1.43mである。出土した陶磁器を第255～257図294～321に示す。296は瀬戸美濃系磁器の丸碗である。外面の様相は崩れており、柳文や竜文を染付けているらしい。高台部に「ル八九」とみられる焼き継ぎ印がある。302は淡路系平系の皿で、鮮やかな緑釉を施す。内面に龍文の一部が陰刻状に型押し施文される。303～305は肥前系磁器の皿であり、このうち304・305は口径28cmを超える大皿である。306～309は瀬戸美濃系磁器の燗徳利で、306・308・309には酸化コバルト染付が施される。306は底部に墨書があり「き□や」と読める。

314は地方窯系の灯明皿と思われ、やや赤味を帯びた胎土には多量の黒色粒子が含まれる。釉薬は光沢の強い不透明の柿釉、内面受部は径5.4cmほどで、上端は露胎とする。外面は口縁部付近をヨコナデ、以下、ロクロナデ、最下位はケズリが施される。底部は回転ケズリで処理される。316

は堺明石系陶器の挿鉢で、内面に墨書がみられる。また、内外面の底部にリング状の窯道具の痕跡が認められる。318は陶器の土瓶蓋で光沢の強い灰釉が施される。上面に「㊦」の屋号文を陰刻し、同じ位置を呉須で彩色する。321は陶器土瓶で、灰釉を施し、外面に楕円形の窓状に白土・鉄絵で山水文を描く。

第266図33は金属製品で、鉄製の火格子である。径は19cm前後と思われる。

本跡と重複する第49・21号土壌との時期差はほとんどなく、栗橋9期でも古い段階である。

第295号土壌は、区画の西部側、第41号土壌に接して検出された。長軸1.1mの楕円形を呈する。第258図322～325が出土した陶磁器類で、325は大型のかわらけである。本跡は栗橋7～8期に帰属する。

第688号土壌は、区画の北西側、第1号竹樋と第2号竹樋の分岐点付近で検出された土壌で、重複する第2号溝跡・竹樋より新しい。長軸1.45mの隅丸長方形である。出土した土製品に、手抜き成型の煉瓦が複数認められる。第260図には、このうち墨書があるものを示した。平手面に撫で板で平滑に仕上げた痕跡、木製の型枠で押し当てた痕跡などが認められる。焼成時に複数個を重ねて焼いた痕跡も確認される。漆喰が各面に付着していることから、基礎部分に用いられたものとみられる。平手面の一部は焼成後に寸断された後、曲面状に削りを施した加工痕跡がある。これは陶管などに当てるための加工であろう。また、墨書がみとめられ「十五」と判読できる。出土した陶磁器には、肥前系磁器の戸車、瀬戸美濃系磁器の酸化クロム青磁釉が施された端反の坏、酸化コバルト染付の磁器植木鉢、型紙摺絵染付の磁器燗徳利、産地不詳陶器で白土染付が施された土瓶などが認められた。

以上、第2区画では、栗橋9期でも比較的古い段階の土壌が多く検出されている。

### (3) 第3区画 (区画Y)

第3区画では、敷地内を第2区画から北へ向かう第1号竹樋が横切り、敷地北側には第3号竹樋が東西に通過する。これらは暗渠構造の竹樋と考えられるので、必ずしも地表の区画施設とは認識されない。建物跡は敷地のやや北側によって第4号建物跡と第5号建物跡が検出されている。土壌

の分布傾向に特徴は乏しく、建物跡の周囲に散在している。

『絵図』の「旅籠屋 喜右衛門」『営業便覧』の「荒物商 紀州屋 坂庭重藏」の区画とみられる。

第3区画では第50・78・79・305号土壌について個別に取り上げ、その他の土壌はまとめて図示・記述する。

第135表 第3区画土壌一覧表 単位: m

番号	区画	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	挿図
28	3	E7-J6	楕円形	0.90	0.50	0.10	N-85°-W	SB4より新 図面はSB4とともに掲載	37～39
32	3	E7-J6	楕円形	0.60	0.50	0.10	N-10°-W	SB4・SK35より新	282
33	3	E7-J6	円形	0.33	0.31	0.10	-		282
34	3	E7-J6	不整形	0.40	0.30	0.05	N-83°-W		282
35	3	E7-J6	隅丸長方形	2.95	1.32	0.15	N-72°-E	SK32/54より古 SB4より新	282
38	3	E7-J6 F7-A6	隅丸長方形	1.05	0.60	0.20	N-71°-E		282
39	3	F7-A6	楕円形	0.90	0.75	0.20	N-72°-E		282
42	3	F7-A5	楕円形	0.75	0.60	0.30	N-85°-E	SK50重複	282
43	3	F7-A5	不整形	0.50	0.45	0.10	N-18°-W		282
46	3	E7-J5	円形	0.90	0.90	0.10	-	SK48/305より新	282
47	3	E7-J5	隅丸方形	0.75	0.65	0.20	N-50°-W	SK48重複	282
48	3	E7-J5	隅丸方形	1.70	1.70	0.10	N-15°-W	SK46より古 SK305より新 SK47重複	282
50	3	E7-J5 F7-A5	隅丸長方形	3.45	1.70	0.35	N-70°-E	SK42/75・F7-A5 P1重複	270
54	3	E7-J6	不整形	0.93	0.80	0.15	N-72°-E	SB4・SK35より新 SE1重複	282
62	3	E7-J5/6	不整形	1.40	0.57	0.20	N-70°-E	SB4より新 図面はSB4とともに掲載	37～39
63	3	E7-J5	円形	0.80	0.75	0.40	-		283
68	3	E7-J6	長楕円形	1.75	0.55	0.20	N-70°-E		283
70	3	E7-J6	円形	[0.30]	0.28	0.20	-	SB4より新 図面はSB4とともに掲載 SB4の基礎石の抜き取り穴か。	37～39
71	3	E7-J5	不整形	1.30	0.60	0.05	N-26°-W	SD2より古 SB5重複	283
72	3	F7-A5	不整形	1.00	0.75	0.30	N-25°-W	SK125重複	283
73	3	F7-A5	隅丸長方形	0.60	0.45	0.10	N-72°-E	SD4重複	283
75	3	F7-A5	楕円形	(0.40)	0.40	0.15	N-10°-W	SD4・SK50重複	283
77	3	E7-J6	隅丸長方形	1.50	0.85	0.05	N-72°-E	SK80/81より新 SB4・E7-J6 P1重複	283
78	3	E7-J6/7	不整形	0.80	0.55	0.05	N-60°-E	SK268重複	274
79	3	E7-J7	楕円形	0.70	0.60	0.20	N-80°-W		274
80	3	E7-J6	楕円形	0.57	0.35	0.07	N-72°-E	SK77より古	283
81	3	E7-J6	楕円形	0.55	0.35	0.07	N-72°-E	SK77より古	283
82	3	E7-J6	隅丸長方形	1.50	0.85	0.40	N-32°-W	SB4・SK119重複	283
85	3	F7-A5	楕円形	0.95	0.35	0.10	N-25°-W		276
86	3	F7-A5	楕円形	1.00	0.70	0.20	N-75°-E	SK87より新 SD4重複	283
87	3	F7-A5	隅丸方形	1.15	(1.05)	0.25	N-70°-E	SK86より古 SD4/16重複	283
93	3	E7-J5	楕円形	0.60	0.30	0.10	N-80°-E		283
94	3	E7-J7	円形	1.25	1.22	0.20	-		283
96	3	E7-J7	楕円形	0.75	0.68	0.10	N-32°-E		283
97	3	E7-J7	隅丸長方形	1.35	1.20	0.65	N-70°-E	SK98より古	284
98	3	E7-J7	不整形	(0.70)	(0.70)	0.20	N-70°-E	SK97より新 SD4重複	284
100	3	E7-J6	不整形	(0.55)	0.33	0.10	N-20°-W	SD4重複	284
114	3	E7-J6 F7-A6	隅丸長方形	0.70	0.45	0.10	N-70°-E	SD4より新	284
116	3	E7-J6	楕円形	0.50	0.47	0.10	N-72°-E	SB4より新 図面はSB4とともに掲載 SB4の基礎石の抜き取り穴か。	37～39
119	3	E7-J6	隅丸方形	1.10	1.00	0.13	N-10°-W	SK82重複	284



番号	区画	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	坪図
124	3	F7-A5	楕円形	(0.50)	0.50	0.25	N-10°-W	SK4 重複	283
125	3	F7-A5	楕円形	0.50	0.43	0.30	N-52°-E	SK72 重複	284
126	3	F7-A5	隅丸長方形	1.20	0.62	0.05	N-80°-E		284
127	3	E7-J5	隅丸長方形	1.00	0.80	0.05	N-42°-E		284
128	3	F7-A5	楕円形	0.60	0.45	0.25	N-46°-W		284
129	3	E7-J6	不整形	1.20	(1.00)	0.30	N-42°-E	SB4 より古	284
130	3	F7-A5	隅丸長方形	0.40	0.30	0.15	N-73°-E		284
268	3	E7-J7	隅丸長方形	1.15	0.85	0.40	N-65°-E	SK78 重複	284
269	3	E7-J7	隅丸長方形	0.60	0.55	0.35	N-7°-W		284
276	3	E7-J4	不整形	0.57	(0.45)	0.35	N-40°-W	SK277 より古	285
277	3	E7-J4/5 F7-A4/5	不整形	1.25	(0.70)	0.40	N-47°-W	SK278/312 より古 SK276 より新	285
278	3	E7-J4/5 F7-A4/5	楕円形	(0.60)	0.50	0.15	N-70°-E	SK277 より新	285
279	3	F7-A5	不整形	(0.80)	0.65	0.35	N-63°-E		284
291	3	F7-A5	楕円形	0.50	0.40	0.15	N-72°-E		284
305	3	E7-J5	不整形	0.75	0.75	0.30	N-60°-W	SK46/48 より古	278
309	3	E7-J6	隅丸長方形	1.85	(0.55)	0.45	N-74°-E	SB4 より古	285
312	3	E7-J5 F7-A5	不整形	1.55	1.00	0.30	N-20°-W	SK277 より新	285

### 第50号土壌 (第270～273図)

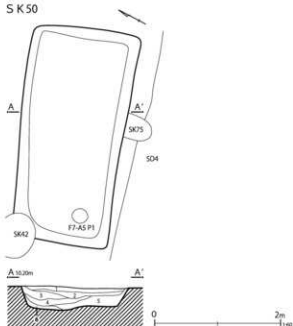
敷地の南部、E7-J5・F7-A5グリッドに位置する隅丸長方形の土壌である。長軸3.45m、短軸1.7mである。灰褐～灰黄褐色の砂質土が主体の土層で、一部グライ化した灰色土の層を挟む。

出土遺物は多くは無い。第271図には陶磁器を示した。1は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗で、山水文を染付する。2は瀬戸美濃系陶器の灯明皿で、内外面にしっかりと柿軸が掛けられる。内面に径4.5cmの重ね焼き痕がある。3は陶器の土瓶だが形態が変わっている。外面には白盛で絵付けがみられる。焼き継ぎ痕があり、底部に僅かに墨書らしい痕跡がある。このほか、肥前系磁器の筒形碗、瀬戸美濃系磁器の端反の坏、陶器の鉄釉土瓶などが出土している。栗橋7～8期の土壌である。なおV章に記すように底面の一部から浅間A火山灰が検出されたが、遺物と年代差が大きく、本跡が栗橋5期に遡るとは考え難い。

第272図は金属製品である。1は煙管の吸い口、2は不明銅製品で、1枚の銅板を畳んで合わせる。3は銅製針金、4は鉄釘である。

第273図1は玉髓製の火打石である。2は花崗

### SK50



#### 第50号土壌

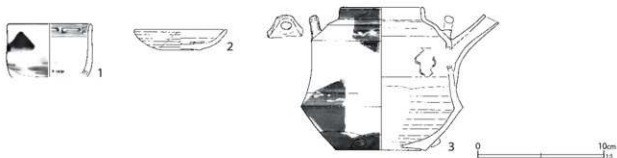
- 1 灰褐色土 砂質土、細砂混入、灰黄褐色土小ブロック少量含む
- 2 灰褐色土 細砂少量混入、灰黄褐色土の小ブロック含む
- 3 灰色土 グライ化、灰黄褐色土の小ブロック少量含む、炭化物(φ1～3mm)少量含む
- 4 灰黄褐色土 砂質土、細砂含む、灰黄褐色土の小ブロックを含む、炭化物(φ1～3mm)少量含む
- 5 灰褐色土 砂質土、灰黄褐色土の小ブロック、炭化物(φ1～3mm)を少量含む
- 6 灰黄褐色土 主に灰褐色細砂を少量含む、遺構上部の崩落による

#### 第270図 第50号土壌

岩製の石臼(上臼)である。

### 第78・79号土壌 (第274・275図)

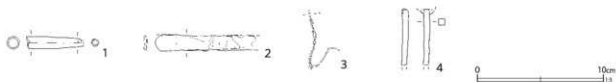
敷地の北東部、E7-J6・7グリッドに隣接して位置する楕円形の土壌である。第78号土壌



第271図 第50号土壇出土遺物(1)

第136表 第50号土壇出土遺物観察表(1)(第271図)

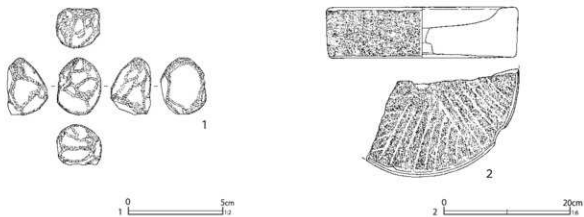
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	(6.5)	[4.1]	-	-	20	良好	白	SK50	瀬戸美濃系 内外面輪軸・染付(湯呑形碗)	
2	陶器	灯明皿	7.1	1.6	3.1	K	100	良好	灰白	SK50	瀬戸美濃系 内外面輪軸・外面下位拭き取り 内面直重ね焼き痕	
3	陶器	土瓶	(6.3)	11.3	7.0	K	40	良好	灰白	SK50	外面灰軸・白盛給付 焼き継ぎ痕	99-1



第272図 第50号土壇出土遺物(2)

第137表 第50号土壇出土遺物観察表(2)(第272図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	煙管	長さ[4.5] 小口径1.0 重さ6.6	SK50	吸口 小口・口付欠損	
2	銅製品	不明	縦1.3 横[8.0] 厚さ0.03 重さ1.8	SK50	1枚の銅板を疊んで合わせる	
3	銅製品	針金	縦4.7 横2.5 厚さ0.1 重さ0.5	SK50	2本捻れ	
4	鉄製品	釘	長さ[4.4] 幅0.5 厚さ0.5 重さ5.9	SK50		

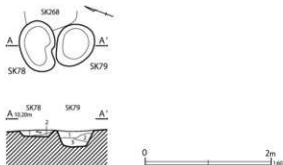


第273図 第50号土壇出土遺物(3)

第138表 第50号土壌出土遺物観察表(3)(第273図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	火打石	3.0	2.3	2.1	19.4	玉髓	SK50	稜の潰れ著しい	284-3
2	石製品	石臼	径(30.2)	器高8.1		4430.0	花崗岩	SK50	上臼 下面に目 中心軸穿孔	

## SK78・79



第78号土壌	1 暗灰色土	粘質	褐色粒子多量	粘性弱	しまりあり
	2 暗灰色土	粘質	1層より暗い	褐色粒子少量	粘性・しまりあり
第79号土壌	1 暗灰色土	粘質	褐色粒子・焼土粒子・炭化物粒子少量	粘性あり	しまり弱
	2 暗灰色土	粘質	1層より明るい	炭化物粒子・褐色粒子少量	粘性あり
	3 暗灰色土	粘質	2層より暗い	褐色粒子少量	粘性・しまりあり

第274図 第78・79号土壌

は長軸0.8m、短軸0.55m、第79号土壌は長軸0.7m、短軸0.6mで、いずれも規模の小さい土壌である。覆土はいずれも暗灰色粘質土である。

二基のうち、第78号土壌からは比較的豊富な遺物が出土している。第275図には、第78号土壌出土の陶磁器類を示した。

1～3は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗である。4は瀬戸美濃系磁器の蓋で、赤を主体に上絵付けが施される。5は肥前系磁器の蓋である。6は瀬戸美濃系磁器の広東碗で、胎土は粗雑である。7は肥前系磁器の鶴首瓶の体部で、釘書き「固カ」がみられる。8は三田青磁の鉢である。9・10は比較的大きなサイズの肥前系磁器の皿である。9は口縁部が平らになって、その上に連続的な刻みを入れてから施釉する。10は遺存している体部の形態から、口縁部が円形ではなく、歪みを持たせて加飾している可能性が高い。11は土瓶の蓋と思われる。白っぽい硬質の胎土で、萬古系陶器であろうか。つまみ直下にワンポイントで糠白釉

が掛けられる。外面は刻印状に花文を施文、内面は指頭圧痕が顕著で型成形と考えられる。12は青緑釉土瓶だが、形態が一般的なものとは異なる。13～15は瀬戸美濃系陶器の灰軸徳利で、14には釘書きがある。13・15はやや小型の徳利の底部である。二合半徳利であろうか。16は瀬戸美濃系陶器の水変ないし鉢である。外面は鉄化粧後、鉄軸を掛ける。17・18は瓦質土器火鉢だが、いずれも酸化炎焼成ぎみである。17は白色味強く、少量の角閃石を含む。18は橙色味が強いが断面中心は黒くなる。角閃石を多く含む。いずれも脚部の小破片である。陶磁器類の様相としては、瀬戸美濃系磁器の筒形碗が多く、陶器の土瓶各種が多く出土している。磁器の皿には、多角形に仕上げる大皿が含まれている。栗橋8期の様相である。

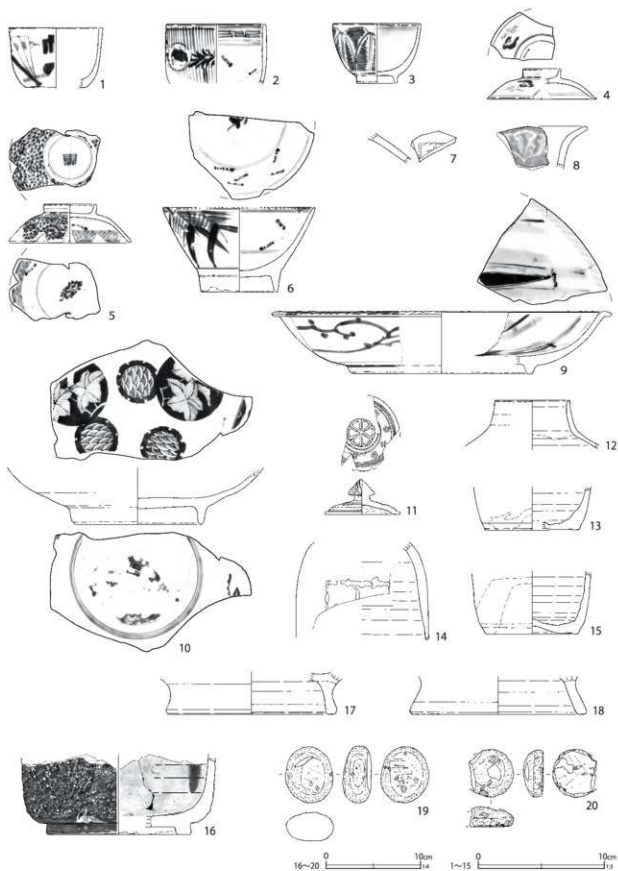
第275図19・20は石製品で、角閃石安山岩の磨石である。

本跡は小規模な遺構であるにも関わらず、遺物が豊富である。形状から本来は埋設桶などの掘方であった可能性もあろう。

第78号土壌に比して、第79号土壌からは遺物がほとんど出土しなかった。陶磁器は磁器5片、陶器1片で小破片であった。磁器には瀬戸美濃系磁器の爛徳利が含まれている。陶器は地方窯系の柿釉の筒形容器が認められる。栗橋8期ないし、9期のはじめ頃の遺構と考えられる。

## 第85号土壌(第276・277図)

F7-A5グリッドに位置する楕円形プランの土壌で、長軸0.95m、短軸0.35mほどの規模である。深さ10cm程度が遺存する。第5号建物跡の南西側に位置する南北に長い土壌である。覆土は暗褐色土の単層であった。



第 275 图 第 78 号土坑出土遗物

第139表 第78号土壌出土遺物観察表(第275図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	(7.0)	[4.8]	-	-	20	良好	白	SK78	瀬戸美濃系 内外面施軸・外面染付(湯呑形碗)	
2	磁器	碗	(7.7)	[4.7]	-	-	25	良好	白	SK78	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付(湯呑形碗)	
3	磁器	碗	(6.8)	4.7	3.0	-	30	良好	白	SK78	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付(湯呑形碗)	
4	磁器	蓋	(2.9)	2.4	(8.6)	-	20	良好	白	SK78	瀬戸美濃系 内外面施軸・色絵(赤・金)(端反碗の蓋)	104-8
5	磁器	蓋	4.0	3.0	(9.5)	-	35	良好	白	SK78	肥前系 内外面施軸・染付(端反碗の蓋)	
6	磁器	碗	(12.0)	6.7	(6.0)	-	35	良好	灰白	SK78	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付(広東碗)	
7	磁器	徳利	-	[2.4]	-	-	5	良好	白	SK78	肥前系 外面施軸・釘書き	104-6
8	磁器	鉢	-	[3.4]	-	-	5	良好	白	SK78	三田系 内面施文後内外面青緑軸	
9	磁器	皿	(26.0)	4.9	(14.0)	-	10	良好	白	SK78	肥前系 内外面施軸・染付 口唇部に隠刻状施文	
10	磁器	皿	-	[4.5]	9.9	-	20	良好	白	SK78	肥前系 内外面施軸・染付	104-7
11	陶器	蓋	-	2.8	(6.0)	IK	60	良好	灰白	SK78	外面施文・一部鎌白軸 内面指頭圧痕	105-1
12	陶器	土瓶	(5.8)	[3.8]	-	EK	15	良好	灰白	SK78	外面青緑軸	105-2
13	陶器	徳利	-	[3.4]	(7.4)	IK	10	良好	楊灰	SK78	瀬戸美濃系 外面灰軸・底部拭き取り	
14	陶器	徳利	-	[7.7]	-	IK	5	良好	灰白	SK78	瀬戸美濃系 外面灰軸・釘書き	105-3
15	陶器	徳利	-	[5.0]	(7.2)	EK	10	良好	灰白	SK78	瀬戸美濃系 外面灰軸・底部拭き取り	
16	陶器	水鉢か	-	[8.4]	(15.0)	DI	10	良好	灰白	SK78	瀬戸美濃系 内面灰軸・緑輪流し掛け・目跡 外面鉄化粧・鉄軸	105-4
17	瓦質土器	火鉢	-	[4.5]	(17.5)	CEHK	5	普通	にぶい橙	SK78	やや酸化炎焼成	
18	瓦質土器	火鉢	-	[4.0]	(18.4)	CIK	5	普通	外：にぶい橙内：楊灰	SK78	やや酸化炎焼成	
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材		遺構	備考	図版	
19	石製品	磨石	5.9	5.1	3.0	51.7	角閃石安山岩		SK78	多孔質 自然面遺存 使用面3 縁状痕あり	284-1	
20	石製品	磨石	5.0	[4.7]	2.1	27.9	角閃石安山岩		SK78	多孔質 自然面遺存 使用面3	284-1	

SK85



第85号土壌  
1 暗褐色土 炭化物(φ3~15mm)・にぶい黄褐色の小ブロック少量含む



第276図 第85号土壌

第277図に出土遺物を示した。

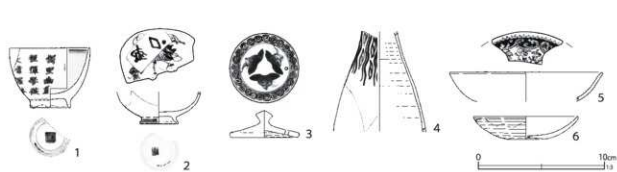
磁器は5点を図示した。明確な酸化コバルト染付の製品は含まれていない。1は瀬戸美濃系磁器で小型の湯呑形碗である。胎質はやや粗である。外面には王維による「竹里館」の詩文を染付する。2は薄手の瀬戸美濃系磁器杯で内面に青で「釘◇。」(けんびし)と上絵付けがされる。けんびし(剣菱)は16世紀代とされる創業から昭

和元年まで伊丹で醸造され続けた酒の銘柄である。17世紀ごろから剣に◆の屋号紋を用いるようになり、以降一貫している。「釘◇。」という表記は伊丹・灘の資料には見えない。判じ絵で下り酒らしく見せるための工夫と思われる。3は瀬戸美濃系磁器の急須蓋である。裏面には施軸前の回転ナデの痕跡が、渦巻き状(時計回り)に残る。5はヨーロッパ系磁器の小型の皿である。内面に黒インクで銅版転写染付を施す。ベルギー、ポット・フレールの「フォンテーヌ」と呼ばれる文様パターンと思われる。

6は陶器で、京都信楽系の灯明皿である。以上に示した陶磁器の様相から、栗橋8期ないし、9期はじめ頃に帰属する土壌と考えられる。

### 第305号土壌(第278~281図)

E7-J5グリッドから検出された土壌で、第4号建物跡と第5号建物跡の間に位置するが、建

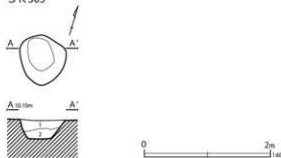


第277図 第85号土壌出土遺物

第140表 第85号土壌出土遺物観察表(第277図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	(6.3)	4.7	(3.0)	-	35	良好	白	SK85	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付(湯呑形碗)	106-6
2	磁器	杯	-	[2.5]	3.0	-	45	良好	白	SK85	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上染付(青)	106-7
3	磁器	蓋	-	2.1	5.2	-	100	良好	白	SK85	瀬戸美濃系 内外面施軸 上面染付 穿孔1(急須の蓋)	
4	磁器	徳利	-	[7.9]	-	-	15	良好	白	SK85	瀬戸美濃系 外面施軸・染付	
5	磁器	皿	(12.0)	[2.3]	-	K	10	良好	白	SK85	ヨーロッパ系 ベルギー・ポット・フレール 内外面施軸 内面銅版転写染付(黒)	106-8
6	陶器	灯明皿	(8.2)	1.8	(3.0)	IK	25	良好	灰黄	SK85	京都信楽系 口縁部~内面透明釉 一部煤付着	

S K 305



第305号土壌

1 暗灰褐色土 シルト質 暗灰褐色シルト多量 焼土数塊 粘性弱

2 暗灰褐色土 シルト質 木質少量 粘性・しまり弱

第278図 第305号土壌

物跡との関連は不明である。本跡は第46・48号土壌の下面から検出された遺構であり、第一面の他の遺構の検出面よりも、若干低い位置から検出されたものである。径0.75mほどの不整形円の土壌で、シルト質の暗灰褐色土を覆土とする。

第279図に出土した陶磁器を示す。

1は肥前系磁器の広東碗で、外面には折り鶴の間に「福」「壽」の文字を、内面は口縁部に二重圏線、底部付近にも圏線を染付する。焼き雑が痕がみられる。2は肥前系磁器の皿で、蛇の目凹形高台の露胎部に墨書がある。内面の周囲に亀甲文

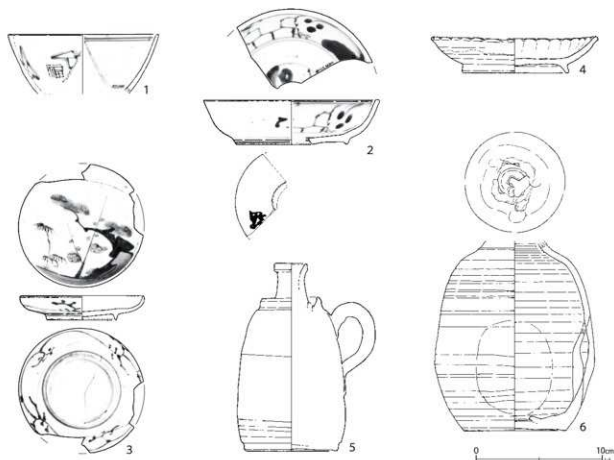
と草花文、底面に山水文を染付する。3は肥前系磁器の小皿で、内面に松竹梅文を染付する。4は瀬戸美濃系陶器の菊花皿で、完形である。内底面には目跡が三箇所ある。5は瀬戸美濃系陶器の徳利で、完形である。6は瀬戸美濃系陶器の徳利で、鉄漿壺に転用されている。

このほかにも、肥前系磁器の雪輪草花文の碗や、波佐見系の粗製皿が完形で出土している。また、径10cm程度の肥前系磁器小皿や、瀬戸美濃系陶器柿軸灯明皿も、全体の8~9割が遺存するものが出土している。比較的陶磁器の残存状態が良いのが特徴である。最新期の陶磁器は1に示した広東碗で、非掲載の資料にも広東碗の蓋が認められる。本跡の時期は栗橋5~6期と考えられ、第一面検出の土壌としては古期に属する。

第280図1は土製品の人形である。2は木製品の漆椀である。

第281図1~4は、石製品の砥石である。

1は流紋岩製の砥石で、灰白色の石材である。上面は使用、両側面も一部使用(研磨)がみられる。裏面は製作時の痕跡を留め、刃幅の広い工具



第279図 第305号土城出土遺物(1)

第141表 第305号土城出土遺物観察表(1)(第279図)

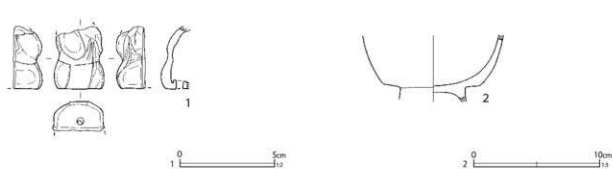
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	造構	備考	図版
1	磁器	碗	(11.8)	[4.7]	-	-	15	良好	白	SK305	肥前系 内外面旋軸・染付 焼き継ぎ痕(広東碗)	
2	磁器	皿	(13.8)	3.5	(8.6)	-	25	良好	灰白	SK305	肥前系 内外面旋軸・染付 蛇の目凹形高台 墨書 第242表23	227-3
3	磁器	皿	9.8	1.9	5.5	-	90	良好	白	SK305	肥前系 内外面旋軸・染付 同文明個体1あり	227-4
4	陶器	皿	12.9	2.8	8.1	D1	100	良好	灰白	SK305	瀬戸美濃系 内外面灰軸 内面目跡3	227-5
5	陶器	油徳利	2.5	14.8	7.1	IK	100	良好	灰白	SK305	瀬戸美濃系 外面栴軸・底部拭き取り	227-6
6	陶器	徳利	-	[15.0]	8.0	IK	60	良好	褐灰	SK305	瀬戸美濃系 外面栴軸・底部拭き取り 内底面に寛永通寶(鉄銭)遺存・少量の鉄分付着 鉄製密転用	

による整形痕跡である。なお、中央付近の両縁側に抉り状の剥離痕を有す。

2は粘板岩製の砥石で、石質が良い。上面は使用(研磨)し、曲面状になる。側面はノコギリ状の削痕を有すもので、成形時の痕跡である。側縁と下面側の角は、やはりノコギリ状の工具で面取りを施している。下面側は一部に研磨痕がみられるが、不規則で、使用痕では無いものとみられ

る。僅かに工具(ノミ状工具)による浅い整形痕跡も認められる。

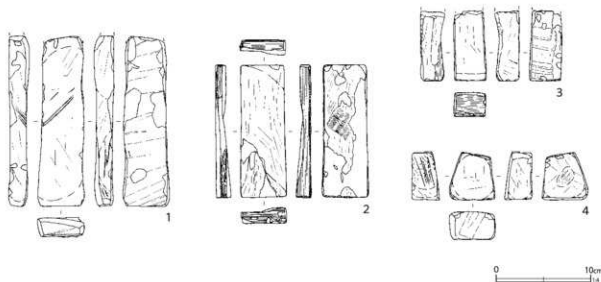
3は流紋岩製の砥石で、クリーム色味を帯びる灰白色の石材である。1より小型である。上面は使用(研磨)し、曲面状になる。側面も研磨が認められるが、使用によるものか否かは不詳である。端面には筋状の工具痕が残る。同様の工具跡は、長軸方向の側縁部(左側縁)にも研磨に先



第280図 第305号土壙出土遺物(2)

第142表 第305号土壙出土遺物観察表(2)(第280図)

番号	種別	器種	幅	長さ	厚さ	重さ	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土製品	人形	2.7/[3.3]	-	0.5	8.1	A I K	良好	橙	SK305	大黒 前後合二枚型成形 中空 黒色 塗付物付着	245-17
2	木製品	漆碗	-	-	-	-	-	-	-	SK305	木取り 遺構 横木取り 内外面赤漆	図版



第281図 第305号土壙出土遺物(3)

第143表 第305号土壙出土遺物観察表(3)(第281図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	砥石	[18.0]	5.0	2.1	302.4	流紋岩	SK305	幅広工具痕か 砥面3	283-8
2	石製品	砥石	14.0	4.9	1.6	140.8	粘板岩	SK305	ノコギリ痕 砥面2	283-9
3	石製品	砥石	[7.4]	3.4	[2.6]	114.9	流紋岩	SK305	幅広工具痕 砥面4	283-10
4	石製品	砥石	[5.0]	4.9	2.9	108.8	流紋岩	SK305	幅広工具痕 刃物痕 砥面4	

立って施される。櫛歯状工具痕ではないかと思われるが、筋の間隔が密でありノコギリ状工具痕にも類似する。下面は刃幅の広い工具(手斧状工具か)による成形痕が顕著に残り、研磨は見られない。端面側は弱く面取りが見られる。

4も3と同色の流紋岩製である。端面を除き、研磨が施され、刃ならし痕も認められる。破損面(図の上側)も周囲に僅かに研磨が及んでおり、破損後に手持ち砥として使用されたものであろう。端面に整形時の工具痕(刃幅の広い工具痕)



を残す。

本跡も第78・79号土壌等と同じく、小規模な不整形円形プランの土壌である。性格は不明であるが、砥石が4点まとまって出土したのは特徴的である。

### 第3区画のその他の土壌（第282～298図）

個別に取上げた以外の土壌については、遺物が多く出土した土壌を中心に概観する。第3区画検出の土壌は、上面が削平された浅い土壌が多くみられる。覆土の観察が難しく、遺物の出土も少ない傾向にあった。

第35号土壌は、長方形プランの土壌で、長軸2.95m、短軸1.32mほどだが、遺存範囲は極めて浅く出土遺物はほとんどない。僅かに第296図1に示した鉄銭の寛永通寶が出土している。

同じく、上面が削平された状態の第46号土壌は、径90cmの円形プランの土壌で、陶磁器の出土は、磁器・陶器の細片3片のみである。

第48号土壌は、一辺1.7mの方形プランの土壌で、重複関係から第46号土壌より古い。僅かに残る覆土は鉄分の酸化が認められる暗灰色土である。遺物は極めて少ないが、第296図4に示した寛永通寶の新寛永が出土している。陶磁器に銅版転写染付の磁器蓋物破片が認められ、第46号・48号土壌は栗橋9期の帰属と考えられる。なお、両遺構と重複して複数の杭が残っていたが、性格は把握できていない。

第39号・42号・43号・47号・63号土壌はいずれも径1mに満たない、平面形円形～不整形円の土壌である。遺物も少なく、第42・47・63号土壌から第269図2・3・5に示した寛永通寶が出土している。

第28・62・70・116号土壌については、第4号建物跡の基礎との関連が考えられたので、第4号建物跡（第38図）とともに遺構図を掲載した。いずれも第4号建物跡の基礎を掘り込んでいる。

第62号土壌は、第4号建物跡の基礎石材の抜

き取り穴である可能性が高いものである。遺物は第286図1・2に示した。1は肥前系磁器の端反碗の蓋で、外面には蛸唐草文、内面には見込みに環状の松竹梅文、周縁に四方禪文が染付けられる。2は瓦質土器の丸火鉢である。出土した遺物の様相は栗橋7期以降であるが、建物跡との関係から栗橋9期に帰属する可能性が高い。

第72号土壌は、平面形円形の土壌で、長径1mとやや大型である。覆土には瓦片が多量に含まれていた。第286図4・5は同一個体と考えられる鮫肌軸の土瓶で、体部に海鼠軸が流し掛けされる。胎土から松岡系と思われる。第297図1・2は石製品の砥石である。第293図1は出土した瓦で軒棧瓦である。

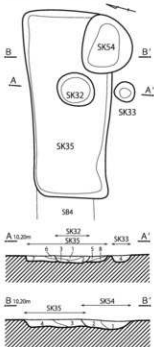
第75・124号土壌も小型の土壌と考えられるが、第4号溝跡や第50号土壌との重複により、全体の形態は不詳である。このうち第75号土壌からは比較的良好的状態で陶磁器が出土しており、第286図7～13に示す。10は地方窯系の陶器播鉢で、やや小型の製品である。内外面にかける鉄軸は黒っぽい。遺物の様相から、本跡の帰属は栗橋8期であろう。

第68・77・80・81・82・119・309号土壌は、第4号建物跡の基礎に囲まれた範囲内に位置し、第4号建物跡との併存が考え難い土壌である。

第68号土壌は長軸1.75mの楕円形を呈する土壌である。第286図3に示したのは、松岡系陶器土瓶である。海鼠軸を施軸し、体部上位に段が付くものである。第295図1は鉄製品の刃物、第296図6は寛永通寶の新寛永である。遺物の内容から栗橋7期以降に帰属する。

第77・80・81号土壌は重複関係にある土壌で、長径60cm弱の楕円形を呈する第80・81号土壌の上面に、長軸1.5mほどの第77号土壌が構築されている。第77号土壌から磁器片1、陶器片3、土器片1が出土しており、松岡系陶器の土瓶細片1と産地不詳陶器の三彩土瓶片2が含まれて

S K 32・33・35・54



S K 34



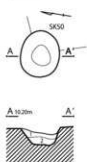
S K 38



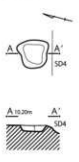
S K 39



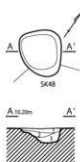
S K 42



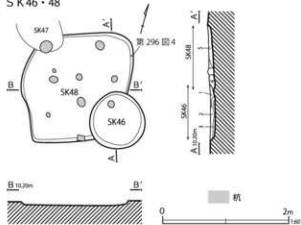
S K 43



S K 47



S K 46・48



第 32・33・35 号土層

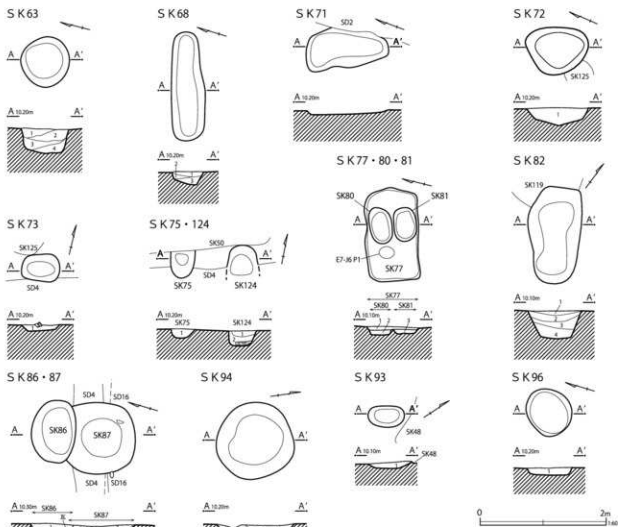
- 1 暗褐色土 粘土質 白色粒子少量 粘性あり しまり強 (SK32)
- 2 暗灰褐色土 粘土質 白色粒子・炭化物粒子少量 粘性あり しまり強 (SK32)
- 3 暗灰褐色土 粘土質 2層より暗い 白色粒子少量 炭化物粒子微量 粘性弱 しまりあり (SK32)
- 4 灰色土 シルト質 炭化物粒子多量 白色粒子少量 粘性弱 しまりあり (SK33)
- 5 暗灰色土 粘土質 褐色粒子多量 粘性・しまりあり (SK35)
- 6 暗灰色土 粘土質 5層より暗い 白色粒子多量 粘性・しまりあり (SK35)
- 7 暗褐色土 粘土質 褐色粒子多量 炭化物粒子少量 粘性・しまり中 (SK35)
- 8 暗褐色土 7層より暗 褐色粒子多量 粘性・しまり中 (SK35)

第 35・54 号土層

- 1 黒色土 焼土層 炭化物・焼土ブロック多量 白色粒子少量 粘性・しまり強 (SK54)
- 2 黒色土 焼土層 炭化物・焼土ブロック多量 白色粒子少量 粘性弱 しまりあり (SK54)
- 3 暗灰色土 粘土層 炭化物粒子少量 粘性あり しまり強 (SK35)
- 4 暗灰色土 粘土層 3層より暗い 褐色粒子少量 粘性・しまりあり (SK35)

- 第 34 号土層
  - 1 暗灰色土 粘土質 炭化物粒・褐色粒子少量 粘性あり しまり強
- 第 38 号土層
  - 1 灰褐色土 シルト質 炭化物・褐色粒子・酸化鉄粒子少量 粘性あり しまり強
  - 2 灰褐色土 シルト質 1層より暗い 炭化物粒子・褐色粒子少量 酸化鉄微量 粘性・しまりあり
  - 3 暗灰色土 粘土質 炭化物粒子・褐色粒子多量 粘性・しまりあり
- 第 39 号土層
  - 1 暗灰色土 粘土質 酸化鉄・炭化物粒子・白色粒子少量 粘性弱 しまり強
  - 2 暗灰色土 粘土質 1層より暗い 炭化物多量 白色粒子少量 粘性弱 しまり強
  - 3 暗褐色土 粘土質 炭化物粒子多量 白色粒子少量 粘性あり しまり強
- 第 42 号土層
  - 1 暗褐色土 粘土質 炭化物粒子・焼土粒子・白色粒子少量 粘性・しまりあり
  - 2 暗灰色土 粘土質 炭化物粒子・焼土粒子多量 白色粒子少量 粘性あり しまり強
- 第 43 号土層
  - 1 暗灰色土 粘土質 炭化物・白色粒子少量 粘性弱 しまり強
- 第 46・48 号土層
  - 1 暗褐色土 粘土質 炭化物・焼土粒子多量 褐色粒子少量 粘性弱 しまり強 (SK46)
  - 2 暗褐色土 粘土質 1層より明い 炭化物多量 焼土粒子微量 褐色粒子少量 粘性・しまりあり (SK46)
  - 3 黒色土 粘土質 (炭化) 炭化物粒子多量 粘性・しまり弱 (SK46)
  - 4 暗灰色土 粘土質 炭化物粒子微量 褐色粒子少量 粘性弱 しまり強 (SK48)
  - 5 暗灰色土 粘土質 4層より明い 炭化物粒子・褐色粒子少量 炭分の炭化著しい 粘性弱 しまり強 (SK48)
- 第 47 号土層
  - 1 暗褐色土 粘土質 炭化物粒子・焼土粒子・褐色粒子少量 粘性・しまりあり
  - 2 暗灰色土 粘土質 炭化物粒子多量 褐色粒子少量 粘性・しまり強
  - 3 暗灰色土 粘土質 2層より明い 焼土粒子・褐色粒子少量 炭化物粒子微量 粘性・しまり強

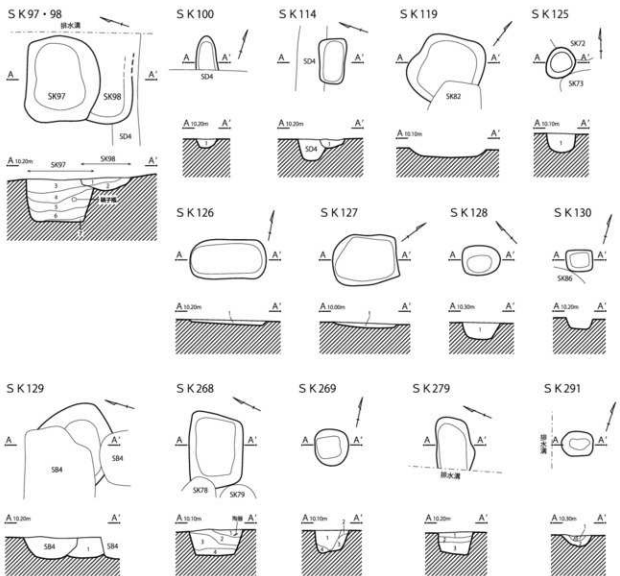
第 282 図 第 3 区画の土層 (1)



- 第 63 号土壌  
 1 暗灰色土 粘土質 炭化物多量 褐色細粒少量 粘性弱 しまり強  
 2 暗灰色土 粘土質 1層より暗い 炭化物粒子少量 褐色粒子多量  
 3 暗灰色土 粘土質 2層より明るい 炭化物粒子少量 褐色粒子少量  
 粘性弱 しまり強  
 4 暗灰色土 粘土質 3層より暗い 炭化物粒子少量 褐色粒子多量  
 粘性弱 しまり強
- 第 68 号土壌  
 1 暗灰色土 粘土質 炭化物粒子・酸化鉄粒子少量 粘性あり しまり強  
 2 暗灰色土 粘土質 1層より暗い 炭化物多量 酸化鉄粒子少量 粘性・しまりあり  
 3 暗灰色土 粘土質 2層より明るい 炭化物少量 酸化鉄粒子多量 粘性・しまりあり
- 第 72 号土壌  
 1 暗褐色土 粘質 褐色粒子少量 瓦片多量 粘性あり しまり弱
- 第 73 号土壌  
 1 暗褐色土 粘質 炭化物粒子多量 粘性弱 しまりあり
- 第 75 号土壌  
 1 暗褐色土 炭化物多量含む
- 第 77・80・81 号土壌  
 1 灰黄褐色土 粘質 (SK77)  
 2 暗褐色土 粘質 炭化物粒子・焼土粒子少量 粘性弱 しまりあり (SK80)  
 3 暗灰色土 粘質 炭化物粒子多量 焼土粒子少量 粘性弱 しまりあり (SK81)

- 第 82 号土壌  
 1 暗灰色土 シルト質 炭化物粒子多量 白色粒子少量 粘性弱 しまりあり  
 粘質 1層より暗い 褐色粒子・酸化鉄粒子少量 粘性・しまりあり  
 2 暗灰色土 粘質 2層より暗い 褐色粒子多量 焼土粒子・炭化物粒子少量 粘性あり しまり弱  
 3 暗灰色土 粘質 3層より暗い 炭化物粒子・焼土粒子多量 粘性・しまりあり
- 第 86・87 号土壌  
 1 暗灰色土 粘質 褐色粒子・炭化物粒子少量 粘性・しまりあり (SK86)  
 2 暗灰色土 粘質 1層より暗い 褐色粒子多量 炭化物粒子少量 粘性あり しまり強 (SK86)  
 3 灰褐色土 粘質 褐色粒子多量 炭化物粒子少量 粘性弱 しまり強 (SK87)  
 4 暗灰褐色土 褐色粒子・有機物(草木が腐食)多量 粘性弱 しまりあり (SK87)  
 5 灰黄色土 グライ化 白色粒子多量 粘性あり しまり強 (SK87)
- 第 93 号土壌  
 1 灰黄褐色土 酸化鉄少量含む
- 第 94 号土壌  
 1 暗灰色土 粘質 炭化物・褐色粒子多量 腐食した木片混じる 粘性あり しまり弱  
 2 暗灰色土 粘質 炭化物・褐色粒子多量 粘性・しまりあり
- 第 96 号土壌  
 1 暗褐色土 粘質 炭化物粒子少量 粘性・しまりあり
- 第 124 号土壌  
 1 暗灰色土 炭化物粒子多量 粘性・しまりあり  
 2 暗灰色土 粘質 1層より明るい 炭化物少量 粘性・しまりあり

第 283 図 第 3 区画の土壌 (2)



第 97・98 号土壌

- 1 黒褐色土 灰色粘土塊・砂・瓦・陶器等多量 (SK98)
- 2 灰褐色土 粘質 黒褐色粒子・黄褐色粒子多量 炭化物粒子少量 (SK98)
- 3 黄褐色砂 炭化物・炭化物・灰色粘土少量 (SK97)
- 4 灰褐色砂 灰色粘土ブロック (φ1～5 cm) 多量 (SK97)
- 5 黄褐色砂 灰褐色砂粒少量 3層より細かい砂粒 (SK97)
- 6 青灰色土 シルト質 炭化物・鉄分・灰白砂含む 粘性あり しまりややあり (SK97)
- 7 青灰色土 砂質 炭化物少量 鉄分含む 粘性ややあり しまり弱い (SK97)

第 100 号土壌

- 1 粘質 褐色粒子多量 炭化物粒子少量 粘性あり しまり強

第 114 号土壌

- 1 暗褐色土 粘質 炭化物・白色粒子少量 粘性あり しまり弱

第 125 号土壌

- 1 灰黄褐色土 炭化物・酸化鉄微量含む

第 126 号土壌

- 1 暗褐色土

第 127 号土壌

- 1 暗褐色土 炭化物少量含む

第 128 号土壌

- 1 暗褐色土 炭化物含む 焼土 (φ3～20 mm) 混入

第 129 号土壌

- 1 黒褐色土 粗砂微量

第 268 号土壌

- 1 暗灰褐色土 シルト質 炭化物含む 粘性・しまり弱
- 2 灰褐色土 砂質 木質含む 粘性弱 しまりあり
- 3 暗灰色土 シルト質 焼土粒子少量 粘性・しまり弱
- 4 暗灰褐色土 シルト質 炭化物多量 粘性・しまり弱

第 269 号土壌

- 1 暗灰色土 砂質 炭化物少量 鉄分含む 粘性・しまり弱
- 2 暗灰色土 砂質 鉄分少量 粘性・しまり弱
- 3 暗灰色土 砂質 炭化物・鉄分少量 粘性・しまり弱
- 4 暗灰色土 砂質 炭化物・鉄分少量 粘性・しまり弱

第 279 号土壌

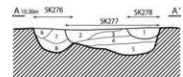
- 1 暗灰褐色土 炭化物・焼土粒子少量 粘性・しまり弱
- 2 暗灰褐色土 鉄分少量 粘性・しまり弱
- 3 暗灰褐色土 鉄分多量 粘性・しまり弱

第 291 号土壌

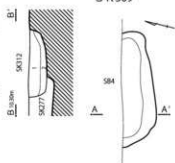
- 1 暗灰色土 砂質 炭化物少量 粘性・しまり弱
- 2 暗灰色土 砂質 鉄分少量 粘性・しまり弱

第 284 図 第 3 区画の土壌 (3)

S K 276・277・278・312



S K 309



- 第 276・277・278 号土層
- 1 暗灰色土 炭化物・炭少量 粘性・しまり弱 (SK278)
  - 2 暗灰色土 炭化物多量 焼土粒子含む 粘性・しまり弱 (SK277)
  - 3 暗灰色土 炭化物含む 焼土粒子少量 粘性・しまり弱 (SK277)
  - 4 暗灰色土 焼土粒子・炭化物少量 粘性・しまり弱 (SK277)
  - 5 暗灰色土 ローム・炭化物少量 粘性・しまり弱 (SK277)
  - 6 暗灰色土 炭化物・焼土粒子少量 粘性弱 しまりあり (SK276)
  - 7 暗灰色土 シルト 炭化物多量 焼土粒子少量 粘性・しまり弱 (SK276)
  - 8 暗灰色土 シルト 炭化物少量 ローム粒子微量 粘性・しまり弱 (SK276)
- 第 309 号土層
- 1 暗灰色土 シルト質 木質・炭化物少量 粘性・しまり弱
  - 2 暗灰色土 シルト質 木質多量 灰色砂少量 粘性・しまり弱
  - 3 暗灰色土 シルト質 木質少量 炭化物含む 粘性・しまり弱
  - 4 暗灰色土 シルト質 木質多量 灰色砂少量 粘性・しまり弱
- 第 312 号土層
- 1 暗灰色土 砂質 炭化物多量 粘性なし しまりあり
  - 2 暗灰色土 砂質 炭化物少量 粘性なし しまりあり

第 285 図 第 3 区画の土層 (4)

いる。栗橋 7 期以降に帰属する。なお、第 77 号土層の範囲とほぼ一致して杭が検出されている。建物基礎の捨杭としては、間隔が密で不規則である。あるいは、第 77 号土層に関わる何らかの木組み構築物の痕跡とも考えられるが、その場合、第 5 号建物跡との位置関係を考慮する必要がある。

第 82・119 号土層は、建物跡の中心付近に位置する 2 基の土層で、重複しているが新旧関係は不明である。第 82 号土層の遺物は少なかったが、瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗が出土しており、栗橋 7 期以降に帰属する。第 119 号土層も遺物は少なかった。第 291 図 57 の磁器香炉や、第 293 図 4 の土製品ミニチュア（徳利）が出土している。第 294 図 1・2 は木製品である。1 の漆製品蓋には「㊦」の焼き印がある。2 は漆器台である。第 297 図 8・9 は石製品の砥石である。8 は粘板岩製のものだが、色調は黄褐色で被熱している可能性もある。表面の一部に刃幅 3mm 程度の平ノミ状工具による加工痕が認められるが、これは通常の平ノミ状工具痕より明らかに狭く、再加工痕跡の可能性が高い。墨書があるが判読できない。9 は

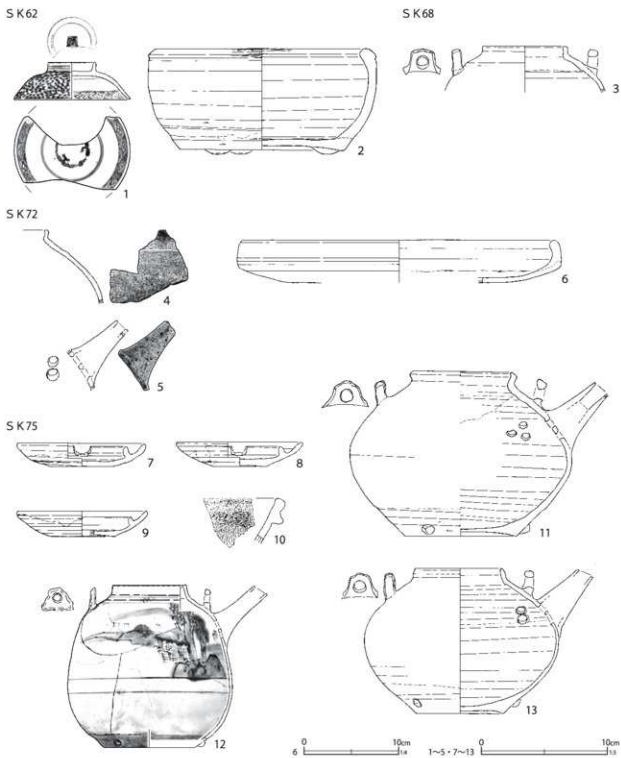
粒子の粗い砂岩を用いる荒砥である。第 298 図 12 は、墓石などの石塔類の破片である。

第 309 号土層は、第 4 号建物跡の北東部に重複する土層で、建物の基礎に掘り込まれる。長軸 1.85m の隅丸長方形を呈する。第 291 図 74 に出土した陶器土瓶を図示した。図示した以外に瀬戸美濃系磁器の型押陽刻文の角皿が出土しており、磁器の湯呑形碗も複数出土している。また、陶器土瓶類は種類が多く、青緑釉土瓶や白土染付・三彩・イッチン施文の土瓶などが揃っている。従って本跡は栗橋 8 期の土層とみて良いだろう。

以上のように、第 4 号建物跡の基礎に囲まれた内側からは、栗橋 7～8 期の土層が検出されており、明確に 9 期に降るものは無い。建物跡の構築時期を考える上で参考になる。

なお、第 294 図 6 は第 309 号土層出土の木札に「栗橋宿／紀州屋喜右衛門様行」の墨書がある。江戸期の『絵図』にみえる「旅籠屋 喜右衛門」と明治 35 年の『営業便覧』にみえる「紀州屋坂底重蔵」で、屋号が継続していることが窺われる。

第 86・87 号土層は重複する二基の円形プラン



第286図 第3区画の土壌出土遺物(1)

の土壌である。第86号土壌のほうが新しい。出土遺物を第287図に示した。14は、第86号土壌出土の瀬戸美濃系磁器植木鉢である。施軸前に器面を浅く彫り込んで、斜方向の区画を作り、その部

分に呉須で染付している。焼き継ぎ痕が顕著である。15~18は第87号土壌の出土陶磁器である。15は瀬戸美濃系磁器の皿で、酸化コバルト染付が施される。蛇の目状高台の露胎部に、焼き継ぎ

印で「サ六一」と朱書される。16は瀬戸美濃系磁器の植木鉢で、脚部は欠失するが、遺存部分から外面に大きくふくらむ形状と判断される。17は陶器の植木鉢で、白土染付で竹文を描く。18は瓦質土器の植木鉢である。

以上の様相から、二基の土壌は栗橋9期の帰属である。第295図2～4は、第86号土壌出土の金属製品である。

第94号土壌は、区画東側の調査区際に近い場所に位置する。平面形は、径1.2m前後の円形を呈する。覆土は粘質の暗灰色土で、上層を中心に腐食木質が混じる。遺物は比較的豊富で、第287～288図の19～32に陶磁器類を示した。19・20は型紙摺絵染付の磁器平碗、21は型紙摺絵染付の磁器丸碗である。

23は、口縁部に一重、腰部に二重の圈線を酸化コバルト染付で描く端反の坏で、同文の物が他に5個体ある。24も瀬戸美濃系磁器の端反坏で、外面に色絵を描く。25は平面形が変形の八角形を呈する皿で、酸化コバルトで染付される。高台は円形である。27は肥前系磁器の鉢で、焼き継ぎが施される。29は酸化コバルト染付の磁器急須で、『後赤壁賦』（蘇軾）の「是歳十月之望、步自雪堂、將歸于臨皋」の一節を染付する。30は炆器質の陶器蓋で、胎質から萬古系陶器と思われる。内面には全体に薄く、不透明の緑軸が施される。外面側面は施文、上端面を中心に白盛などで絵付けがみられる。32は土師質土器の焼塩壺である。細かい雲母を多く含む。胎土がやや赤化しており、被熱と思われる。第297図4には砂岩製砥石を示す。側面にはツルハシを連想させる先の尖った工具（サキノミ状工具）による加工痕を残す。石の目は細かく、色調はやや黄褐色味を帯びており、銚子砂岩に類似する。

第97・98号土壌は、区画南東から検出された土壌で、重複関係から第97号土壌が古い。第289図33～36が第97号土壌から出土した陶磁器で、

33は銅版転写染付の磁器坏、34は酸化コバルト染付の磁器土瓶である。35は地方窯系と考えられる陶器播鉢で、全体が鉄化粧され内面の一部に柿軸が施される。胎土は瀬戸美濃系陶器に類似するが橙色が強い。径1mm程の長石・石英を多く含む。36は瓦質土器の植木鉢である。混入鉱物はほとんど確認できないが江戸在地系であろう。

第297図5・6には石製品の硯と石筆を示す。

第289図37から第290図56までは第98号土壌出土の陶磁器である。37は肥前系磁器の広東碗である。38・39は瀬戸美濃系磁器の平碗と坏で、外面銅版転写の染付が施される。41・42は堺明石系陶器播鉢、43は益子系陶器の播鉢である。44～50は瓦質土器の植木鉢である。51は瓦質土器の火消煮で、外面上位は横のミガキ、胴部は横のケズリで処理される。52は瓦質土器の火鉢類としたが、甗の可能性が高い。54は土師質土器焙烙で、煤の付着などは見られない。55・56は角閃石を含む在地系土器の甗である。

両土壌は第4号竹樋の埋設後に掘られており、竹樋の埋設時期を考える上で注意される。

第126号土壌は、区画南西側に位置する土壌で、長軸1.2m程の隅丸長方形を呈する。覆土が浅かったにも関わらず、遺物は比較的豊富であった。第291図58～66は出土した陶磁器類である。58は瀬戸美濃系磁器の小型の丸碗で、外面に赤を主体に緑・青を加えて色絵を施す。59は瀬戸美濃系磁器の丸碗で被熱しており、部分的に焦げている。

60は瀬戸美濃系磁器の坏で、外面に稜線が巡り、口紅が施される。61は瀬戸美濃系磁器の型押壽文皿である。62は肥前系磁器の皿で、蛇の目状高台は高い。63は瀬戸美濃系磁器の植木鉢で、僅かに被熱して焦げている。64は産地不詳の陶器の両手鍋である。灰軸は、鶯色に発色し、屈曲部の軸葉が厚い部分は、うのふ袖状に青～白味を帯びる。65は施軸土器の鉢である。全体に

透明釉が施釉されるが、胎土の色調から橙色に仕上がる。底部の釉薬は拭き取っている。66は瓦質土器の竜鐔で、煤が多く付着している。時期は栗橋8期の終わりか、9期のはじめであろう。

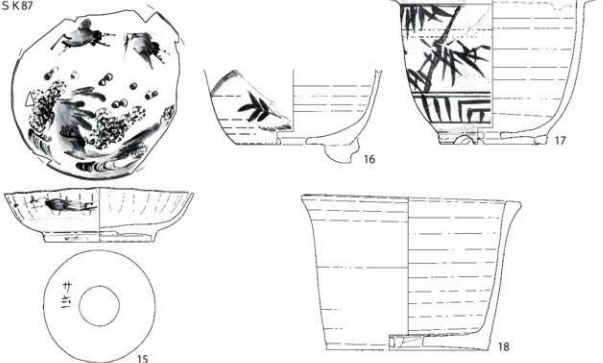
第268号土壇は、区画北東の調査区際から検出された土壇で、長軸1.15mの隅丸長方形を呈す

る。第291図71・72は出土した磁器である。72は中国・徳化窯系磁器の特徴を備えるが、胎質が著しく粗悪で色調も灰白色である。第295図8には煉瓦の表面に付着した金糸（幅約0.5mm）を示す。第298図13は石臼（粉挽臼）の下臼である。

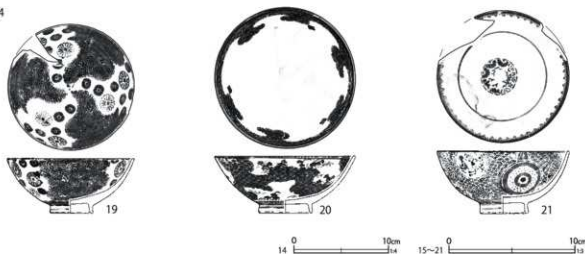
SK86



SK87

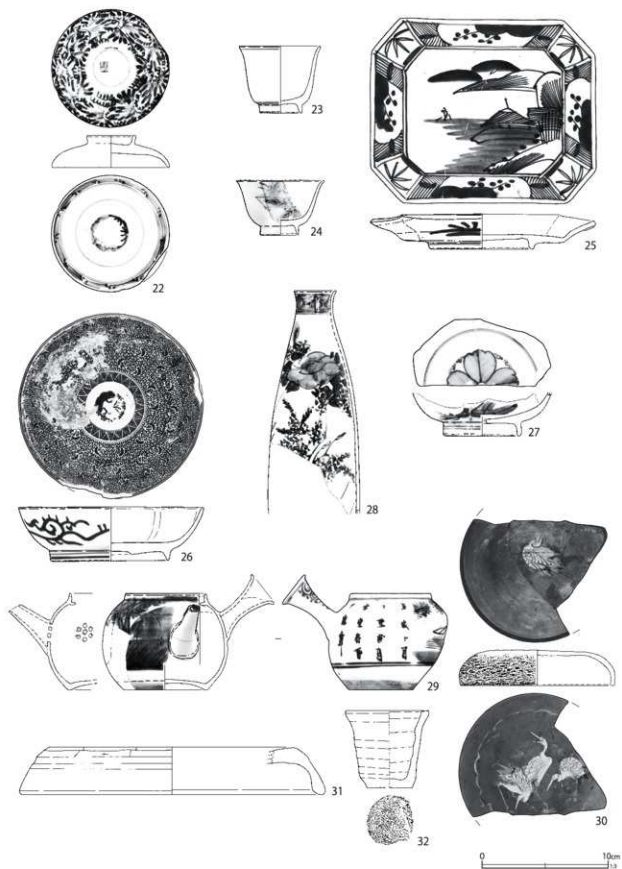


SK94



第287図 第3区画の土壇出土遺物（2）



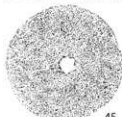
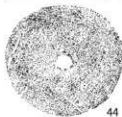
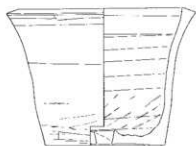
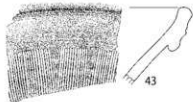
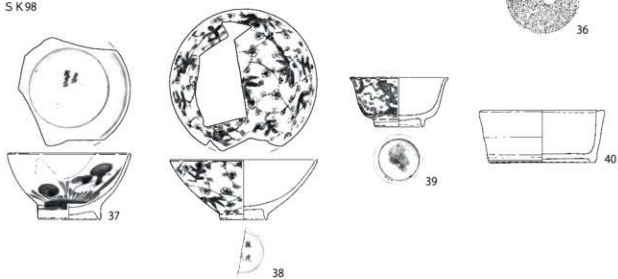


第 288 図 第 3 区画の土壇出土遺物 (3)

SK97

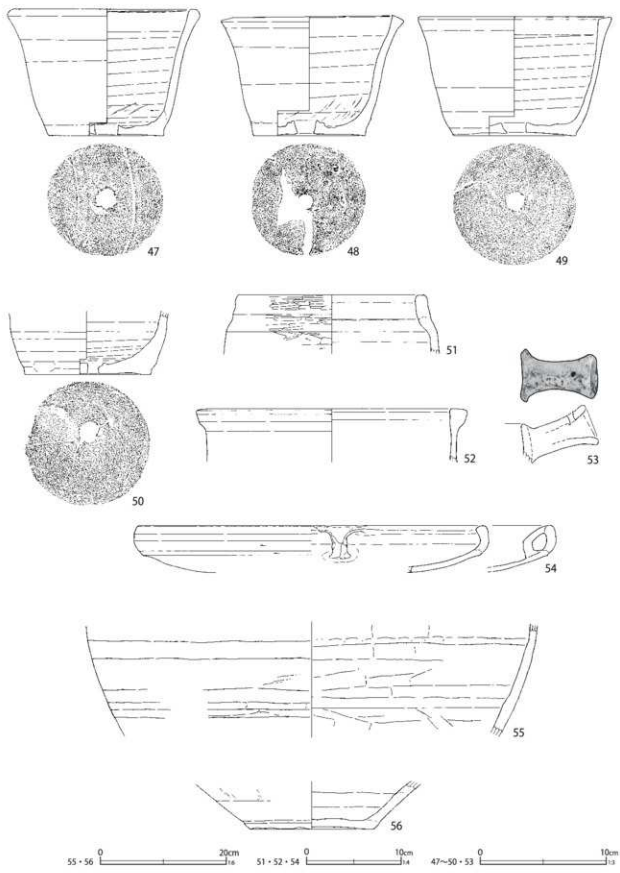


SK98



0 10mm

第289図 第3区画の土壙出土遺物(4)

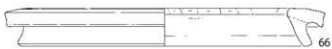
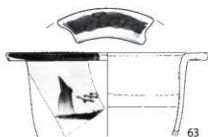


第290図 第3区画の土壇出土遺物(5)

SK 119



SK 126



SK 129



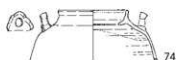
SK 268



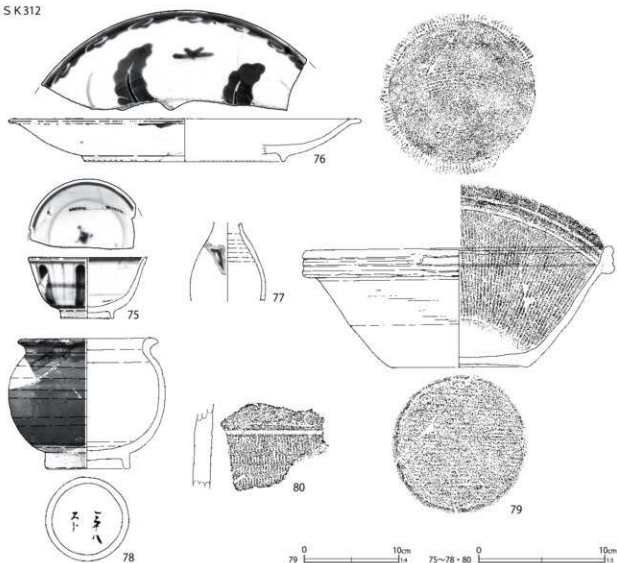
SK 276~278



SK 309



第 291 図 第 3 区画の土坑出土遺物 (6)



第 292 図 第 3 区画の土壌出土遺物 (7)

第 144 表 第 3 区画の土壌出土遺物観察表 (1) (第 286 ~ 292 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	蓋	3.6	2.9	9.1	-	50	良好	白	SK62	肥前系 内外面施軸・染付(端反碗の蓋)	
2	瓦質土器	火鉢	(16.6)	8.4	13.0	CEIK	65	普通	灰白・暗灰	SK62	底部一方向からのナゲ後外周ナゲ 口縁部ミガキ 燻す	102-1
3	陶器	土瓶	(6.4)	[3.6]	-	EIK	10	良好	灰	SK68	松岡系 内外面海鼠軸	103-6
4	陶器	土瓶	-	[5.8]	-	EK	5	良好	楊灰	SK72	松岡系 外面鮫肌軸・海鼠軸流し掛け	104-1
5	陶器	土瓶	-	[5.6]	-	EK	5	良好	楊灰	SK72	松岡系 外面鮫肌軸・海鼠軸流し掛け 4と同一個体か	104-1
6	土師質土器	焙烙	(33.0)	[4.5]	(34.4)	ACHIK	40	普通	にぶい橙	SK72	砂目底	
7	陶器	灯明皿	9.9	1.9	4.9	IK	100	良好	灰黄	SK75	瀬戸美濃系 内外面柿軸 外面下位拭き取り・直重ね焼き痕	
8	陶器	灯明皿	9.7	1.9	4.2	IK	100	良好	灰黄	SK75	瀬戸美濃系 内外面柿軸 外面下位拭き取り・直重ね焼き痕	
9	陶器	灯明皿	(10.1)	2.0	(5.0)	I	40	良好	灰黄	SK75	瀬戸美濃系 内外面柿軸 外面下位拭き取り・直重ね焼き痕	
10	陶器	播鉢	-	[3.6]	-	IK	5	良好	灰白	SK75	内面～外面上位鉄軸 内面播目	104-2
11	陶器	土瓶	7.7	13.1	8.8	HIK	95	良好	灰白	SK75	松岡系 外面海鼠軸	104-3
12	陶器	土瓶	5.9	12.9	7.0	IK	90	良好	楊灰	SK75	外面施軸・三彩絵付 底部白化粧(三彩土瓶)	104-4

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
13	陶器	土瓶	6.7	11.5	6.8	EK	95	良好	灰白	SK75	外面青緑釉	104-5
14	磁器	植木鉢	(24.0)	[4.3]	-	-	5	良好	白	SK86	瀬戸美濃系 内外面施釉・斜方向区画文を削りこみ、その範囲を染付 焼き継ぎ痕	
15	磁器	皿	(14.9)	4.3	8.5	-	80	良好	白	SK87	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤)「サ六一」蛇の目状高台	107-1
16	磁器	植木鉢	-	[5.9]	(9.0)	-	15	良好	白	SK87	瀬戸美濃系 外面施釉・染付 焼き継ぎ痕 底部目録 脚欠失	
17	陶器	植木鉢	(17.0)	12.3	8.2	HI	50	良好	にぶい黄橙	SK87	内面上位～外面白土染付 底部穿孔	
18	瓦質土器	植木鉢	15.2	12.3	12.8	AH1K	80	普通	灰白	SK87	底部糸切痕(左) 硬質瓦質(僅十)	107-2
19	磁器	碗	9.9	4.3	3.2	-	95	良好	白	SK94	瀬戸美濃系 内外面施釉・型紙摺染付	
20	磁器	碗	11.0	4.5	4.0	-	95	良好	白	SK94	瀬戸美濃系 内外面施釉・型紙摺染付	
21	磁器	碗	10.3	4.9	3.6	-	80	良好	白	SK94	瀬戸美濃系 内外面施釉・型紙摺染付	
22	磁器	蓋	3.6	2.5	9.2	-	95	良好	白	SK94	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
23	磁器	坏	6.3	5.2	3.3	-	95	良好	白	SK94	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 同文別個体5あり	
24	磁器	坏	6.8	4.3	3.0	-	70	良好	白	SK94	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面色絵(黒・茶・黄)	107-4
25	磁器	皿	17.6	2.8	8.0	-	100	良好	白	SK94	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付 短軸口径14.4cm	107-5
26	磁器	皿	14.5	4.3	9.2	-	90	良好	白	SK94	瀬戸美濃系 内外面施釉・型紙摺染付	
27	磁器	鉢	-	[3.4]	(5.8)	-	20	良好	白	SK94	肥前系 内外面施釉・染付 焼き継ぎ痕	
28	磁器	徳利	3.1	[17.1]	-	-	60	良好	白	SK94	瀬戸美濃系 内面上位～外面施釉 外面酸化コバルト染付	
29	磁器	急須	6.3	9.1	6.6	-	70	良好	灰白	SK94	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	
30	陶器	蓋	-	2.8	(12.1)	I	45	良好	灰褐	SK94	萬古系か 内面緑釉 外面絵付・施文	
31	瓦質土器	蓋	(19.3)	3.8	(24.0)	CHK	15	普通	黒・黒褐	SK94	上面砂目 燻す	
32	土師質土器	埴塼	(6.5)	6.1	3.5	AH1	60	普通	橙	SK94	底部糸切痕(左) 胎土粉質 被熱	107-6
33	磁器	坏	(8.0)	[2.7]	-	-	15	良好	白	SK97	瀬戸美濃系 内外面施釉・銅版転写染付	
34	磁器	土瓶	(7.4)	[6.1]	-	-	10	良好	白	SK97	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	
35	陶器	播鉢	-	[3.4]	-	DE1K	5	良好	にぶい橙	SK97	内外面鉄化粧 内面緑釉・播目	108-1
36	瓦質土器	植木鉢	-	[4.8]	5.9	IK	30	良好	灰白	SK97	底部糸切痕(左) 穿孔 強く還元	
37	磁器	碗	(9.6)	5.2	4.8	-	60	良好	白	SK98	肥前系 内外面施釉・染付(広東碗)	
38	磁器	碗	11.6	4.7	(3.6)	-	70	良好	白	SK98	瀬戸美濃系 内外面施釉・銅版転写染付	
39	磁器	坏	7.7	3.9	3.7	-	80	良好	白	SK98	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面銅版転写染付 同文別個体1あり	
40	陶器	鉢	(9.4)	4.1	8.3	-	50	良好	灰白	SK98	淡路原平系 内外面黄色釉	108-2
41	陶器	播鉢	-	[5.3]	-	DEK	5	良好	灰褐	SK98	堺明石系 内面播目	
42	陶器	播鉢	-	[3.6]	-	DEK	5	良好	褐灰	SK98	堺明石系 内面播目	
43	陶器	播鉢	-	[6.1]	-	IK	10	良好	褐灰	SK98	益子系 内外面緑釉 内面播目	
44	瓦質土器	植木鉢	13.0	10.9	9.5	CHK	80	良好	にぶい褐	SK98	底部静止糸切痕・穿孔 燻す	
45	瓦質土器	植木鉢	13.1	9.9	9.3	CIK	80	普通	にぶい黄橙	SK98	底部静止糸切痕・穿孔 燻す	
46	瓦質土器	植木鉢	12.7	10.1	9.4	CIK	55	普通	にぶい橙	SK98	底部静止糸切痕・穿孔 燻す	
47	瓦質土器	植木鉢	(14.2)	10.0	9.1	CHK	60	普通	にぶい橙	SK98	底部静止糸切痕・穿孔 燻す	
48	瓦質土器	植木鉢	12.7	9.5	8.8	CHI	85	普通	にぶい黄橙	SK98	底部ナデ・穿孔 燻す	
49	瓦質土器	植木鉢	15.2	9.4	9.7	CHK	60	普通	外:にぶい橙内:褐灰	SK98	底部糸切痕・穿孔 燻す	
50	瓦質土器	植木鉢	-	[5.0]	10.0	AIK	35	普通	灰白	SK98	江戸在地系か 底部糸切痕・穿孔 燻す	
51	瓦質土器	火消瓶	(19.6)	[6.3]	-	CIK	5	普通	灰・灰白	SK98	燻す	
52	瓦質土器	火鉢	(25.8)	[5.7]	-	CHK	5	普通	灰黄褐	SK98	燻す	
53	土師質土器	把手付鍋	-	[4.6]	-	CHK	10	普通	橙	SK98	穿孔	
54	土師質土器	焙烙	(36.5)	[5.0]	(35.6)	HIK	40	普通	にぶい褐	SK98	底部シワ状痕	
55	瓦質土器	甕	-	[18.0]	-	CHK	30	良好	黒・灰黄褐	SK98	56と同一個体	
56	瓦質土器	甕	-	[7.7]	20.0	CHK	良好	黒・灰黄褐	SK98	砂目底 55と同一個体		
57	磁器	香炉	9.4	4.2	3.9	-	100	良好	灰白	SK119	肥前系 内面上位～外面青緑釉	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
58	磁器	碗	(10.0)	5.0	(4.0)	-	45	良好	白	SK126	瀬戸美濃系 内外面施釉・色絵(赤・青・緑)	
59	磁器	碗	(11.0)	[4.7]	-	-	5	良好	灰白	SK126	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 焼き継ぎ痕 被熱・煤付着	
60	磁器	坏	(5.7)	[2.7]	-	-	35	良好	白	SK126	瀬戸美濃系 内外面施釉 口紅	
61	磁器	皿	9.3	1.8	5.4	-	90	良好	白	SK126	瀬戸美濃系 型成形 内外面施釉 内面型押施文(壽文皿)	
62	磁器	皿	(14.6)	4.1	(8.6)	-	45	良好	灰白	SK126	肥前系 内外面施釉 内面染付 口紅 蛇の目状高台	126-2
63	磁器	椀鉢	(15.7)	[6.6]	-	-	15	良好	白	SK126	瀬戸美濃系 口縁部へ外面施釉 外面・口縁上面に染付 焼き継ぎ痕 被熱・煤付着	
64	陶器	鍋	-	[1.4]	-	IK	5	良好	灰白	SK126	内外面灰釉	
65	施釉土器	鉢	(12.8)	5.0	(12.1)	AIK	35	普通	橙	SK126	底部へラナダ 内外面透明釉 底部抜き取り 胎土粉質	126-4
66	瓦質土器	甕罍	(26.2)	3.9	(30.2)	CI	25	普通	灰褐	SK126	煤多く付着 最大径(33.8)cm	
67	陶器	土瓶	-	[2.3]	-	K	5	良好	灰白	SK129	大塚相馬系 外面灰釉 胎土に黒色粒子多く含む	126-5
68	陶器	土瓶	-	[2.3]	-	K	5	良好	にぶい黄橙	SK129	外面施文・一部難白釉流し掛け	126-6
69	陶器	土瓶	-	[2.5]	-	K	5	良好	にぶい黄橙	SK129	型成形 外面施文・一部難白釉流し掛け 68と同一個体	126-6
70	陶器	蓋	-	[0.9]	(6.6)	IK	20	良好	にぶい黄橙	SK129	型成形 外面施文(土瓶の蓋)	126-7
71	磁器	坏	(7.2)	3.9	(3.8)	-	45	良好	白	SK268	江戸在地系 内外面施釉 外面銅散転写染付	218-1
72	磁器	碗	(8.2)	3.9	(3.4)	-	20	良好	灰白	SK268	中国徳化窯系か 内外面施釉 口縁釉剥き	
73	陶器	徳利	-	[5.4]	-	IK	15	良好	灰白	SK26・27・28	瀬戸美濃系 外面灰釉	
74	陶器	土瓶	5.5	[4.0]	-	IK	25	良好	橙	SK309	外面白化粧 緑釉・絵付	227-7
75	磁器	碗	(9.2)	4.8	4.0	-	50	普通	白	SK312	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付(端反碗)	
76	磁器	皿	(26.3)	3.3	(15.6)	-	15	良好	白	SK312	肥前系 内外面施釉 内面染付 焼き継ぎ痕	
77	磁器	御神酒徳利	-	[6.3]	-	-	20	良好	白	SK312	肥前系 外面施釉・色絵(赤・緑)	
78	陶器	甕	10.3	10.3	6.5	D1	80	良好	灰白	SK312	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面鉄輪状掛底部黒書 第242表24	228-1
79	陶器	播鉢	32.3	12.8	14.2	EGHIL	70	普通	明赤褐	SK312	堺明石系 底部板状圧痕・窯道具痕 内面撞目	228-2
80	瓦質土器	火鉢	-	[6.7]	-	AEHK	5	普通	にぶい黄橙	SK312	江戸在地系 外面土位ミガキ, 下位トビガシナ形状施文 胎土粉質	

SK72



1

SK87



2

SK119



3



4

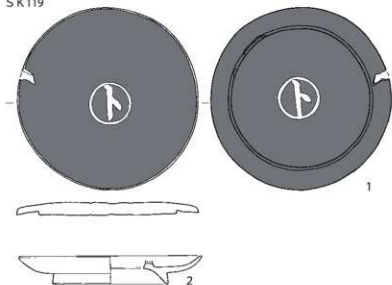
0 10cm 0 5cm  
1~3 14 4 12

第293図 第3区画の土壌出土遺物(8)

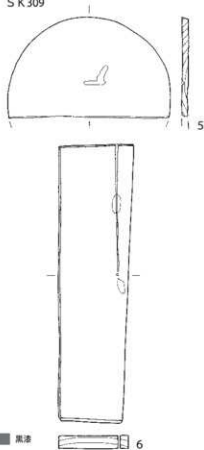
第145表 第3区画の土壇出土遺物観察表(2)(第293図)

番号	種別	器種	長さ	幅	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版	
1	瓦	軒椀瓦	[4.0]	[15.7]	-	ACIK	普通	灰白	SK72			
2	瓦	軒椀瓦	[16.1]	[22.0]	-	ACIK	普通	灰白	SK87		250-6	
3	瓦	軒椀瓦	[23.9]	[22.5]	6.7	ACIK	良好	灰白	SK87	右巻き 9珠文	250-7	
番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
4	土製品	ミニチュア	-	[4.3]	2.2	13.6	EHK	良好	灰白	SK119	京都系 二枚型成形 中空 外面輪軸六角形	243-5

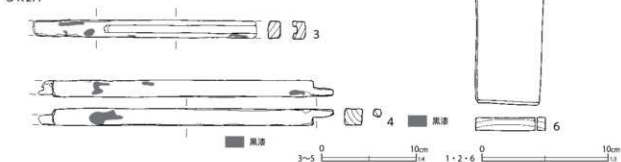
SK119



SK309



SK277

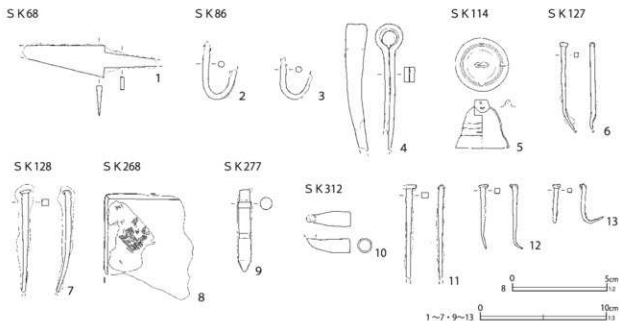


第294図 第3区画の土壇出土遺物(9)

第146表 第3区画の土壇出土遺物観察表(3)(第294図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	遺構	備考	図版
1	木製品	蓋	-	-	-	14.3	1.0	-	板目 SK119	両面黒漆 内外面焼印「㊦」側板一部残存	263-1
2	木製品	漆器台	-	-	-	(14.3)	[2.2]	(9.0)	横木取り SK119	全体黒漆	263-2
3	木製品	不明品	[23.8]	1.9	1.3	-	-	-	板目 SK277	全面赤色塗料 黒漆	
4	木製品	不明品	[31.3]	1.8	1.8	-	-	-	板目 SK277	全面赤色塗料 黒漆	
5	木製品	樽	[10.6]	17.3	0.7	-	-	-	板目 SK309	蓋表面黒書 第241表44	299-3
6	木製品	木札	22.0	5.5	1.0	-	-	-	板目 SK309	両面黒書 第241表45	299-4

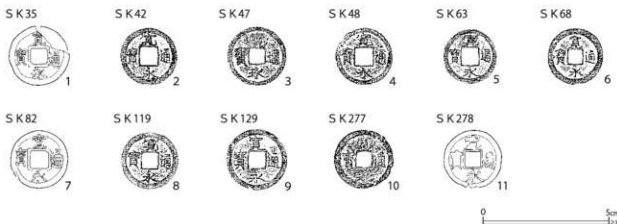




第 295 図 第 3 区画の土壌出土遺物 (10)

第 147 表 第 3 区画の土壌出土遺物観察表 (4) (第 295 図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	鉄製品	刀子	長さ [10.8] 刃長 [6.5] 刃幅 2.4 背幅 0.4 重さ 22.8	SK68		275-2
2	鉄製品	鉤金具か	長さ [4.7] 厚さ 0.5 重さ 5.0	SK86		
3	鉄製品	鉤金具か	長さ [3.4] 厚さ 0.5 重さ 2.6	SK86		
4	鉄製品	環釘	長さ [10.0] 幅 0.4 厚さ 1.2 重さ 41.2	SK86		
5	銅製品	風鈴	底径 4.2 高さ 3.8 厚さ 0.1 重さ 28.7	SK114		
6	鉄製品	釘	長さ [6.9] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 2.8	SK127		
7	鉄製品	釘	長さ [8.1] 幅 (0.5) 厚さ (0.5) 重さ 10.0	SK128		
8	金製品	金糸	幅 0.05	SK268	煉瓦に付着	279-4
9	鉄製品	不明	長さ 6.5 幅 1.0 厚さ 1.0 重さ 32.5	SK277		
10	銅製品	煙管	長さ [3.5] 小口径 1.1 重さ 5.2	SK312	雁首 火皿欠失	
11	鉄製品	釘	長さ [7.5] 幅 0.5 厚さ 0.4 重さ 5.7	SK312		
12	鉄製品	釘	長さ 5.1 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 2.2	SK312		
13	鉄製品	釘	長さ 3.1 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 1.1	SK312		



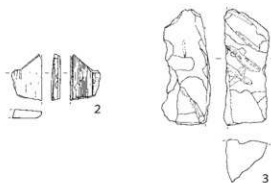
第 296 図 第 3 区画の土壌出土遺物 (11)

SK72



1

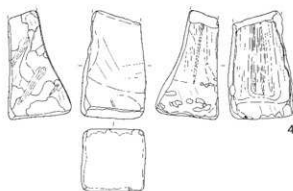
SK87



2

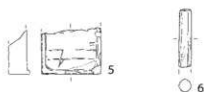
3

SK94



4

SK97



5

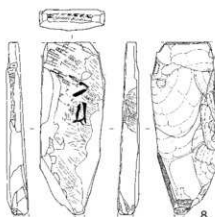
6

SK114

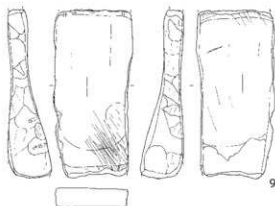


7

SK119

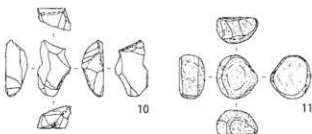


8



9

SK312



10

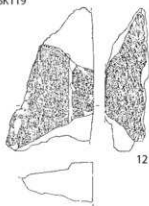
11

1~5・7~9・11

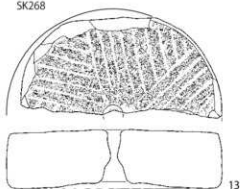
6・10

第297図 第3区画の土壇出土遺物(12)

SK119



SK268



0 20cm

第298図 第3区画の土壌出土遺物(13)

第148表 第3区画の土壌出土遺物観察表(5)(第296図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	鉄製品	銭貨	径23.5 厚さ1.8 重さ2.7	SK35	寛永通寶(新)	
2	銅製品	銭貨	径23.0 厚さ1.2 重さ2.3	SK42	寛永通寶(新)	
3	銅製品	銭貨	径23.8 厚さ1.0 重さ2.8	SK47	寛永通寶(古)	
4	銅製品	銭貨	径23.0 厚さ0.9 重さ2.2	SK48	寛永通寶(新)	
5	銅製品	銭貨	径21.9 厚さ1.1 重さ2.4	SK63	寛永通寶(新)	
6	銅製品	銭貨	径22.5 厚さ0.9 重さ2.1	SK68	寛永通寶(新)	
7	鉄製品	銭貨	径23.0 厚さ2.1 重さ3.1	SK82	寛永通寶(新)	
8	銅製品	銭貨	径23.0 厚さ0.8 重さ2.0	SK119	寛永通寶(新)	
9	銅製品	銭貨	径24.6 厚さ0.9 重さ2.4	SK129	寛永通寶(新)	
10	銅製品	銭貨	径23.7 厚さ1.1 重さ2.3	SK277	寛永通寶(新)	
11	銅製品	銭貨	径23.2 厚さ1.1 重さ1.8	SK278	寛永通寶(新)	

第149表 第3区画の土壌出土遺物観察表(6)(第297・298図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	砥石	8.7	6.9	5.4	524.4	砂岩	SK72	サキノミ状工具痕 砥面2 荒砥	280-12
2	石製品	砥石	[4.8]	[3.2]	0.9	20.4	ホルンフェルス	SK72	ノコギリ痕 砥面2	
3	石製品	切石石材	[12.4]	[4.9]	[4.9]	235.8	凝灰岩	SK87	表面ツルハシ状工具痕 砂質	280-13
4	石製品	砥石	[11.5]	6.9	6.7	616.5	砂岩	SK94	サキノミ状工具痕 刃物痕 砥面3	280-14
5	石製品	硯	[4.9]	6.3	-	85.7	凝灰岩	SK97	器高2.3cm 欠損部に褐色物質付着	
6	石製品	石筆	[3.0]	0.6	0.7	2.6	滑石	SK97	白色不透明	284-2
7	石製品	砥石	8.6	5.6	2.0	128.6	流紋岩	SK114	刃物痕 砥面6	281-6
8	石製品	砥石	[18.2]	6.9	2.3	359.3	粘板岩	SK119	刃幅の狭い平ノミ状工具痕 ノコギリ痕 幅広 工具痕 砥面2 被熱(一部剥落)	281-7
9	石製品	砥石	[17.8]	[8.4]	[4.3]	779.0	砂岩	SK119	サキノミ状工具痕 砥面2 荒砥	281-8
10	石製品	火打石	3.0	1.8	1.2	6.2	玉髓	SK312	使用痕あり	284-3
11	石製品	磨石	4.6	4.4	2.7	34.3	角閃石安山岩	SK312	多孔質 自然面遺存 使用面4	284-1
12	石製品	石塔	[23.4]	[14.3]	[7.2]	1696.8	安山岩	SK119	表面刻書の一部遺存 墓石か	
13	石製品	石臼	径(35.4)	高9.6		8920.0	花崗岩	SK268	下臼 上面播目(摩耗) 被熱(一部黒化)	283-5

## 報告書抄録

ふりがな	くりはししゅくあと							
書名	栗橋宿跡Ⅶ							
副書名	首都圏氾濫区域堤防強化対策における埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書							
シリーズ番号	第474集							
編著者名	村山 卓・高橋一生・高橋社人							
編集機関	公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台4丁目4番地1 TEL. 0493-39-3955							
発行年月日	西暦 2022 (令和4)年3月22日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
栗橋宿跡 (第9地点)	埼玉県久喜市 栗橋中央二丁目 3491-2他	112321	011	36° 08' 23"	139° 42' 13"	20171001～ 20180331 20180401～ 2019331	2,168.40	堤防強化 記録保存 調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
栗橋宿跡 (第9地点)	宿場跡	江戸時代	建物跡 埋設桶 井戸跡 溝跡 道路跡 土壌 性格不明遺構 ピット	10棟 26基 4基 18条 1条 311基 1基 27基	陶磁器 土製玩具 土製人形 瓦 木製品 金属製品 石製品 硝子製品(筭) 骨製品	近世町屋跡の調査  本書には第9地点の調査のうち 第一面の成果を収録。		
要約								
<p>栗橋宿跡は利根川右岸に立地する日光道中7番目の宿場「栗橋宿」の町屋跡である。栗橋宿跡第9地点の発掘調査で検出された遺構は19世紀前葉以降を中心とする第一面、18世紀後葉～19世紀前葉の遺構を中心とする第二面に分けられる。本書ではこのうち第一面の調査成果を収録した。</p> <p>調査の結果、第一面では町屋の裏空間に立ち並ぶ土蔵跡と考えられる建物跡とそれらに平行する敷地境と考えられる溝跡が検出された。調査区を東西に横断する「合ノ道」と言われた往来道も調査し、18世紀中頃以降続く路面の変遷を捉えることが出来た。</p> <p>建物では、土蔵建物とみられる堅固な基礎構造を有す建物跡が多く検出されている。なかでも、一つの区画から榎地業建物跡が2棟検出されたのは注目される。この区画は久喜市所蔵『栗橋宿往還絵図』と対照すると「旅籠屋 七兵衛」の区画であり、建物跡もこれに関連する施設と考えられる。また、この区画では建物跡に近接した土壌から、火災処理に伴う被熱した陶磁器が出土した。陶磁器類には中国産の磁器類が多く含まれており、特に「十錦手」といわれる清朝磁器がまるとまって出土した事例は、地方の近世遺跡にあつては稀有な事例である。同じ土壌からは「七兵衛」の釘書きがある瓦片も出土しており、これらの出土遺物も旅籠屋で保管されていた道具類や、建造物の部材と考えられる。</p> <p>鍛冶関連遺物が多量に出土した区画は、同じく『絵図』にみえる「鍛冶屋」の区画にあたる。多量の鍛冶・轆の羽口に加えて、鍛冶炉に据えられた炉寄石・使用された砥石など、近世鍛冶に関わる一括資料が得られた。『絵図』との対比が可能なこれらの遺構・遺物は、近世宿場町の実態を示す貴重な資料と位置付けられる。</p>								

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第474集

## 栗橋宿跡 VII

首都圏氾濫区域堤防強化対策における

埋蔵文化財発掘調査報告

(第1分冊)

令和4年3月15日 印刷

令和4年3月22日 発行

発行／公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台4丁目4番地1

電話 0493 (39) 3955

<http://www.saimaibun.or.jp>

印刷／山進社印刷株式会社